

令和3年度 多様な広域連携促進事業  
成果報告書

令和4年2月  
鳥取市

# 目 次

1 事業の概要	1
(1) 事業の背景	1
(2) 事業の目的	1
2 麒麟のまち圏域都市機能等調査分析	2
I 調査分析	2
1 麒麟のまち圏域の人口構造、産業構造、都市機能の分析	2
2 麒麟のまち圏域と他都市圏域との比較分析	43
3 麒麟のまち圏域住民アンケート調査結果	63
4 麒麟のまち圏域企業アンケート調査結果	138
5 医療機関・企業ヒアリング	160
6 麒麟のまち圏域の将来推計及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響	166
II 考察	180
1 麒麟のまち圏域の都市機能の利用実態等の分析	180
2 圏域の医療課題等の抽出・分析と協力体制構築の検討	183
3 SDGs の視点を踏まえた新たな取組の可能性の分析・検討	185
4 第2期ビジョンの方向性	189
3 新型コロナウイルスワクチン接種の共同実地	190
(1) 連携に至った経緯	190
(2) 連携町や関係機関との協議の経過	190
(3) 連携の内容	191
(4) 連携にあたって配慮した点	191
(5) 連携の効果等	191
4 今後の取組	192

## 1 事業の概要

### (1) 事業の背景

鳥取県東部・兵庫県北但西部の1市6町（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、兵庫県香美町・新温泉町）は、本市を中心に、政治、経済、文化等のさまざまな面で一体的な生活圏を形成してきました。

この圏域を地域に伝播する重要な民俗文化財である麒麟獅子舞にちなみ「麒麟のまち」圏域と銘打ち、生活圏や経済圏を一体とする圏域での連携で、人口減少の克服・圏域全体の活性化を目指し、観光振興や移住定住の促進など地方創生の取組を進めています。

令和元年5月には、圏域に受け継がれる麒麟獅子舞を生かしたストーリーが日本遺産に認定され、日本遺産を活かした圏域活性化の取組を進めています。



### (2) 事業の目的

本圏域では、これまで、広域観光や移住定住の推進、特産品等の販路拡大などを中心に進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、社会・経済情勢が大きく変革する中で、本圏域での連携の取組についても、これらに対応した連携の取組の可能性を検討する必要があります。このため、圏域住民の生活を守る連携体制の構築を図るとともに、圏域全体の持続的な発展を目指すため、SDGsの視点を踏まえた連携について検討すること等を目的に、本事業を実施しました。

# 2 麒麟のまち圏域都市機能等調査分析

## I 調査分析

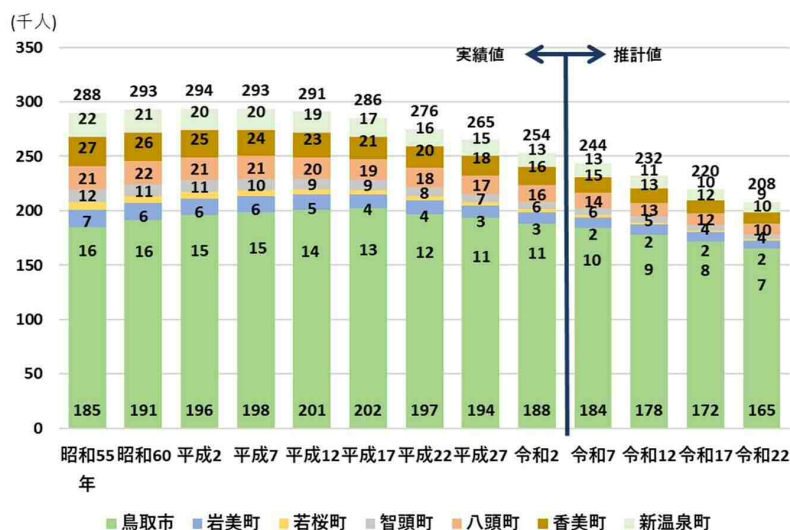
### 1 麒麟のまち圏域の人口構造、産業構造、都市機能の分析

#### 1-1 人口構造

##### 1-1-1 総人口 ①圏域及び構成市町の総人口の推移

- 圏域全体の総人口は平成2年の294千人をピークに、令和22年には208千人と、平成2年の約71%まで減少すると見込まれています。
- 鳥取市の人口は平成17年の202千人をピークに、令和22年には165千人と、平成17年の約82%まで減少すると見込まれており、鳥取市以外では、令和22年には平成2年の半分以上の人口になると見込まれています。

圏域及び構成市町の総人口の推移



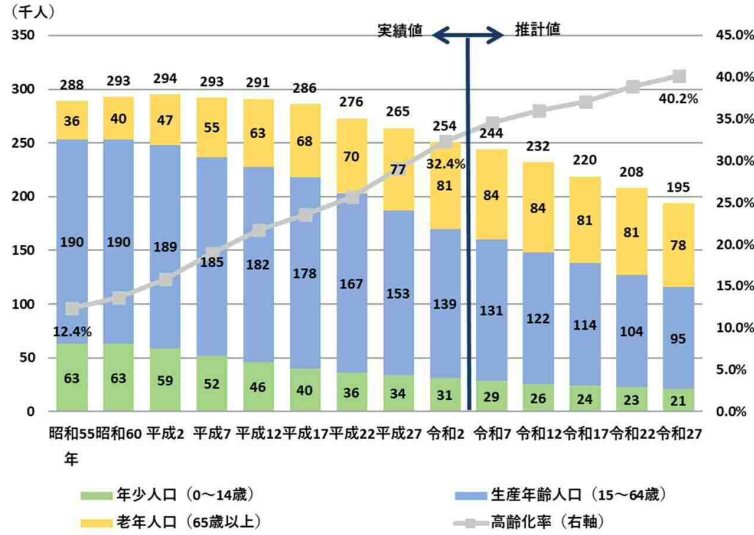
出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

# 1-1 人口構造

## 1-1-1 総人口 ②圏域の年齢3区分別人口と高齢化率の推移

- 年少人口は昭和60年の63千人をピークに、令和22年には23千人と、令和2年の約74%まで減少すると見込まれています。
- 生産年齢人口は昭和60年の190千人をピークに、令和22年には104千人と、令和2年の約75%まで減少すると見込まれています。
- 老年人口は増加傾向にあります、令和7年頃をピークに減少に転じると見込まれています。
- 高齢化率は上昇傾向が続き、令和27年には40.2%になると見込まれています。

圏域の年齢3区分別人口と高齢化率の推移



注: 昭和55年~令和2年は総人口に年齢不詳を含むため、年齢3区分それぞれの人口の合計は総人口と一致しない。

出所: 総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

# 1-1 人口構造

## 1-1-1 総人口 ③圏域及び構成市町の年齢3区分人口と高齢化率の推移

圏域及び構成市町の年齢3区分人口と高齢化率の推移

	実績値 ← 推計値								単位: 人
	昭和55年	平成2年	平成12年	平成22年	平成27年	令和2年	令和12年	令和22年	
鳥取市	184,601	195,707	200,744	197,449	193,717	188,465	178,157	164,941	
年少人口	41,208	39,372	31,947	27,054	25,742	23,684	21,476	19,146	
生産年齢人口	122,584	128,167	129,639	123,636	115,038	106,218	97,647	86,081	
老年人口	20,771	27,850	38,858	45,373	51,027	54,990	59,034	59,714	
高齢化率	11.3%	14.2%	19.4%	23.0%	26.3%	29.7%	33.1%	36.2%	
岩美町	15,969	15,342	14,015	12,362	11,485	10,799	8,851	7,158	
年少人口	3,264	3,033	2,064	1,432	1,295	1,143	853	628	
生産年齢人口	10,560	9,505	8,324	7,208	6,269	5,598	4,076	3,130	
老年人口	2,145	2,804	3,609	3,721	3,920	4,053	3,922	3,400	
高齢化率	13.4%	18.3%	25.8%	30.1%	34.1%	37.5%	44.3%	47.5%	
若桜町	6,633	6,004	4,988	3,873	3,269	2,864	2,104	1,523	
年少人口	1,233	1,039	619	322	223	191	113	70	
生産年齢人口	4,380	3,682	2,761	2,009	1,569	1,279	835	581	
老年人口	1,020	1,283	1,618	1,542	1,477	1,393	1,156	872	
高齢化率	15.4%	21.4%	32.4%	39.8%	45.2%	48.7%	54.9%	57.3%	
智頭町	11,504	10,670	9,383	7,718	7,154	6,427	5,097	3,877	
年少人口	2,267	1,923	1,292	736	697	621	404	277	
生産年齢人口	7,545	6,610	5,357	4,235	3,675	3,005	2,159	1,558	
老年人口	1,692	2,137	2,734	2,741	2,781	2,801	2,534	2,042	
高齢化率	14.7%	20.0%	29.1%	35.5%	38.9%	43.6%	49.7%	52.7%	
八頭町	21,303	21,091	20,245	18,427	16,985	15,937	12,882	10,315	
年少人口	4,287	4,266	3,246	2,377	2,075	1,853	1,345	966	
生産年齢人口	13,966	13,025	12,016	10,879	9,463	8,289	6,089	4,554	
老年人口	3,050	3,800	4,983	5,158	5,439	5,792	5,448	4,795	
高齢化率	14.3%	18.0%	24.6%	28.0%	32.0%	36.3%	42.3%	46.5%	
香美町	26,694	25,136	23,271	19,696	18,070	16,064	13,262	10,423	
年少人口	5,919	4,875	3,701	2,495	2,065	1,661	1,212	840	
生産年齢人口	16,978	15,434	13,299	10,680	9,374	7,870	5,868	4,231	
老年人口	3,797	4,827	6,270	6,521	6,630	6,530	6,202	5,352	
高齢化率	14.2%	19.2%	26.9%	33.1%	36.7%	40.7%	46.7%	51.3%	
新温泉町	21,514	20,226	18,601	16,004	14,819	13,318	11,460	9,376	
年少人口	4,791	4,087	2,906	2,006	1,708	1,401	1,078	811	
生産年齢人口	13,570	12,200	10,662	8,669	7,642	6,442	5,116	4,031	
老年人口	3,153	3,939	5,033	5,302	5,467	5,464	5,266	4,534	
高齢化率	14.7%	19.5%	27.1%	33.1%	36.9%	41.1%	46.0%	48.4%	
圏域計	288,218	294,176	291,257	275,529	265,499	253,874	231,833	207,613	
年少人口	62,969	58,595	45,775	36,422	33,805	30,554	26,481	22,738	
生産年齢人口	189,583	188,623	182,058	167,316	153,030	138,701	121,790	104,166	
老年人口	35,628	46,640	63,105	70,358	76,741	81,023	83,562	80,709	
高齢化率	12.4%	15.9%	21.7%	25.7%	29.1%	32.4%	36.0%	38.9%	

- 鳥取市の高齢化率は圏域の高齢化率よりも低く、他の町は圏域の高齢化率よりも高くなっています。
- 圏域全体の老年人口は令和2年頃をピークに減少に転じると推計されている一方で、鳥取市の老年人口は増加傾向が続くと見込まれています。

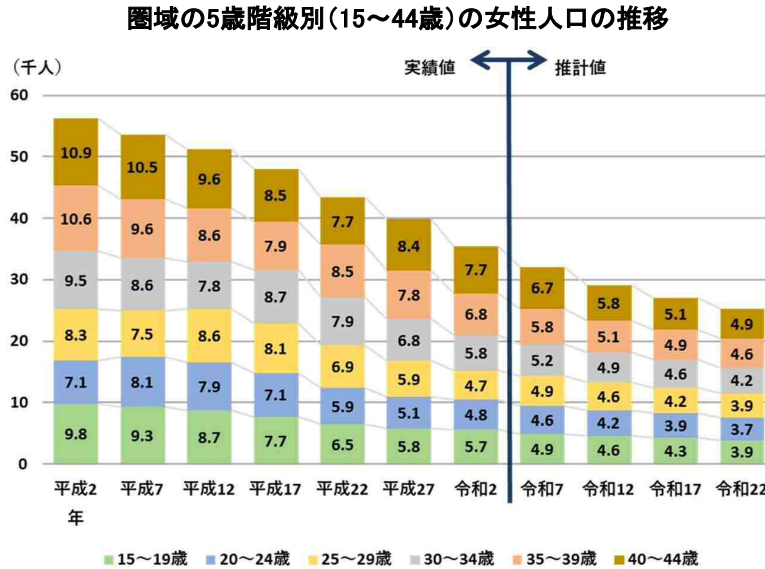
注: 昭和55年~令和2年は総人口に年齢不詳を含むため、年齢3区分それぞれの人口の合計は総人口と一致しない。

出所: 総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 1-1 人口構造

### 1-1-1 総人口 ④圏域の5歳階級別(15～44歳)の女性人口の推移

- 15歳～44歳の女性人口の総数は減少傾向にあります。
- 令和22年の女性人口は、直近で最多の平成2年と比較すると、20～24歳では平成2年の約52%にあたる約3.7千人に減少、それ以外の年代では半分以下に減少しています。



出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 1-1 人口構造

### 1-1-2 人口動態 ①圏域の人口動態(自然動態・社会動態)の推移

- 人口は全市町で減少しています。
- 圏域全体での減少人数は、2,200人台から2,800人台の間で推移しています。

#### 圏域の人口動態(自然動態・社会動態)の推移

単位：人

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
鳥取市	-1,184	-1,279	-802	-1,042	-1,007	-1,170	-1,499	-1,318	-1,023
岩美町	-222	-223	-214	-177	-128	-85	-155	-184	-181
若桜町	-132	-100	-105	-91	-68	-77	-78	-103	-81
智頭町	-119	-135	-135	-125	-128	-130	-236	-129	-167
八頭町	-240	-301	-249	-278	-245	-289	-166	-312	-211
香美町	-383	-381	-395	-370	-461	-461	-332	-503	-445
新温泉町	-268	-264	-282	-319	-276	-306	-279	-289	-329
圏域	-2,548	-2,683	-2,182	-2,402	-2,313	-2,518	-2,745	-2,838	-2,437

出所：鳥取県人口移動調査、兵庫県人口動き(統計表)

## 1-1 人口構造

### 1-1-2 人口動態 ②圏域及び構成市町の社会動態の推移

- 若桜町は平成28年に社会増が見られましたが、それ以外の市町では社会減が続いています。
- 圏域全体での社会減少数は、800人台から1,500人台の間で推移しています。

#### 圏域及び構成市町の社会動態の推移

単位：人

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
鳥取市	-869	-875	-309	-531	-408	-326	-728	-397	-258
岩美町	-111	-96	-104	-79	-13	25	-38	-63	-50
若桜町	-63	-38	-37	-20	2	-25	-21	-39	-23
智頭町	-41	-51	-51	-1	-22	-28	-125	-40	-75
八頭町	-134	-172	-120	-88	-72	-136	-17	-106	-96
香美町	-190	-173	-220	-199	-228	-236	-163	-257	-221
新温泉町	-93	-136	-139	-146	-133	-123	-83	-128	-138
圏域	-1501	-1541	-980	-1064	-874	-849	-1175	-1030	-861

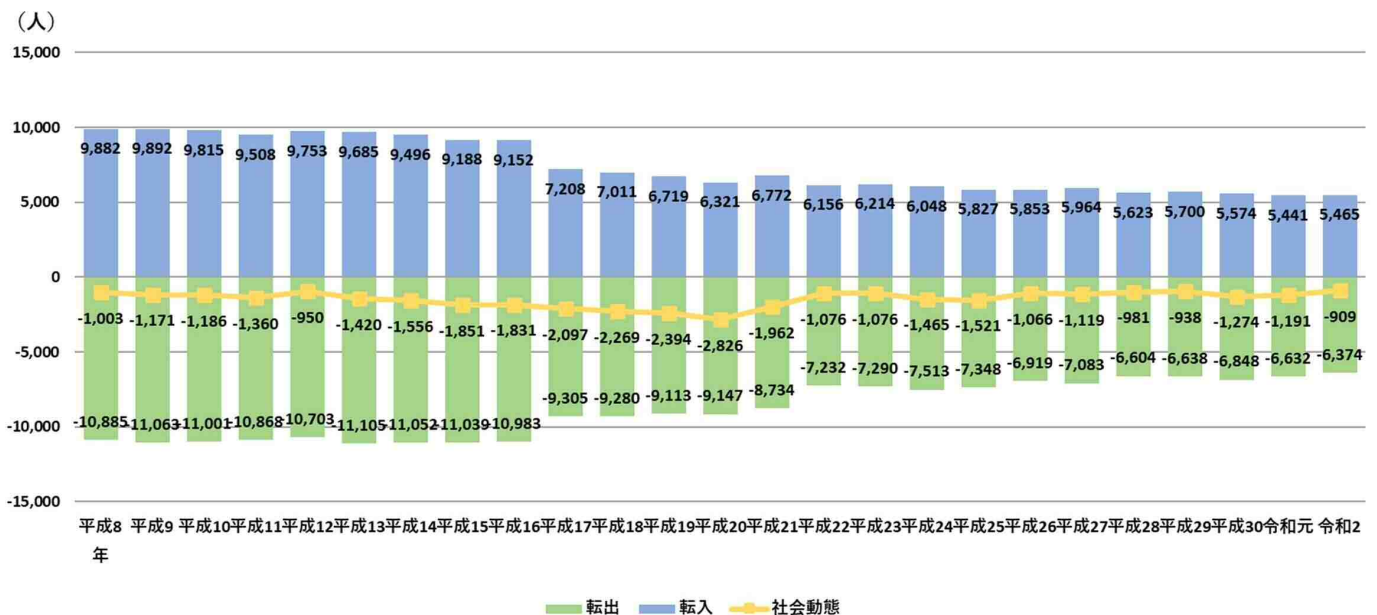
出所：鳥取県人口移動調査、兵庫県の人口動き（統計表）

## 1-1 人口構造

### 1-1-2 人口動態 ③圏域の社会動態の推移（転出・転入比較）

- 転入数は減少傾向にあり、令和2年の転入者数は平成8年の約55%である5,465人となっています。
- 転出数は減少傾向にあり、令和2年の転出者数は平成8年の約58%である6,374人となっています。
- 社会動態は、近年では1,000人前後の減少で推移しています。

#### 圏域の社会動態の推移（転出・転入比較）



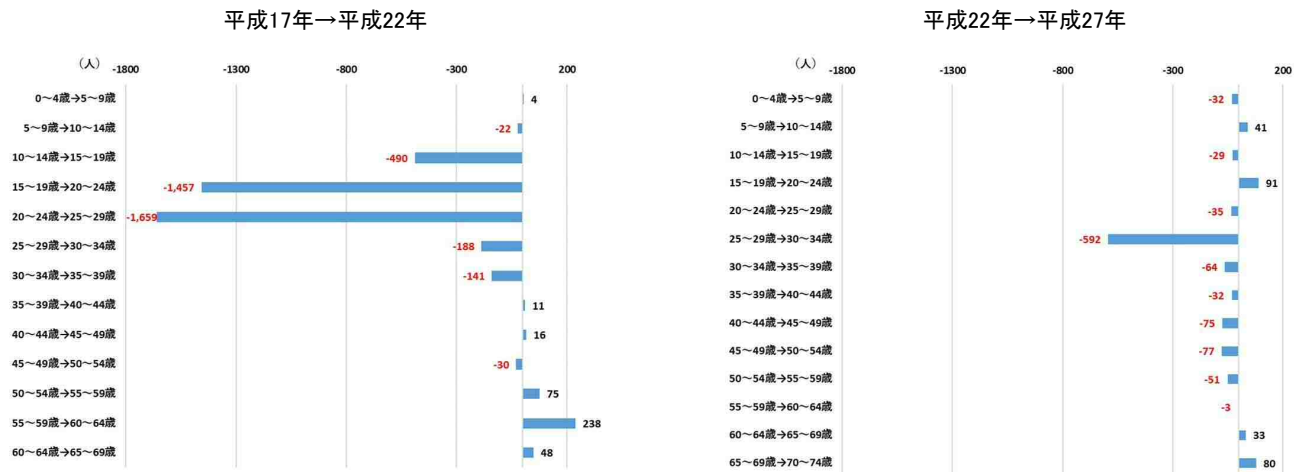
出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

## 1-1 人口構造

### 1-1-2 人口動態 ④圏域の年齢別(男性)の社会動態

- 平成22年から平成27年の男性の社会動態について、25～29歳→30～34歳の-592人が最も大きい社会減(転出者数が転入者数を上回る)の年代となっていますが、その他の年代においては社会増減ともに100人以下となっています。
- 10～30代の社会減がそれぞれ100人を超えていた平成17年から平成22年と比較すると、平成22年から平成27年では社会増減の程度が小さくなっています。

圏域の年齢別(男性)の社会動態



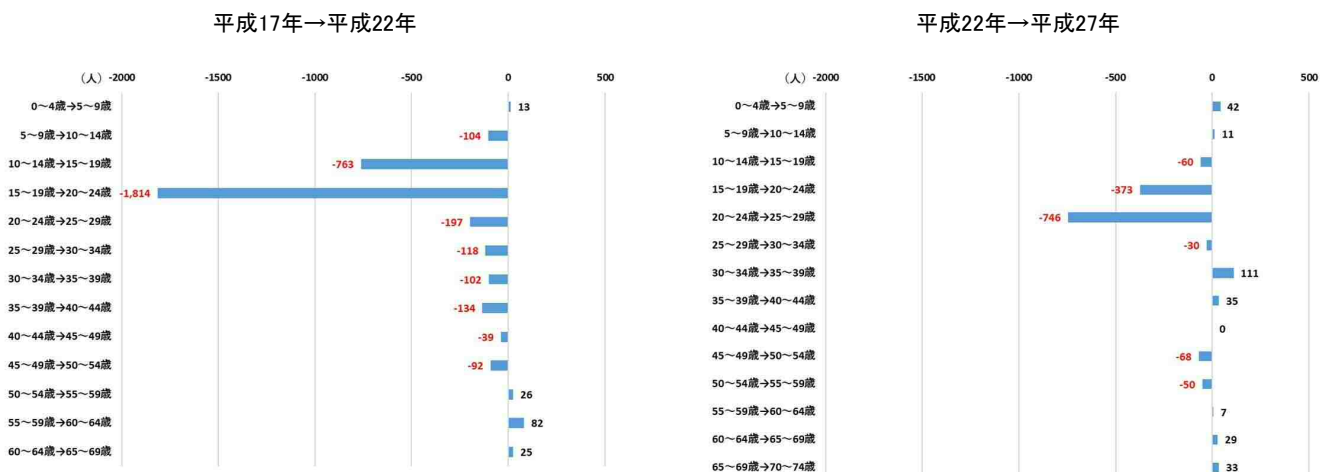
出所: 総務省「国勢調査」

## 1-1 人口構造

### 1-1-2 人口動態 ⑤圏域の年齢別(女性)の社会動態

- 平成22年から平成27年の女性の社会動態について、15～19歳→20～24歳の-373人、20～24歳→25～29歳の-746人が突出して大きい社会減(転出者数が転入者数を上回る)の年代であり、その他の年代においては、30～34歳→35～39歳を除いて、社会増減ともに100人以下となっています。
- 10～30代の社会減がそれぞれ100人を超えていた平成17年から平成22年と比較すると、平成22年から平成27年では社会増減の程度が小さくなっています。

圏域の年齢別(女性)の社会動態



出所: 総務省「国勢調査」



## 1-1 人口構造

### 1-1-2 人口動態 ⑥圏域及び構成市町の自然動態の推移

- 圏域の自然動態について、全市町で死亡数が出生数を上回る自然減となっています。
- 近年で最も自然減の大きい令和元年は、平成24年の約1.7倍である1,808人の減少となっています。

#### 圏域及び構成市町の自然動態の推移

単位：人

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
鳥取市	-315	-404	-493	-511	-599	-844	-771	-921	-765
岩美町	-111	-127	-110	-98	-115	-110	-117	-121	-131
若桜町	-69	-62	-68	-71	-70	-52	-57	-64	-58
智頭町	-78	-84	-84	-124	-106	-102	-111	-89	-92
八頭町	-106	-129	-129	-190	-173	-153	-149	-206	-115
香美町	-193	-208	-175	-171	-233	-225	-169	-246	-224
新温泉町	-175	-128	-143	-173	-143	-183	-196	-161	-191
圏域	-1,047	-1,142	-1,202	-1,338	-1,439	-1,669	-1,570	-1,808	-1,576

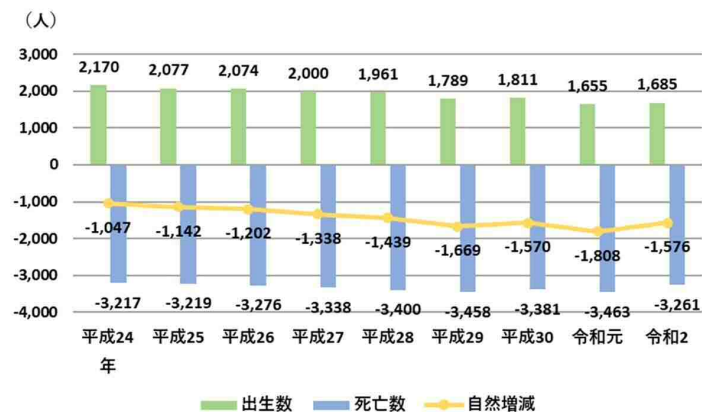
出所：鳥取県人口移動調査、兵庫県の人口動き（統計表）

## 1-1 人口構造

### 1-1-2 人口動態 ⑦圏域の自然動態の推移(死亡、出生比較)

- 圏域の自然動態について、近年増減を繰り返して推移しているものの、長期的には自然減の傾向が拡大しています。
- 圏域の出生数は減少傾向にあり、令和2年の出生数は、平成24年の約78%である1,685人となっています。
- 圏域の死亡数は3,200人台から3,400人台の間で推移しています。

#### 圏域の自然動態の推移(死亡、出生比較)



出所：鳥取県人口移動調査、兵庫県の人口動き（統計表）

# 1-1 人口構造

## 1-1-2 人口動態 ⑦圏域の自然動態の推移(死亡、出生比較)

- 平成24～令和2年のいずれの年においても、圏域の全市町で自然減となっています。
- 鳥取市の令和2年の自然動態は、平成24年の2.4倍である-765人となっています。出生数は平成24年から令和2年で約21%減少しています。

### 圏域の自然動態の推移(出生、死亡比較)

単位:人

	平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	出生数	死亡数	出生数	死亡数	出生数	死亡数	出生数	死亡数	出生数	死亡数	出生数	死亡数	出生数	死亡数	出生数	死亡数	出生数	死亡数
	自然増減		自然増減		自然増減		自然増減		自然増減		自然増減		自然増減		自然増減		自然増減	
鳥取市	1,710	2,025	1,626	2,030	1,644	2,137	1,637	2,148	1,579	2,178	1,420	2,264	1,442	2,213	1,332	2,253	1,356	2,121
岩美町	81	192	75	202	60	170	64	162	67	182	78	188	63	180	64	185	64	195
若桜町	13	82	7	69	12	80	13	84	10	80	14	66	12	69	12	76	8	66
智頭町	35	113	43	127	41	125	34	158	32	138	33	135	37	148	25	114	30	122
八頭町	120	226	121	250	114	243	73	263	97	270	89	242	87	236	88	294	104	219
香美町	119	312	107	315	118	293	104	275	94	327	85	310	103	272	73	319	61	285
新温泉町	92	267	98	226	85	228	75	248	82	225	70	253	67	263	61	222	62	253
圏域	2,170	3,217	2,077	3,219	2,074	3,276	2,000	3,338	1,961	3,400	1,789	3,458	1,811	3,381	1,655	3,463	1,685	3,261
	-1,047		-1,142		-1,202		-1,338		-1,439		-1,669		-1,570		-1,808		-1,576	

出所:鳥取県人口移動調査、兵庫県の人口動き(統計表)

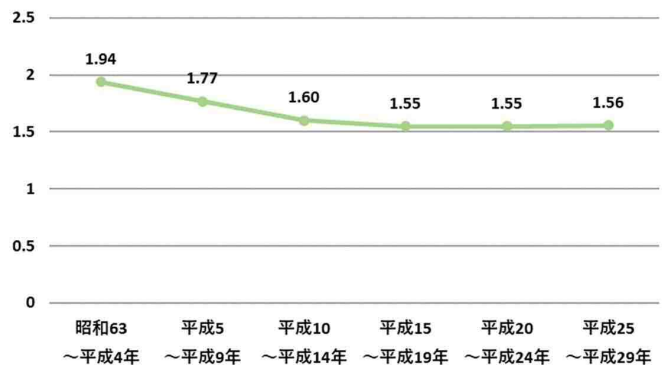
# 1-1 人口構造

## 1-1-2 人口動態 ⑧構成市町の合計特殊出生率の長期推移

- 圏域全体の合計特殊出生率は減少傾向にありましたが、平成15～平成19年以降は概ね横ばいで推移しています。
- 平成20～平成24年と比べ、平成25～平成29年の合計特殊出生率は、鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町の4市町で増加しています。
- 昭和63年以降、全ての市町で、全国の合計特殊出生率を上回っています。

### 構成市町の合計特殊出生率の長期推移

	昭和63 ～平成4年	平成5 ～平成9年	平成10 ～平成14年	平成15 ～平成19年	平成20 ～平成24年	平成25 ～平成29年
鳥取市	1.85	1.67	1.55	1.54	1.53	1.55
岩美町	1.89	1.60	1.48	1.51	1.51	1.53
若桜町	1.72	1.67	1.51	1.51	1.44	1.55
智頭町	1.93	1.71	1.55	1.44	1.49	1.55
八頭町	1.91	1.68	1.54	1.46	1.51	1.48
香美町	2.12	1.98	1.79	1.62	1.70	1.70
新温泉町	2.16	2.08	1.76	1.76	1.69	1.55
圏域	1.94	1.77	1.60	1.55	1.55	1.56
鳥取県	1.8	1.7	1.59	1.53	1.56	1.61
兵庫県	1.51	1.44	1.36	1.3	1.4	1.47
全国	1.66	1.46	1.36	1.31	1.38	1.43



出所:厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

## 1-1 人口構造

### 1-1-3 世帯 ①構成市町の世帯数の推移

- 圏域全体の世帯数は増加傾向にあり、令和2年は、平成27年から134世帯増加して100,704世帯となっています。
- 鳥取市は世帯数が一貫して増加しており、令和2年は、平成27年から1,088世帯増加して77,029世帯となっています。
- 岩美町と八頭町は平成17年頃、香美町は平成12年頃、若桜町、智頭町、新温泉町は平成7年頃から一貫して減少しています。

構成市町の世帯数の推移

単位：世帯

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	圏域内 構成比率
鳥取市	62,204	67,761	72,353	73,288	75,941	77,029	76.5%
岩美町	3,946	4,001	4,045	3,982	3,993	3,926	3.9%
若桜町	1,587	1,545	1,487	1,405	1,271	1,182	1.2%
智頭町	2,805	2,733	2,752	2,569	2,487	2,400	2.4%
八頭町	5,050	5,350	5,475	5,454	5,359	5,326	5.3%
香美町	6,868	6,877	6,630	6,449	6,228	5,912	5.9%
新温泉町	5,588	5,570	5,544	5,342	5,291	4,929	4.9%
圏域	88,048	93,837	98,286	98,489	100,570	100,704	

注：平成7年と平成12年は平成17年合併市町村の合算の値である

圏域全体の世帯数の推移



出所：総務省「国勢調査」

## 1-1 人口構造

### 1-1-3 世帯 ②世帯当たり人員の推移

- いずれの市町においても、一貫して減少傾向にあります。
- 世帯当たり人員が最少の市町は鳥取市で、令和2年は平成7年と比較すると約77%に減少し2.45人となっています。
- 世帯当たり人員が最大の市町は八頭町で、令和2年は平成7年と比較すると約74%に減少し2.99人となっています。
- 圏域全体では、令和2年は平成7年と比べ約76%に減少し2.52人となっています。

世帯当たり人員の推移

単位：人

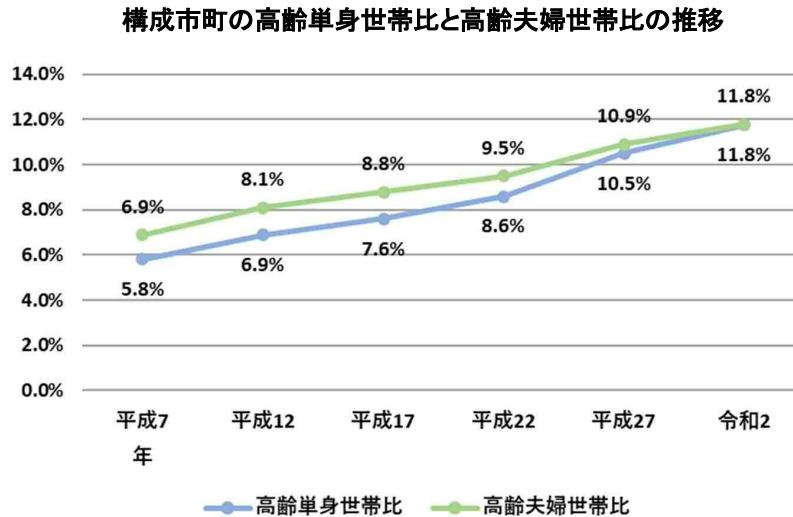
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
鳥取市	3.18	2.96	2.79	2.69	2.48	2.45
岩美町	3.73	3.50	3.28	3.10	2.81	2.75
若桜町	3.50	3.23	2.95	2.76	2.51	2.42
智頭町	3.59	3.43	3.14	3.00	2.82	2.68
八頭町	4.04	3.78	3.55	3.38	3.12	2.99
香美町	3.56	3.38	3.23	3.05	2.90	2.72
新温泉町	3.51	3.34	3.15	3.00	2.74	2.70
圏域	3.30	3.08	2.89	2.78	2.62	2.52

出所：総務省「国勢調査」

## 1-1 人口構造

### 1-1-3 世帯 ③構成市町の高齢単身世帯比と高齢夫婦世帯比の推移

- 令和2年の圏域の高齢単身世帯比と高齢夫婦世帯比は、いずれも11.8%となっています。
- 圏域の高齢単身世帯比と高齢夫婦世帯比は、増加傾向にあります。



出所：総務省「国勢調査」

## 1-1 人口構造

### 1-1-3 世帯 ③構成市町の高齢単身世帯比と高齢夫婦世帯比の推移

- 全市町で高齢者単身世帯比と高齢夫婦世帯比が一貫して増加傾向にあります。
- 高齢者単身世帯比が最大の市町は若桜町の21.9%で、最小の鳥取市よりも11.2ポイント大きくなっています。
- 高齢者夫婦世帯比が最大の市町は若桜町の19.4%で、最小の鳥取市よりも8.7ポイント大きくなっています。

構成市町の高齢単身世帯比

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
鳥取市	5.4%	6.3%	6.9%	7.7%	9.6%	10.7%
岩美町	6.7%	8.2%	9.0%	10.0%	12.3%	14.2%
若桜町	8.9%	11.5%	14.5%	15.8%	19.1%	21.9%
智頭町	7.8%	9.8%	11.7%	13.0%	14.5%	17.7%
八頭町	4.7%	6.2%	7.2%	7.8%	10.2%	12.2%
香美町	7.3%	8.5%	9.6%	11.7%	13.9%	15.9%
新温泉町	7.4%	8.8%	10.1%	11.5%	14.0%	15.5%
圏域	5.8%	6.9%	7.6%	8.6%	10.5%	11.8%

構成市町の高齢夫婦世帯比の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
鳥取市	6.1%	7.1%	7.7%	8.4%	9.9%	10.7%
岩美町	8.7%	10.5%	10.6%	12.2%	14.1%	15.1%
若桜町	13.4%	16.5%	16.6%	17.1%	19.1%	19.4%
智頭町	8.9%	11.0%	12.6%	13.6%	13.7%	15.2%
八頭町	6.6%	7.8%	8.6%	9.2%	11.3%	13.2%
香美町	9.5%	11.7%	13.2%	13.7%	14.3%	16.0%
新温泉町	8.9%	11.2%	12.7%	14.6%	15.5%	16.0%
圏域	6.9%	8.1%	8.8%	9.5%	10.9%	11.8%

注：

高齢単身世帯とは、65歳以上の者一人のみの一般世帯(他の世帯員がいないもの)をいう。

高齢夫婦世帯とは、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組の一般世帯(他の世帯員がいないもの)をいう。

出所：総務省「国勢調査」

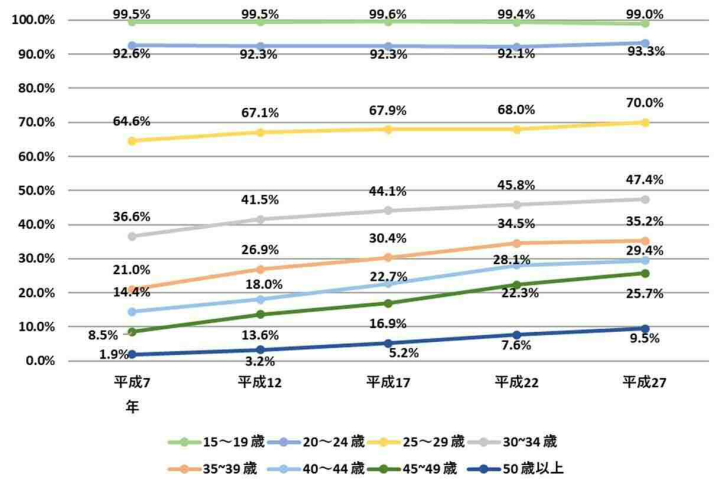
## 1-1 人口構造

### 1-1-3 世帯 ④構成市町の男性の年齢階級別未婚率の割合

- 15～19歳の男性の未婚率は平成7年から平成27年で0.5ポイント減少し99.0ポイントとなりましたが、それ以外の年齢の未婚率は平成7年から平成27年で上昇しています。
- 平成7年と平成27年の未婚率を比べると未婚率の増加幅が最も大きいのが「45～49歳」で17.2ポイントとなっています。

構成市町の男性の年齢階級別未婚率の割合

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年 -平成7年
15～19歳	99.5%	99.5%	99.6%	99.4%	99.0%	-0.5%
20～24歳	92.6%	92.3%	92.3%	92.1%	93.3%	0.7%
25～29歳	64.6%	67.1%	67.9%	68.0%	70.0%	5.4%
30～34歳	36.6%	41.5%	44.1%	45.8%	47.4%	10.8%
35～39歳	21.0%	26.9%	30.4%	34.5%	35.2%	14.2%
40～44歳	14.4%	18.0%	22.7%	28.1%	29.4%	15.0%
45～49歳	8.5%	13.6%	16.9%	22.3%	25.7%	17.2%
50歳以上	1.9%	3.2%	5.2%	7.6%	9.5%	7.6%



出所：総務省「国勢調査」

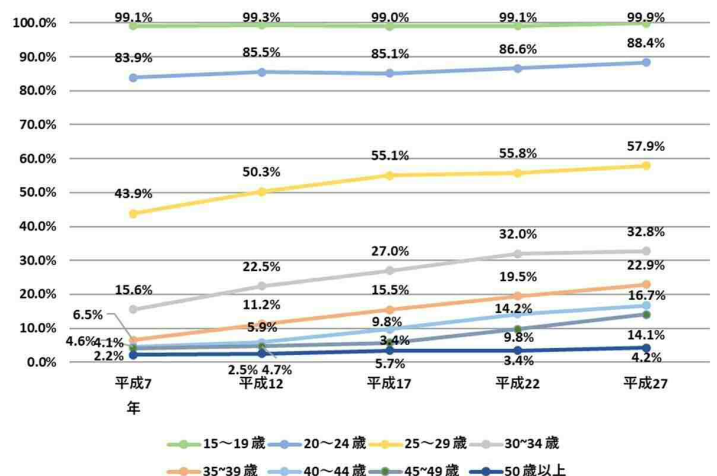
## 1-1 人口構造

### 1-1-3 世帯 ⑤構成市町の女性の年齢階級別未婚率の割合

- 女性の未婚率については全ての年齢で、上昇傾向にあります。
- 平成7年と平成27年の未婚率を比べると、未婚率の変化が最も大きいのは30～34歳で17.2ポイント増加となっています。

構成市町の女性の年齢階級別未婚率の割合

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年 -平成7年
15～19歳	99.1%	99.3%	99.0%	99.1%	99.9%	0.8%
20～24歳	83.9%	85.5%	85.1%	86.6%	88.4%	4.5%
25～29歳	43.9%	50.3%	55.1%	55.8%	57.9%	14.0%
30～34歳	15.6%	22.5%	27.0%	32.0%	32.8%	17.2%
35～39歳	6.5%	11.2%	15.5%	19.5%	22.9%	16.4%
40～44歳	4.6%	5.9%	9.8%	14.2%	16.7%	12.1%
45～49歳	4.1%	4.7%	5.7%	9.8%	14.1%	10.0%
50歳以上	2.2%	2.5%	3.4%	3.4%	4.2%	2.0%



出所：総務省「国勢調査」

## 1-1 人口構造

### 1-1-5 通勤・通学 ①構成町から鳥取市への通勤・通学

- 鳥取市への通勤通学割合は、八頭町が57.3%と最も大きくなっています。
- 兵庫県の2町は、鳥取県の4町と比べ、香美町が0.5%、新温泉町が7.4%と、鳥取市への通勤通学割合が小さくなっています。

#### 構成町から鳥取市への通勤・通学(平成27年)

単位：人

区分	常駐する就業者・通学者数		通勤通学割合
	※自宅において従事する者の数を除く	うち鳥取市への就業者・通学者数	
岩美町	5,175	2,564	49.5%
若桜町	1,328	516	38.9%
智頭町	3,059	1,073	35.1%
八頭町	7,957	4,559	57.3%
香美町	7,764	35	0.5%
新温泉町	6,320	465	7.4%

出所：総務省「国勢調査」

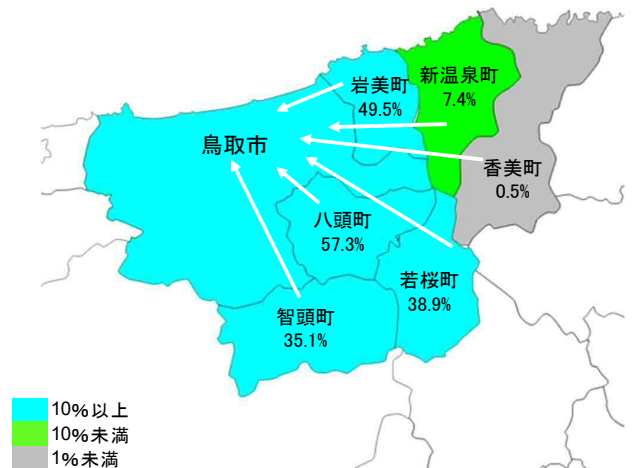
## 1-1 人口構造

### 1-1-5 通勤・通学 ②圏域の鳥取市への通勤通学割合

- 平成27年の鳥取市への通勤通学率は、八頭町の57.3%が最も高く、次いで岩美町(49.5%)、若桜町(38.9%)となっています。また、平成22年と比べ、智頭町で0.5ポイントと新温泉町で0.8ポイント増加し、それ以外の町では減少しています。
- 平成27年の鳥取市への通勤率は、八頭町の58.9%が最も高く、次いで岩美町(49.2%)、若桜町(38.2%)となっています。また、平成22年と比べ、智頭町が1.0ポイント、新温泉町が0.5ポイント増加しています。
- 平成27年の鳥取市への通学率は、岩美町の53.7%が最も高く、次いで若桜町(47.0%)、八頭町(41.9%)となっています。また、平成22年と比べ、新温泉町が3.7ポイント増加しています。

#### 圏域の鳥取市への通勤通学割合

市町村名	通勤通学率		通勤率		通学率	
	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年
岩美町	52.2%	49.5%	50.8%	49.2%	65.3%	53.7%
若桜町	42.6%	38.9%	40.5%	38.2%	59.2%	47.0%
智頭町	34.6%	35.1%	33.5%	34.5%	44.1%	41.4%
八頭町	57.9%	57.3%	59.3%	58.9%	46.6%	41.9%
香美町	0.5%	0.5%	0.3%	0.3%	1.7%	1.5%
新温泉町	6.6%	7.4%	6.3%	6.8%	9.7%	13.4%



注：各町の町外へ通勤通学している人数のうち、鳥取市へ通勤通学している人数の割合を算出しています。

出所：総務省「国勢調査」

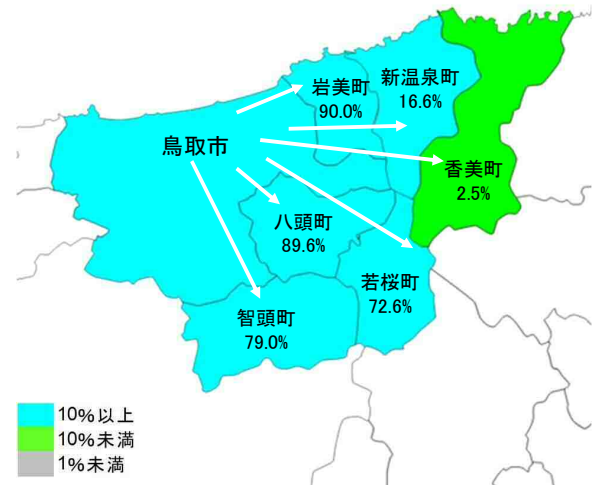
## 1-1 人口構造

### 1-1-5 通勤・通学 ③圏域の鳥取市からの通勤通学割合

- 平成27年の鳥取市からの通勤通学割合は、岩美町が90.0%と最も大きく、次いで八頭町が89.6%、智頭町が79.0%となっています。

圏域の鳥取市からの通勤通学割合(平成27年)

市町村名	通勤通学率
岩美町	90.0%
若桜町	72.6%
智頭町	79.0%
八頭町	89.6%
香美町	2.5%
新温泉町	16.6%



注:各町の町外から通勤通学している人数のうち、鳥取市から通勤通学している人数の割合を示しています。

出所:総務省「国勢調査」

## 1-1 人口構造

### 1-1-5 通勤・通学 ④圏域人口総数及び昼夜間人口比率

- 昼夜間人口比率(常住人口100人当たりの昼間人口の割合)は、鳥取市では100%を超えている一方、他町では100%を下回っています。
- 昼夜間人口比率が最小の市町は岩美町の85.6%で、最大の鳥取市より17.6ポイント小さくなっています。

圏域人口総数及び昼夜間人口比率(平成27年)

	総人口	昼夜間人口比率
鳥取市	193,717	103.2%
岩美町	11,485	85.6%
若桜町	3,269	88.3%
智頭町	7,154	92.4%
八頭町	16,985	81.0%
香美町	18,070	93.8%
新温泉町	14,819	95.5%
圏域計	265,499	-

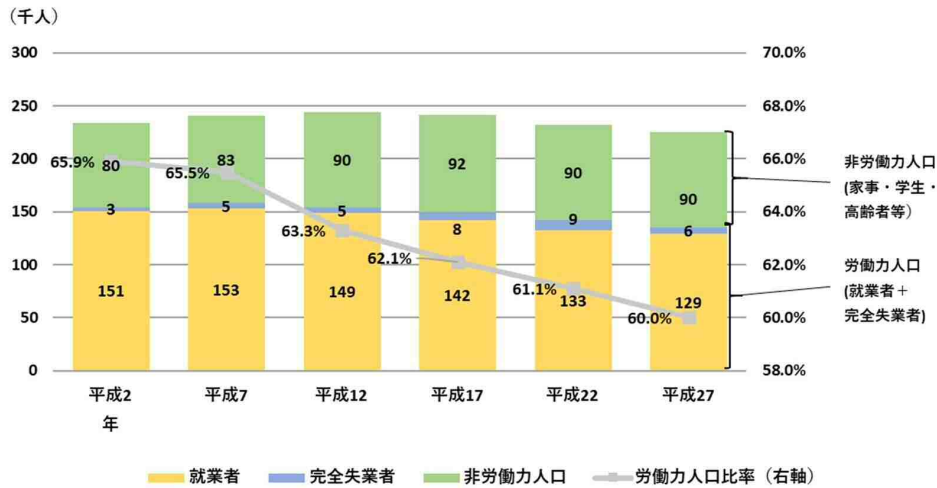
出所:総務省「国勢調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ①圏域の労働力状況の推移

- 圏域の労働力人口比率は、年々減少傾向にあり、平成27年の労働力人口比率は、平成2年と比較すると5.9ポイント減少しています。
- 圏域の労働力人口(就業者+完全失業者)は、年々概ね減少傾向にあり、平成27年の労働力人口は、135千人となっており、直近で最も多かった平成7年と比較して14.6ポイント減少しています。
- 圏域の非労働力人口(家事・学生・高齢者等)は、平成12年以降概ね横ばいで推移しています。

圏域の労働力状況の推移(非労働力人口・完全失業者・就業者の推移)



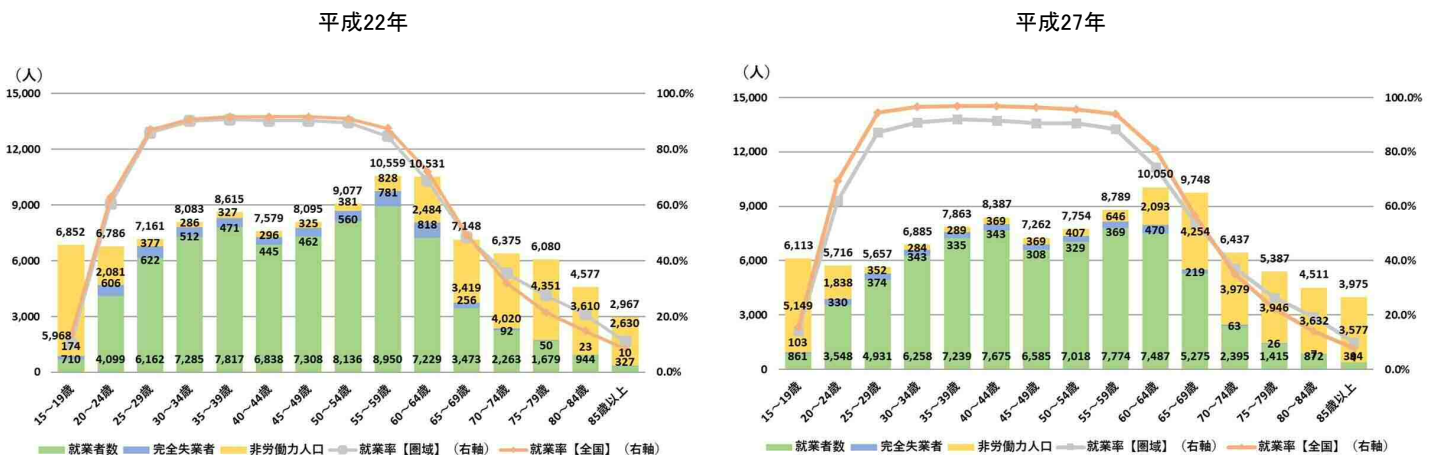
出所:総務省「国勢調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ②圏域の年齢5歳階級別(男性)労働力状況の推移

- 平成27年における圏域の年齢5歳階級別(男性)の就業率は、69歳以下では全国を下回っているものの、70歳以上では全国平均を上回っています。
- 平成22年と平成27年と比較すると、圏域の労働力人口が減少しており、就業率についても全国では上昇している一方で、圏域ではほぼ横ばいとなっています。

圏域の年齢5歳階級別(男性)労働力状況の推移(非労働力人口・完全失業者・就業者の推移)



出所:総務省「国勢調査」



## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ③圏域の年齢5歳階級別(女性)労働力状況の推移

- 平成27年における圏域の年齢5歳階級別(女性)の就業率は、29歳以下では全国平均を下回っているものの、30歳以上では全国平均を概ね上回っています。
- 平成22年と平成27年を比較すると「40歳～49歳」を除き労働力人口が減少しています。

圏域の年齢5歳階級別(女性)労働力状況の推移(非労働力人口・完全失業者・就業者の推移)



出所:総務省「国勢調査」、内閣府「男女共同参画白書 平成25年版」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ④圏域の民営事業所数・従業者数の推移

- 圏域の民営事業所数は平成26年に増加したものの、概ね減少傾向で推移しています。
- 平成28年の民営事業所数は11,124事業所であり、直近で最多の平成18年と比較すると約13%減少しています。
- 圏域の従業者数は平成26年に増加したものの、概ね減少傾向で推移しています。
- 平成28年の従業者数は90,285人であり、直近で最多の平成18年と比較すると約21.6%減少しています。

圏域の民営事業所数・従業者数の推移



出所:総務省「事業所・企業統計調査(平成16年～平成18年)」、総務省・経済産業省「経済センサス基礎調査」「経済センサス活動調査」(平成21年～)

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ④圏域の民営事業所数・従業者数の推移

- 平成28年の圏域の民営事業所数(前回調査比)は-13.0%であり、鳥取市、若桜町を除く全市町で下回っています。
- 平成28年の圏域の従業者数(前回調査比)は-13.5%であり、鳥取市を除く全市町で下回っています。
- 平成28年の若桜町の民営事業所数は直近で最多の平成18年と比較すると、約38%減少しており、減少幅が全市町の中で最も大きくなっています。
- 平成28年の若桜町の従業者数は直近で最多の平成18年と比較すると、約46%減少しており、減少幅が全市町の中で最も大きくなっています。

#### 圏域の民営事業所数・従業者数の推移

	平成16年	平成18年	平成21年	平成24年	平成26年	平成28年	圏域内 構成比
鳥取市	9,661	10,027 3.7%	9,815 -2.2%	9,067 -8.2%	9,274 2.2%	8,163 -12.0%	73.4%
岩美町	449	444 -1.1%	448 0.9%	426 -5.2%	408 -4.4%	337 -17.4%	3.0%
若桜町	214	222 3.6%	183 -21.3%	168 -8.9%	157 -7.0%	137 -12.7%	1.2%
智頭町	368	419 12.2%	346 -21.1%	326 -6.1%	333 2.1%	277 -16.8%	2.5%
八頭町	573	663 13.6%	566 -17.1%	523 -8.2%	537 2.6%	443 -17.5%	4.0%
香美町	1,609	1,666 3.4%	1,461 -14.0%	1,322 -10.5%	1,269 -4.2%	1,084 -14.6%	9.7%
新温泉町	1,041	1,048 0.7%	934 -12.2%	823 -13.5%	805 -2.2%	683 -15.2%	6.1%
圏域計	12,306	12,823 4.0%	12,292 -4.3%	11,333 -4.3%	12,783 1.0%	11,124 -13.0%	

※下段は対前期増加率

	平成16年	平成18年	平成21年	平成24年	平成26年	平成28年	圏域内 構成比
鳥取市	83,215	95,987 13.3%	88,118 -9.9%	80,508 -9.5%	82,895 2.9%	72,845 -12.1%	80.7%
岩美町	3,266	3,585 8.9%	3,100 -15.6%	3,023 -2.5%	2,954 -2.3%	2,230 -24.5%	2.5%
若桜町	1,041	1,115 6.6%	892 -25.0%	824 -8.3%	795 -3.6%	597 -24.9%	0.7%
智頭町	2,596	2,938 11.6%	2,177 -35.0%	2,153 -1.1%	2,153 0.0%	1,816 -15.7%	2.0%
八頭町	3,504	4,364 19.7%	3,257 -34.0%	3,130 -4.1%	3,323 5.8%	2,618 -21.2%	2.9%
香美町	8,256	8,933 7.6%	7,590 -17.7%	7,507 -1.1%	6,918 -8.5%	5,765 -16.7%	6.4%
新温泉町	6,207	7,207 13.9%	6,065 -18.8%	5,286 -14.7%	5,385 1.8%	4,414 -18.0%	4.9%
圏域計	99,829	115,196 13.3%	103,609 -11.2%	94,924 -9.1%	104,423 9.1%	90,285 -13.5%	

※下段は対前期増加率

出所：総務省「事業所・企業統計調査(平成16年～平成18年)」、総務省・経済産業省「経済センサス基礎調査」「経済センサス活動調査」(平成21年～)

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑤構成市町別の産業別事業所数および割合(1次、2次、3次)

- 平成28年の圏域全体に占める第一次産業事業所数の構成市町別構成比は、鳥取市が49.7%と最も大きく、次いで岩美町(14.9%)、香美町(12.0%)となっています。
- 平成28年の圏域全体に占める第二次産業事業所数の構成市町別構成比は、鳥取市が62.3%と最も大きく、次いで香美町(14.5%)、新温泉町(8.0%)となっています。
- 平成28年の圏域全体に占める第三次産業事業所数の構成市町別構成比は、鳥取市が75.8%と最も大きく、次いで香美町(8.6%)、新温泉町(5.6%)となっています。
- 圏域全体の産業別事業所数は、いずれの産業においても平成26年から平成28年で減少しています。
- 第一次産業の事業所数は岩美町と智頭町で増加しています。
- 第二次産業の事業所数は若桜町で増加しています。
- 第三次産業の事業所数はいずれの市町においても減少しています。

#### 構成市町別の産業別事業所数および割合(1次、2次、3次)

地域	第一次産業				第二次産業				第三次産業				合計			
	平成26年		平成28年		平成26年		平成28年		平成26年		平成28年		平成26年		平成28年	
	事業所数	(構成比)	事業所数	(構成比)	事業所数	(構成比)	事業所数	(構成比)	事業所数	(構成比)	事業所数	(構成比)	事業所数	(構成比)	事業所数	(構成比)
鳥取市	88	47.3%	87	49.7%	1,354	62.5%	1,256	62.3%	8,097	74.0%	7,675	75.8%	9,539	71.8%	9,018	73.3%
岩美町	25	13.4%	26	14.9%	81	3.7%	67	3.3%	327	3.0%	298	2.9%	433	3.3%	391	3.2%
若桜町	6	3.2%	4	2.3%	33	1.5%	38	1.9%	137	1.3%	115	1.1%	176	1.3%	157	1.3%
智頭町	7	3.8%	8	4.6%	94	4.3%	83	4.1%	261	2.4%	212	2.1%	362	2.7%	303	2.5%
八頭町	22	11.8%	18	10.3%	128	5.9%	119	5.9%	440	4.0%	382	3.8%	590	4.4%	519	4.2%
香美町	23	12.4%	21	12.0%	307	14.2%	292	14.5%	1,008	9.2%	870	8.6%	1,338	10.1%	1,183	9.6%
新温泉町	15	8.1%	11	6.3%	168	7.8%	161	8.0%	665	6.1%	567	5.6%	848	6.4%	739	6.0%
圏域計	186	100.0%	175	100.0%	2,165	100.0%	2,016	100.0%	10,935	100.0%	10,119	100.0%	13,286	100.0%	12,310	100.0%

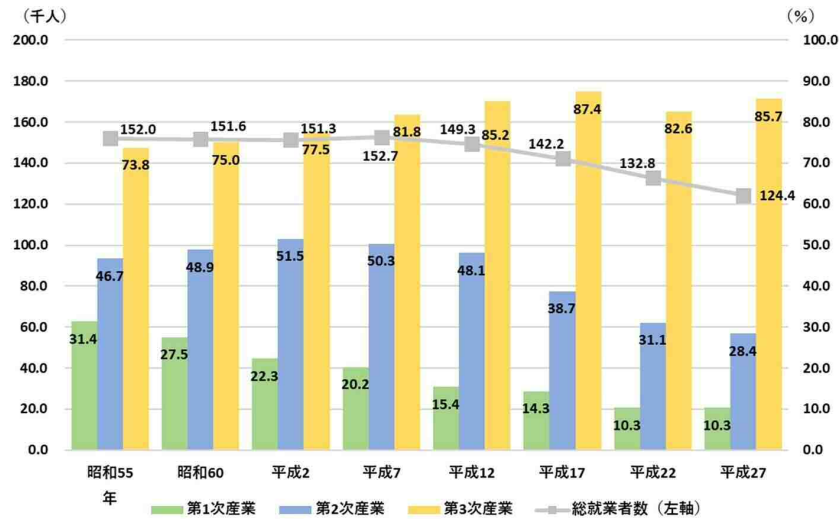
出所：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑥圏域の産業3分類就業者数の推移(1次、2次、3次)

- 圏域全体の総就業者数は、減少傾向で推移しており、平成27年の124.4千人は直近で最も多かった平成7年と比較すると約18.5%減少しています。
- 第1次産業の就業者数は、減少傾向で推移しており、平成27年の10.3千人は直近で最も多かった昭和55年と比較すると約67.2%減少しています。
- 第2次産業の就業者数は、直近の傾向としては平成2年の51.5千人をピークに減少しており、平成27年の28.4千人は平成2年と比較すると約44.9%減少しています。
- 第3次産業の就業者数は、平成22年に減少したものの概ね増加傾向で推移しており、平成27年の85.7千人は、直近で最も少なかった昭和55年と比較すると約16.1%増加しています。

圏域の産業3分類就業者数の推移(1次、2次、3次)



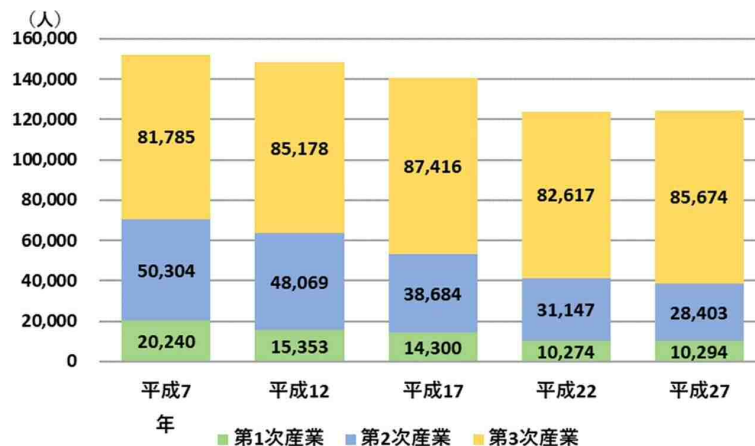
出所：総務省「国勢調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑦圏域の就業者数および割合(1次、2次、3次)

- 平成27年の圏域全体の就業者数は124,371人となっており、近年は概ね減少傾向で推移しています。
- 平成27年には第三次就業者比率が68.9%と、平成7年から15.7ポイント増加しており、就業者に占める第三次産業の比率は年々上昇しています。
- 平成27年の第三次産業就業者数は85,574人で、平成7年と比較すると約4.8%増加しています。

圏域の就業者数および割合(1次、2次、3次)



出所：総務省「国勢調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑦構成市町別の就業者数および割合(1次、2次、3次)

- 第一次産業の就業者数は、平成22年から平成27年で増加しており、市町別では、若桜町、智頭町、香美町、新温泉町で増加しています。
- 第二次産業の就業者数は、平成22年から平成27年で、新温泉町では69人増加しています。それ以外の市町では減少傾向にあります。
- 第三次産業の就業者数は平成22年を除くと増加傾向にあり、平成22年から平成27年では、鳥取市、岩美町、智頭町、八頭町で増加しています。

構成市町別の就業者数および割合(1次、2次、3次)

区分	項目	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
鳥取市	第1次産業	10,198	8,014	7,419	5,321	5,219
		10.0%	7.8%	7.4%	5.5%	5.9%
	第2次産業	32,105	31,642	25,616	20,825	19,037
		31.6%	30.7%	25.7%	21.7%	21.4%
	第3次産業	59,435	62,754	64,934	61,790	64,810
		58.4%	60.9%	65.2%	64.3%	72.8%
岩美町	第1次産業	1,440	983	903	709	661
		18.8%	14.0%	13.9%	12.5%	12.1%
	第2次産業	2,884	2,735	2,019	1,666	1,435
		37.6%	38.9%	31.1%	29.4%	26.3%
	第3次産業	3,335	3,305	3,522	3,209	3,354
		43.5%	47.0%	54.3%	56.5%	61.5%
若桜町	第1次産業	629	409	333	195	198
		20.5%	16.2%	16.1%	11.7%	13.0%
	第2次産業	1,200	946	660	538	433
		39.1%	37.5%	32.0%	32.1%	28.5%
	第3次産業	1,236	1,171	1,066	940	886
		40.3%	46.4%	51.7%	56.2%	58.4%
智頭町	第1次産業	733	546	425	300	395
		14.2%	11.8%	10.3%	8.6%	11.7%
	第2次産業	2,445	2,161	1,707	1,258	1,118
		47.4%	46.8%	41.4%	36.2%	33.1%
	第3次産業	1,979	1,906	1,988	1,861	1,863
		38.4%	41.3%	48.2%	53.6%	55.2%

区分	項目	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
八頭町	第1次産業	2,730	2,268	2,121	1,683	1,513
		23.5%	20.6%	20.3%	17.5%	17.3%
	第2次産業	4,140	3,791	2,949	2,401	2,108
		35.7%	34.4%	28.2%	25.0%	24.1%
	第3次産業	4,730	4,966	5,333	5,042	5,140
		40.8%	45.0%	51.1%	52.5%	58.7%
香美町	第1次産業	2,608	1,844	1,901	1,108	1,124
		20.1%	15.6%	17.4%	12.1%	12.8%
	第2次産業	4,444	3,847	3,287	2,746	2,490
		34.2%	32.5%	30.1%	29.9%	28.3%
	第3次産業	5,926	6,139	5,720	5,325	5,200
		45.7%	51.9%	52.4%	58.0%	59.0%
新温泉町	第1次産業	1,902	1,289	1,198	958	1,184
		18.7%	14.0%	14.0%	13.4%	16.0%
	第2次産業	3,086	2,947	2,446	1,713	1,782
		30.4%	32.0%	28.6%	23.9%	24.1%
	第3次産業	5,144	4,937	4,853	4,450	4,421
		50.6%	53.6%	56.8%	62.1%	59.8%
圏域合計	第1次産業	20,240	15,353	14,300	10,274	10,294
		13.3%	10.3%	10.2%	8.3%	8.3%
	第2次産業	50,304	48,069	38,684	31,147	28,403
		33.0%	32.3%	27.6%	25.1%	22.8%
	第3次産業	81,785	85,178	87,416	82,617	85,674
		53.7%	57.3%	62.3%	66.6%	68.9%

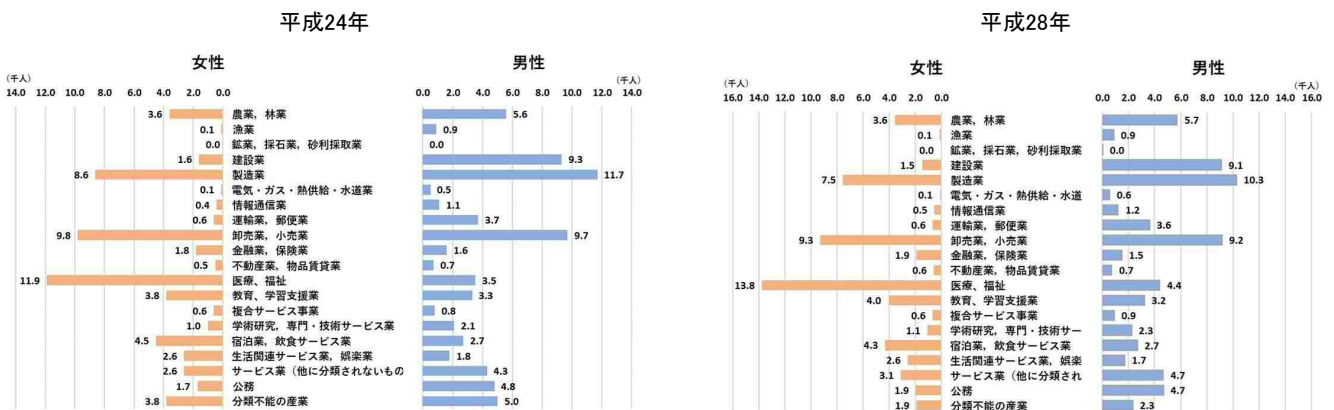
出所:総務省「国勢調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑧圏域の男女別・産業(大分類)別の就業者数

- 平成28年の圏域における産業(大分類)別の男性就業者数は、製造業が10.3千人と最も多く、次いで卸売業、小売業が9.2千人、建設業が9.1千人となっています。平成24年においても同様に製造業、卸売業、小売業、建設業が多くなっていますが、平成24年から平成28年で減少しています。
- 平成28年の圏域における産業(大分類)別の女性就業者数は、医療、福祉が13.8千人と最も多く、次いで卸売業、小売業が9.3千人、製造業が7.5千人となっています。平成24年においても同様に、医療、福祉、卸売業、小売業、製造業が多くなっていますが、平成24年から平成28年で医療、福祉以外は減少しています。

圏域の男女別・産業(大分類)別の就業者数



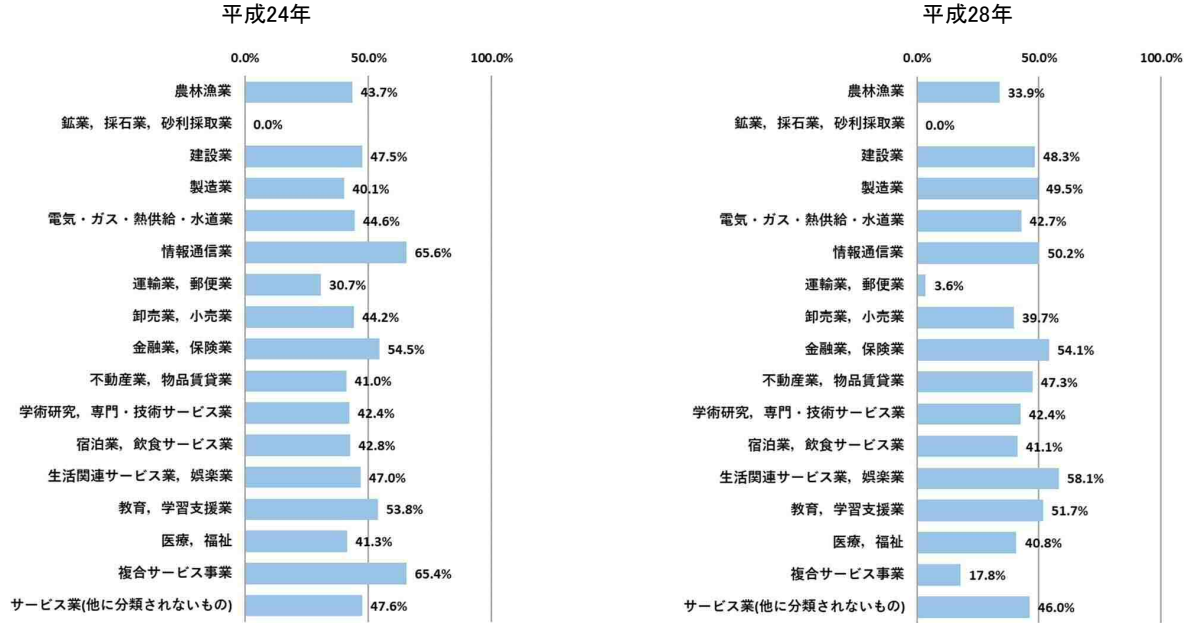
出所:総務省「経済センサス活動調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑨圏域の付加価値額の対鳥取県シェア

- 平成28年の圏域における付加価値額の対鳥取県シェアは、生活関連サービス業、娯楽業が58.1%と最も大きく、次いで金融業、保険業が54.1%、教育、学習支援業が51.7%となっています。
- 平成24年の圏域における付加価値額の対鳥取県シェアは、情報通信業が65.6%と最も大きく、次いで複合サービス事業が65.4%となっていますが、平成28年では情報通信業が50.2%、複合サービス事業が17.8%と減少しています。

圏域の付加価値額の対鳥取県シェア



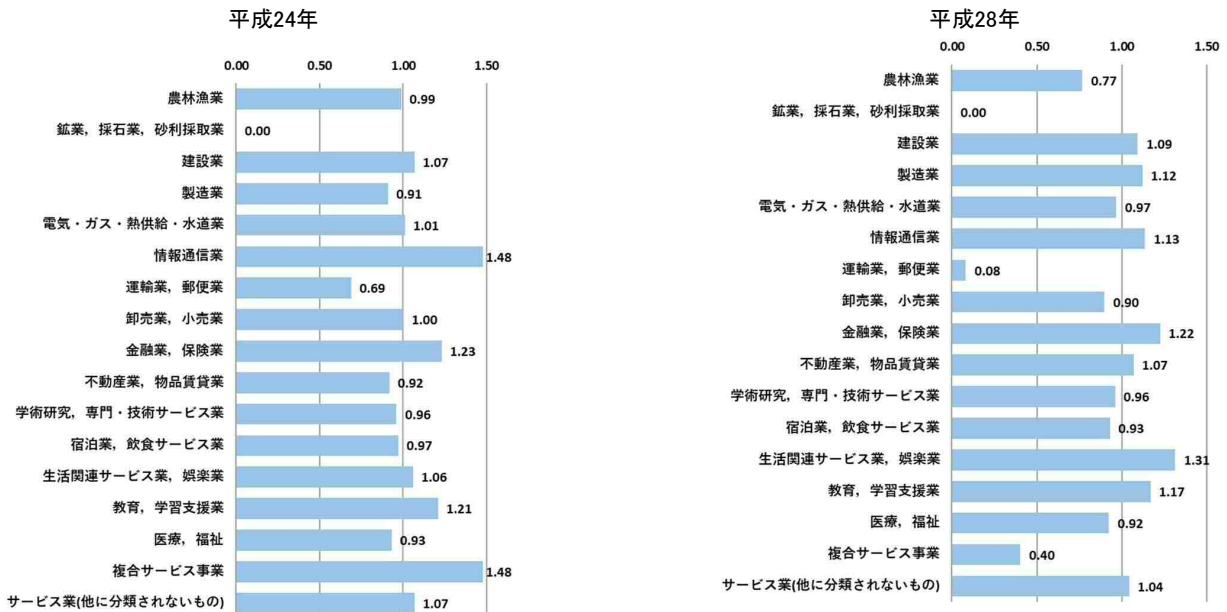
出所:総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑩圏域の付加価値額の特化係数

- 平成28年の圏域における付加価値額の特化係数は、生活関連サービス業、娯楽業が1.31と最も大きく、次いで金融業、保険業が1.22、教育、学習支援業が1.17となっています。
- 平成24年の圏域における付加価値額の特化係数は、情報通信業および複合サービス事業が1.48と最も大きく、次いで金融業、保険業が1.23、教育、学習支援業が1.21となっており、平成28年と比較すると上位の産業が異なっています。

圏域の付加価値額の特化係数



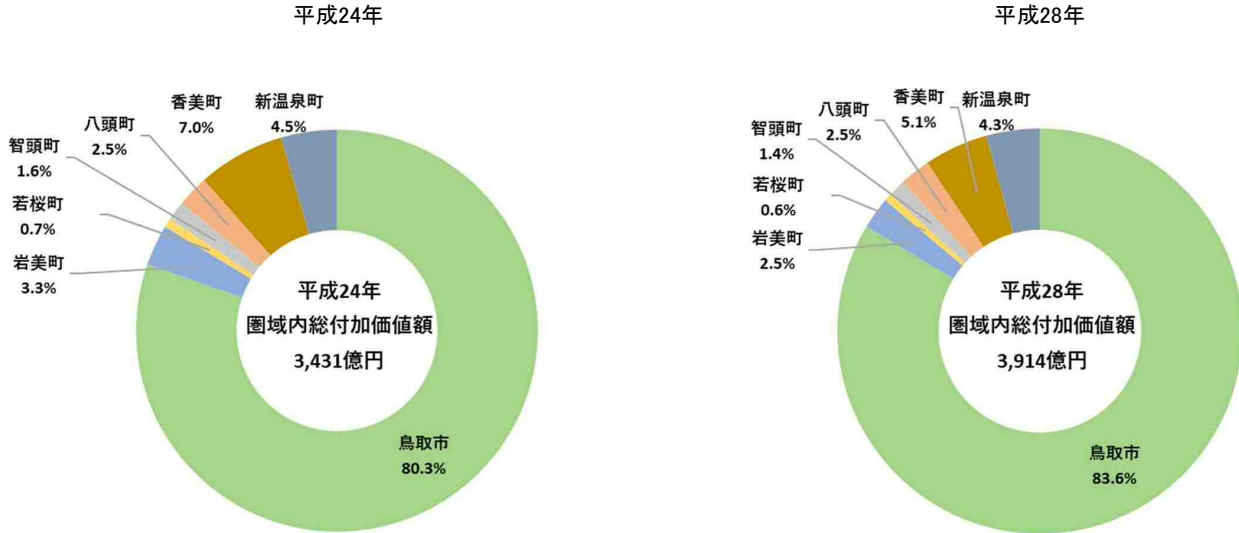
出所:総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑪構成市町の付加価値額の構成

- 平成28年の圏域における総付加価値額は3,914億円で、平成24年の3,431億円から約14.7%増加しています。
- 平成28年の総付加価値額の市町別構成比は、鳥取市が83.6%と最も大きく、次いで香美町が5.1%、新温泉町が4.3%となっています。

構成市町の付加価値額の構成



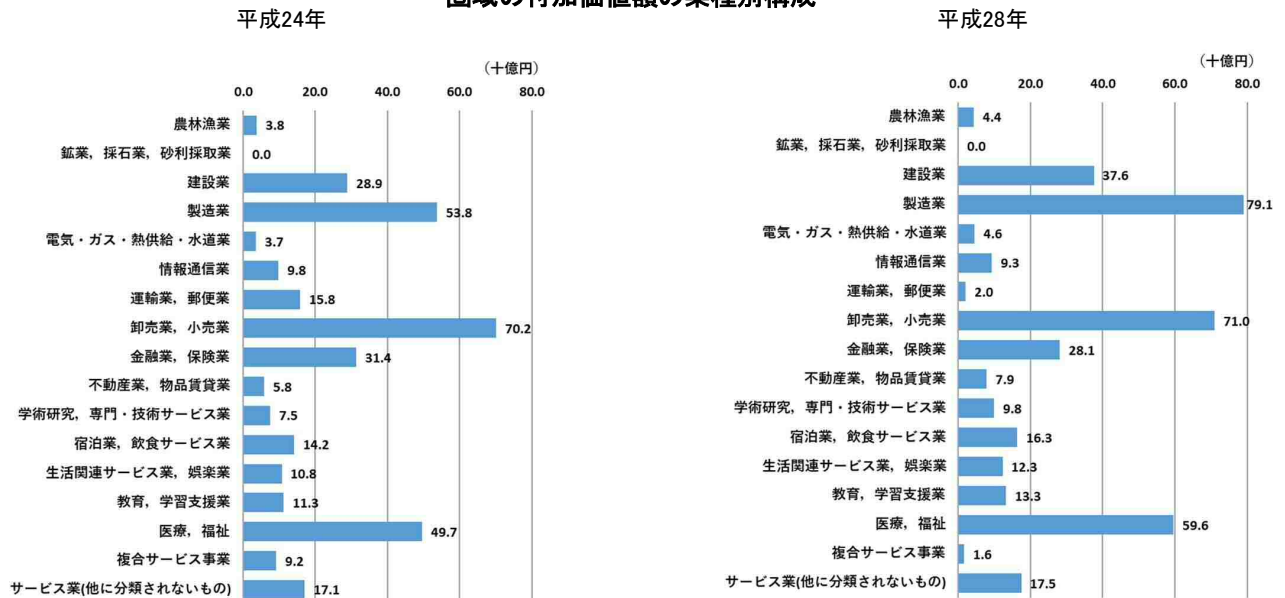
出所：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑪圏域の付加価値額の業種別構成

- 平成28年の業種別付加価値額は、製造業が79.1十億円と最も大きく、次いで、卸売業、小売業が71.0十億円、医療、福祉が59.6十億円となっています。
- 平成24年の業種別付加価値額と比較すると、製造業は25.3十億円増加しました。

圏域の付加価値額の業種別構成



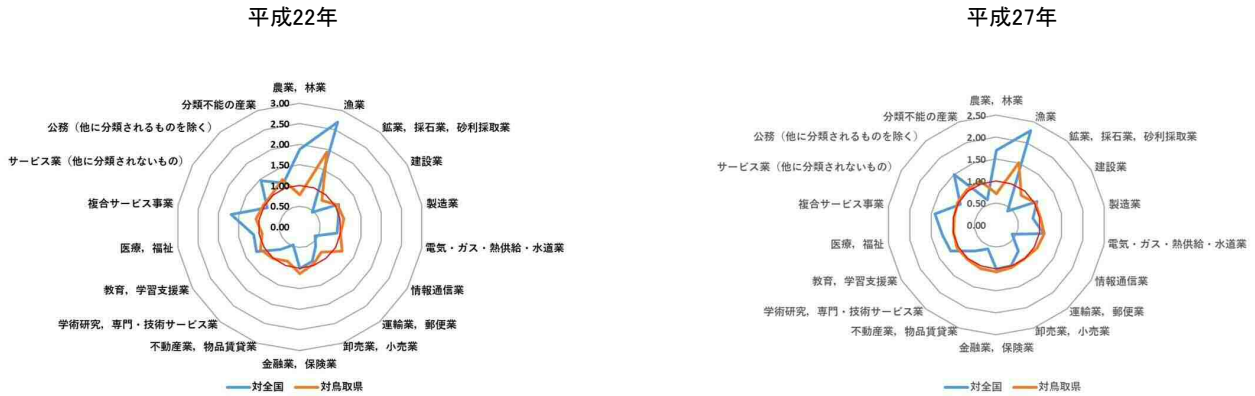
出所：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑫産業(大分類)別就業者数の特化係数(対全国・対鳥取県)

- 平成27年の産業(大分類)別就業者数の特化係数(対全国)は、漁業が2.29と最も大きく、次いで農業、林業(1.70)、複合サービス事業(1.42)となっています。平成22年と比較すると、上位3位の産業は同様であるものの、0.2~0.4ポイント減少しています。
- 平成27年の産業(大分類)別就業者数の特化係数(対鳥取県)は、漁業が1.52と最も大きく、次いで電気・ガス・熱供給・水道(1.11)、金融業、保険業および分類不能の産業(1.07)となっています。平成22年と比較すると、漁業は同様であるものの、0.4ポイント減少しています。

産業(大分類)別就業者数の特化係数(対全国・対鳥取県)



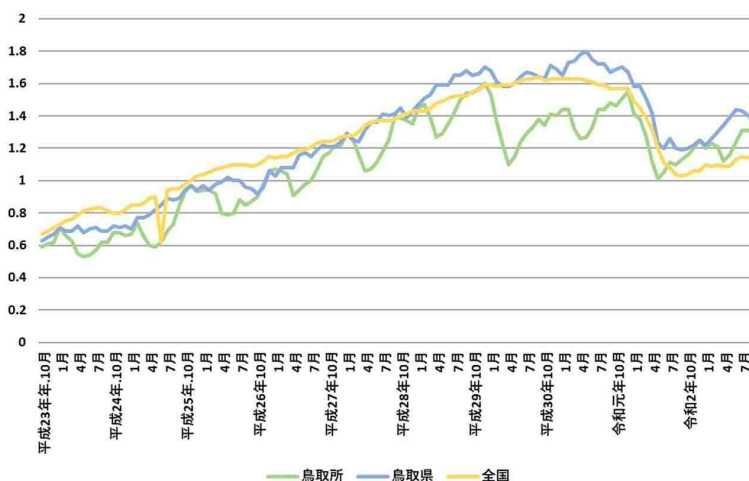
出所:総務省「国勢調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-1 産業全般 ⑬鳥取所・鳥取県・全国の有効求人倍率の推移

- 平成28年頃から、鳥取県の有効求人倍率は、全国の有効求人倍率を上回っています。
- 鳥取所の有効求人倍率は、ほとんどの月で、鳥取県の有効求人倍率および全国の有効求人倍率を下回っています。

鳥取所・鳥取県・全国の有効求人倍率の推移



注:鳥取所:鳥取公共職業安定所(管轄:鳥取市・岩美郡・八頭郡)

出所:厚生労働省鳥取労働局「労働市場月報」

## 1-2 産業構造

### 1-2-2 農林水産業(一次産業) ①構成市町の農産物販売額の構成(分類別)

- 全ての分類で、鳥取市の販売額が構成市町の中で最も大きくなっています。
- 香美町以外の市町では、稲作の販売額が最も大きくなっています。

#### 構成市町の農産物販売額の構成(分類別)

平成26年

単位：千万円

	鳥取市	岩美町	若桜町	智頭町	八頭町	香美町	新温泉町
稲作	281	41	11	20	75	57	62
麦類作	0	0	0	0	0	0	0
雑穀・いも類・豆類	23	1	0	1	2	2	3
工芸農作物	0	0	0	0	0	0	0
野菜	281	9	6	6	41	16	15
果樹類	163	3	0	1	71	11	4
花き・花木	38	1	0	x	11	x	x
その他の作物	7	0	0	x	4	x	x
酪農	40	0	0	3	19	0	0
肉用牛	58	8	6	8	13	73	36
養豚	81	0	x	0	0	x	x
養鶏	153	x	0	0	x	x	x
その他の畜産	-	x	x	1	x	x	x

注：表中の「×(ばつ)」は秘匿、「0」は単位に満たないもの、「-」は事実のないもの・該当数字のないものを表しています。

出所：地域経済分析システム(RESAS)

## 1-2 産業構造

### 1-2-2 農林水産業(一次産業) ①構成市町の農産物販売額の構成(分類別)

#### 構成市町の農産物販売額の構成(分類別)

令和元年

単位：千万円

	鳥取市	岩美町	若桜町	智頭町	八頭町	香美町	新温泉町
稲作	373	58	15	27	98	62	69
麦類作	x	x	-	-	x	-	-
雑穀・いも類・豆類	23	2	0	1	4	2	3
工芸農作物	5	0	0	0	2	0	0
野菜	276	12	9	10	49	10	19
果樹類	163	4	0	1	70	12	3
花き・花木	x	x	0	x	19	2	x
その他の作物	x	x	x	x	x	0	x
酪農	56	x	-	-	-	0	-
肉用牛	127	-	11	16	40	118	52
養豚	299	-	x	-	-	-	-
養鶏	x	0	-	-	x	x	-
その他の畜産	0	-	x	0	-	-	0

注：表中の「×(ばつ)」は秘匿、「0」は単位に満たないもの、「-」は事実のないもの・該当数字のないものを表しています。

出所：地域経済分析システム(RESAS)



## 1-2 産業構造

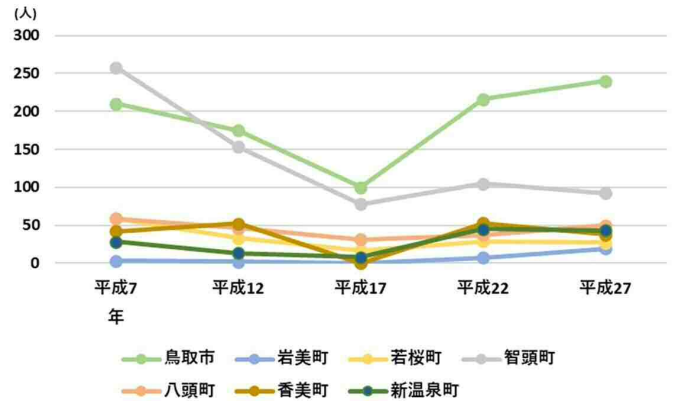
### 1-2-2 農林水産業(一次産業) ②構成市町の林業就業者数の推移

- 鳥取市の林業就業者数は平成17年まで減少傾向にありましたが、以後は増加しており、平成27年の240人は、圏域全体の林業就業者数の47.2%を占めます。
- 智頭町の林業就業者数は平成17年まで減少傾向にありましたが、以後は横ばいです。

構成市町の林業就業者数の推移

単位：人

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	圏域内構成比 (平成27年)
鳥取市	210	175 -16.7%	100 -42.9%	216 116.0%	240 11.1%	47.2%
岩美町	3	2 -33.3%	0 -100.0%	7	19 171.4%	3.7%
若桜町	59	33 -44.1%	17 -48.5%	29 70.6%	27 -7.4%	5.3%
智頭町	258	153 -40.7%	78 -49.0%	105 34.6%	92 -12.3%	18.1%
八頭町	59	46 -22.0%	31 -32.6%	37 19.4%	50 35.1%	9.8%
香美町	42	52 23.8%	0 -100.0%	53	38 -34.5%	7.5%
新温泉町	28	13 -53.6%	8 -38.5%	45 462.5%	43 -4.4%	8.4%
圏域	659	474 -28.1%	234 -50.6%	492 110.3%	509 3.5%	-



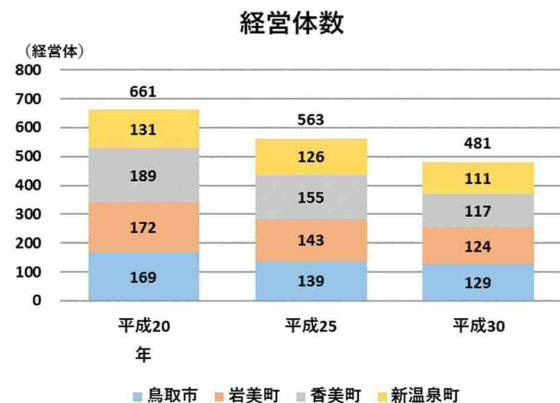
出所：総務省「国勢調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-2 農林水産業(一次産業) ③構成市町(沿岸4市町)漁業販売額および経営体数の推移

- 平成30年の圏域全体の漁業販売額は、16,074百万円であり、平成20年と比較すると約15.3%増加しています。沿岸4市町別では、香美町が5,100百万円と最も多く、次いで、岩美町(4,861百万円)、新温泉町(4,423百万円)となっています。
- 経営体数は、近年減少傾向にあります。
- 平成30年の圏域全体の経営体数は、481経営体であり、平成20年と比較すると約27.2%減少しています。沿岸4市町別では、鳥取市が129経営体と最も多く、次いで、岩美町(124経営体)、香美町(117経営体)となっています。

構成市町(沿岸4市町)漁業販売額および経営体数の推移



出所：地域経済分析システム (RESAS)

## 1-2 産業構造

### 1-2-3 製造業(二次産業) ①圏域の製造業の業種別基礎データ

- 平成30年の業種別事業所数は、食料品が108事業所と最も多く、全体の24.2%を占めており、次いで、電気機械(46事業所)、繊維(37事業所)となっています。平成26年と比較すると、食料品は7事業所減少し、電気機械は1事業所減少、繊維は6事業所減少しています。
- 平成30年の業種別従業者数は、電子部品が3,075人と最も多く、全体の19.2%を占めており、次いで、食料品(2,601人)、電気機械(2,483人)となっています。平成26年と比較すると、電子部品は521人増加し、食料品は183人増加、電気機械は57人減少しています。
- 平成30年の製造品出荷額等は、電子部品が72,646百万円と最も多く、次いで電気機械が62,869百万円、食料品が41,569百万円となっています。
- 平成30年の付加価値額は、電子部品が25,644百万円と最も多く、次いで食料品が23,639百万円、電気機械が14,462百万円となっています。
- 製造品出荷額及び付加価値額ともに平成26年と比較すると電子部品の額は増加していますが構成比は減少しています。

#### 圏域の製造業の業種別基礎データ(事業所数・従業者数・製造品出荷額等・付加価値額)

	事業所数				従業者数				製造品出荷額等				付加価値額			
	平成26年		平成30年		平成26年		平成30年		平成26年		平成30年		平成26年		平成30年	
	(事業所)	(構成比)	(事業所)	(構成比)	(人)	(構成比)	(人)	(構成比)	(百万円)	(構成比)	(百万円)	(構成比)	(百万円)	(構成比)	(百万円)	(構成比)
圏域計	461	100.0	447	100.0	14,228	100.0	16,016	100.0	224,496	100.0	310,388	100.0	76,415	100.0	123,773	100.0
電子部品	34	7.4	31	6.9	2,554	18.0	3,075	19.2	66,017	29.4	72,646	23.4	22,455	29.4	25,644	20.7
電気機械	47	10.2	46	10.3	2,540	17.9	2,483	15.5	50,507	22.5	62,869	20.3	11,334	14.8	14,462	11.7
食料品	115	24.9	108	24.2	2,416	17.0	2,601	16.2	28,182	12.6	41,569	13.4	10,828	14.2	23,639	19.1
パルプ・紙	22	4.8	20	4.5	659	4.6	635	4.0	21,589	9.6	26,339	8.5	5,632	7.4	9,152	7.4
金属製品	38	8.2	34	7.6	1,016	7.1	1,039	6.5	13,945	6.2	18,700	6.0	5,666	7.4	9,920	8.0
生産用機械	25	5.4	32	7.2	760	5.3	919	5.7	12,138	5.4	18,289	5.9	4,584	6.0	6,586	5.3
繊維	43	9.3	37	8.3	1,297	9.1	1,563	9.8	7,430	3.3	8,708	2.8	4,327	5.7	6,287	5.1
輸送用機械	13	2.8	14	3.1	296	2.1	457	2.9	4,903	2.2	9,353	3.0	1,503	2.0	3,471	2.8
飲料・たばこ	9	2.0	15	3.4	248	1.7	401	2.5	4,092	1.8	7,597	2.4	2,285	3.0	4,175	3.4
印刷	18	3.9	15	3.4	346	2.4	265	1.7	4,067	1.8	5,581	1.8	1,911	2.5	4,624	3.7
プラスチック	15	3.3	18	4.0	271	1.9	459	2.9	3,757	1.7	5,686	1.8	1,752	2.3	3,858	3.1
窯業・土石	19	4.1	18	4.0	259	1.8	278	1.7	3,340	1.5	2,785	0.9	1,144	1.5	2,492	2.0
ゴム製品	5	1.1	5	1.1	174	1.2	205	1.3	1,392	0.6	1,764	0.6	826	1.1	1,261	1.0
その他	14	3.0	13	2.9	173	1.2	150	0.9	1,085	0.5	1,254	0.4	636	0.8	1,088	0.9
はん用機械	9	2.0	5	1.1	65	0.5	40	0.2	758	0.3	296	0.1	298	0.4	285	0.2
家具	8	1.7	9	2.0	91	0.6	91	0.6	556	0.2	889	0.3	278	0.4	604	0.5
木材	12	2.6	12	2.7	160	1.1	172	1.1	516	0.2	480	0.2	250	0.3	460	0.4
業務用機械	9	2.0	5	1.1	561	3.9	480	3.0	222	0.1	1,992	0.6	704	0.9	1,033	0.8
化学	1	0.2	2	0.4	19	0.1	147	0.9	-	-	0	0.0	-	-	0	0.0
石油・石炭	2	0.4	2	0.4	11	0.1	12	0.1	-	-	0	0.0	-	-	0	0.0
情報通信機	3	0.7	6	1.3	312	2.2	544	3.4	-	-	23,592	7.6	-	-	4,732	3.8

注:「-」は事実のないもの・該当数字のないものを示す。  
表の項目は全項目の中から一部抜粋されたものである。

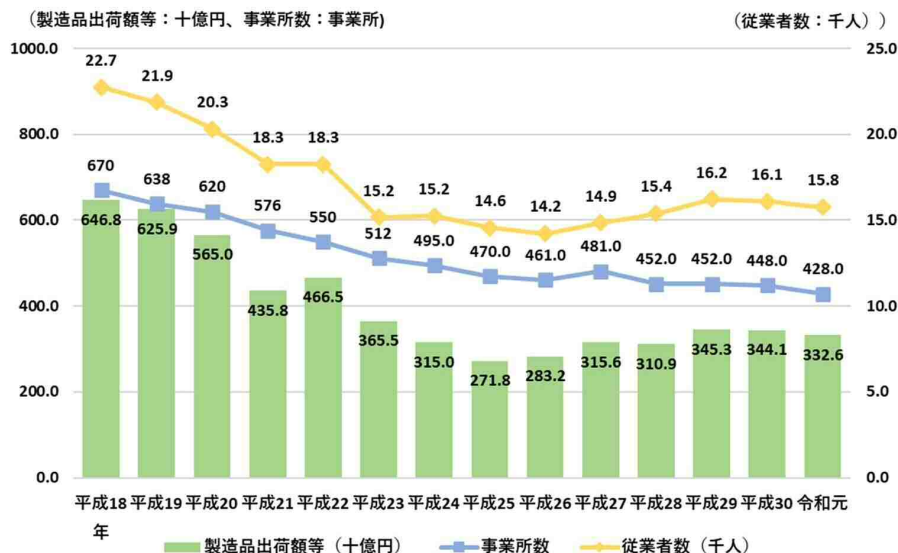
出所:経済産業省「工業統計調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-3 製造業(二次産業)②圏域の製造業の事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

- 令和元年の従業者数は、15.8千人であり、平成18年と比較すると約30%減少しています。
- 令和元年の事業所数は、428事業所であり、平成18年と比較すると約37%減少しています。
- 令和元年の製造品出荷額等は、332.6十億円であり、と比較すると約49%減少しています。

#### 圏域の製造業の事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移



出所:経済産業省「工業統計調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-3 製造業(二次産業) ③圏域の製造業の構成市町別基礎データ

- 圏域全体の製造業の従業者数、製造品出荷額等、付加価値額は、平成26年と比較するといずれも増加している一方、事業所数は減少しています。
- 令和元年の事業所数は、鳥取市が266事業所と最も多く、圏域全体の62.1%を占めています。次いで香美町(68事業所)、新温泉町(23事業所)となっています。
- 令和元年の従業者数は、鳥取市が11,834人と最も多く、圏域全体の75.1%を占めています。次いで香美町(1,315人)、岩美町(786人)となっています。
- 令和元年の製造品出荷額等は、鳥取市が27,066,499万円と最も多く、圏域全体の81.4%を占めています。次いで香美町(2,238,412万円)、新温泉町(1,360,677万円)となっています。
- 令和元年の付加価値額は、鳥取市が9,329,723万円と最も多く、圏域全体の78.4%を占めています。次いで香美町(782,466万円)、新温泉町(649,969万円)となっています。

圏域の製造業の構成市町別基礎データ(事業所数・従業者数・製造品出荷額等・付加価値額)

	事業所数				従業者数				製造品出荷額等				付加価値額			
	平成26年		令和元年		平成26年		令和元年		平成26年		令和元年		平成26年		令和元年	
	(事業所)	(構成比)	(事業所)	(構成比)	(人)	(構成比)	(人)	(構成比)	(万円)	(構成比)	(万円)	(構成比)	(万円)	(構成比)	(万円)	(構成比)
鳥取市	271	58.8	266	62.1	10,089	70.9	11,834	75.1	23,194,483	81.9	27,066,499	81.4	7,170,837	77.3	9,329,723	78.4
岩美町	25	5.4	17	4.0	939	6.6	786	5.0	1,231,965	4.4	1,242,355	3.7	532,754	5.7	526,934	4.4
若桜町	13	2.8	13	3.0	233	1.6	230	1.5	260,652	0.9	292,520	0.9	121,085	1.3	147,068	1.2
智頭町	21	4.6	19	4.4	522	3.7	535	3.4	486,017	1.7	614,074	1.8	189,628	2.0	290,294	2.4
八頭町	22	4.8	22	5.1	397	2.8	484	3.1	402,630	1.4	449,596	1.4	159,871	1.7	170,449	1.4
香美町	83	18.0	68	15.9	1,457	10.2	1,315	8.3	1,897,610	6.7	2,238,412	6.7	755,832	8.1	782,466	6.6
新温泉町	26	5.6	23	5.4	591	4.2	575	3.6	844,361	3.0	1,360,677	4.1	350,836	3.8	649,969	5.5
圏域計	461	100.0	428	100.0	14,228	100.0	15,759	100.0	28,317,718	100.0	33,264,133	100.0	9,280,843	100.0	11,896,903	100.0

出所：経済産業省「工業統計調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-4 商業・観光業(三次産業) ①商業(小売業)の構成市町別基礎データ

- 圏域全体の商業(小売業)の事業所数、従業者数、年間商品販売額、売場面積は、平成26年と比較するといずれも増加しています。また、いずれも鳥取市の構成比が増加しています。
- 平成28年の事業所数は、鳥取市が1,452事業所と最も多く、圏域全体の68.4%を占めています。次いで香美町(227事業所)、新温泉町(150事業所)となっています。
- 平成28年の従業者数は、鳥取市が10,365人と最も多く、圏域全体の79.1%を占めています。次いで香美町(830人)、新温泉町(741人)となっています。
- 平成28年の年間商品販売額は、鳥取市が217,030百万円と最も多く、圏域全体の85.8%を占めています。次いで香美町(13,803百万円)、新温泉町(10,595百万円)となっています。
- 平成28年の売場面積は、鳥取市が288,807㎡と最も大きく、圏域全体の87.0%を占めています。次いで香美町(12,047㎡)、新温泉町(9,433㎡)となっています。

商業(小売業)の構成市町別基礎データ(事業所数・従業者数・年間商品販売額・売場面積)

地域	事業所数				従業者数				年間商品販売額				売場面積			
	平成26年		平成28年		平成26年		平成28年		平成26年		平成28年		平成26年		平成28年	
	(事業所)	(構成比)	(事業所)	(構成比)	(人)	(構成比)	(人)	(構成比)	(百万円)	(構成比)	(百万円)	(構成比)	(㎡)	(構成比)	(㎡)	(構成比)
鳥取市	1,383	66.4%	1,452	68.4%	9,588	77.3%	10,365	79.1%	189,174	83.4%	217,030	85.8%	254,956	80.5%	288,807	87.0%
岩美町	71	3.4%	70	3.3%	334	2.7%	333	2.5%	5,417	2.4%	6,158	2.4%	9,326	2.9%	7,114	2.1%
若桜町	40	1.9%	45	2.1%	135	1.1%	118	0.9%	x	-	x	0.0%	1,179	0.4%	332	0.1%
智頭町	66	3.2%	67	3.2%	282	2.3%	278	2.1%	3,614	1.6%	x	0.0%	5,333	1.7%	4,828	1.5%
八頭町	114	5.5%	111	5.2%	473	3.8%	432	3.3%	5,745	2.5%	5,506	2.2%	12,552	4.0%	9,246	2.8%
香美町	248	11.9%	227	10.7%	831	6.7%	830	6.3%	13,228	5.8%	13,803	5.5%	16,845	5.3%	12,047	3.6%
新温泉町	161	7.7%	150	7.1%	757	6.1%	741	5.7%	9,683	4.3%	10,595	4.2%	16,608	5.2%	9,433	2.8%
圏域	2,083	100.0%	2,122	100.0%	12,400	100.0%	13,097	100.0%	226,861	100.0%	253,092	100.0%	316,799	100.0%	331,807	100.0%

注：表中の「×(ばつ)」は秘匿を表しています。

出所：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 1-2 産業構造

### 1-2-4 商業・観光業(三次産業) ②圏域内の主要商業施設

■ 圏域内の主要商業施設は4店舗あり、いずれも鳥取市に立地しています。

圏域内の主要商業施設

区分	所在地	名称
百貨店	鳥取市	鳥取大丸
主要ショッピングセンター (店舗面積10,000㎡以上)	鳥取市	トスク本店
		イオンモール鳥取北
		トリニティモール

出所：一般社団法人日本百貨店協会ホームページ・一般社団法人日本ショッピングセンター協会SCデータ

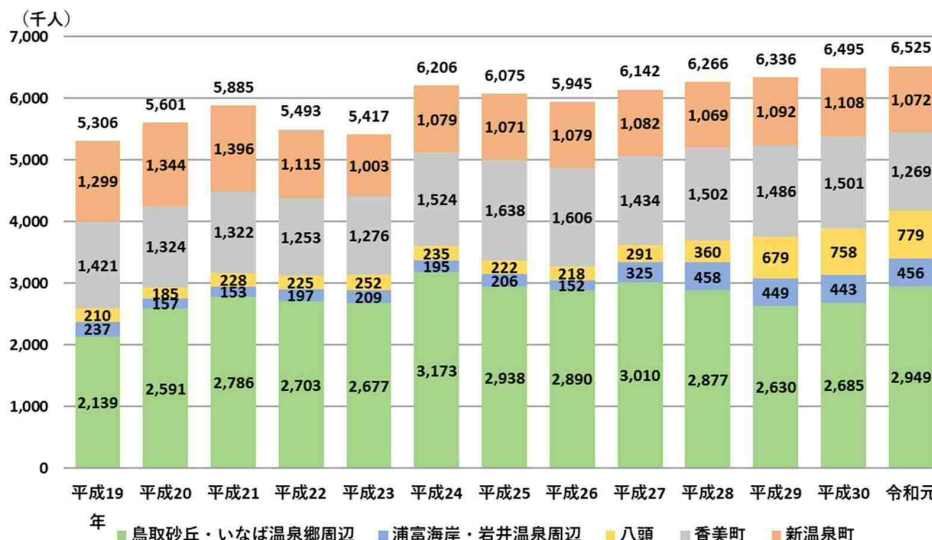
## 1-2 産業構造

### 1-2-4 商業・観光業(三次産業) ③圏域内の観光入込客数

■ 圏域全体の観光入込客数は、増加傾向で推移しています。

■ 令和元年の観光地別の観光入込客数内では、鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺が2,949千人と最も多く、次いで香美町(1,269千人)、新温泉町(1,072千人)となっています。

圏域内の観光入込客数

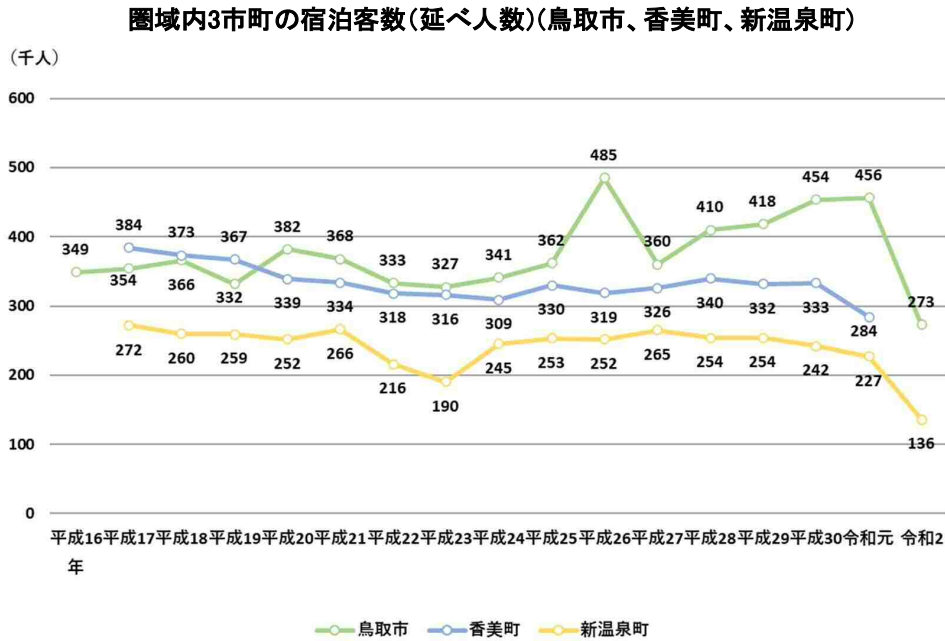


出所：鳥取県観光客入込動態調査、兵庫県観光客動態調査報告書

## 1-2 産業構造

### 1-2-4 商業・観光業(三次産業)④圏域内3市町の宿泊客数(延べ人数)(鳥取市、香美町、新温泉町)

- 宿泊者数(延べ人数)は平成19年を除き、鳥取市が最も多く、次いで香美町、新温泉町となっています。
- 近年では、鳥取市は増加傾向、香美町と新温泉町は減少傾向にあります。



注: 香美町の令和2年はデータなし  
出所: 鳥取市「市政の概要」、香美町統計要覧、新温泉町統計要覧

## 1-3 各種都市機能の状況

### 1-3-1 教育 ①圏域内の大学(大学院)の学生数

- 圏域内には大学が2校あり、いずれも鳥取市に立地しています。
- 令和3年の鳥取大学の学生数は、大学では5,154人、大学院では650人であり、いずれも平成27年と比較すると減少しています。
- 令和3年の公立鳥取環境大学の学生数は、大学では1,136人、大学院では30人であり、大学院の学生数は平成27年と比べ増加しています。

**圏域内の大学(大学院)の学生数(鳥取大学、公立鳥取環境大学)**

分類	学校名	主な所在地	学生数				
			大学		大学院		
			平成27年	令和3年	平成27年	令和3年	
大学	国立	鳥取大学	鳥取市	5,258	5,154	1,005	650
	公立	公立鳥取環境大学	鳥取市	1,230	1,136	7	30
合計			6,488	6,290	1,012	680	

出所: 各学校ホームページ

### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-1 教育 ②構成市町の専修学校数と生徒数

■ 圏域内には専修学校が10校あり、すべて鳥取市に立地しています。

#### 構成市町の専修学校数と生徒数

令和2年

	鳥取市	岩美町	若桜町	智頭町	八頭町	香美町	新温泉町	圏域
専修学校(校)	10	0	0	0	0	0	0	10
生徒数(人)	1,023	0	0	0	0	0	0	1,023

出所: 文部科学省「学校基本調査」

### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-1 教育 ③圏域内の高等学校(鳥取県側・兵庫県側・定時制・通信制)

■ 圏域内には高等学校が16校立地しています。

#### 圏域内の高等学校(鳥取県側・兵庫県側・定時制・通信制)

【鳥取県側】

	名称	学科	所在市町
県立	鳥取東高等学校	普通、理数	鳥取市
県立	鳥取西高等学校	普通	鳥取市
県立	鳥取商業高等学校	商業	鳥取市
県立	鳥取工業高等学校	工業	鳥取市
県立	鳥取湖陵高等学校	農業、工業、家庭、情報	鳥取市
県立	青谷高等学校	総合	鳥取市
県立	岩美高等学校	普通	岩美郡岩美町
県立	八頭高等学校	普通	八頭郡八頭町
県立	智頭農林高等学校	農業	八頭郡智頭町
私立	鳥取敬愛高等学校	普通、生活教養	鳥取市
私立	鳥取城北高等学校	普通	鳥取市
私立	青翔開智高等学校	普通	鳥取市

【兵庫県側】

	名称	学科	所在市町
県立	香住高等学校	普通、海洋科学	美方郡香美町
県立	村岡高等学校	普通	美方郡香美町
県立	浜坂高等学校	普通	美方郡新温泉町

【定時制】

	名称	学科	所在市町
県立	鳥取緑風高等学校	総合	鳥取市

【通信制】

	名称	学科	所在市町
県立	鳥取緑風高等学校	普通	鳥取市

出所: 鳥取県ホームページ、兵庫県ホームページ

## 1-3 各種都市機能の状況

### 1-3-2 交通 ①公共交通一覧

- 圏域を通る鉄道は、JR西日本(山陰本線、因美線)、若桜鉄道(若桜線)、智頭急行(智頭線)の3事業者4路線で運行されています。
- 圏域を通る路線バスは、日ノ丸自動車株式会社、日本交通株式会社、全但バス株式会社の3事業者により運行されています。
- 圏域内にはインターチェンジが21箇所あります。
- 圏域内には鳥取空港が立地しています。
- 圏域内には鳥取港、田後港の2つの港湾施設が立地しています。

#### 公共交通一覧

鉄道	JR山陰本線、JR因美線、若桜鉄道(若桜線)、智頭急行(智頭線)
路線バス	日本交通株式会社、日ノ丸自動車株式会社、全但バス株式会社
インターチェンジ	鳥取IC、鳥取南IC、鳥取西IC、吉岡温泉IC、瑞穂宝木IC、浜村鹿野温泉IC、青谷IC、河原IC、用瀬IC、福部IC、智頭IC、智頭南IC、大谷IC、岩美IC、浦富IC、東浜IC、居組IC、新温泉浜坂IC、久斗IC、余部IC、香住IC、佐津IC
空港	鳥取空港
港湾施設	鳥取港、田後港

出所：鳥取県東部地域公共交通網形成計画、香美町・新温泉町ホームページ、NEXCO西日本「高速道路ガイドマップ」

## 1-3 各種都市機能の状況

### 1-3-2 交通 ②鉄道の1日平均乗車人数(路線別)

- 圏域における鉄道の1日平均乗車人数は、JR西日本山陰本線が18,959人と最も多く、次いでJR西日本因美線(3,202人)、智頭急行智頭線(2,369人)となっています。
- 智頭急行智頭線を除く路線は定期乗車人数が定期外乗車人数を上回っています。一方、智頭急行智頭線では定期外乗車人数が定期乗車人数の約120倍と大きく上回っています。

#### 鉄道の1日平均乗車人数(路線別)(令和元年)

運行会社・路線名		1日平均乗車人員(人)		
		定期外	定期	合計
JR西日本	山陰本線	6,562	12,397	18,959
	因美線	1,357	1,845	3,202
若桜鉄道	若桜線	249	721	970
智頭急行	智頭線	2,349	19	2,369

注：小数点以下は四捨五入されているため、定期外的人数+定期の人数が合計と一致しないことがあります。

出所：鳥取県統計年鑑

### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-2 交通 ③路線バスの輸送人数(路線別)

■ 圏域における路線バスの輸送人数(令和2年)は、合計で約2,485千人となっています。

路線バスの輸送人数(路線別)(令和2年)

	輸送人員(千人)
日本交通株式会社	1,292
日ノ丸自動車株式会社	1,193
合計	2,485

注:バス利用者数は、一般路線と100円循環バスの合計(高速乗合・定期観光バス、ループ麒麟獅子は含まない)

出所:鳥取市「2021市勢要覧」

### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-2 交通 ④タクシーの事業者・営業拠点名・営業拠点所在地・保有車両台数

- 圏域内にはタクシーの営業拠点が27箇所あります。
- 圏域内では、鳥取県側で271台、兵庫県側で15台のタクシーを保有しています。

タクシーの事業者・営業拠点名・営業拠点所在地・保有車両台数

鳥取交通圏	日本交通(株)	鳥取市	旭タクシー(株)末恒	鳥取市	271台
	日本交通(株)湖山(営)	鳥取市	いなばタクシー(株)鳥取	鳥取市	
	日ノ丸ハイヤー(株)	鳥取市	(株)商栄陸運	鳥取市	
	日ノ丸ハイヤー(株)吉岡	鳥取市	(有)ニュー青谷タクシー	鳥取市	
	鳥取自動車(株)	鳥取市	いなばタクシー(株)	鳥取市	
	(有)サービスタクシー	鳥取市	日本交通(株)浜村	鳥取市	
	毎日タクシー(株)	鳥取市	日本交通(株)岩美	岩美町	
	観光タクシー(有)	鳥取市	観光タクシー(有)岩美	岩美町	
	東部タクシー(株)	鳥取市	旭タクシー(株)岩美	岩美町	
	大森タクシー(株)	鳥取市	日本海タクシー	岩美町	
旭タクシー(株)	鳥取市				
八頭郡	鳥取自動車(株)智頭	智頭町	鳥取自動車(株)郡家	八頭町	
但馬交通圏	日本交通(株)香住	香美町			15台
	浜坂タクシー(有)	新温泉町	(有)温泉タクシー	新温泉町	
	全但タクシー(株)湯村	新温泉町			

出所:鳥取市調べ



### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-2 交通 ④圏域内の高規格幹線道路・地域高規格道路及び国道の整備状況

- 圏域内の高規格幹線道路は、鳥取自動車道です。
- 圏域内の地域高規格道路は、鳥取環状道路と山陰近畿自動車道です。
- 圏域内の国道は9号線、482号線が令和元年に整備されました。

#### 圏域内の高規格幹線道路・地域高規格道路及び国道の整備状況

高規格幹線道路

	区間	供用年
鳥取自動車道	鳥取西道路	令和元年
	鳥取IC～河原IC	平成22年
	河原IC～智頭IC	平成21年
	智頭IC～智頭南IC	平成20年

地域高規格道路

	区間	供用年	指定年
鳥取環状道路		平成21年	平成6年12月指定
山陰近畿自動車道	駟馳山バイパス	平成26年	平成6年12月指定
	岩美IC～浦富IC	平成28年	
	東浜IC～居組IC	平成20年	

道路名	区間	開通年
国道482号線	鳥取・兵庫県境	令和元年5月25日

### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-3 公共施設 ①構成市町の文化施設数・スポーツ施設数

- 圏域内には文化施設は36施設立地しています。市町別では鳥取市が11施設と最も多く、次いで岩美町が10施設、新温泉町が6施設となっています。
- 圏域内にはスポーツ施設は164施設立地しています。市町別では鳥取市が100施設と全体の約6割を占めており最も多く、次いで新温泉町が19施設、八頭町が13施設となっています。

#### 構成市町の文化施設数・スポーツ施設数

単位: 件

	鳥取市	岩美町	若桜町	智頭町	八頭町	香美町	新温泉町	合計
文化施設	11	10	3	1	1	4	6	36
スポーツ施設	100	12	5	3	13	12	19	164

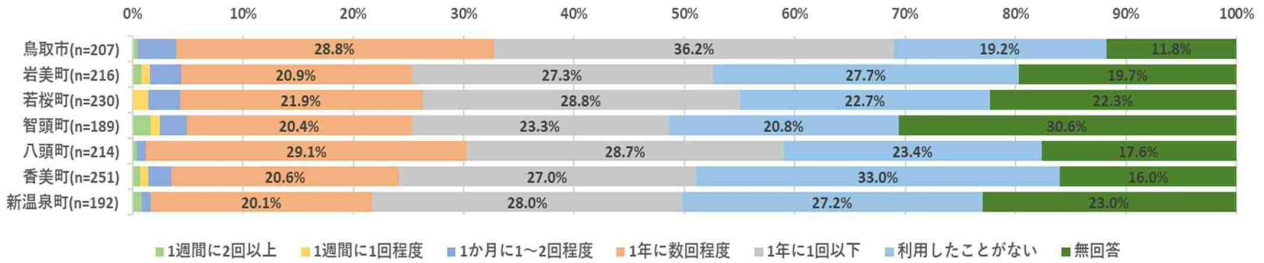
### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-3 公共施設 ②構成市町別圏域住民の公共施設の利用状況(文化施設)

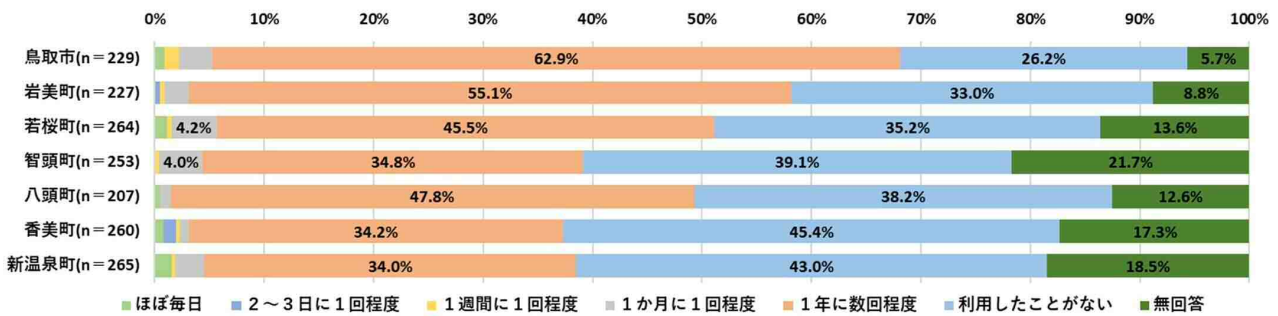
■ 前回調査と同様に1年に数回程度文化施設を利用している人の割合が多くなっています。

構成市町別圏域住民の公共施設の利用状況(文化施設)

平成28年度調査



令和3年度調査



出所: 圏域住民アンケート結果(令和3年実施)

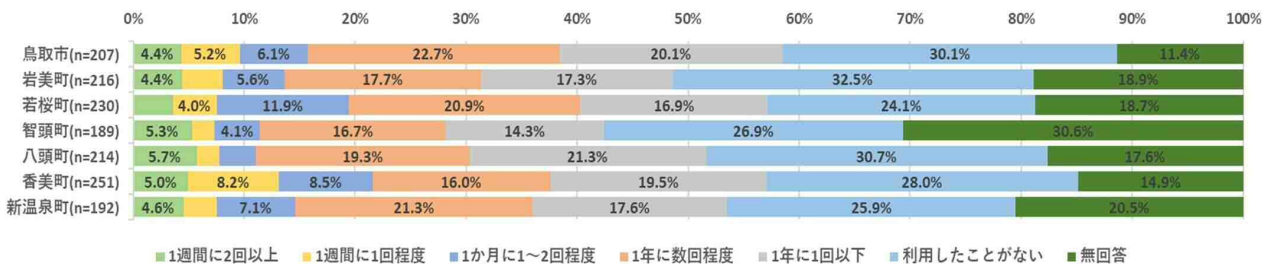
### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-3 公共施設 ③構成市町別圏域住民の公共施設の利用状況(体育施設)

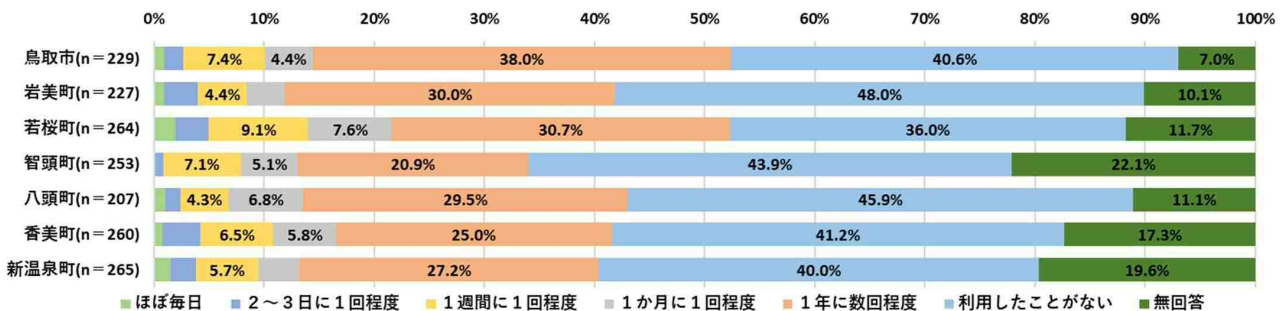
■ 前回調査と同様に1年に数回程度体育施設を利用している人の割合が多くなっています。

構成市町別圏域住民の公共施設の利用状況(体育施設)

平成28年度調査



令和3年度調査



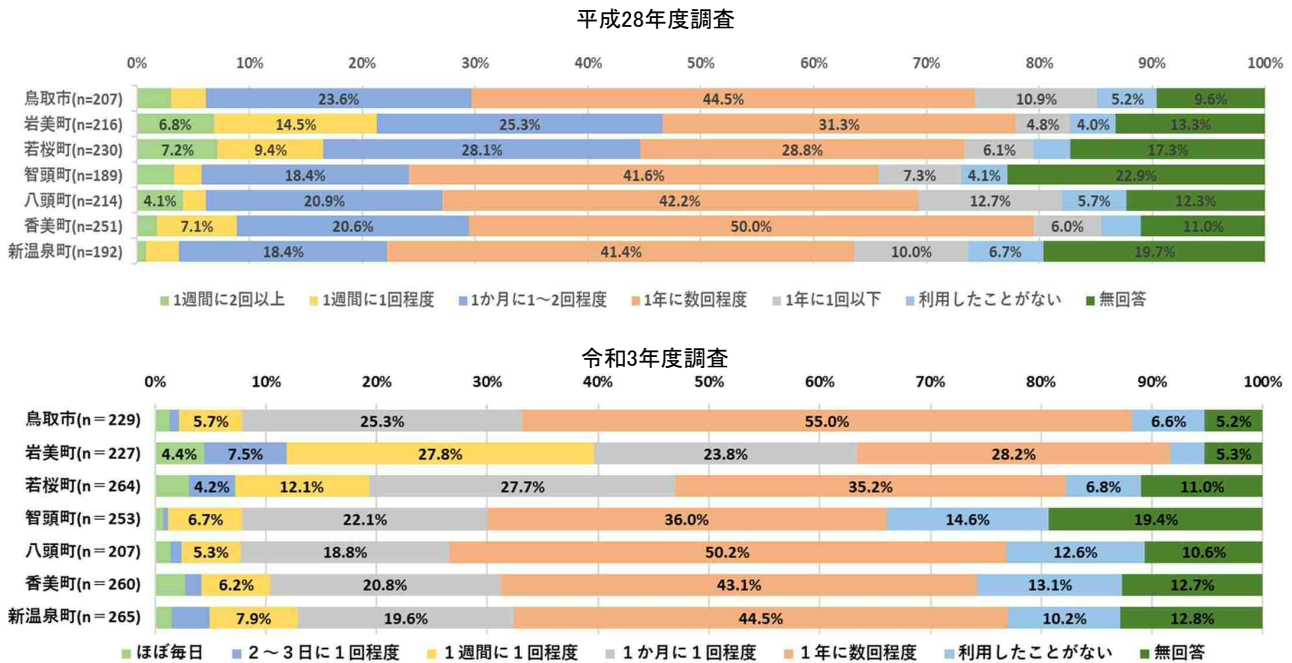
出所: 圏域住民アンケート結果(令和3年実施)

### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-3 公共施設 ④構成市町の圏域住民の公共施設の利用状況(観光施設)

- 前回調査と同様に1年に数回程度観光施設を利用している人の割合が多くなっています。
- 岩美町は1週間に1回程度観光施設を利用している割合が増加しています。

構成市町の圏域住民の公共施設の利用状況(観光施設)



### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-3 公共施設 ⑤構成市町の施設(公立図書館)の名称と蔵書数及び貸出数

- 圏域内には公立図書館は12施設立地しています。市町別では鳥取市が4施設と最も多く、次いで八頭町(3施設)となっています。その他4町はそれぞれ1施設を有しています。
- 公立図書館の蔵書数は圏域全体で約226万冊となっています。このうち約8割を鳥取市に立地する図書館が有しています。
- 公立図書館の貸出数は圏域全体で約156万冊となっています。このうち約8割を鳥取市に立地する図書館が占めています。

構成市町の施設(公立図書館)の名称と蔵書数及び貸出数

市町村名	施設名称	蔵書数(冊)	貸出数(冊)
鳥取市	鳥取県立図書館	1,210,987	505,035
	鳥取市立中央図書館	445,314	616,525
	鳥取市立用瀬図書館	59,786	36,844
	鳥取市立気高図書館	60,351	64,753
岩美町	岩美町立図書館	56,519	79,479
若桜町	若桜町立わかさ生涯学習情報館	58,960	21,212
智頭町	ちえの森ちづ図書館	55,445	46,569
八頭町	八頭町立郡家図書館	44,678	53,183
	八頭町立船岡図書館	32,283	24,173
	八頭町立八東図書館	47,027	21,063
香美町	香美町立公民館図書室	77,565	24,881
新温泉町	加藤文太郎記念図書館	106,286	69,576
圏域		2,255,201	1,563,293

出所:鳥取県「令和3年度鳥取県立図書館のすがた」、各市町調べ

### 1-3 各種都市機能の状況

#### 1-3-4 行政・その他 ①圏域内に立地する国の行政機関

■ 圏域内における国の行政機関は、鳥取市に集中して立地しています。

圏域内に立地する国の行政機関

府省名	機関名	所在地
警察庁	中国四国管区警察鳥取県情報通信部	鳥取市
総務省	中国四国管区地域総括評価官(在鳥取行政監視行政相談センター)	鳥取市
	鳥取地方務局	鳥取市
法務省	鳥取保護観察所	鳥取市
	鳥取刑務所	鳥取市
	広島少年鑑別所鳥取少年鑑別支所	鳥取市
検察庁	鳥取地方検察庁	鳥取市
	鳥取地方検察庁鳥取区検察庁	鳥取市
財務省	中国財務局鳥取財務事務所	鳥取市
	神戸税関境脇支署鳥取監視署	鳥取市
国税庁	広島国税局鳥取税務署	鳥取市
	中国四国厚生局鳥取事務所	鳥取市
	鳥取労働局	鳥取市
厚生労働省	鳥取労働局鳥取労働基準監督署	鳥取市
	鳥取公共職業安定所	鳥取市
	鳥取県ふるさとハローワーク八頭	八頭町
	兵庫労働局豊岡公共職業安定所香住出張所	香美町
農林水産省	中国四国農政局鳥取支庁(鳥取県担当)	鳥取市
	近畿中国森林管理局鳥取森林管理署	鳥取市
林野庁	近畿中国森林管理局鳥取森林管理署鳥取森林事務所	鳥取市
	近畿中国森林管理局鳥取森林管理署智頭森林事務所	智頭町
	近畿中国森林管理局兵庫森林管理署浜坂森林事務所	新温泉町

府省名	機関名	所在地
	中国地方整備局鳥取河川国道事務所	鳥取市
	中国地方整備局鳥取河川国道事務所千代水出張所	鳥取市
	中国地方整備局鳥取河川国道事務所河原出張所	鳥取市
	中国地方整備局鳥取河川国道事務所殿ダム管理支所	鳥取市
国土交通省	中国地方整備局鳥取河川国道事務所鳥取国道維持出張所	鳥取市
	中国地方整備局鳥取河川国道事務所鳥取自動車道出張所	鳥取市
	中国地方整備局鳥取河川国道事務所郡家国道維持出張所	八頭町
	中国運輸局鳥取運輸支局	鳥取市
	近畿地方整備局港湾空港部舞鶴港湾事務所柴山港出張所	香美町
気象庁	大阪管区気象台鳥取地方気象台	鳥取市
海上保安庁	第八管区海上保安本部境海上保安部鳥取海上保安署	鳥取市
	第八管区海上保安本部舞鶴海上保安部香住海上保安署	香美町
環境省	近畿地方環境事務所蒲富自然保護官事務所	岩美町
防衛省	自衛隊鳥取地方協力本部	鳥取市
	鳥取家庭裁判所	鳥取市
	鳥取簡易裁判所	鳥取市
裁判所	鳥取地方裁判所鳥取検察審査会	鳥取市
	神戸家庭裁判所浜坂出張所	新温泉町
	神戸地方裁判所浜坂簡易裁判所	新温泉町

出所：総務省ホームページ

### 1-3 各種都市機能の状況

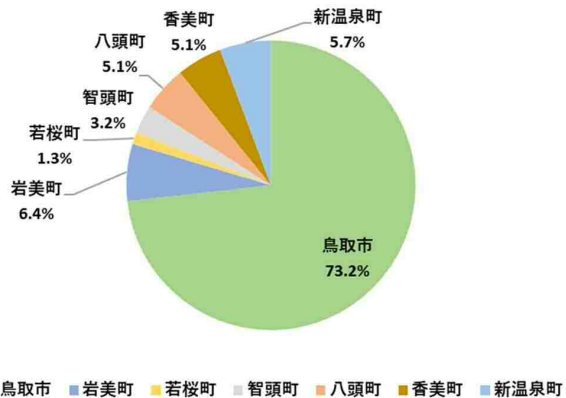
#### 1-3-4 行政・その他 ②構成市町のNPO法人数

■ 構成市町のNPO法人数は鳥取市が115法人と最も多く、圏域全体の約7割占めています。次いで岩美町(10法人)、新温泉町(9法人)の順に多くなっています。

構成市町のNPO法人数

単位：法人

	NPO法人数
鳥取市	115
岩美町	10
若桜町	2
智頭町	5
八頭町	8
香美町	8
新温泉町	9
合計	157



出所：内閣府「全国NPO法人情報検索システム」(2021年9月取得)

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ①構成市町別の医療施設数・医師数・歯科医師数・薬剤師数、人口千人あたりの人数

- 圏域には16 病院(一般病院)、213 診療所(一般診療所)があり、そのうち10病院・164 診療所が鳥取市に所在しています。
- 人口千人あたりの医師数は、鳥取市は2.77 人と圏域内で最も多く、次いで智頭町が1.54人、岩美町が1.13人となっています。
- 人口千人あたり歯科医師数が若桜町が0.92人と最も多く、次いで鳥取市が0.70人、八頭町が0.59人となっています。
- 人口千人あたり薬剤師数は鳥取市が2.18人と最も多く、次いで若桜町が1.22人、智頭町が1.12人となっています。

構成市町別の医療施設数(令和元年)・医師数・歯科医師数・薬剤師数、人口千人あたりの人数(平成30年)

二次保健医療圏	市町	医療施設			医師		歯科医師		薬剤師	
		一般病院数(施設)	一般診療所数(施設)	人口千人あたり医療施設数	医師数(人)	人口千人あたり医師数	歯科医師数(人)	人口千人あたり歯科医師数	薬剤師数(人)	人口千人あたり薬剤師数
東部保健医療圏	鳥取市	10	164	0.85	536	2.77	136	0.70	423	2.18
	岩美町	1	5	0.44	13	1.13	4	0.35	6	0.52
	若桜町	-	3	0.92	3	0.92	3	0.92	4	1.22
	智頭町	1	4	0.56	11	1.54	4	0.56	8	1.12
	八頭町	-	13	0.77	14	0.82	10	0.59	13	0.77
但馬保健医療圏	香美町	2	10	0.55	18	1.00	10	0.55	15	0.83
圏域全体	新温泉町	2	14	0.94	17	1.15	7	0.47	14	0.94
		16	213	0.80	612	2.31	174	0.66	483	1.82

出所:厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」・厚生労働省「医療施設調査」

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ②圏域内の主な拠点病院・機能別病床数

- 圏域内の主な拠点病院は、鳥取市に集中して立地しています。

圏域内の主な拠点病院・機能別病床数

分類	病院名	所在地
救急救命センター	鳥取県立中央病院	鳥取市
	鳥取市立病院	鳥取市
二次救急医療機関	鳥取赤十字病院	鳥取市
	鳥取生協病院	鳥取市
	岩美病院	岩美町
	智頭病院	智頭町
	鳥取県立中央病院	鳥取市
地域周産期母子医療センター	鳥取県立中央病院(基幹災害拠点病院)	鳥取市
	鳥取赤十字病院(地域災害拠点病院)	鳥取市
災害拠点病院	鳥取県立中央病院	鳥取市
	鳥取市立病院	鳥取市
へき地医療拠点病院	智頭病院	智頭町
	鳥取県立中央病院	鳥取市
救急告示病院	鳥取赤十字病院	鳥取市
	鳥取市立病院	鳥取市
	鳥取生協病院	鳥取市
	岩美病院	岩美町
	智頭病院	智頭町
	公立香住病院	香美町
	公立浜坂病院	新温泉町

	一般病床	療養病床	結核病床	感染症病床	精神病床	合計
鳥取県立中央病院	504	0	10	4	0	518
鳥取市立病院	340	0	0	0	0	340
鳥取赤十字病院	350	0	0	0	0	350
鳥取生協病院	260	0	0	0	0	260
岩美病院	60	50	0	0	0	110
智頭病院	52	47	0	0	0	99

単位:床

出所:厚生労働省ホームページ、鳥取県ホームページ、兵庫県ホームページ一般社団法人日本救急医学会ホームページ、とっとり医療情報ネット、各病院ホームページ

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ③圏域内の救急搬送件数(事故種類別)

- 圏域内の救急搬送件数は急病が8,083件と最も多く、圏域全体の搬送件数の約7割を占めています。次いで一般負傷(1,789件)、その他(1,257件)の順に多くなっています。

圏域内の救急搬送件数(事故種類別)(平成30年)

単位：件

火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
13	0	13	750	116	128	1,789	20	64	8,083	1,257	12,233

出所：鳥取県消防防災年報、兵庫県消防防災年報

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ④圏域内の高額医療機器の配置状況

- CTの設置台数は鳥取市が15台と最も多く、圏域全体の約68%を占めています。CTの設置医療機関数は鳥取市が9機関と最も多く、市内には1機関あたり1.67台設置されています。
- MRIは鳥取市に8台、岩美町に1台設置されています。MRIの設置医療機関数は鳥取市が6機関と最も多く、1機関あたり1.3台設置されています。

圏域内の高額医療機器の配置状況(設置台数及び設置医療機関数)

単位：台

		鳥取市	岩美町	若桜町	智頭町	八頭町	香美町	新温泉町	合計
台数	CT	15	1	0	1	0	3	2	22
	MRI	8	1	0	0	0	0	0	9
	合計	23	2	0	1	0	3	2	31
医療機関数	CT	9	1	0	1	0	3	2	16
	MRI	6	1	0	0	0	0	0	7
	合計	15	2	0	1	0	3	2	23

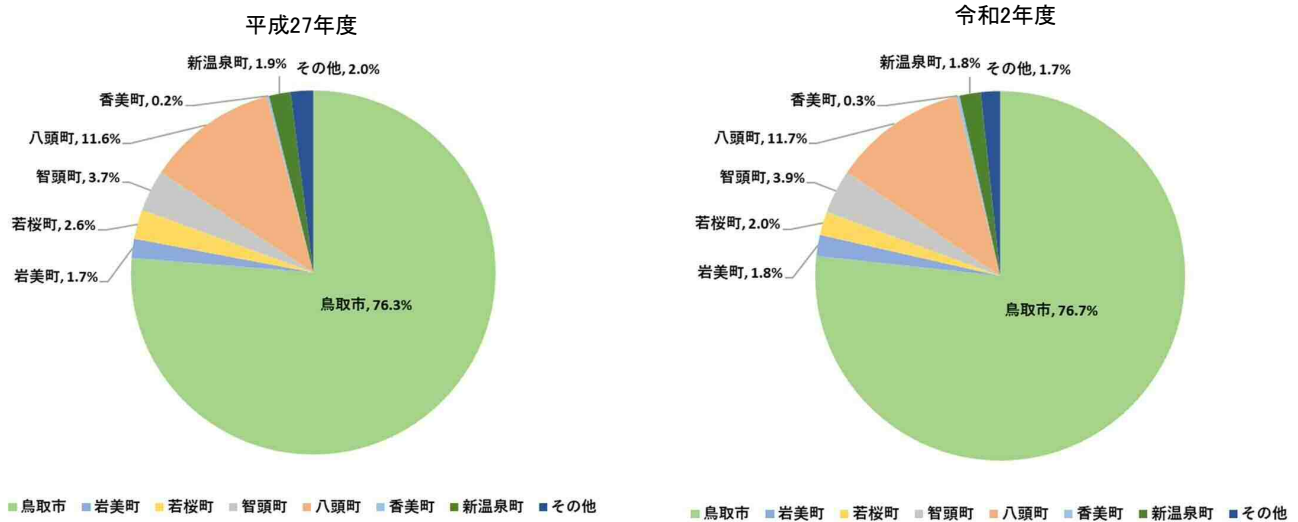
出所：厚生労働省「病床機能報告」

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑤鳥取市立病院の利用状況

- 令和2年度の外来患者割合は鳥取市が76.7%と最も大きく、次いで八頭町が11.7%、智頭町が3.9%となっています。
- 平成27年度と令和2年度で、構成比に大きな差はみられません。

鳥取市立病院の利用状況(構成市町別外来患者の割合)



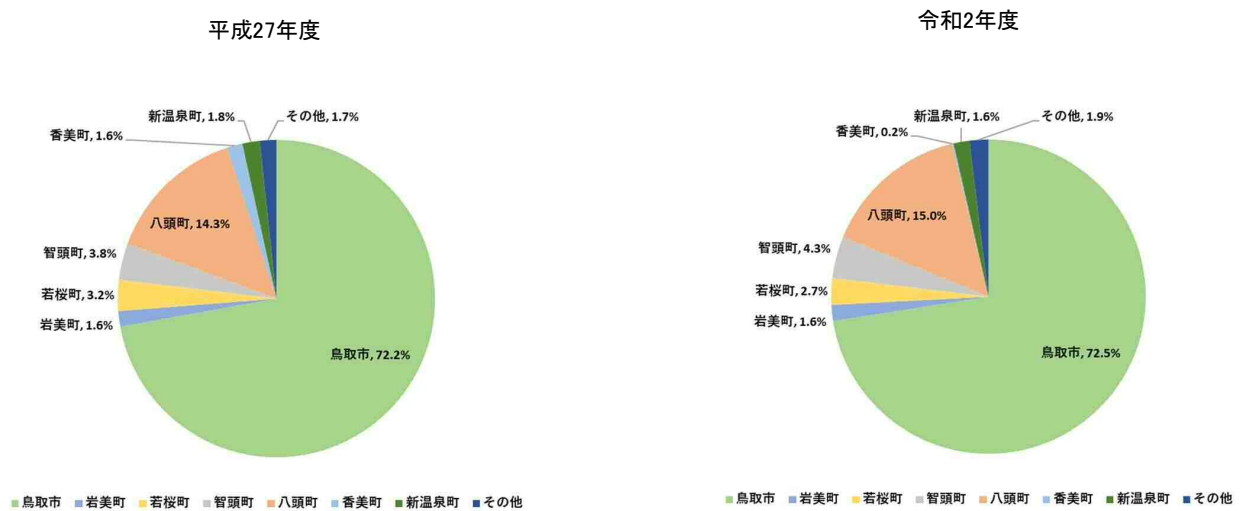
出所:各市町調べ

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑥鳥取市立病院の利用状況

- 令和2年度の入院患者の割合は鳥取市が72.5%と最も大きく、次いで八頭町が15.0%、智頭町が4.3%となっています。
- 平成27年度と令和2年度で、構成比に大きな差は見られません。

鳥取市立病院の利用状況(構成市町別入院患者の割合)



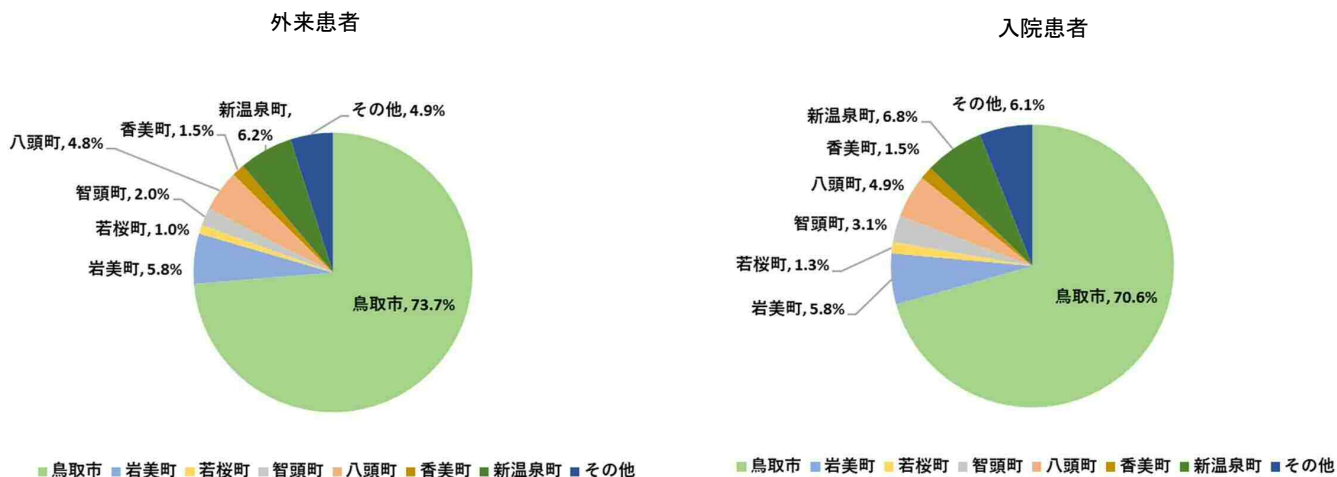
出所:各市町調べ

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑦構成市町別外来患者と入院患者の割合

- 鳥取県立中央病院の外来患者は鳥取市が73.7%と最も多く、次いで新温泉町が6.2%、岩美町が5.8%となっています。
- 鳥取県立中央病院の入院患者は鳥取市が70.6%で最も多く、次いで新温泉町が6.8%、その他が6.1%となっています。

#### 鳥取県立中央病院



注:0%の市町は凡例から除かれています。

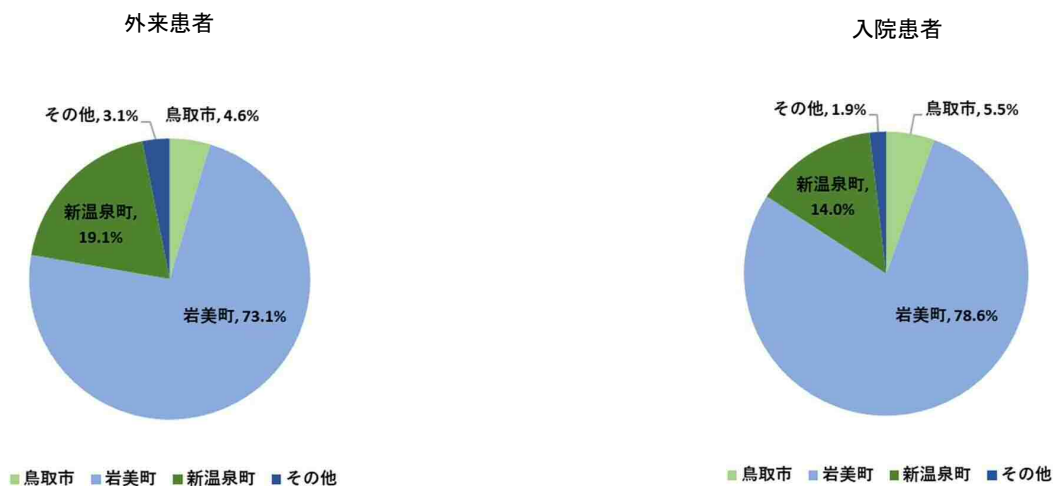
出所:各市町調べ

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑦構成市町別外来患者と入院患者の割合

- 岩美町国民健康保険岩美病院の外来患者は岩美町が73.1%と最も多く、次いで新温泉町が19.1%、鳥取市が4.6%となっています。
- 岩美町国民健康保険岩美病院の入院患者は岩美町が78.6%と最も多く、次いで新温泉町が14.0%、鳥取市が5.5%となっています。

#### 岩美町国民健康保険岩美病院



注:「その他」には、麒麟のまち圏域の構成町を含む、鳥取市・岩美町・新温泉町以外のすべての市区町村が含まれます。

出所:各市町調べ



## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑦構成市町別外来患者と入院患者の割合

- 国民健康保険智頭病院の外来患者は智頭町が92.5%と最も多く、次いで鳥取市が6.2%、その他が0.7%となっています。
- 国民健康保険智頭病院の入院患者は智頭町が82.1%と最も多く、次いで鳥取市が13.2%、その他が2.6%となっています。

#### 国民健康保険智頭病院



注:「その他」には、麒麟のまち圏域の構成市町以外のすべての市区町村が含まれます。  
注:0%の市町は凡例から除かれています。

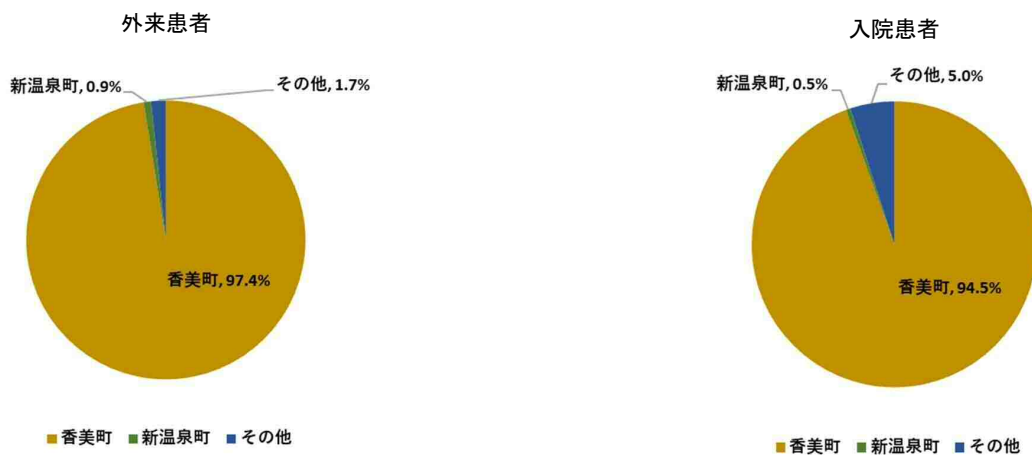
出所:各市町調べ

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑦構成市町別外来患者と入院患者の割合

- 公立香住病院の外来患者は香美町が97.4%と最も多く、次いでその他が1.7%、新温泉町が0.9%となっています。
- 公立香住病院の入院患者は香美町が94.5%と最も多く、次いでその他が5.0%、新温泉町が0.5%となっています。

#### 公立香住病院



注:「その他」には、麒麟のまち圏域の構成市町以外のすべての市区町村が含まれます。  
注:0%の市町は凡例から除かれています。

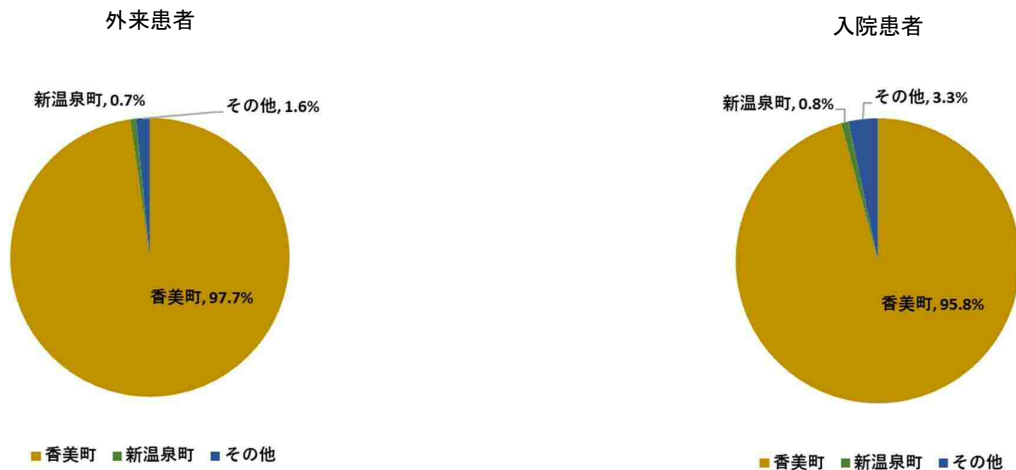
出所:各市町調べ

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑦構成市町別外来患者と入院患者の割合

- 公立村岡病院の外来患者は香美町が97.7%と最も多く、次いでその他が1.6%、新温泉町が0.7%となっています。
- 公立村岡病院の入院患者は香美町が95.8%と最も多く、次いでその他が3.3%、新温泉町が0.8%となっています。

#### 公立村岡病院



注:「その他」には、麒麟のまち圏域の構成市町以外のすべての市区町村が含まれます。  
注:0%の市町は凡例から除かれています。

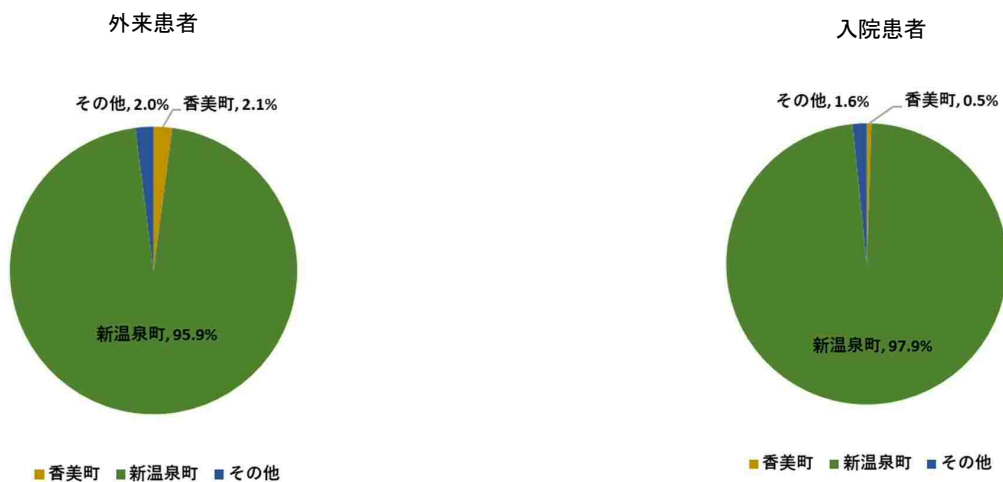
出所:各市町調べ

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑦構成市町別外来患者と入院患者の割合

- 公立浜坂病院の外来患者は新温泉町が95.9%と最も多く、次いで香美町が2.1%、その他が2.0%となっています。
- 公立浜坂病院の外来患者は新温泉町が97.9%と最も多く、次いでその他が1.6%、香美町が0.5%となっています。

#### 公立浜坂病院



注:「その他」には、鳥取県東部の市町を含む、香美町・新温泉町以外のすべての市区町村が含まれます。

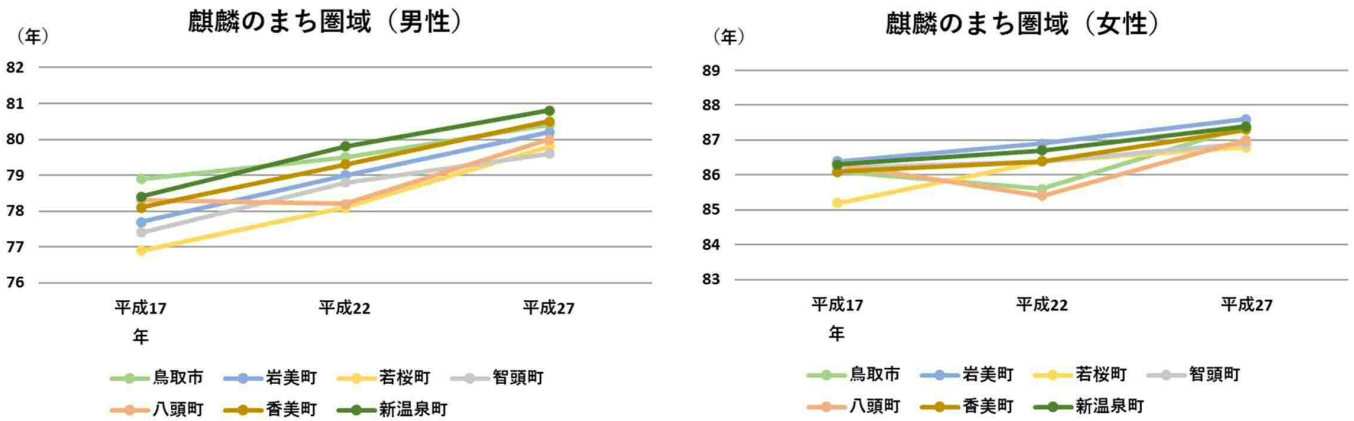
出所:各市町調べ

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑧構成市町の市町村別平均寿命の推移

- いずれの市町・性別においても、平均寿命は近年、長くなる傾向にあります。
- 男性より女性の平均寿命の方が長くなっています。

構成市町の市町村別平均寿命の推移



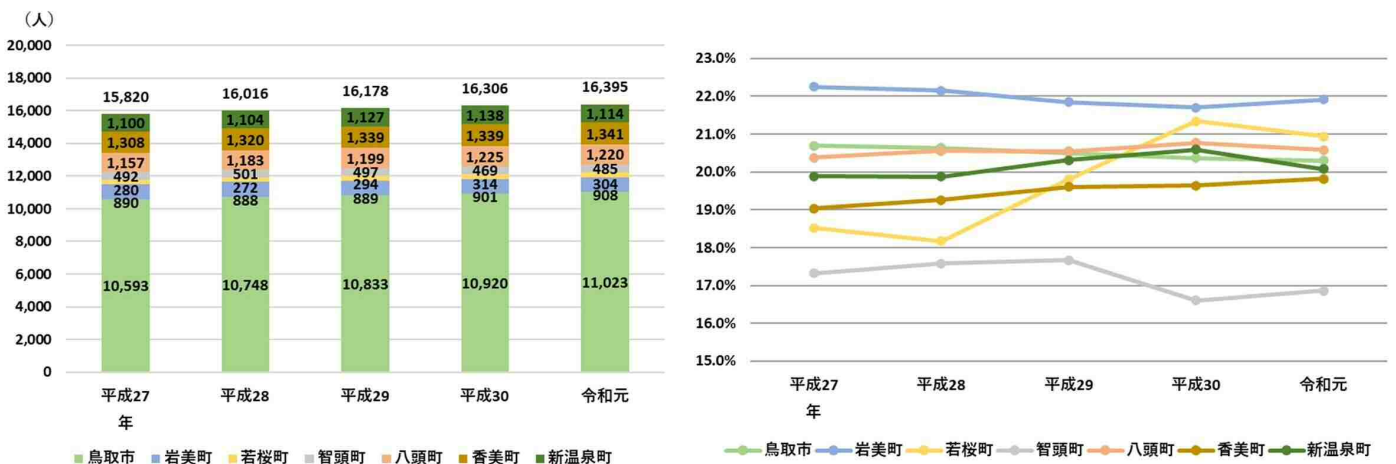
出所：厚生労働省「市区町村別生命表」

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑨構成市町の要介護(要支援)認定者数・認定率の推移

- 圏域全体の要介護(要支援)認定者数は、年々増加傾向にあります。
- 令和元年の要介護(要支援)認定者数は16,395人であり、平成27年(15,820人)と比較すると約3.6%増加しています。市町別の内訳では鳥取市が11,023人と最も多く、圏域全体の約67%を占めています。
- 平成27年から令和元年の要介護(要支援)認定率は、若桜町以外は1%以内の範囲で推移しています。

構成市町の要介護(要支援)認定者数・認定率の推移



注：グラフ上部の数字は圏域合計を示す。

出所：厚生労働省「介護保険事業状況報告」

## 1-4 医療の状況

### 1-4-1 医療 ⑬構成市町の介護施設数・定員数・介護職員数、75歳以上人口千人あたりの人数

- 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設のいずれの施設も、圏域内では鳥取市に集中して立地しています。
- 75歳以上人口千人当たり従事者数について、介護老人福祉施設は若桜町(49.3人)、介護老人保健施設は八頭町(25.4人)、介護療養型医療施設は岩美町(15.0人)が最も多くなっています。

構成市町の介護施設数・定員数・介護職員数、75歳以上人口千人あたりの人数

	介護老人福祉施設				介護老人保健施設				介護療養型医療施設			
	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数
鳥取市	11	755	563	21.5	11	711	426	16.3	3	187	214	8.2
岩美町	2	82	72	32.7	-	-	-	-	1	40	33	15.0
若桜町	1	66	44	49.3	-	-	-	-	-	-	-	-
智頭町	1	76	48	28.4	1	45	25	14.8	-	-	-	-
八頭町	1	74	65	29.0	1	76	57	25.4	-	-	-	-
香美町	3	192	122	32.1	1	48	31	8.2	1	8	16	4.2
新温泉町	3	200	133	42.2	1	80	42	13.3	-	-	-	-

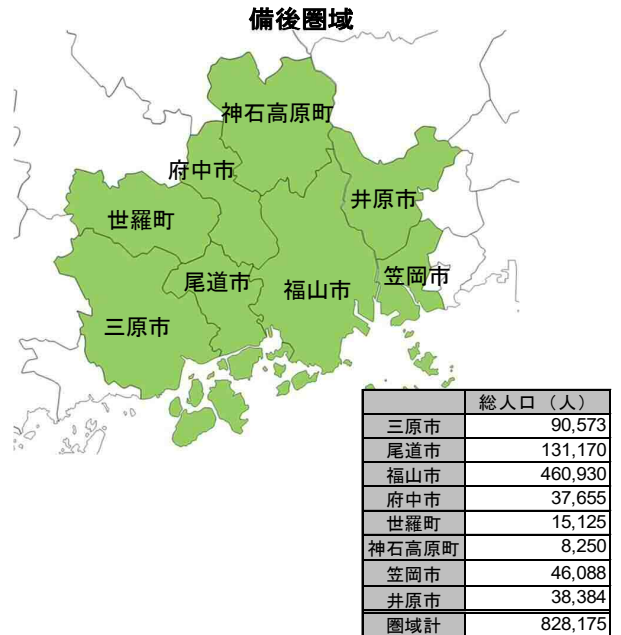
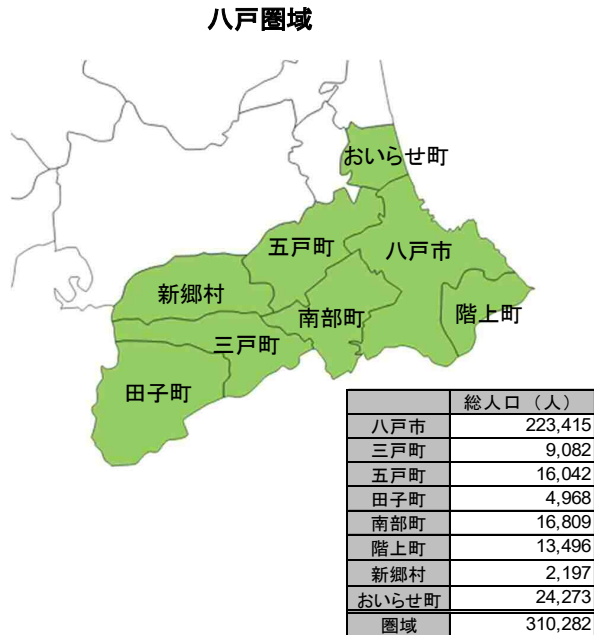
出所：厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」、総務省「国勢調査」

## 2 麒麟のまち圏域と他都市圏域との比較分析

### 2-1 比較都市圏域の考え方

#### 2-1-1 比較都市圏域

- 比較圏域については、麒麟のまち圏域の形成時期に近い平成29年より連携中枢都市圏を形成している八戸圏域と、麒麟のまち圏域と同様に県境を越えて広域都市圏を形成している備後圏域を対象としました。
- 八戸圏域は、八戸市、おいらせ町、階上町、五戸町、南部町、三戸町、田子町、新郷村の8自治体で構成されています。
- 備後圏域は、井原市、笠岡市、福山市、府中市、尾道市、三原市、神石高原町、世羅町の8自治体で構成されています。

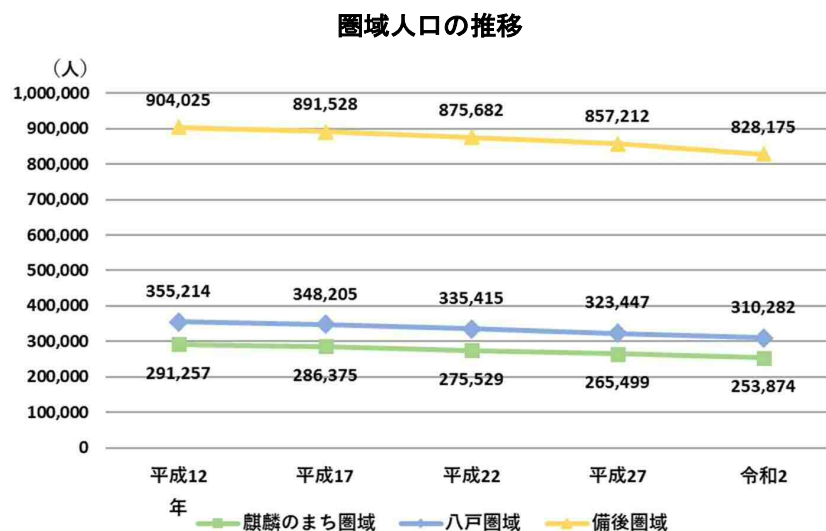


出所:総務省「国勢調査」

### 2-2 人口の動向

#### 2-2-1 圏域人口の比較 ①圏域人口の推移

- 圏域人口は、いずれの圏域においても減少傾向で推移しています。
- 令和2年の圏域人口は、備後圏域が828,175人と最も多く、次いで八戸圏域(310,282人)、麒麟のまち圏域(253,874人)となっています。



出所:総務省「国勢調査」

## 2-2 人口の動向

### 2-2-1 圏域人口の比較 ②圏域人口総数及び昼夜間人口比率

- 圏域人口総数は、いずれの圏域においても中心市が最も多くなっており、麒麟のまち圏域および八戸圏域では、それぞれ鳥取市と八戸市が圏域全体の人口の約7割を占めています。
- 昼夜間人口比率は、麒麟のまち圏域および八戸圏域では中心市のみ100%を超えている一方、備後圏域では中心市の福山市以外の3市（三原市、尾道市、府中市）も100%以上となっています。

圏域人口総数及び昼夜間人口比率(平成27年)

麒麟のまち圏域			八戸圏域			備後圏域		
	総人口(人)	昼夜間人口比率		総人口(人)	昼夜間人口比率		総人口(人)	昼夜間人口比率
鳥取市	193,717	103.2%	八戸市	231,257	104.6%	三原市	96,194	100.0%
岩美町	11,485	85.6%	三戸町	10,135	84.8%	尾道市	138,626	100.4%
若桜町	3,269	88.3%	五戸町	17,433	98.6%	福山市	464,811	100.0%
智頭町	7,154	92.4%	田子町	5,554	90.3%	府中市	40,069	103.3%
八頭町	16,985	81.0%	南部町	18,312	97.8%	世羅町	16,337	95.5%
香美町	18,070	93.8%	階上町	14,025	84.6%	神石高原町	9,217	96.5%
新温泉町	14,819	95.5%	新郷村	2,509	75.5%	笠岡市	50,568	97.7%
圏域計	265,499	-	おいらせ町	24,222	93.3%	井原市	41,390	93.9%
			圏域計	323,447	-	圏域計	857,212	-

注:「昼夜間人口比率」とは、常住人口100人当たりの昼間人口の割合を指す。

出所:総務省「国勢調査」

## 2-2 人口の動向

### 2-2-1 圏域人口の比較 ③各都市圏域の人口構造(3区分)(都市別)

- 人口構造(3区分)は、いずれの圏域でも、生産年齢人口が約6割と最も大きく、次いで老年人口(約3割)、年少人口(約1割)となっています。
- 圏域間で、構成比に大きな差はみられません。

各都市圏域の人口構造(3区分)(都市別)



出所:総務省「国勢調査」

## 2-2 人口の動向

### 2-2-1 圏域人口の比較 ④各都市圏域の都市別人口動態(10年→15年の自然増減、社会増減)

- 自然増減、社会増減(10年→15年)ともに、いずれの圏域においても減少しています。
- 麒麟のまち圏域は社会増加率が特に低くなっています。

各都市圏域の都市別人口動態(10年→15年の自然増減、社会増減)



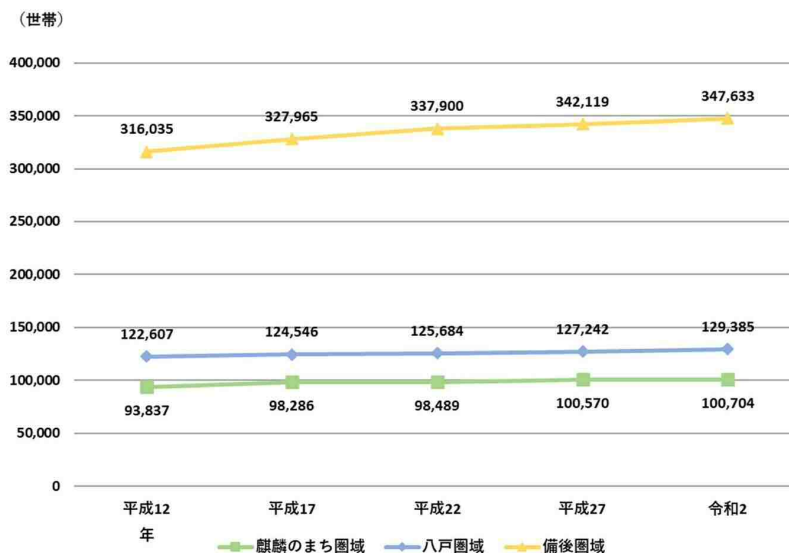
出所:総務省「国勢調査」

## 2-2 人口の動向

### 2-2-1 圏域人口の比較 ⑤圏域世帯数の推移

- 圏域世帯数は、いずれの圏域においても増加傾向で推移しています。
- 令和2年の圏域世帯数は、備後圏域が347,633世帯と最も多く、次いで八戸圏域(129,385世帯)、麒麟のまち圏域(100,704世帯)となっています。

圏域世帯数の推移



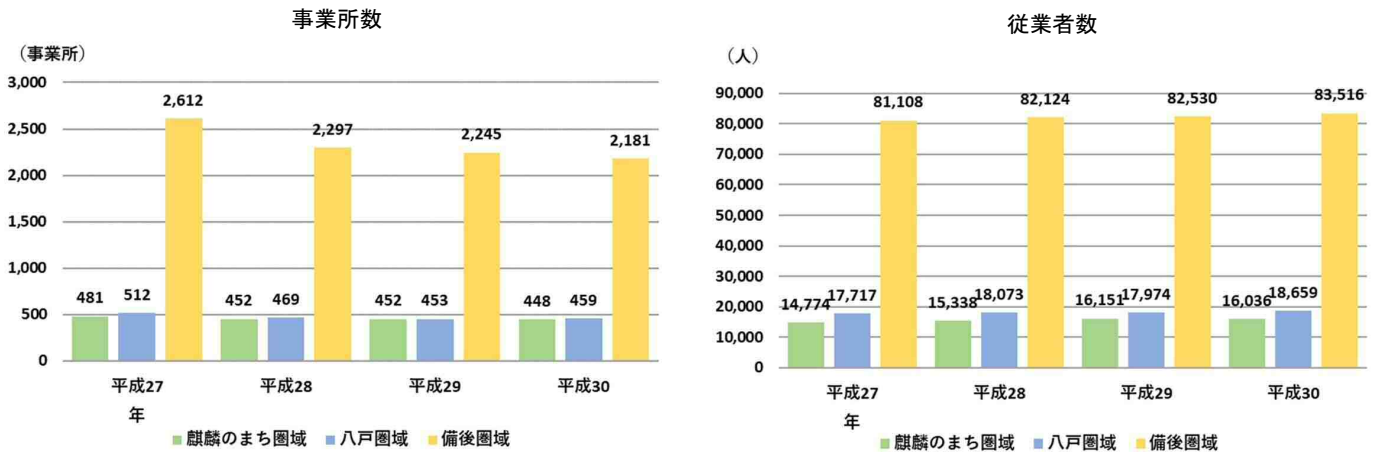
出所:総務省「国勢調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ①圏域事業所数・従業者数の推移

- 圏域事業所数は、いずれの圏域においても減少傾向にあります。
- 平成30年の圏域事業所数は、備後圏域が2,181事業所と最も多く、次いで八戸圏域(459事業所)、麒麟のまち圏域(448事業所)となっています。
- 圏域従業者数は、いずれの圏域においても全体的には概ね増加傾向にあります。
- 平成30年の圏域従業者数は、備後圏域が83,516人と最も多く、次いで八戸圏域(18,659人)、麒麟のまち圏域(16,036人)となっています。

圏域事業所数・従業者数の推移



出所：地域経済分析システム (RESAS)

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ②各都市圏域の都市別付加価値額

- 圏域全体の付加価値額は、備後圏域が16,332億円と最も多く、次いで八戸圏域が5,322億円、麒麟のまち圏域が3,914億円となっています。
- 麒麟のまち圏域と八戸圏域では、それぞれ鳥取市、八戸市の付加価値額が圏域全体の付加価値額の約83%を占めていますが、備後圏域では、圏域内で付加価値額が最も大きい福山市の占める割合が約57%となっています。

各都市圏域の都市別付加価値額(平成28年)

麒麟のまち圏域

(億円)

市町村	付加価値額
鳥取市	3,274
岩美町	99
若桜町	24
智頭町	54
八頭町	96
香美町	200
新温泉町	167
圏域計	3,914

八戸圏域

(億円)

市町村	付加価値額
八戸市	4,429
三戸町	90
五戸町	170
田子町	62
南部町	127
階上町	128
新郷村	16
おいらせ町	300
圏域計	5,322

備後圏域

(億円)

市町村	付加価値額
三原市	1,884
尾道市	2,686
福山市	9,230
府中市	814
世羅町	226
神石高原町	118
笠岡市	782
井原市	669
圏域計	16,332

出所：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

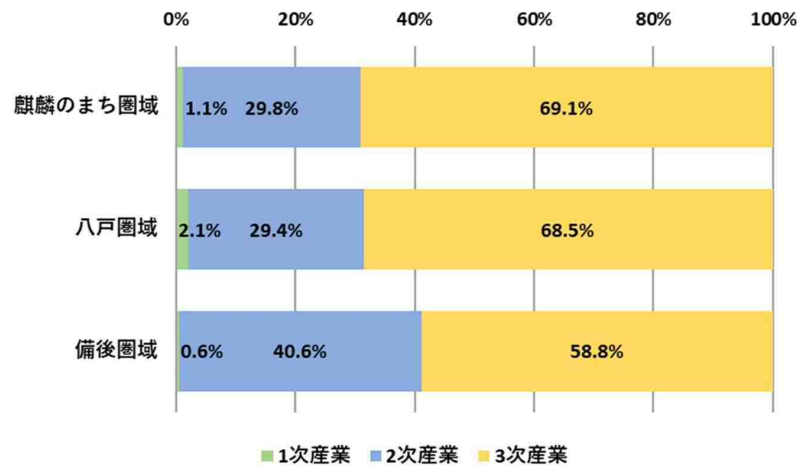


## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ③各都市圏域の都市別付加価値額の産業3分類別構成比(1次、2次、3次)

- 付加価値額の産業分類別構成比は、いずれの圏域でも、3次産業が最も大きく、次いで2次産業、1次産業となっています。
- 麒麟のまち圏域は、3次産業の割合が3圏域の中で最も大きく69.1%となっています。
- 八戸圏域は、1次産業の割合が3圏域の中で最も大きく2.1%となっています。
- 備後圏域は、2次産業の割合が3圏域の中で最も大きく40.6%となっています。

各都市圏域の都市別付加価値額の産業3分類別構成比(1次、2次、3次) (平成28年)



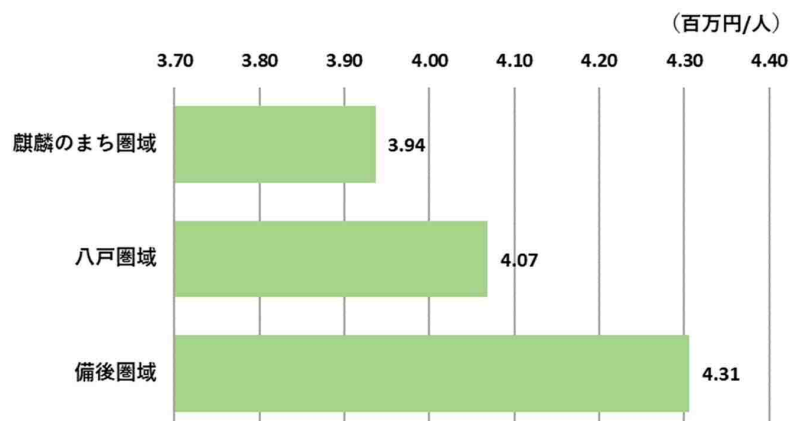
出所: 総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ④圏域別付加価値生産性の状況(産業全体)

- 平成28年の付加価値生産性(産業全体)は、備後圏域が4.31百万円/人と最も高く、次いで八戸圏域(4.07百万円/人)、麒麟のまち圏域(3.94百万円/人)となっています。

圏域別付加価値生産性の状況(産業全体) (平成28年)



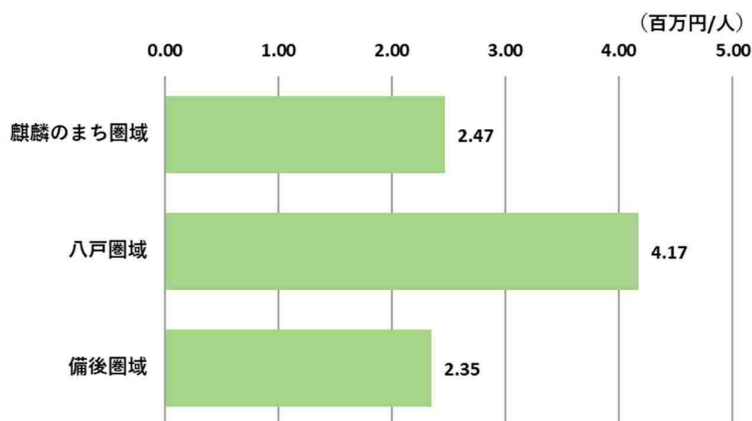
出所: 総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑤都市別付加価値生産性の状況(第1次産業)

- 平成28年の付加価値生産性(第1次産業)は、八戸圏域が4.17百万円/人と最も高く、次いで麒麟のまち圏域(2.47百万円/人)、八戸圏域(2.35百万円/人)となっています。

都市別付加価値生産性の状況(第1次産業)(平成28年)



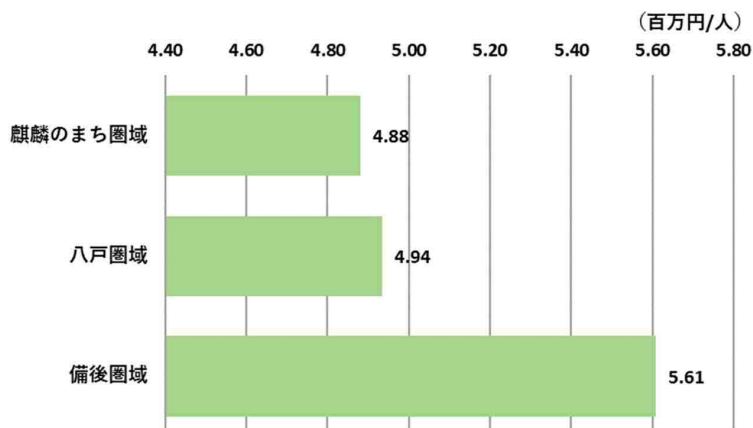
出所:総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑥都市別付加価値生産性の状況(第2次産業)

- 平成28年の付加価値生産性(第2次産業)は、備後圏域が5.61百万円/人と最も高く、次いで八戸圏域(4.94百万円/人)、麒麟のまち圏域(4.88百万円/人)となっています。

都市別付加価値生産性の状況(第2次産業)(平成28年)



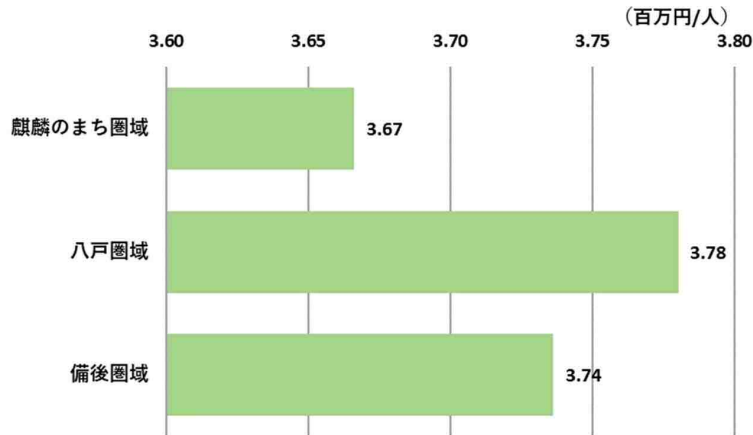
出所:総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑦都市別付加価値生産性の状況(第3次産業)

- 平成28年の付加価値生産性(第3次産業)は、八戸圏域が3.78百万円/人と最も高く、次いで備後圏域(3.74百万円/人)、麒麟のまち圏域(3.67百万円/人)となっています。

都市別付加価値生産性の状況(第3次産業)(平成28年)



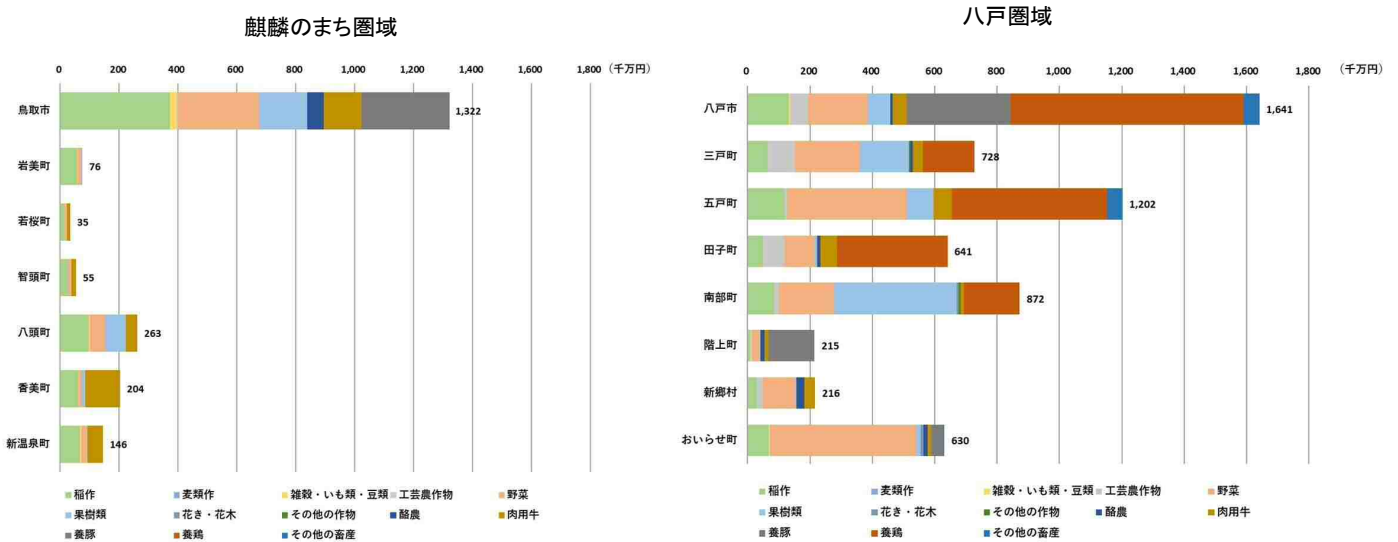
出所:総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑧各都市圏域の部門別農産物販売金額

- 八戸圏域、備後圏域では養鶏の割合が多い市町村が複数ありますが、麒麟のまち圏域では養鶏が見られません。
- 麒麟のまち圏域で最も農産物販売金額が大きいのは鳥取市の1,322千万円で、これは八戸圏域で最も大きい八戸市の1,641千万円の約81%、備後圏域で最も大きい尾道市の1,020千万円の約1.3倍となっています。

各都市圏域の部門別農産物販売金額

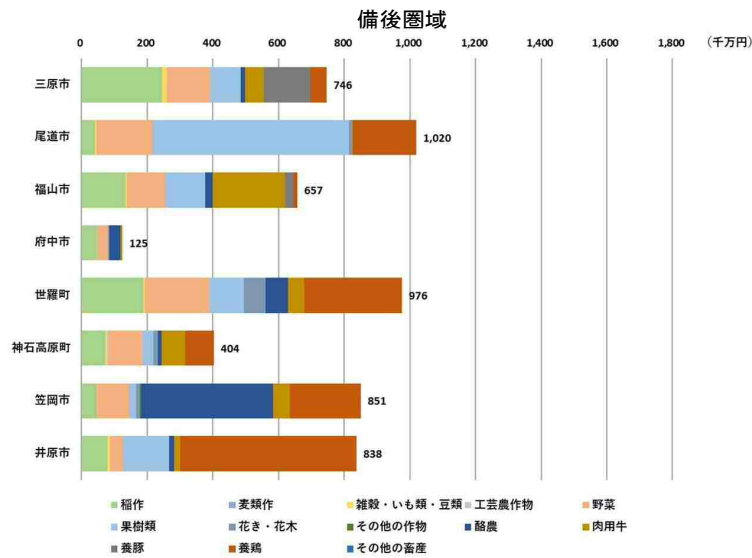


出所:地域経済分析システム(RESAS)

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑧各都市圏域の部門別農産物販売金額

各都市圏域の部門別農産物販売金額



出所: 地域経済分析システム (RESAS)

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑨都市別1経営体あたりの販売金額(農業)

- 麒麟のまち圏域はいずれの市町も1経営体当たりの農業販売金額が小さくなっています。麒麟のまち圏域では香美町が550万円と最も大きくなっていますが、これは八戸圏域のすべての市町村より小さく、備後圏域の府中市を除くすべての市町より小さくなっています。
- 八戸圏域はすべての市町村で1,000万円を超えています。
- 備後圏域では笠岡市、井原市、世羅町の3市町で1,000万円を超えています。

都市別1経営体あたりの販売金額(農業) (平成30年)



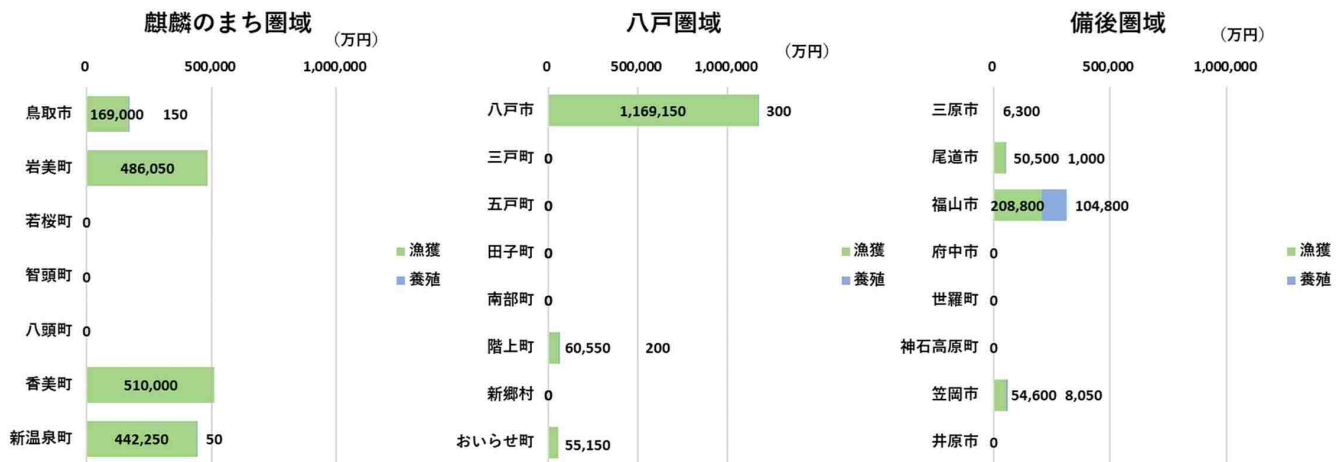
出所: 地域経済分析システム (RESAS)

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑩各都市圏域の漁獲・養殖業販売額

- 海面漁獲等販売金額(総額)は、麒麟のまち圏域では香美町、岩美町、新温泉町の3町で圏域全体の販売額の9割を占めており、中心市である鳥取市の販売金額は比較的小さくなっています。備後圏域および八戸圏域では中心市が圏域全体の販売額の大半を占めています。
- 海面養殖業販売金額(総額)は、麒麟のまち圏域および八戸圏域では圏域全体の販売額が極めて小さくなっています。備後圏域では中心市の福山市が圏域全体の販売額の大半を占めています。

各都市圏域の漁獲・養殖業販売額(平成30年)



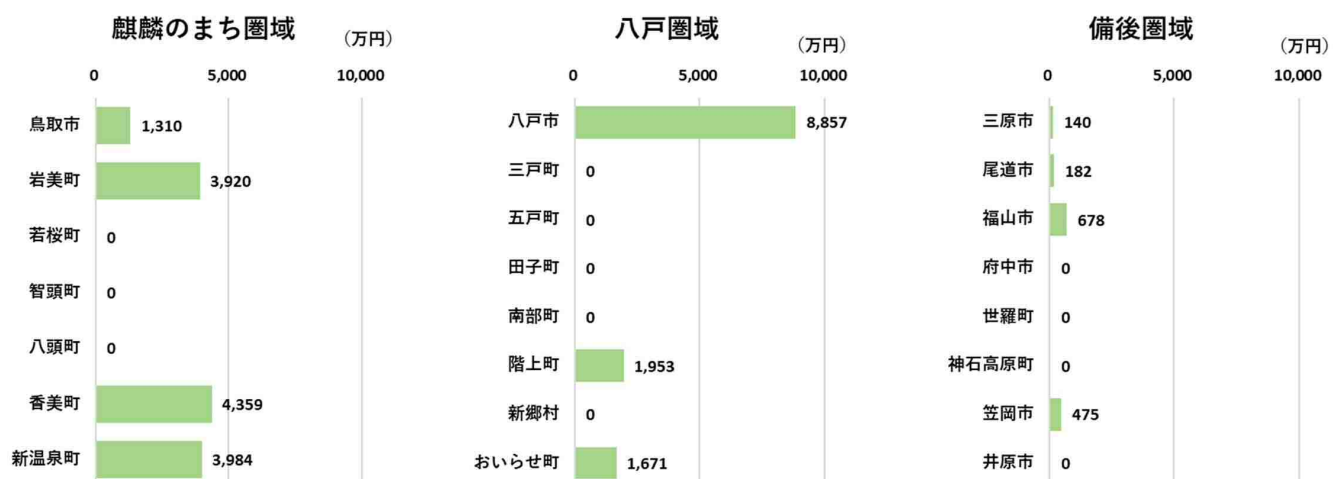
出所: 地域経済分析システム (RESAS)

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑪都市別1経営体あたりの販売金額(漁業)

- 麒麟のまち圏域では、香美町が4,359万円と最も多く、次いで新温泉町が3,984万円、岩美町が3,920万円となっています。
- 八戸圏域では、八戸市が8,857万円と最も多く、次いで階上町が1,953万円、おいらせ町が1,671万円となっています。
- 備後圏域では福山市が678万円と最も多く、次いで笠岡市が475万円、尾道市が182万円となっています。
- 八戸圏域と備後圏域では中心市の販売金額が最も大きくなっていますが、麒麟のまち圏域では中心市の販売金額は圏域内で4番目となっています。

都市別1経営体あたりの販売金額(漁業)



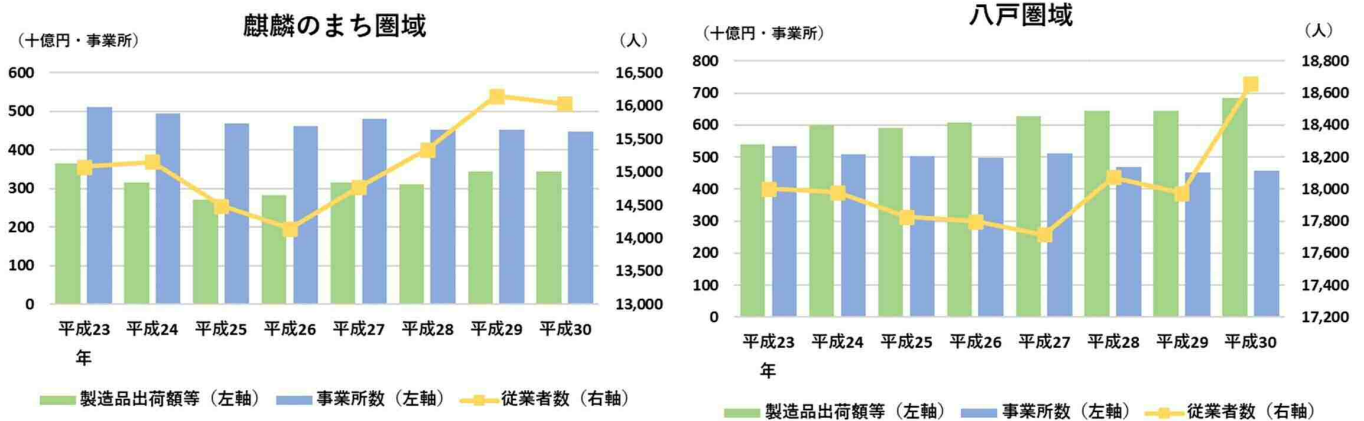
出所: 地域経済分析システム (RESAS)

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑫圏域製造品出荷額等の推移

- 製造品出荷額等は、麒麟のまち圏域では平成25年以降、増加傾向で推移しています。また、八戸圏域においても平成23年以降、概ね増加傾向で推移しています。一方、備後圏域では増減を繰り返して推移しています。
- 事業所数は、いずれの圏域においても全体的には概ね減少傾向で推移しています。
- 従業者数は、麒麟のまち圏域では平成26年以降、八戸圏域では平成27年以降、備後圏域では平成25年以降、概ね増加傾向で推移しています。

圏域製造品出荷額等の推移(1/2)

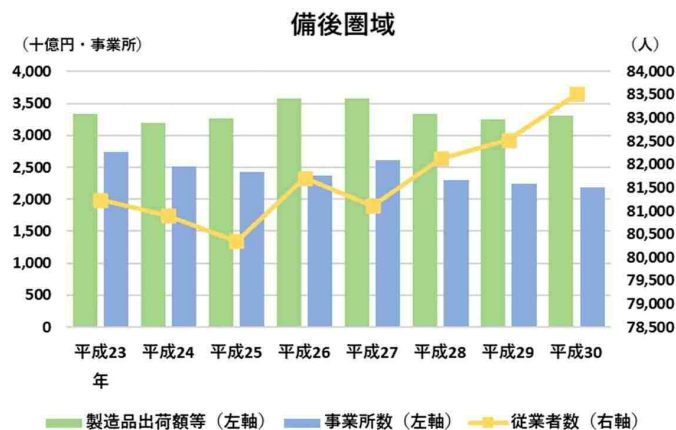


出所：経済産業省「工業統計調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑫圏域製造品出荷額等の推移

圏域製造品出荷額等の推移(2/2)



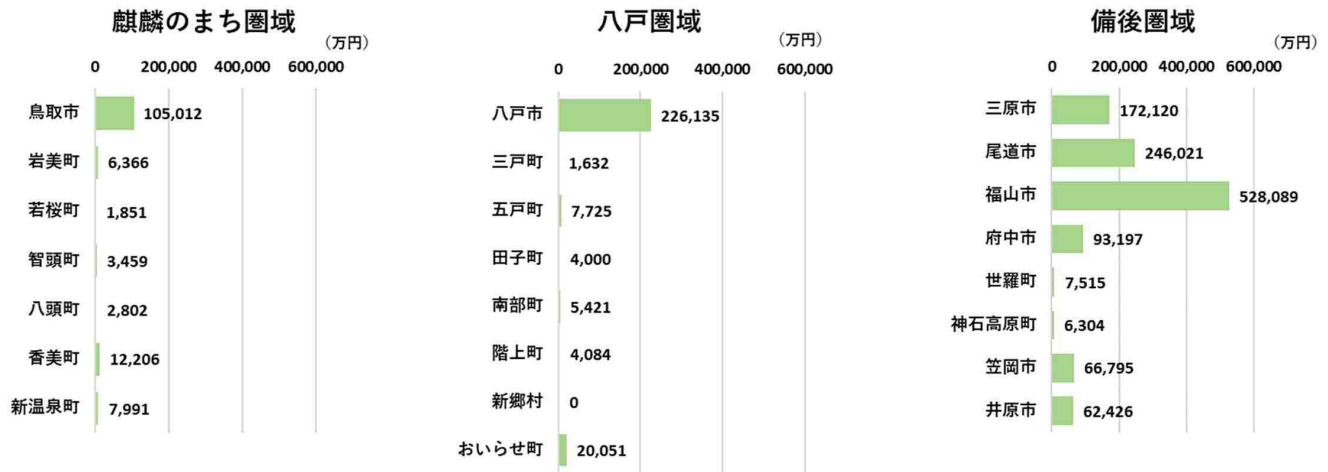
出所：経済産業省「工業統計調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑬製造業の都市別付加価値生産額(製造業全体)

- 麒麟のまち圏域では鳥取市が105,012万円と最も多く、次いで香美町が12,206万円、新温泉町が7,991万円となっています。
- 八戸圏域では八戸市が226,135万円と最も多く、次いでおいらせ町が20,051万円、五戸町が7,725万円となっています。
- 備後圏域では福山市が528,089万円と最も多く、次いで尾道市が246,021万円、三原市が172,120万円となっています。
- 鳥取市の105,012万円は、八戸圏域で最も多い八戸市の約46%、備後圏域で最も多い福山市の約20%となっています。

製造業の都市別付加価値生産額(製造業全体)(平成30年)



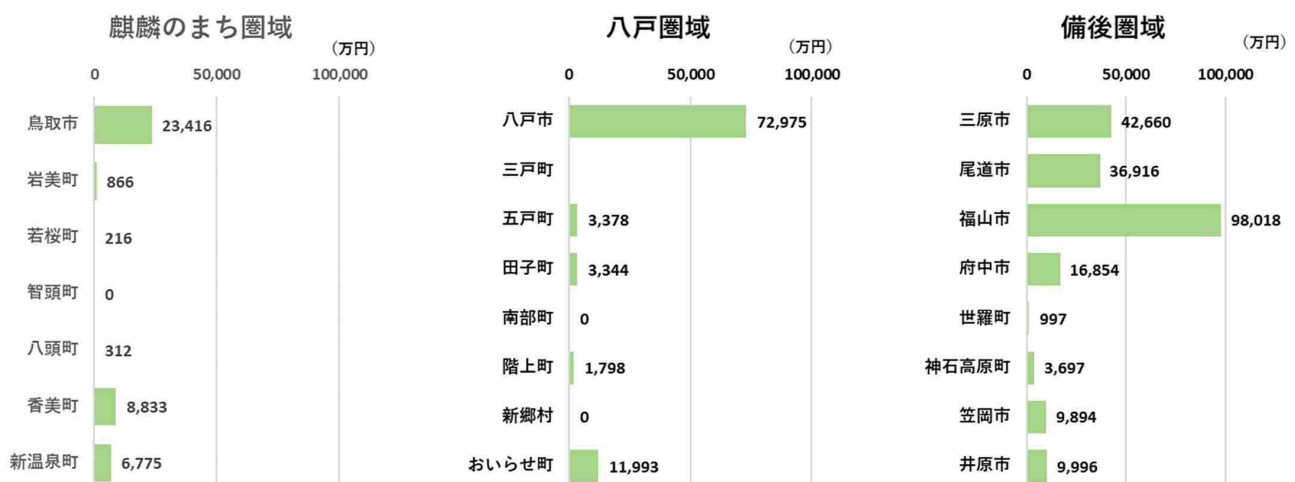
出所:経済産業省「工業統計調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑭製造業の都市別付加価値生産額(生活関連型)

- 麒麟のまち圏域では鳥取市の23,416万円が最も多く、次いで香美町が8,833万円、新温泉町が6,775万円となっています。
- 八戸圏域では八戸市の72,975万円が最も多く、次いでおいらせ町が11,993万円、五戸町が3,378万円となっています。
- 備後圏域では福山市が98,018万円と最も多く、次いで三原市が42,660万円、尾道市が36,916万円となっています。
- 鳥取市の23,416万円は、八戸圏域で最も多い八戸市の約32%、備後圏域で最も多い福山市の約24%となっています。

製造業の都市別付加価値生産額(生活関連型)(令和元年)



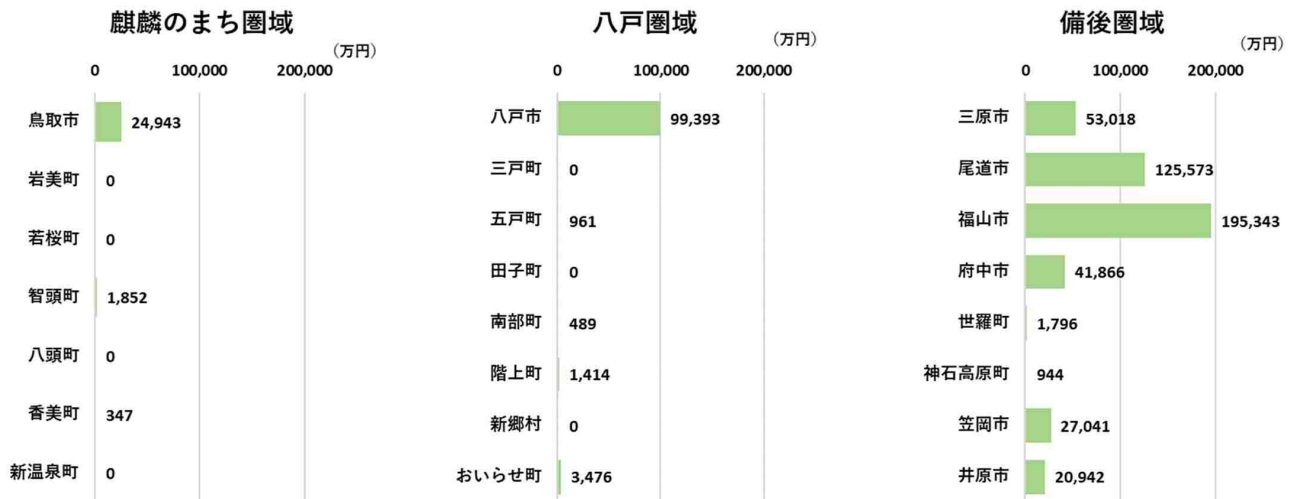
出所:経済産業省「工業統計調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑮製造業の都市別付加価値生産額(基礎素材型)

- 麒麟のまち圏域では鳥取市が24,943万円と最も多く、次いで智頭町が1,852万円、香美町が347万円となっています。
- 八戸圏域では八戸市が99,393万円と最も多く、次いでおいらせ町が3,476万円、階上町が1,414万円となっています。
- 備後圏域では福山市が195,343万円と最も多く、次いで尾道市が125,573万円、三原市が53,018万円となっています。
- 鳥取市の24,943万円は、八戸圏域で最も多い八戸市の約25%、備後圏域で最も多い福山市の約13%となっています。

製造業の都市別付加価値生産額(基礎素材型)(令和元年)



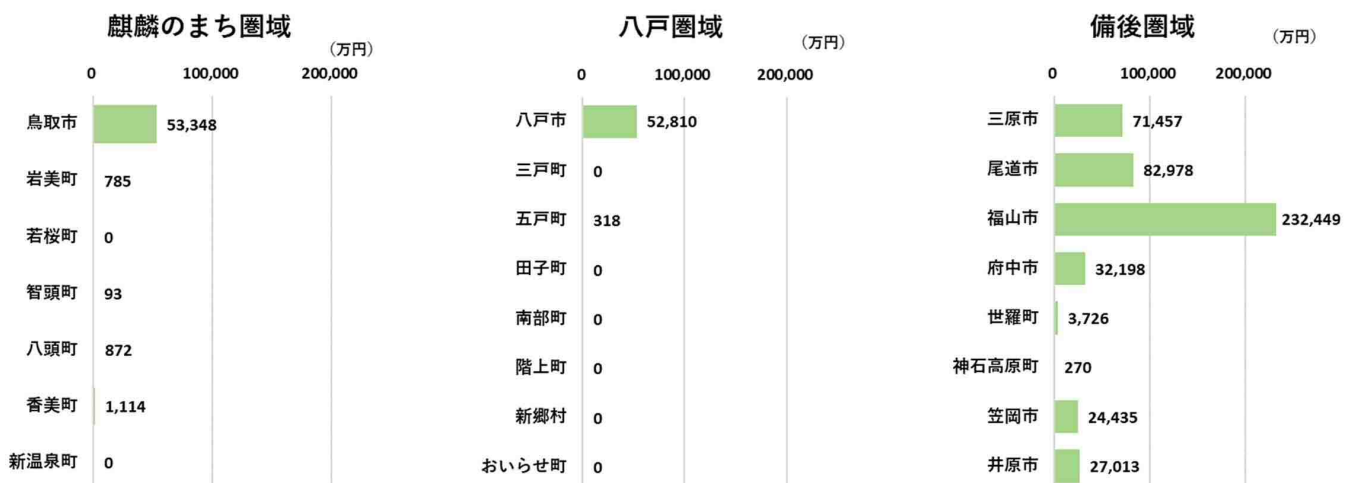
出所:経済産業省「工業統計調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑯製造業の都市別付加価値生産額(加工組立型)

- 麒麟のまち圏域では鳥取市が53,348万円と最も多く、次いで香美町が1,114万円、八頭町が872万円となっています。
- 八戸圏域では八戸市が52,810万円と最も多く、次いで五戸町が318万円となっています。
- 備後圏域では福山市が232,449万円と最も多く、次いで尾道市が82,978万円、三原市が71,457万円となっています。
- 鳥取市の53,348万円は、八戸圏域で最も多い八戸市の約101%、備後圏域で最も多い福山市の約23%となっています。

製造業の都市別付加価値生産額(加工組立型)(令和元年)



出所:経済産業省「工業統計調査」



## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑰圏域卸売販売額の推移

- 卸売販売額は、いずれの圏域も平成19年から平成24年にかけて減少しています。
- 平成24年以降は麒麟のまち圏域および八戸圏域は概ね横ばいで推移していますが、備後圏域は増加傾向にあります。
- 平成28年の圏域卸売販売額が最も大きいのは備後圏域の1,387,286百万円で、これは麒麟のまち圏域の約5.7倍、八戸圏域の約2.9倍となっています。

圏域卸売販売額の推移



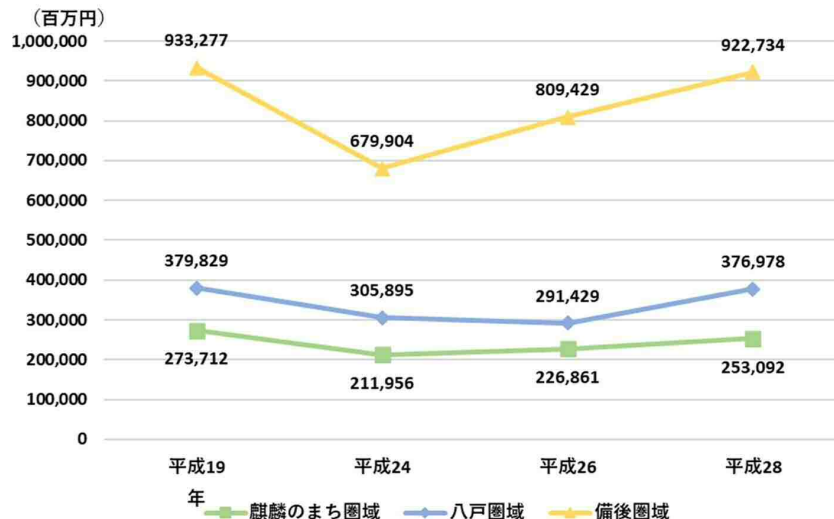
出所:総務省・経済産業省「経済センサス基礎調査」「経済センサス活動調査」

## 2-3 産業の動向

### 2-3-1 圏域産業の比較 ⑱圏域小売販売額の推移

- 小売販売額は、いずれの圏域も平成19年から平成24年にかけて減少しています。平成24年以降はいずれの圏域も増加傾向にあります。
- 平成28年の圏域小売販売額は、備後圏域が922,734百万円と最も多く、麒麟のまち圏域の約3.6倍、八戸圏域の約2.6倍となっています。

圏域小売販売額の推移



出所:総務省・経済産業省「経済センサス基礎調査」「経済センサス活動調査」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ①圏域の医療施設数・医師数・歯科医師数・薬剤師数・看護師数、10万人あたりの人数

- 人口千人あたり医療施設数は麒麟のまち圏域が0.86で最も多く、次いで備後圏域が0.85、八戸圏域が0.59となっています。
- 人口千人あたり医師数は麒麟のまち圏域が2.31で最も多く、次いで備後圏域が2.11、八戸圏域が1.83となっています。
- 人口千人あたり歯科医師数は備後圏域が0.73で最も多く、次いで麒麟のまち圏域が0.66、八戸圏域が0.60となっています。
- 人口千人あたり薬剤師数は備後圏域が2.36で最も多く、次いで麒麟のまち圏域が1.82、八戸圏域が1.63となっています。

#### 圏域の医療施設数(令和元年)・医師数・歯科医師数・薬剤師数、10万人あたりの人数(平成30年)

##### 麒麟のまち圏域

二次保健医療圏	市町	医療施設			医師		歯科医師		薬剤師	
		一般病院数(施設)	一般診療所数(施設)	人口千人あたり医療施設数	医師数(人)	人口千人あたり医師数	歯科医師数(人)	人口千人あたり歯科医師数	薬剤師数(人)	人口千人あたり薬剤師数
東部保健医療圏	鳥取市	10	164	0.90	536	2.77	136	0.70	423	2.18
	岩美町	1	5	0.52	13	1.13	4	0.35	6	0.52
	若桜町	-	3	0.92	3	0.92	3	0.92	4	1.22
	智頭町	1	4	0.70	11	1.54	4	0.56	8	1.12
	八頭町	-	13	0.77	14	0.82	10	0.59	13	0.77
但馬保健医療圏	香美町	2	10	0.66	18	1.00	10	0.55	15	0.83
	新温泉町	2	14	1.08	17	1.15	7	0.47	14	0.94
圏域全体		16	213	0.86	612	2.31	174	0.66	483	1.82

出所：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」・厚生労働省「医療施設調査」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ①圏域の医療施設数・医師数・歯科医師数・薬剤師数・看護師数、10万人あたりの人数

#### 圏域の医療施設数(令和元年)・医師数・歯科医師数・薬剤師数、10万人あたりの人数(平成30年)

##### 八戸圏域

二次保健医療圏	市町村名	医療施設			医師		歯科医師		薬剤師	
		一般病院数(施設)	一般診療所数(施設)	人口千人あたり医療施設数	医師数(人)	人口千人あたり医師数	歯科医師数(人)	人口千人あたり歯科医師数	薬剤師数(人)	人口千人あたり薬剤師数
八戸地域保健医療圏	八戸市	21	141	0.70	522	2.26	161	0.70	446	1.93
	おいらせ町	2	8	0.99	18	1.78	8	0.79	23	2.27
	三戸町	1	2	0.17	9	0.52	3	0.17	13	0.75
	五戸町	1	3	0.72	13	2.34	10	1.80	18	3.24
	田子町	0	2	0.11	6	0.33	3	0.16	2	0.11
	南部町	2	5	0.50	19	1.35	6	0.43	23	1.64
	階上町	0	2	0.80	2	0.80	3	1.20	3	1.20
	新郷村	0	1	0.04	2	0.08	0	0	0	0
圏域全体		27	164	0.59	591	1.83	194	0.60	528	1.63

出所：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」・厚生労働省「医療施設調査」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ①圏域の医療施設数・医師数・歯科医師数・薬剤師数・看護師数、10万人あたりの人数

#### 圏域の医療施設数(令和元年)・医師数・歯科医師数・薬剤師数、10万人あたりの人数(平成30年)

##### 備後圏域

二次保健医療圏	市町名	医療施設			医師		歯科医師		薬剤師	
		一般病院数(施設)	一般診療所数(施設)	人口千人当たり医療施設数	医師数(人)	人口千人当たり医師数	歯科医師数(人)	人口千人当たり歯科医師数	薬剤師数(人)	人口千人当たり薬剤師数
尾三保健医療圏	三原市	11	68	0.82	202	2.10	71	0.74	210	2.18
	尾道市	11	123	0.97	356	2.57	103	0.74	369	2.66
	世羅町	1	9	0.61	25	1.53	6	0.01	24	1.47
福山・府中保健医療圏	福山市	41	347	0.83	1,002	2.16	345	8.61	1,191	2.56
	府中市	4	32	0.90	60	1.50	28	1.71	81	2.02
	神石高原町	1	4	0.54	8	0.87	6	0.65	7	0.76
県南西部保健医療圏	笠岡市	5	40	0.89	88	1.74	39	0.77	81	1.60
	井原市	3	29	0.77	66	1.59	26	0.63	59	1.43
圏域全体		77	652	0.85	1,807	2.11	624	0.73	2,022	2.36

出所：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」・厚生労働省「医療施設調査」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ②圏域内の主な拠点病院・機能別病床数

- 麒麟のまち圏域と八戸圏域では、中心市である鳥取市と八戸市に拠点病院が多く立地しています。
- 備後圏域では、中心市である福山市のほか、尾道市にも拠点病院が多く立地しています。

#### 圏域内の主な拠点病院・機能別病床数

##### 麒麟のまち圏域

病院名	所在地	一般病床	療養病床	結核病床	感染症病床	精神病床	合計
鳥取県立中央病院	鳥取市	504	0	10	4	0	518
鳥取県立中央病院	鳥取市	340	0	0	0	0	340
鳥取市立病院	鳥取市	350	0	0	0	0	350
鳥取赤十字病院	鳥取市	260	0	0	0	0	260
鳥取生協病院	鳥取市	60	50	0	0	0	110
岩美病院	岩美町	52	47	0	0	0	99
智頭病院	智頭町						
鳥取県立中央病院	鳥取市						
鳥取県立中央病院(基幹災害拠点病院)	鳥取市						
鳥取赤十字病院(地域災害拠点病院)	鳥取市						
鳥取県立中央病院	鳥取市						
鳥取市立病院	鳥取市						
智頭病院	智頭町						

出所：厚生労働省ホームページ、鳥取県ホームページ、一般社団法人日本救急医学会ホームページ、とっとり医療情報ネット

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ②圏域内の主な拠点病院・機能別病床数

#### 圏域内の主な拠点病院・機能別病床数

##### 八戸圏域

分類	病院名	所在地
がん診療連携拠点病院	八戸市立市民病院	八戸市
	救急救命センター	八戸市
	救急救命センター	八戸市
地域周産期母子医療センター	八戸市立市民病院	八戸市
災害拠点病院	八戸市立市民病院	八戸市
	八戸赤十字病院	八戸市
へき地医療拠点病院	三戸中央病院	三戸町

	一般病床	療養病床	結核病床	感染症病床	精神病床	合計
八戸市立市民病院	572	0	0	6	50	628
八戸赤十字病院	374	0	0	0	60	434
三戸中央病院	144	0	0	0	0	144

出所：厚生労働省ホームページ、鳥取県ホームページ、一般社団法人日本救急医学会ホームページ、とっとり医療情報ネット

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ②圏域内の主な拠点病院・機能別病床数

#### 圏域内の主な拠点病院・機能別病床数

##### 備後圏域

分類	病院名	所在地
がん診療連携拠点病院	尾道総合病院	尾道市
	独立行政法人国立病院機構 福山医療センター	福山市
救急救命センター	尾道総合病院	尾道市
	福山市民病院	福山市
二次救急医療機関	尾道総合病院	尾道市
地域周産期母子医療センター	尾道総合病院	尾道市
	独立行政法人国立病院機構 福山医療センター	福山市
災害拠点病院	興生総合病院	三原市
	総合病院三原赤十字病院	三原市
	尾道総合病院	尾道市
	福山市民病院	福山市
へき地医療拠点病院	日本銅管福山病院	福山市
	福山市民病院	福山市
	府中市民病院	府中市
へき地医療拠点病院	神石高原町立病院	神石高原町

	一般病床	療養病床	結核病床	感染症病床	精神病床	回復リハビリテーション病床	地域包括ケア病床	合計
興生総合病院	165	80	0	0	0	38	40	323
総合病院三原赤十字病院	197	0	0	0	0	0	91	288
尾道総合病院	393	0	0	0	0	0	0	393
独立行政法人国立病院機構福山医療センター	311	0	0	0	0	0	0	311
福山市民病院	500	0	0	6	0	0	0	506
日本銅管福山病院	137	0	0	0	0	43	56	236
府中市民病院	50	0	0	0	0	50	50	150
神石高原町立病院	47	36	0	0	0	0	0	83

出所：厚生労働省ホームページ、鳥取県ホームページ、一般社団法人日本救急医学会ホームページ、とっとり医療情報ネット

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ③構成市町の介護施設数・定員数・介護職員数、75歳以上人口千人あたりの人数

- いずれの圏域においても、介護施設数・定員数・介護職員数は中心市が最も多くなっています。
- いずれの圏域においても、75歳以上人口千人あたり従事者数が最も多い市町村は、中心市以外となっています。

#### 構成市町の介護施設数・定員数・介護職員数、75歳以上人口千人あたりの人数(平成29年)

##### 麒麟のまち圏域

	介護老人福祉施設				介護老人保健施設				介護療養型医療施設			
	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数
鳥取市	11	755	563	21.5	11	711	426	16.3	3	187	214	8.2
岩美町	2	82	72	32.7	-	-	-	-	1	40	33	15.0
若桜町	1	66	44	49.3	-	-	-	-	-	-	-	-
智頭町	1	76	48	28.4	1	45	25	14.8	-	-	-	-
八頭町	1	74	65	29.0	1	76	57	25.4	-	-	-	-
香美町	3	192	122	32.1	1	48	31	8.2	1	8	16	4.2
新温泉町	3	200	133	42.2	1	80	42	13.3	-	-	-	-

出所：厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」、総務省「国勢調査」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ③構成市町の介護施設数・定員数・介護職員数、75歳以上人口千人あたりの人数

#### 構成市町の介護施設数・定員数・介護職員数、75歳以上人口千人あたりの人数(平成29年)

##### 八戸圏域

	介護老人福祉施設				介護老人保健施設				介護療養型医療施設			
	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数
八戸市	8	515	371	12.3	7	730	422	14.0	4	216	139	4.6
おいらせ町	2	100	68	23.7	1	50	53	18.5	1	50	39	13.6
三戸町	1	50	37	18.0	1	51	42	20.4	-	-	-	-
五戸町	2	105	93	27.7	-	-	-	-	-	-	-	-
田子町	1	50	33	25.5	1	29	18	13.9	-	-	-	-
南部町	2	100	70	19.4	2	170	97	26.9	-	-	-	-
階上町	2	114	78	40.4	-	-	-	-	-	-	-	-
新郷村	-	-	-	-	1	50	40	58.7	-	-	-	-

出所：厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」、総務省「国勢調査」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ③ 構成市町の介護施設数・定員数・介護職員数、75歳以上人口千人あたりの人数

構成市町の介護施設数・定員数・介護職員数、75歳以上人口千人あたりの人数(平成29年)

備後圏域

	介護老人福祉施設				介護老人保健施設				介護療養型医療施設			
	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数	施設数	定員	常勤換算従事者数	75歳以上人口千人あたり従事者数
三原市	6	388	227	13.9	6	559	327	20.1	3	115	96	5.9
尾道市	11	654	402	16.6	10	682	436	18.0	4	66	72	3.0
福山市	22	1294	839	14.5	13	983	655	11.3	9	233	189	3.3
府中市	5	235	157	21.0	3	238	205	27.5	-	-	-	-
世羅町	2	124	78	20.3	1	142	83	21.7	-	-	-	-
神石高原町	2	104	75	26.9	1	83	44	15.8	-	-	-	-
笠岡市	4	360	237	25.1	6	500	284	30.1	1	60	57	6.0
井原市	5	340	218	27.9	-	-	-	-	1	27	22	2.8

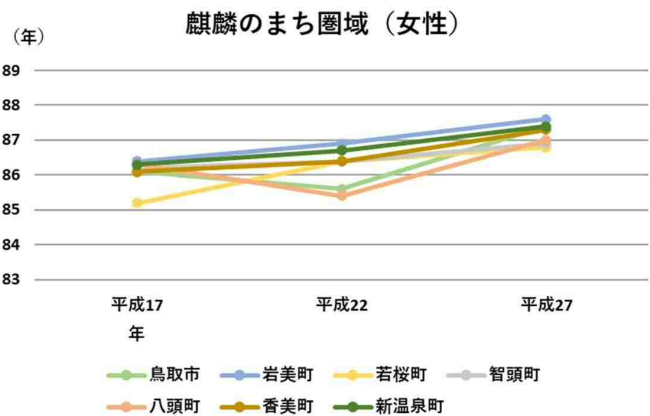
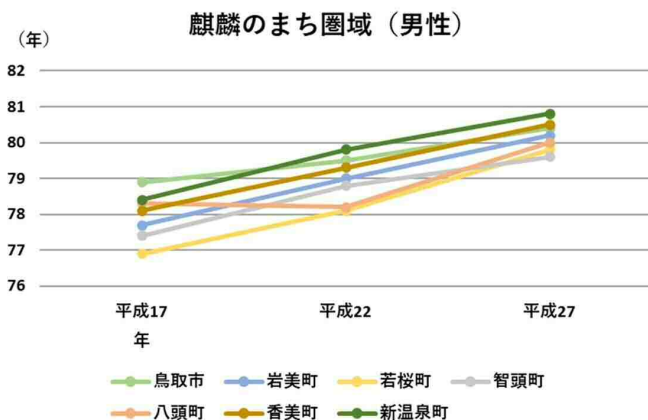
出所：厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」、総務省「国勢調査」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ④ 圏域の平均寿命の推移

- いずれの市町・性別においても、平均寿命は近年、長くなる傾向にあります。
- 男性より女性の平均寿命の方が長くなっています。

圏域の平均寿命の推移(男性)

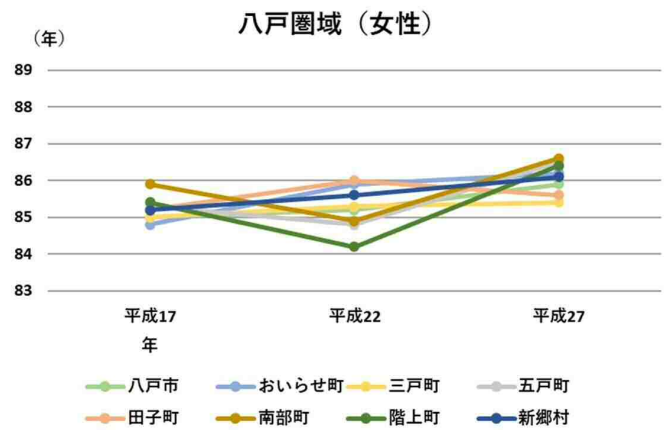
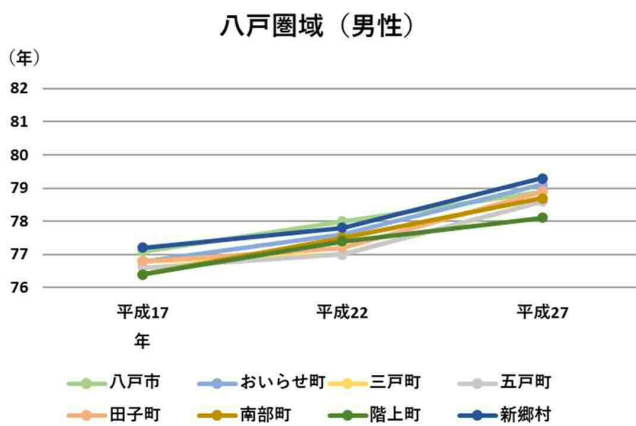


出所：厚生労働省「市区町村別生命表」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ④圏域の平均寿命の推移

圏域の平均寿命の推移(男性)

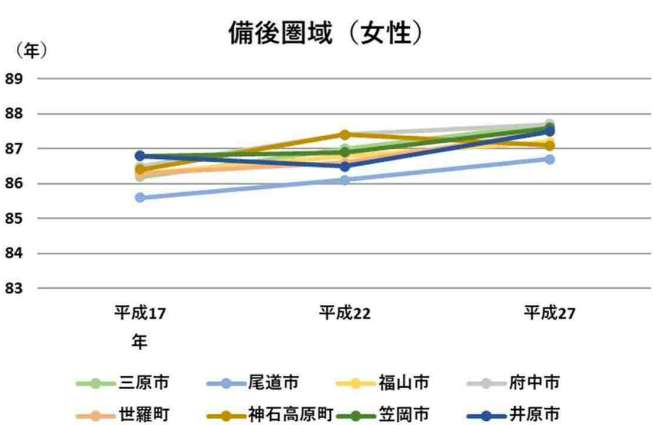
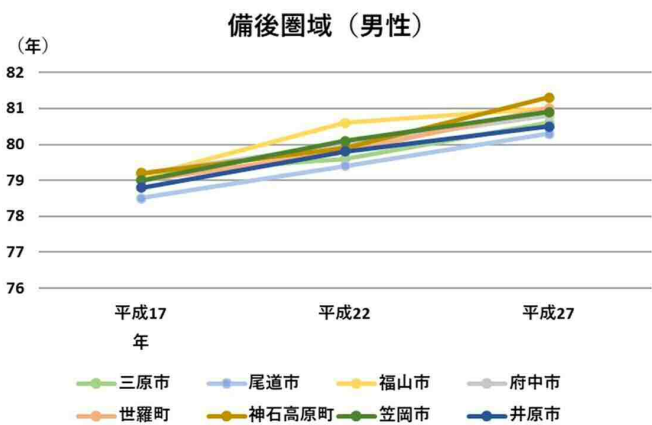


出所:厚生労働省「市区町村別生命表」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ④圏域の平均寿命の推移

圏域の平均寿命の推移(女性)



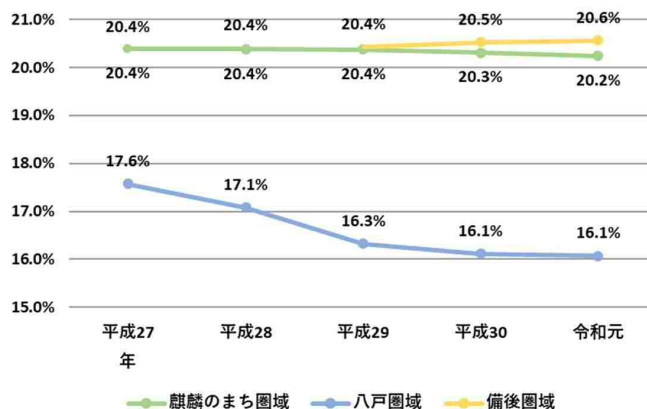
出所:厚生労働省「市区町村別生命表」

## 2-4 医療の動向

### 2-4-1 圏域医療の比較 ⑤圏域の要介護(要支援)認定者数・認定率の推移

- 要介護(要支援)認定率は、麒麟のまち圏域および八戸圏域では減少傾向にある一方、備後圏域では増加傾向にあります。
- 令和元年の要介護(要支援)認定率は、備後圏域が20.6%と最も高く、次いで、麒麟のまち圏域(20.2%)、八戸圏域(16.1%)となっています。

圏域の要介護(要支援)認定者数・認定率の推移



出所:厚生労働省「介護保険事業状況報告」



### 3 麒麟のまち圏域住民アンケート調査結果

#### 3-1 住民アンケート実施概要

- 麒麟のまち圏域住民の都市機能や生活機能に対するニーズ等を把握するため、圏域住民を対象にアンケート調査を実施しました。
- 配布数は、各市町の特徴・ニーズ等を把握するため、人口比によらず圏域7市町で各600件、合計4,200件としました。
- 回収数は全体で1,719件、有効回収率は40.9%でした。

住民アンケート実施概要

項目	内容
調査対象	麒麟のまち圏域1市6町の18歳以上の住民 住民基本台帳より無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和3年10月6日～11月1日
配布数	4,200件(各市町600件×7市町)
有効回収数	1,719件(有効回収率40.9%)

今回調査(令和3年実施)結果

市町	配布数	回収数	回収率
鳥取市	600	229	38.2%
岩美町	600	227	37.8%
若桜町	600	264	44.0%
智頭町	600	253	42.2%
八頭町	600	207	34.5%
香美町	600	260	43.3%
新温泉町	600	265	44.2%
無回答	—	14	—
全体	4,200	1,719	40.9%

参考: 前回調査(平成28年実施)結果

市町	配布数	回収数	回収率
鳥取市	600	229	38.2%
岩美町	600	249	41.5%
若桜町	600	278	46.3%
智頭町	600	245	40.8%
八頭町	600	244	40.7%
香美町	600	282	47.0%
新温泉町	600	239	39.8%
無回答	—	2	—
全体	4,200	1,768	42.1%

#### 3-2 回答者の属性

- 回答者の性別は、いずれの市町においても、「女性」が「男性」を上回っています。
- 回答者の年齢は、鳥取市、岩美町、智頭町、八頭町、新温泉町では「60～69歳」が最も多く、次いで「70～79歳」となっています。一方で、若桜町、香美町では「70～79歳」が最も多く、次いで「60～69歳」となっています。
- 鳥取市では、39歳以下の回答率が他の町に比べて高くなっています。

性別

	鳥取市		岩美町		若桜町		智頭町		八頭町		香美町		新温泉町		圏域全体	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
男性	94	41.0%	95	41.9%	112	42.4%	108	42.7%	88	42.5%	115	44.2%	114	43.0%	726	42.6%
女性	123	53.7%	121	52.8%	127	55.5%	127	55.5%	99	43.2%	128	55.9%	132	57.6%	857	50.3%
その他	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
無回答	11	4.8%	11	4.8%	25	10.9%	18	7.9%	20	8.7%	17	7.4%	19	8.3%	121	7.1%
計	229	100.0%	227	99.1%	264	115.3%	253	110.5%	207	90.4%	260	113.5%	265	115.7%	1,705	100.0%

年齢別

	鳥取市		岩美町		若桜町		智頭町		八頭町		香美町		新温泉町		圏域全体	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
29歳以下	22	9.6%	10	4.4%	13	4.9%	12	4.7%	11	5.3%	10	3.8%	13	4.9%	91	5.3%
30～39歳	33	14.4%	20	8.8%	22	8.3%	11	4.3%	14	6.8%	11	4.2%	21	7.9%	132	7.7%
40～49歳	33	14.4%	31	13.7%	28	10.6%	17	6.7%	25	12.1%	32	12.3%	39	14.7%	205	12.0%
50～59歳	33	14.4%	29	12.8%	33	12.5%	36	14.2%	27	13.0%	51	19.6%	36	13.6%	245	14.4%
60～69歳	48	21.0%	80	35.2%	79	29.9%	70	27.7%	62	30.0%	50	19.2%	66	24.9%	455	26.7%
70～79歳	42	18.3%	54	23.8%	84	31.8%	60	23.7%	44	21.3%	60	23.1%	54	20.4%	398	23.3%
80歳以上	16	7.0%	1	0.4%	4	1.5%	43	17.0%	24	11.6%	46	17.7%	33	12.5%	167	9.8%
無回答	2	0.9%	2	0.9%	1	0.4%	4	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%	12	0.7%
計	229	100.0%	227	100.0%	264	100.0%	253	100.0%	207	100.0%	260	100.0%	265	100.0%	1,705	100.0%

### 3-2 回答者の属性

- 回答者の家族構成は、鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、新温泉町では、「親と子ども(2世代)」が最も多く、次いで「夫婦のみ」となっています。
- 一方、八頭町、香美町では、「親と子ども(2世代)」が最も多く、次いで「親と子どもと孫(3世代)」となっています。

#### 家族構成別

	鳥取市		岩美町		若桜町		智頭町		八頭町		香美町		新温泉町		圏域全体	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
単身	21	9.2%	29	12.8%	24	9.1%	32	12.6%	20	9.7%	20	7.7%	22	8.3%	168	9.9%
夫婦のみ	65	28.4%	58	25.6%	78	29.5%	55	21.7%	41	19.8%	61	23.5%	57	21.5%	415	24.3%
親と子ども(2世代)	100	43.7%	95	41.9%	100	37.9%	87	34.4%	81	39.1%	92	35.4%	102	38.5%	657	38.5%
親と子どもと孫(3世代)	26	11.4%	25	11.0%	45	17.0%	51	20.2%	44	21.3%	64	24.6%	52	19.6%	307	18.0%
その他	14	6.1%	20	8.8%	11	4.2%	21	8.3%	16	7.7%	21	8.1%	27	10.2%	130	7.6%
無回答	3	1.3%	0	0.0%	6	2.3%	7	2.8%	5	2.4%	2	0.8%	5	1.9%	28	1.6%
計	229	100.0%	227	100.0%	264	100.0%	253	100.0%	207	100.0%	260	100.0%	265	100.0%	1,705	100.0%

### 3-2 回答者の属性

- 回答者の職業は、鳥取市、岩美町、若桜町、八頭町、新温泉町では「会社員・公務員・団体職員」が最も多く、次いで「無職」となっています。智頭町では「無職」が最も多く、次いで「会社員・公務員・団体職員」となっています。また、香美町では「会社員・公務員・団体職員」と「無職」が同数となっています。

#### 職業別

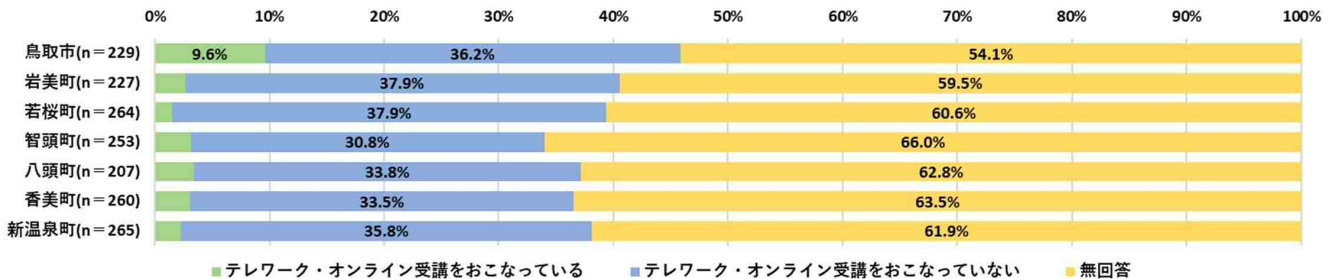
	鳥取市		岩美町		若桜町		智頭町		八頭町		香美町		新温泉町		圏域全体	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
農林水産業	6	2.6%	20	8.8%	13	4.9%	21	8.3%	22	10.6%	11	4.2%	18	6.8%	111	6.5%
自営業	12	5.2%	15	6.6%	23	8.7%	25	9.9%	11	5.3%	29	11.2%	21	7.9%	136	8.0%
会社員・公務員・団体職員	79	34.5%	60	26.4%	76	28.8%	59	23.3%	58	28.0%	74	28.5%	65	24.5%	471	27.6%
会社・団体役員	8	3.5%	7	3.1%	10	3.8%	12	4.7%	6	2.9%	7	2.7%	11	4.2%	61	3.6%
パート・アルバイト	26	11.4%	30	13.2%	31	11.7%	26	10.3%	18	8.7%	26	10.0%	32	12.1%	189	11.1%
主婦・主夫	35	15.3%	30	13.2%	25	9.5%	20	7.9%	21	10.1%	27	10.4%	32	12.1%	190	11.1%
学生	7	3.1%	2	0.9%	2	0.8%	2	0.8%	3	1.4%	4	1.5%	2	0.8%	22	1.3%
無職	47	20.5%	53	23.3%	65	24.6%	71	28.1%	57	27.5%	74	28.5%	64	24.2%	431	25.3%
その他	4	1.7%	5	2.2%	9	3.4%	7	2.8%	7	3.4%	3	1.2%	10	3.8%	45	2.6%
無回答	5	2.2%	5	2.2%	10	3.8%	10	4.0%	4	1.9%	5	1.9%	10	3.8%	49	2.9%
計	229	100.0%	227	100.0%	264	100.0%	253	100.0%	207	100.0%	260	100.0%	265	100.0%	1,705	100.0%

### 3-3 住民の通勤・通学等の状況

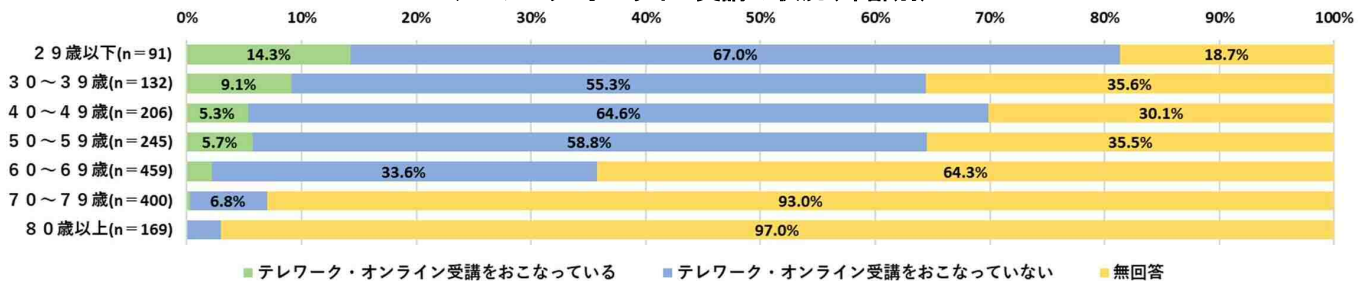
#### 3-3-1 テレワーク・オンライン受講の状況

- 圏域住民にテレワーク・オンライン受講の状況を聞いたところ、いずれの市町においても「テレワーク・オンライン受講をおこなっていない」が「テレワーク・オンライン受講をおこなっている」を上回りました。また、テレワーク・オンライン受講を行っている割合が最も多いのは「鳥取市」となっています。
- 年齢別では、いずれの年代も「テレワーク・オンライン受講をおこなっていない」が「テレワーク・オンライン受講をおこなっている」を上回りました。また、テレワーク・オンライン受講をおこなっているのは「29歳以下」が最も多く、次いで「30～39歳」となっており、若い世代ほどテレワーク・オンライン受講をおこなっている比率が高くなっています。

テレワーク・オンライン受講の状況(居住地別)



テレワーク・オンライン受講の状況(年齢別)

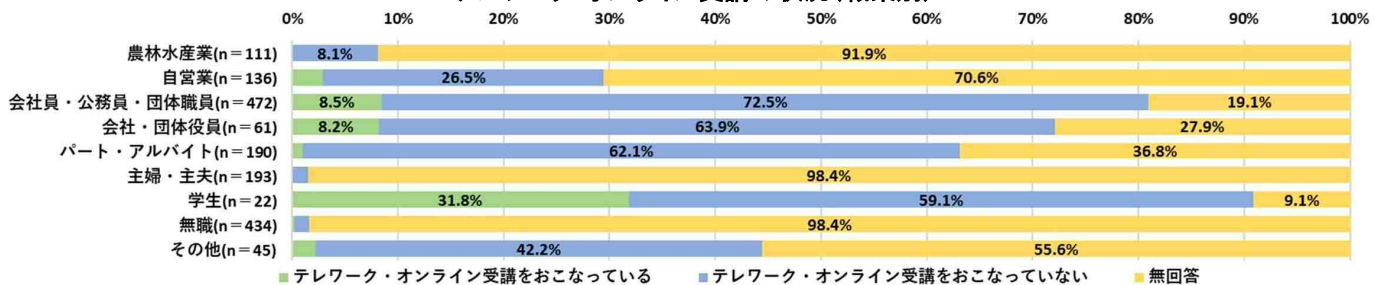


### 3-3 住民の通勤・通学等の状況

#### 3-3-1 テレワーク・オンライン受講の状況

- テレワーク・オンライン受講の実施状況を職業別にみると、いずれの職業も「テレワーク・オンライン受講をおこなっていない」が「テレワーク・オンライン受講をおこなっている」を上回りました。また、テレワーク・オンライン受講しているのは「学生」が最も多く、次いで「会社員・公務員・団体職員」、「会社・団体役員」となっています。また、「農林水産業」では「テレワーク・オンライン受講をおこなっている」回答者はいませんでした。

テレワーク・オンライン受講の状況(職業別)

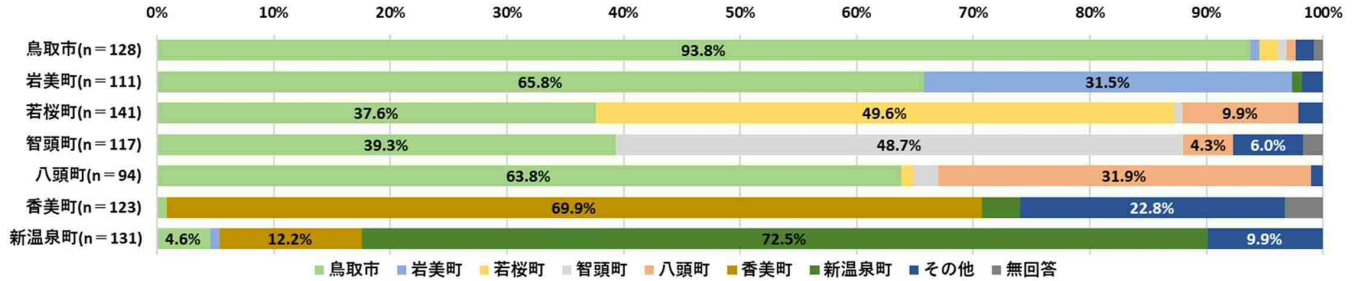


### 3-3 住民の通勤・通学等の状況

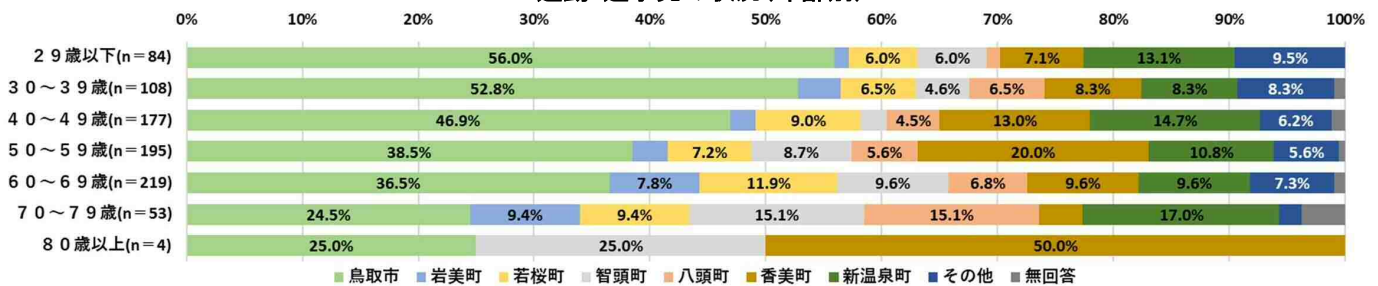
#### 3-3-2 通勤・通学先

- 圏域住民に通勤・通学先を聞いたところ、鳥取県東部の4町では居住地と並んで「鳥取市」への通勤通学割合が高くなっています。一方、兵庫県北但西部の2町からは「鳥取市」への通勤通学割合が低くなっています。
- 年齢別では、79歳以下のいずれの年代でも「鳥取市」への通勤通学割合が高くなっており、若い年代ほど「鳥取市」への通勤通学割合が高くなっています。

通勤・通学先の状況(居住地別)



通勤・通学先の状況(年齢別)

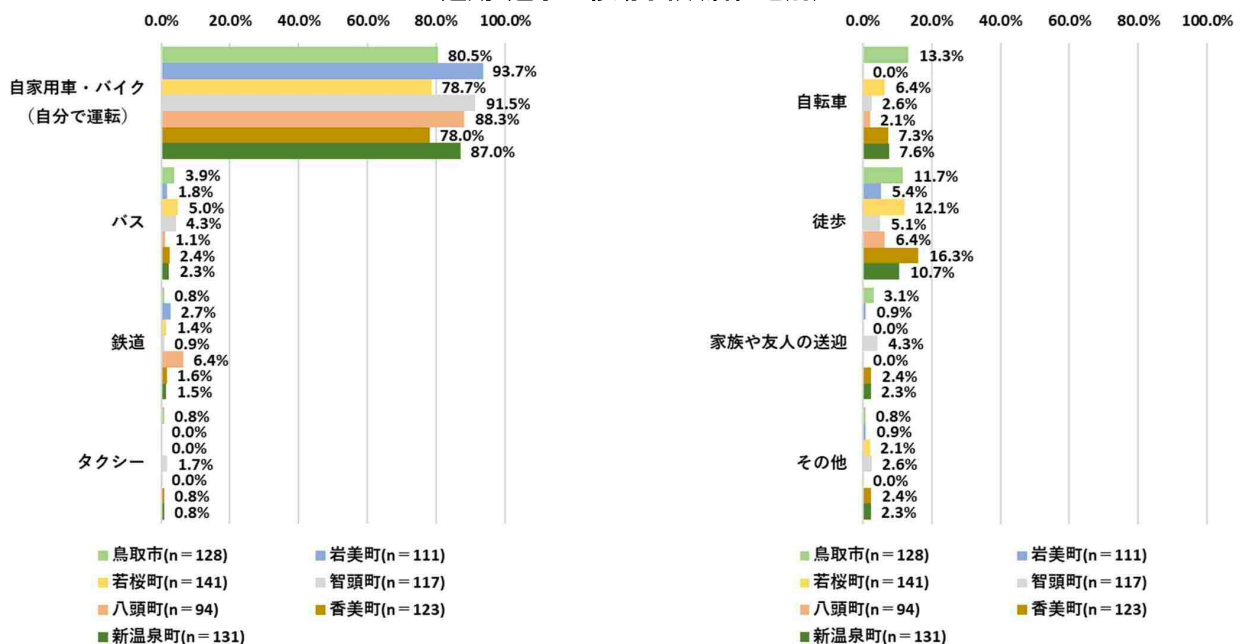


### 3-3 住民の通勤・通学等の状況

#### 3-3-3 通勤・通学の際の移動手段

- 圏域住民に通勤・通学先までの交通手段を聞いたところ、いずれの市町でも「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も多くなっています。

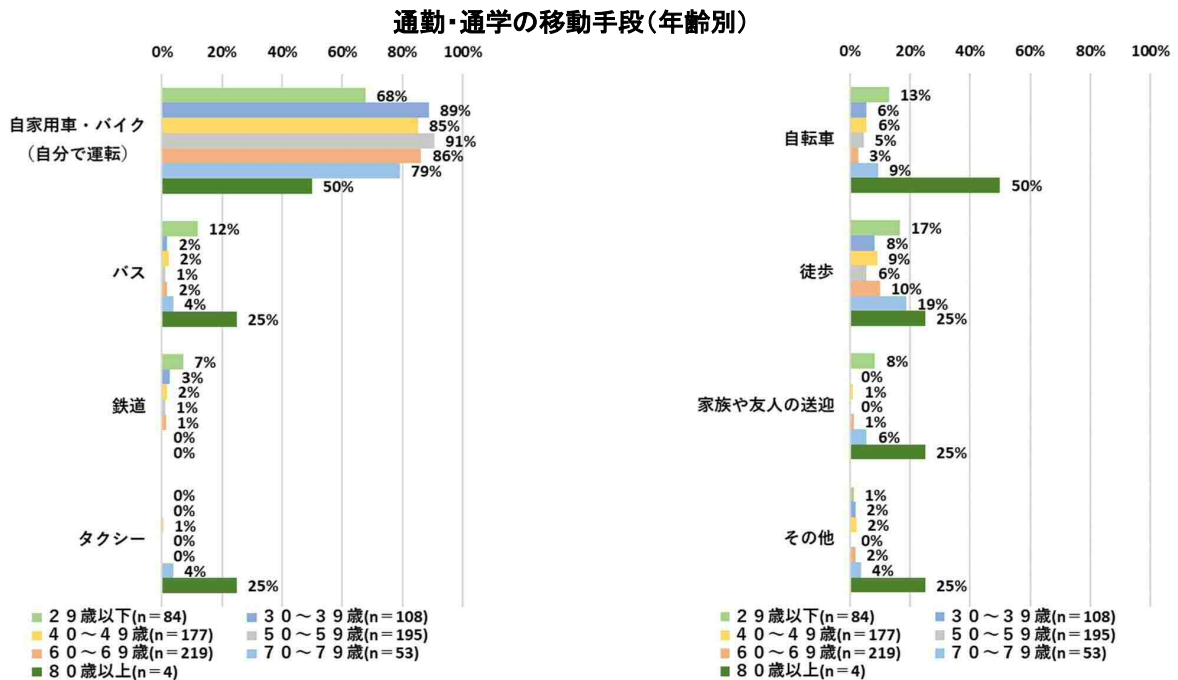
通勤・通学の移動手段(居住地別)



### 3-3 住民の通勤・通学等の状況

#### 3-3-3 通勤・通学の際の移動手段

■ 圏域住民に聞いた通勤・通学先までの交通手段を年齢別にみると、いずれの年代でも「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も多くなっていますが、29歳以下では、「バス」、「鉄道」、「自転車」、「徒歩」等自家用車以外の移動手段を利用する割合もほかの年代よりも多くなっています。

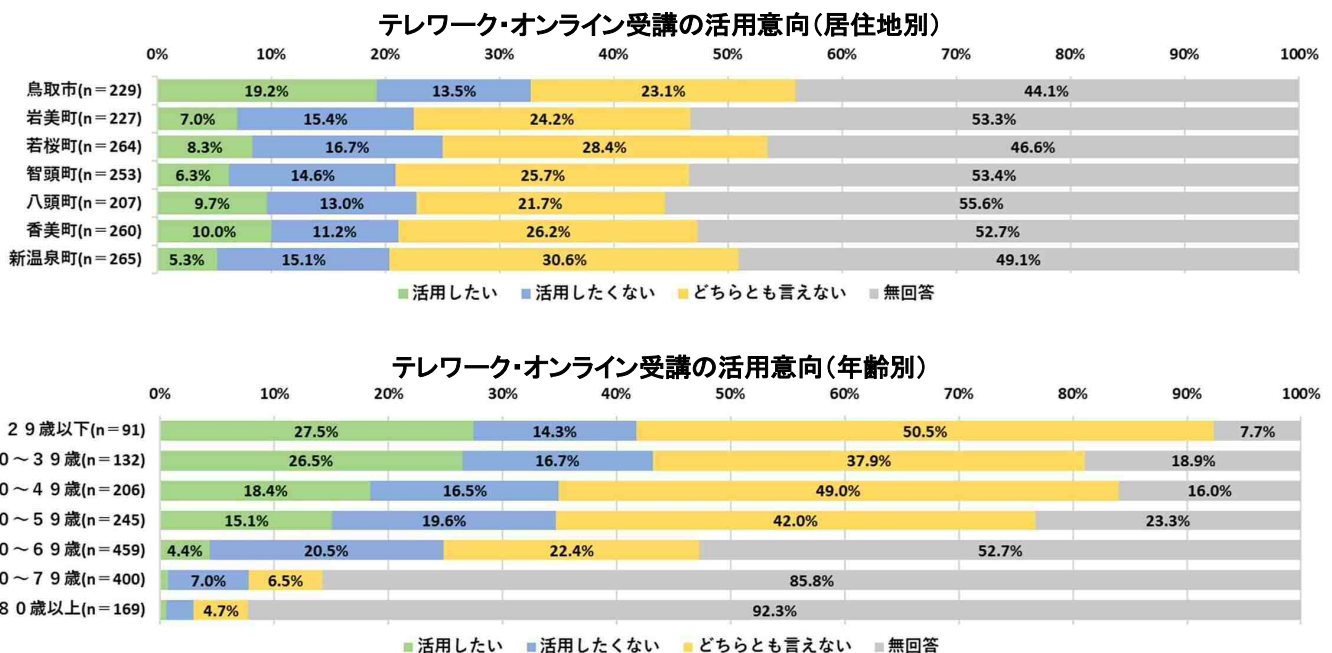


### 3-3 住民の通勤・通学等の状況

#### 3-3-4 テレワーク・オンライン受講の活用意向

■ 圏域住民にテレワーク・オンライン受講の今後の活用意向を聞いたところ、いずれの市町でも、「無回答」を除いた場合、「どちらとも言えない」が最も多くなっています。ただし、鳥取市では「活用したい」が「活用したくない」を上回っています。

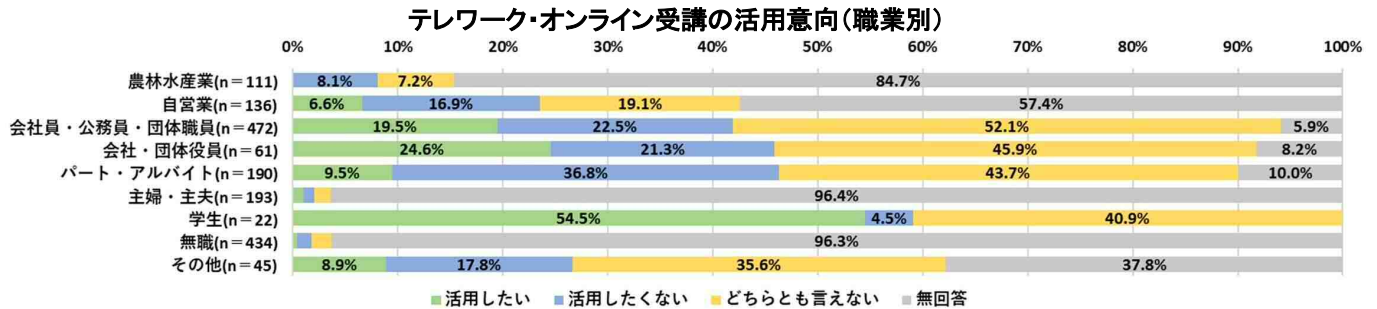
■ 年齢別では、49歳以下の年代で「活用したい」が「活用したくない」を上回っており、若い世代ほど「活用したい」の割合が高い傾向にあります。



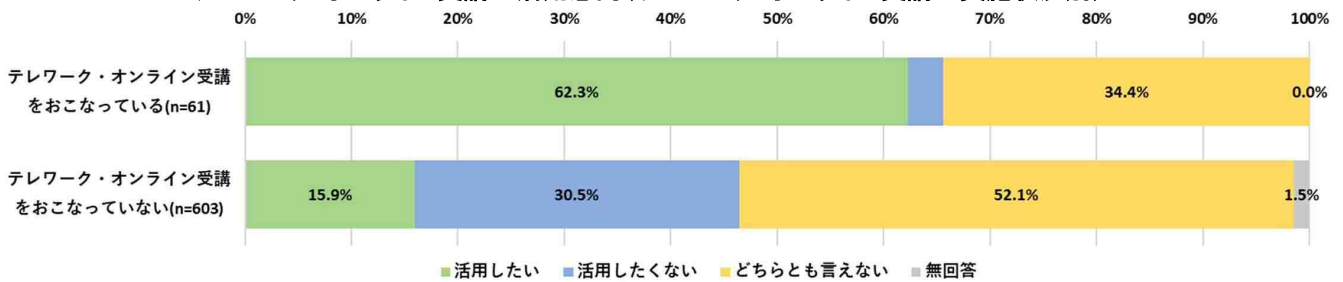
### 3-3 住民の通勤・通学等の状況

#### 3-3-4 テレワーク・オンライン受講の活用意向

- 職業別では、「活用したい」と回答した職業は「学生」の割合が最も多く、次いで「会社・団体役員」、「会社員・公務員・団体職員」となっています。
- テレワーク・オンライン受講の実施状況別では、テレワーク・オンライン受講をおこなっている回答者は「活用したい」の割合が「活用したくない」を大きく上回っています。一方で、テレワーク・オンライン受講をおこなっていない回答者では「活用したい」の割合は「活用したくない」の割合を下回っています。



テレワーク・オンライン受講の活用意向(テレワーク・オンライン受講の実施状況別)



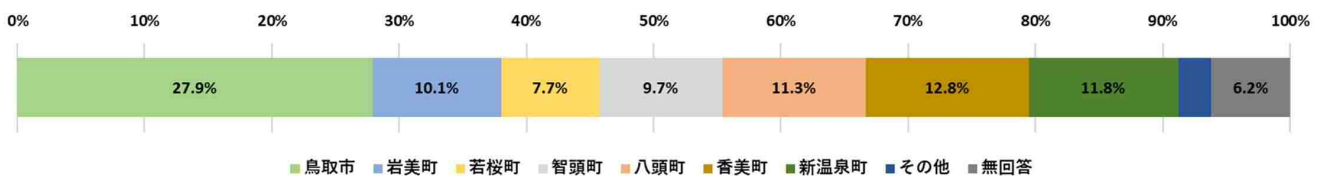
### 3-4 住民の購買行動

#### 3-4-1 食料品・日用品 ①主な購入場所(市町)

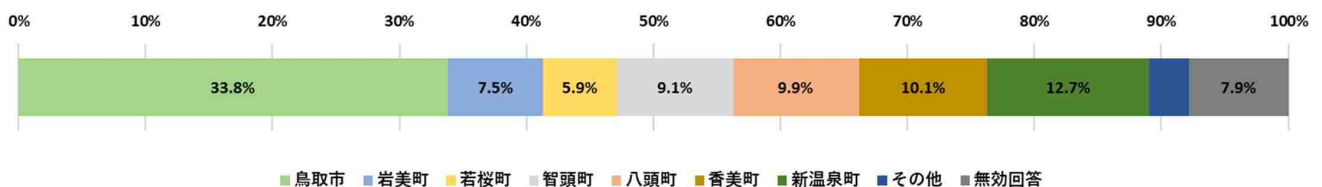
- 圏域住民に「食料品・日用品」の主な購入場所(市町)について聞きました。
- 主な購入場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が5.9%上昇しました。次いで割合の高い市町は「新温泉町」であり、前回調査時よりも割合が0.9%上昇しました。

食料品・日用品の主な購入場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

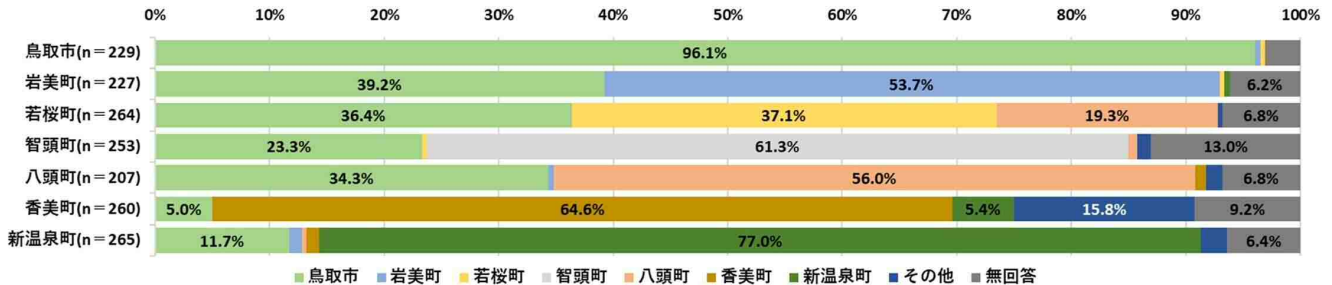


### 3-4 住民の購買行動

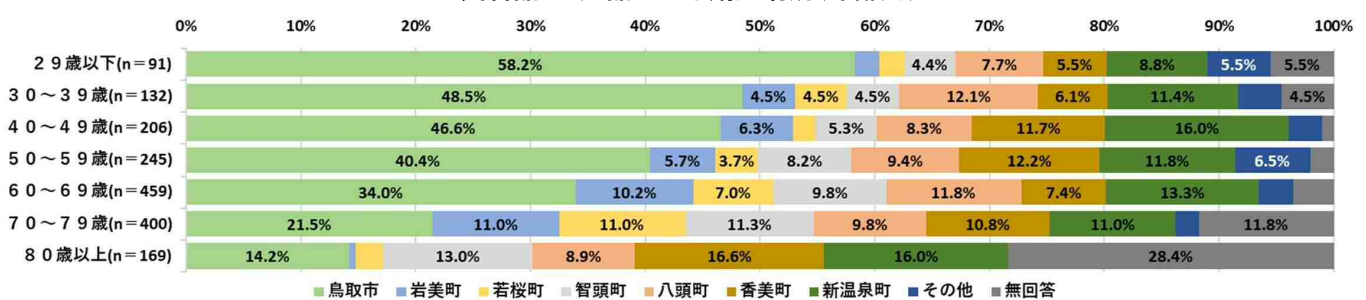
#### 3-4-1 食料品・日用品 ①主な購入場所(市町)

- 食品・日用品の主な購入場所を居住地別にみると、それぞれの居住地で購入する割合が最も高く、香美町を除き、その次は「鳥取市」の割合が高くなっています。
- 年齢別にみると、主な購入場所が「鳥取市」である割合は若い世代ほど高くなる傾向にあり、29歳以下の主な購入場所が「鳥取市」の割合が高く、50%を超えています。

食料品・日用品の主な購入場所(居住地別)



食料品・日用品の主な購入場所(年齢別)

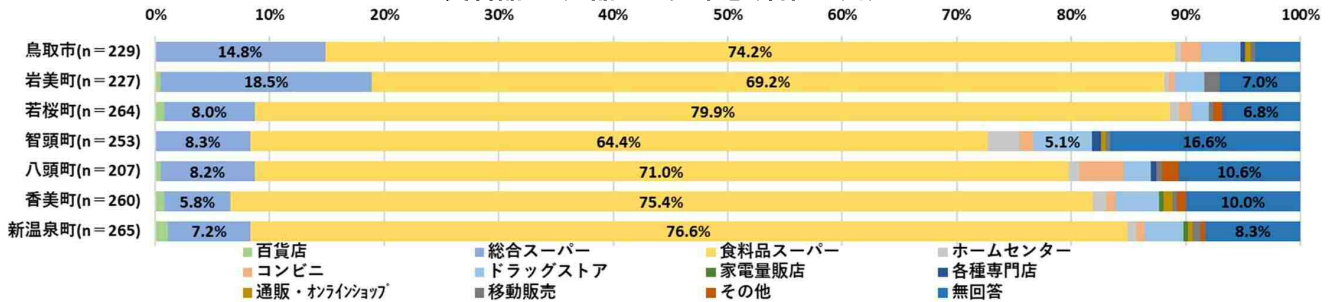


### 3-4 住民の購買行動

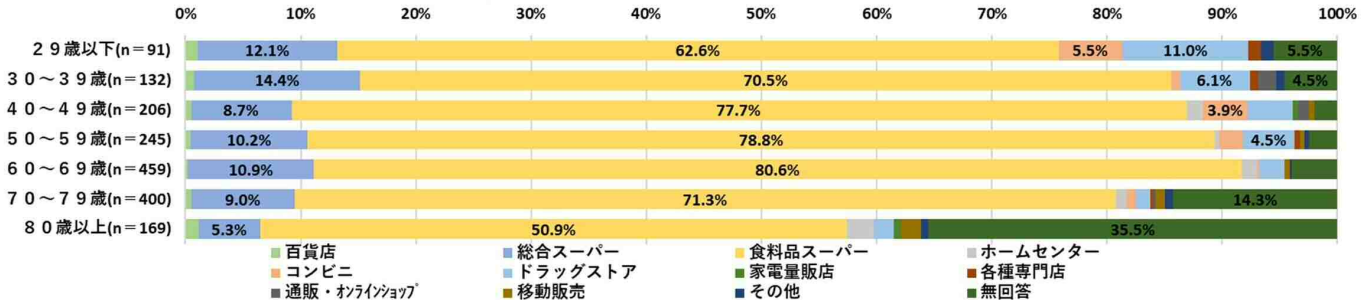
#### 3-4-1 食料品・日用品 ②小売業態

- 圏域住民に「食料品・日用品」の購入先の小売業態について聞きました。
- 食品・日用品の購入先の小売業態について、居住地別にみると、いずれの市町においても「食料品スーパー」の割合が最も高く、概ね60%を超えています。
- 年齢別にみても、いずれの年代においても「食料品スーパー」の割合が最も高く、50%を超えています。

食料品・日用品の小売業態(居住地別)



食料品・日用品の小売業態(年齢別)

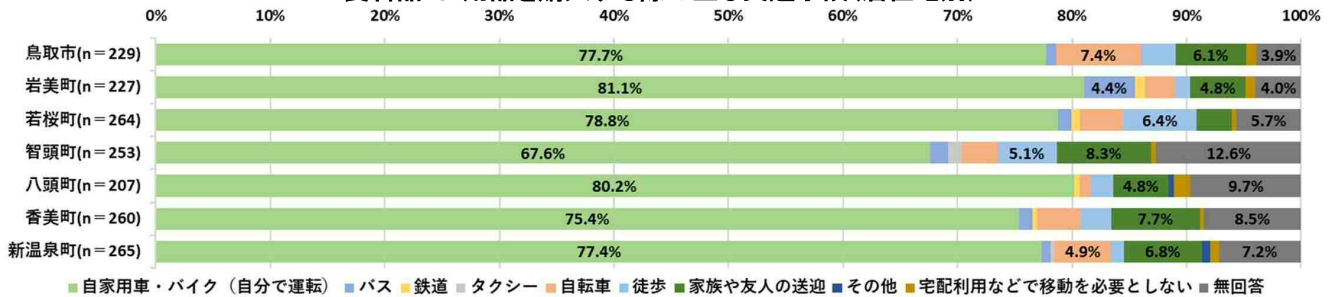


### 3-4 住民の購買行動

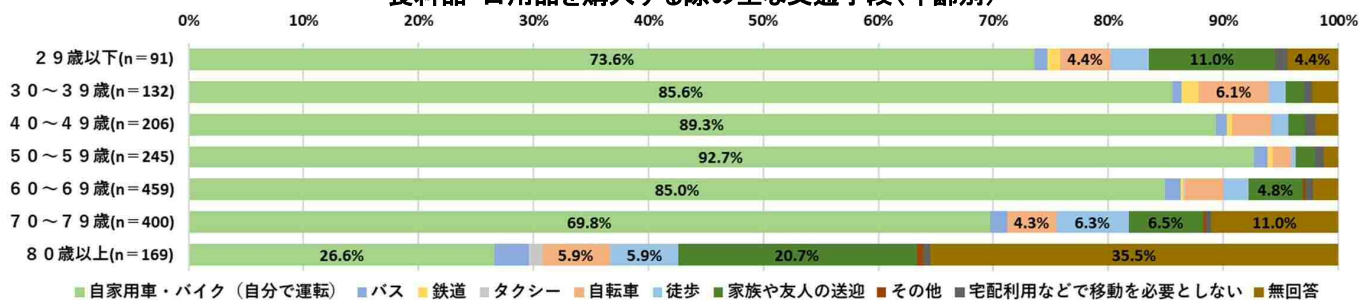
#### 3-4-1 食料品・日用品 ③主な交通手段

- 圏域住民に「食料品・日用品」を購入する際の主な交通手段について聞きました。
- 食料品・日用品を購入する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、60%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、概ね70%を超えています。また、80歳以上では「家族や友人の送迎」の割合が他の年齢と比較して高くなっています。

食料品・日用品を購入する際の主な交通手段(居住地別)



食料品・日用品を購入する際の主な交通手段(年齢別)



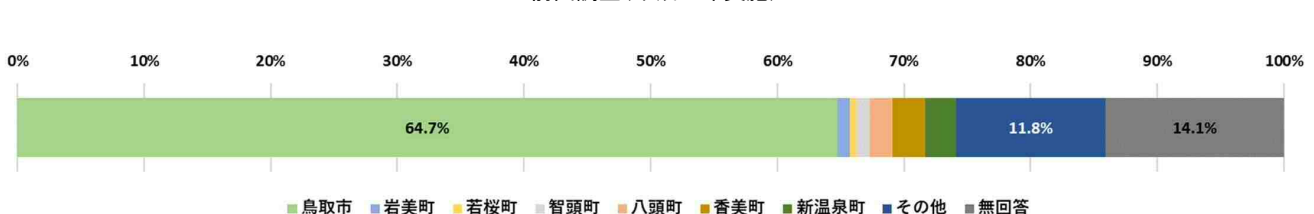
### 3-4 住民の購買行動

#### 3-4-2 衣料品 ①主な購入場所(市町)

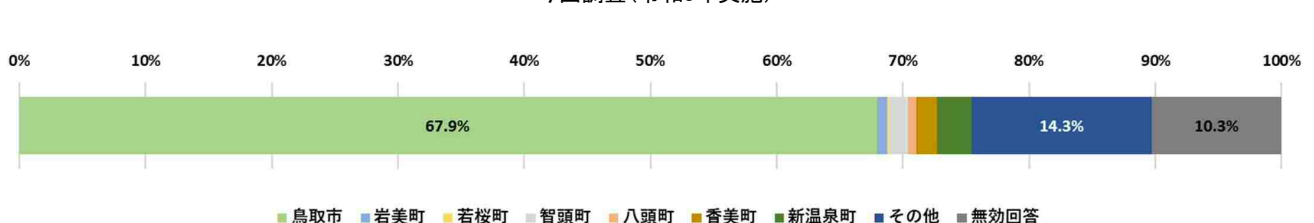
- 圏域住民に「衣料品」の主な購入場所(市町)について聞きました。
- 主な購入場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が3.2%上昇しました。次いで割合が高いのは「その他」であり、前回調査時よりも割合が2.5%上昇しました。

衣料品の主な購入場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)



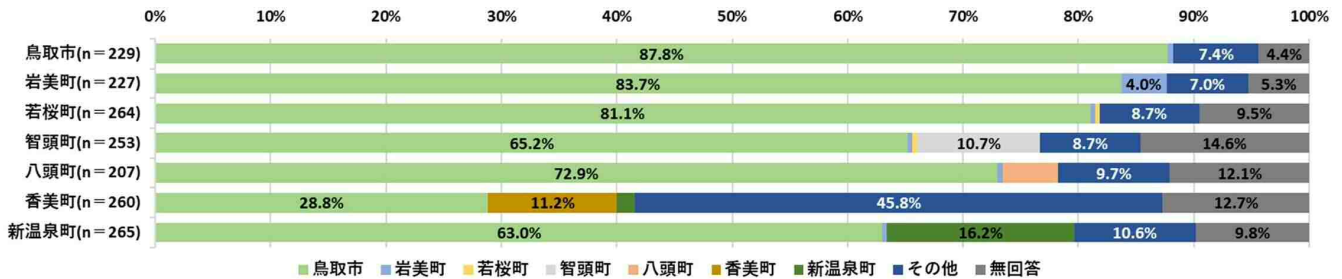


### 3-4 住民の購買行動

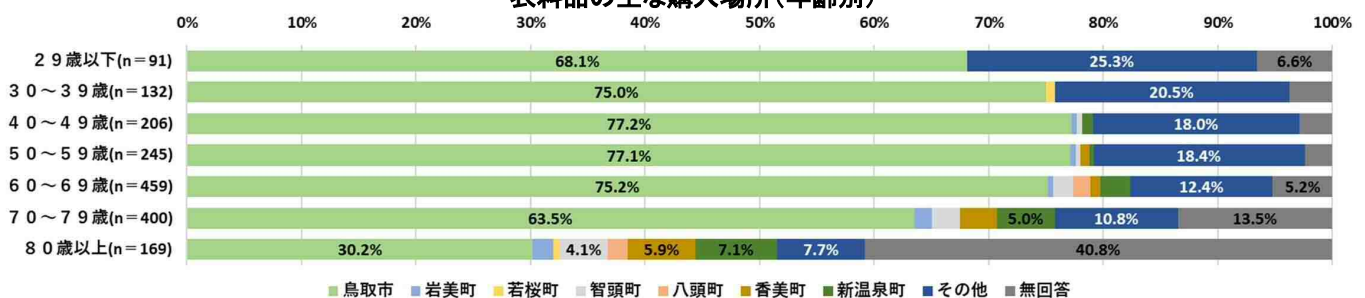
#### 3-4-2 衣料品 ①主な購入場所(市町)

- 衣料品の主な購入場所を居住地別にみると、香美町を除き、主な購入場所が「鳥取市」の割合が最も高く、60%を超えています。香美町の主な購入場所の割合は「その他」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、主な購入場所が「鳥取市」である割合が最も高く、60%を超えています。80歳以上の主な購入場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

衣料品の主な購入場所(居住地別)



衣料品の主な購入場所(年齢別)

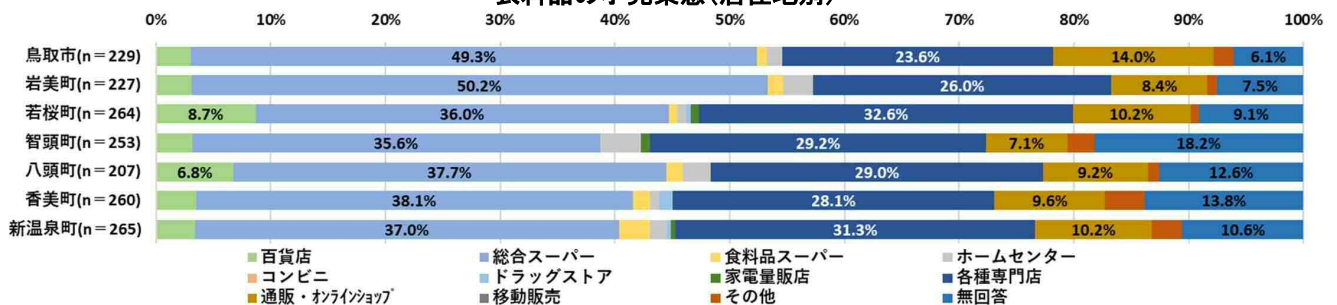


### 3-4 住民の購買行動

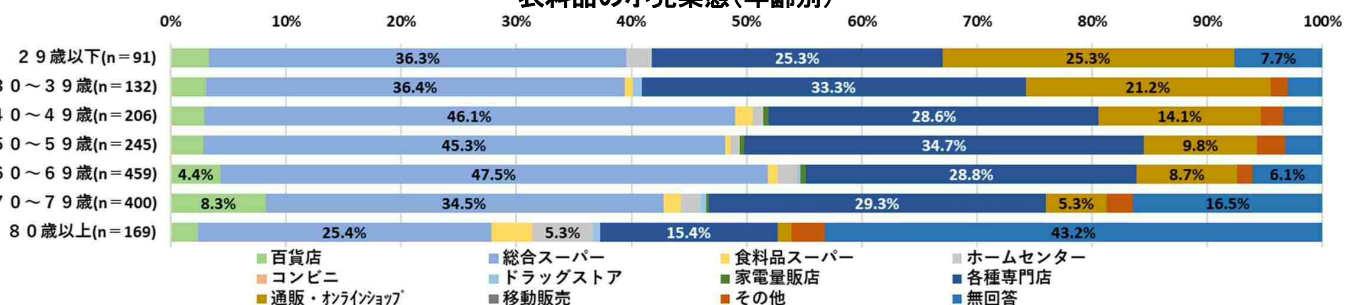
#### 3-4-2 衣料品 ②小売業態

- 圏域住民に「衣料品」の購入先の小売業態について聞きました。
- 衣料品の購入先の小売業態について、居住地別にみると、いずれの市町においても「総合スーパー」の割合が最も高く、次いで「各種専門店」となっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「総合スーパー」の割合が最も高くなっています。なお、年齢が若くなるほど「通販・オンラインショップ」の割合が高くなっています。

衣料品の小売業態(居住地別)



衣料品の小売業態(年齢別)

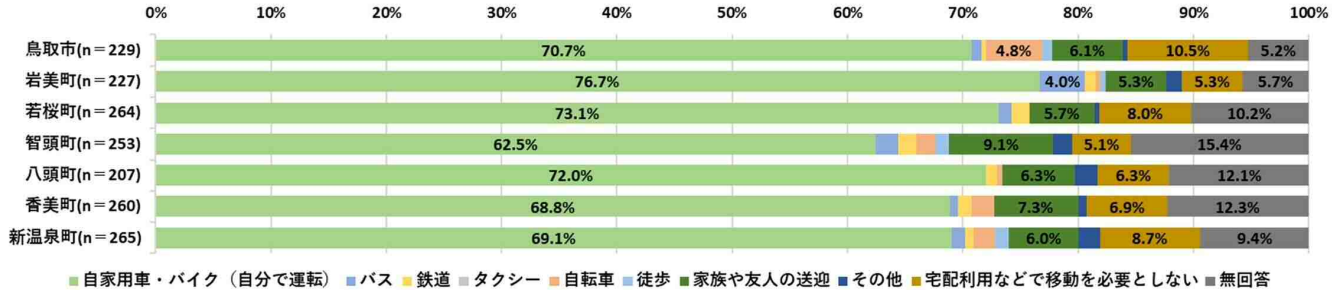


### 3-4 住民の購買行動

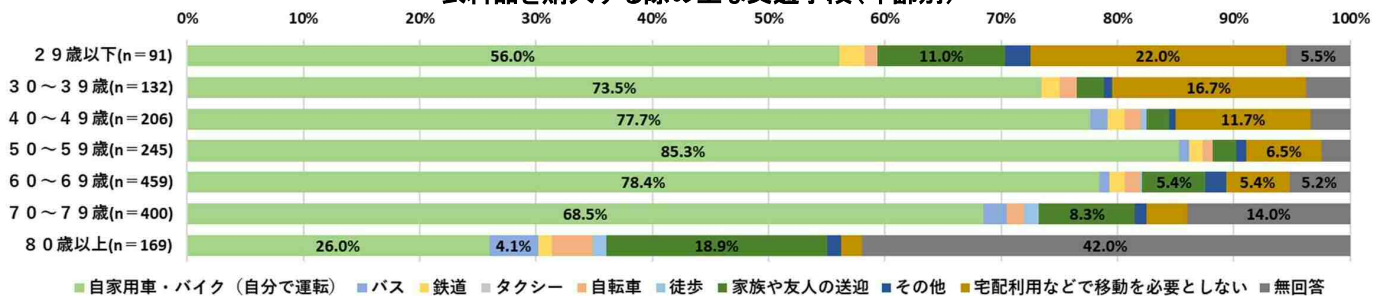
#### 3-4-2 衣料品 ③主な交通手段

- 圏域住民に「衣料品」を購入する際の主な交通手段について聞きました。
- 衣料品を購入する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、60%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、50%を超えています。また、80歳以上では「家族や友人の送迎」の割合が他の年齢と比較して高くなっています。

衣料品を購入する際の主な交通手段(居住地別)



衣料品を購入する際の主な交通手段(年齢別)



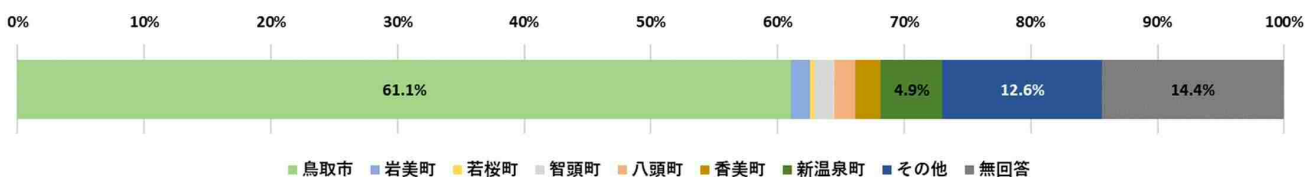
### 3-4 住民の購買行動

#### 3-4-3 家電製品 ①主な購入場所(市町)

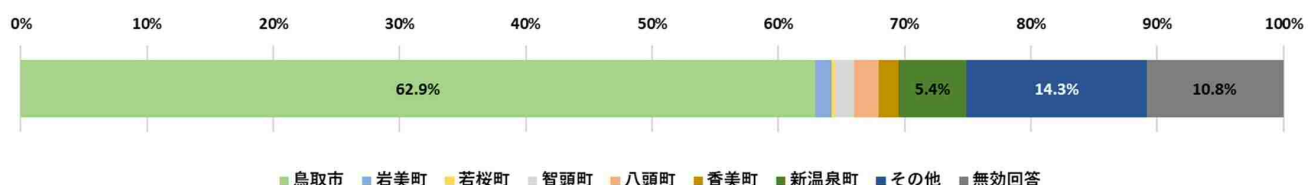
- 圏域住民に「家電製品」の主な購入場所(市町)について聞きました。
- 主な購入場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が1.8%上昇しました。次いで割合が高いのは「その他」であり、前回調査時よりも割合が1.7%上昇しました。

家電製品の主な購入場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

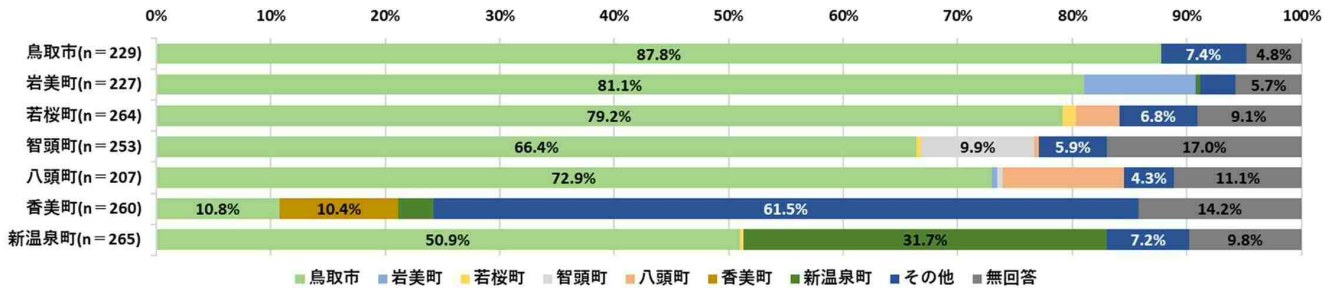


### 3-4 住民の購買行動

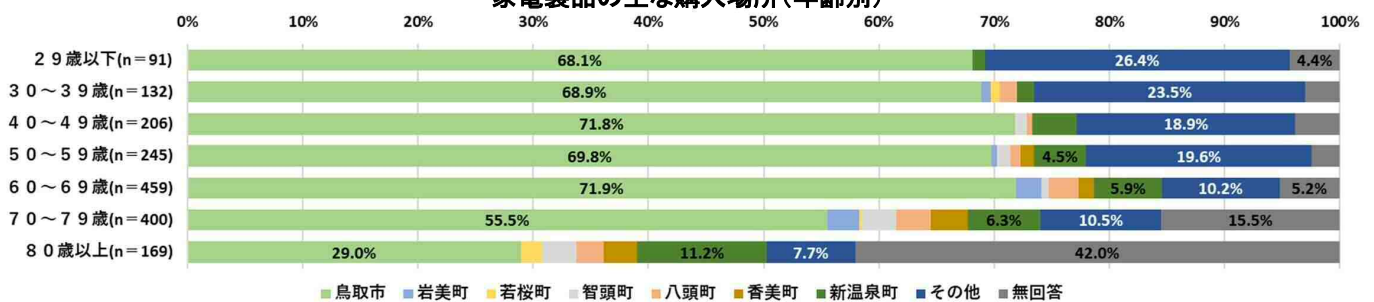
#### 3-4-3 家電製品 ①主な購入場所(市町)

- 家電製品の主な購入場所を居住地別にみると、香美町を除き、主な購入場所が「鳥取市」の割合が最も高く、50%を超えています。香美町の主な購入場所の割合は「その他」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、主な購入場所が「鳥取市」である割合が最も高く、50%を超えています。80歳以上の主な購入場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

家電製品の主な購入場所(居住地別)



家電製品の主な購入場所(年齢別)

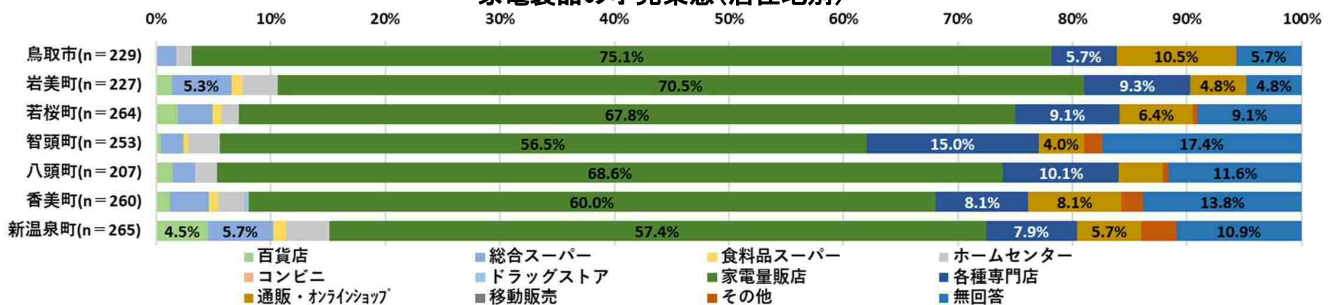


### 3-4 住民の購買行動

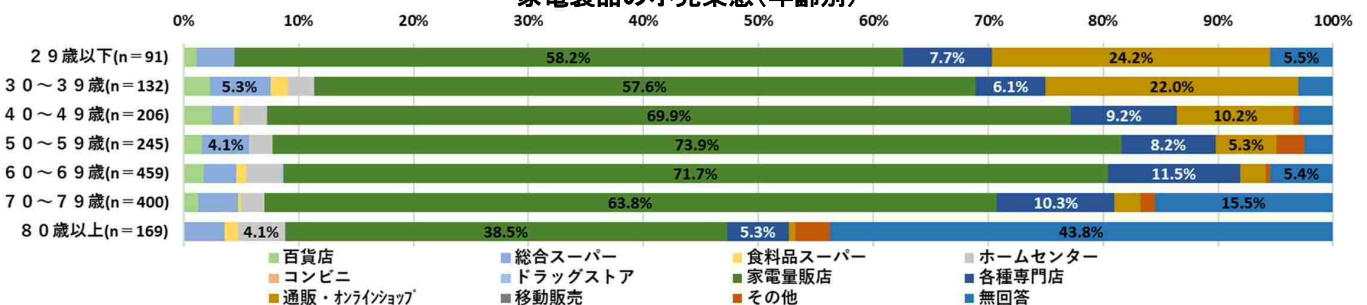
#### 3-4-3 家電製品 ②小売業態

- 圏域住民に「家電製品」の購入先の小売業態について聞きました。
- 家電製品の購入先の小売業態について、居住地別にみると、いずれの市町においても「家電量販店」の割合が最も高く、50%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以降を除き、「家電量販店」の割合が最も高くなっています。なお、年齢が若くなるほど「通販・オンラインショップ」の割合が高くなっています。

家電製品の小売業態(居住地別)



家電製品の小売業態(年齢別)

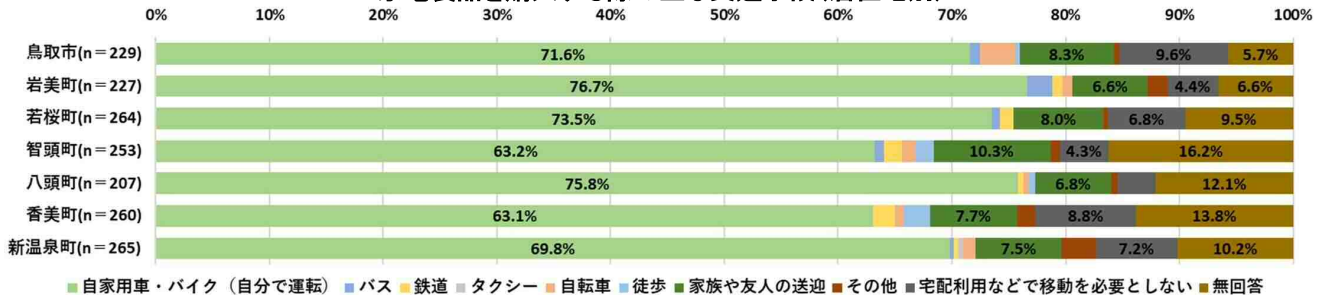


### 3-4 住民の購買行動

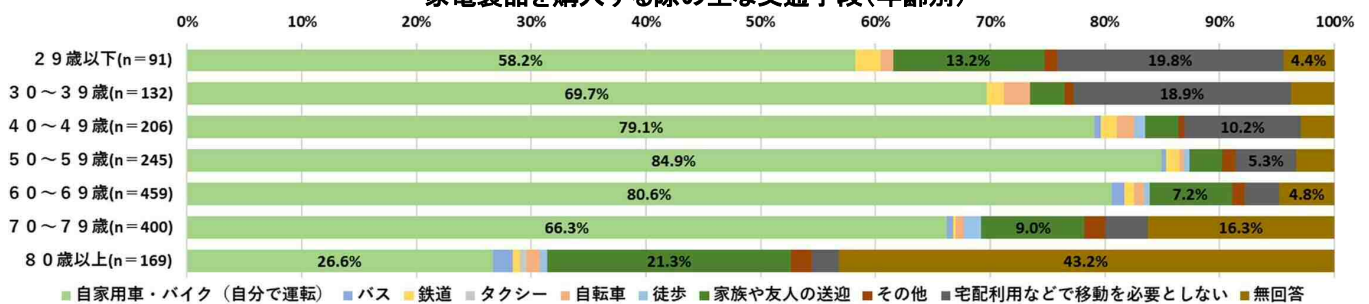
#### 3-4-3 家電製品 ③主な交通手段

- 圏域住民に「家電製品」を購入する際の主な交通手段について聞きました。
- 家電製品を購入する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、60%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、50%を超えています。また、80歳以上では「家族や友人の送迎」の割合が他の年齢と比較して高くなっています。

家電製品を購入する際の主な交通手段(居住地別)



家電製品を購入する際の主な交通手段(年齢別)



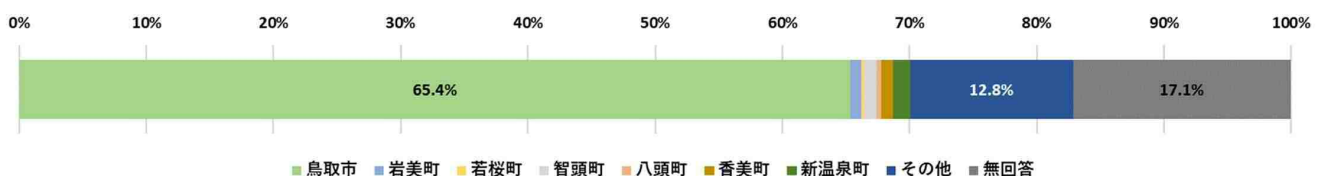
### 3-4 住民の購買行動

#### 3-4-4 家具類 ①主な購入場所(市町)

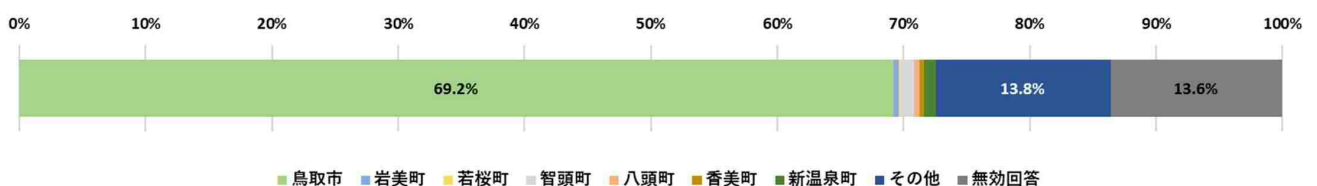
- 圏域住民に「家具類」の主な購入場所(市町)について聞きました。
- 主な購入場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が3.8%上昇しました。次いで割合が高いのは「その他」であり、前回調査時よりも割合が1.0%上昇しました。

家具類の主な購入場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

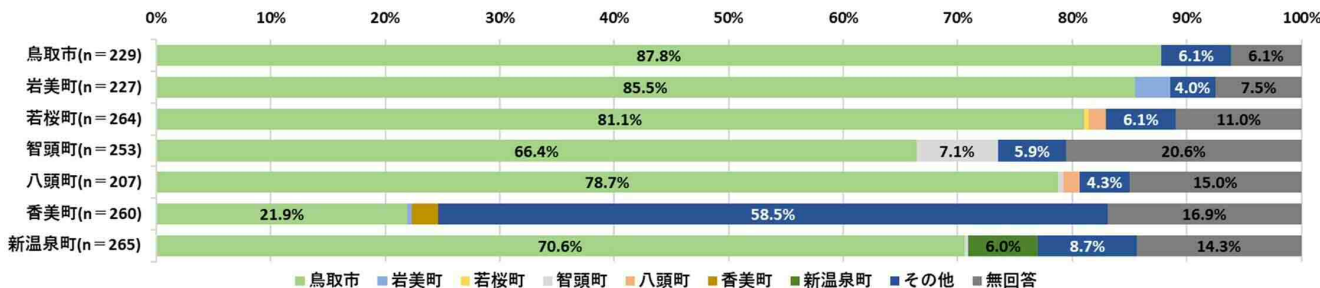


### 3-4 住民の購買行動

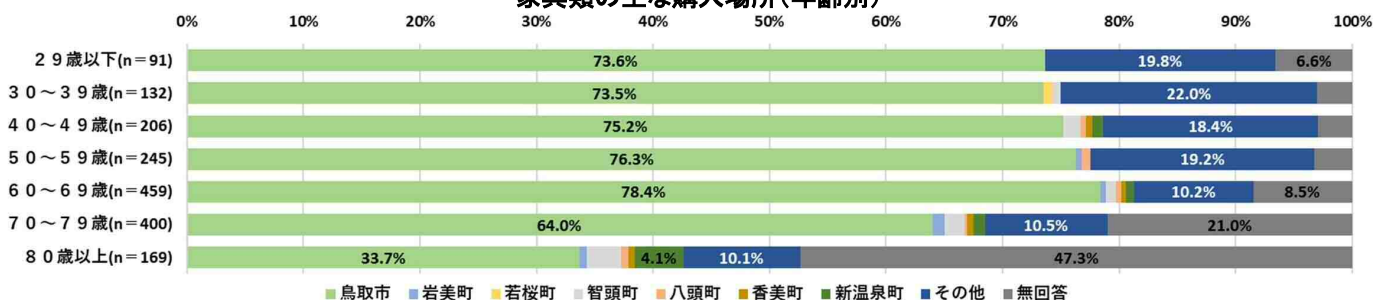
#### 3-4-4 家具類 ①主な購入場所(市町)

- 家具類の主な購入場所を居住地別にみると、香美町を除き、主な購入場所が「鳥取市」の割合が最も高く、60%を超えています。香美町の主な購入場所の割合は「その他」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、主な購入場所が「鳥取市」である割合が最も高く、60%を超えています。80歳以上の主な購入場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

家具類の主な購入場所(居住地別)



家具類の主な購入場所(年齢別)

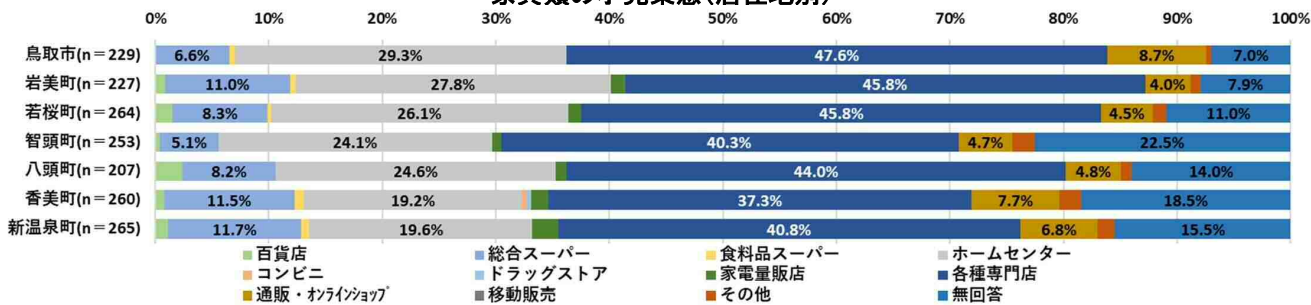


### 3-4 住民の購買行動

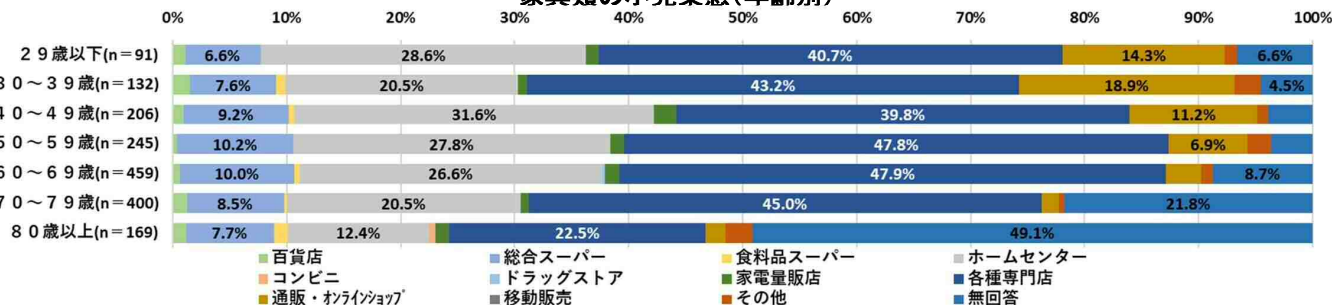
#### 3-4-4 家具類 ②小売業態

- 圏域住民に「家具類」の購入先の小売業態について聞きました。
- 家具類の購入先の小売業態について、居住地別にみると、いずれの市町においても「各種専門店」の割合が最も高く、次いで「ホームセンター」となっています。
- 年齢別にみると、69歳以下では「各種専門店」の割合が最も高く、次いで「ホームセンター」となっています。70~79歳では「各種専門店」の割合が最も高くなっています。なお、39歳以下の若い年齢層では「通販・オンラインショップ」の割合が高くなっています。

家具類の小売業態(居住地別)



家具類の小売業態(年齢別)

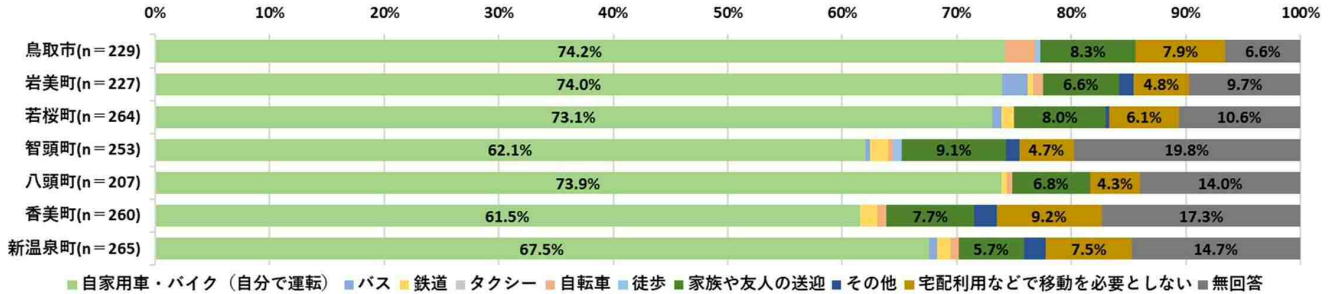


### 3-4 住民の購買行動

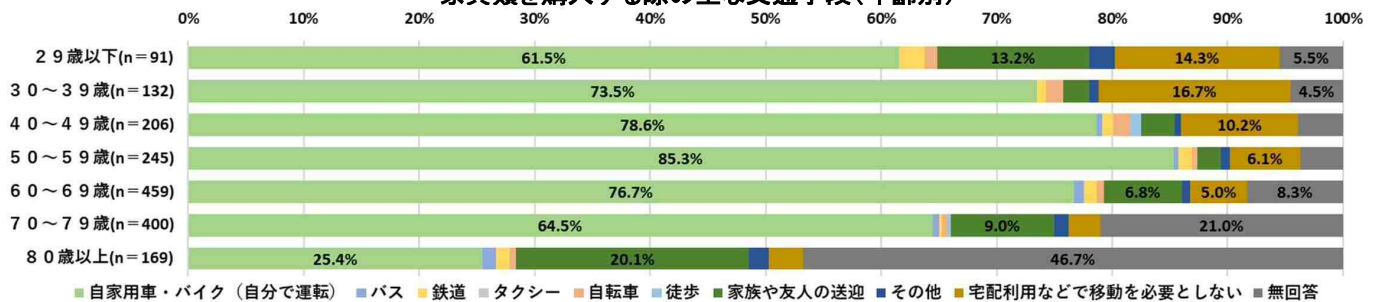
#### 3-4-4 家具類 ③主な交通手段

- 圏域住民に「家具類」を購入する際の主な交通手段について聞きました。
- 家具類を購入する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、60%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、60%を超えています。また、80歳以上では「家族や友人の送迎」の割合が他の年齢と比較して高くなっています。

家具類を購入する際の主な交通手段(居住地別)



家具類を購入する際の主な交通手段(年齢別)



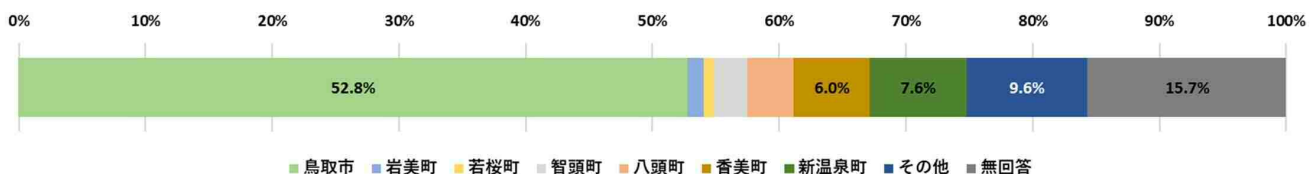
### 3-4 住民の購買行動

#### 3-4-5 贈答品 ①主な購入場所(市町)

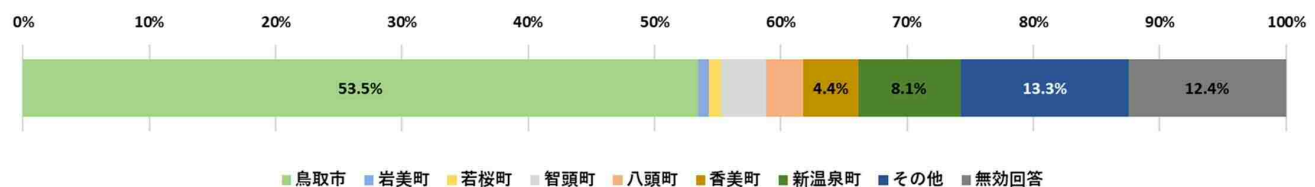
- 圏域住民に「贈答品」の主な購入場所(市町)について聞きました。
- 主な購入場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が0.7%上昇しました。次いで割合が高いのは「その他」であり、前回調査時よりも割合が3.7%上昇しました。

贈答品の主な購入場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

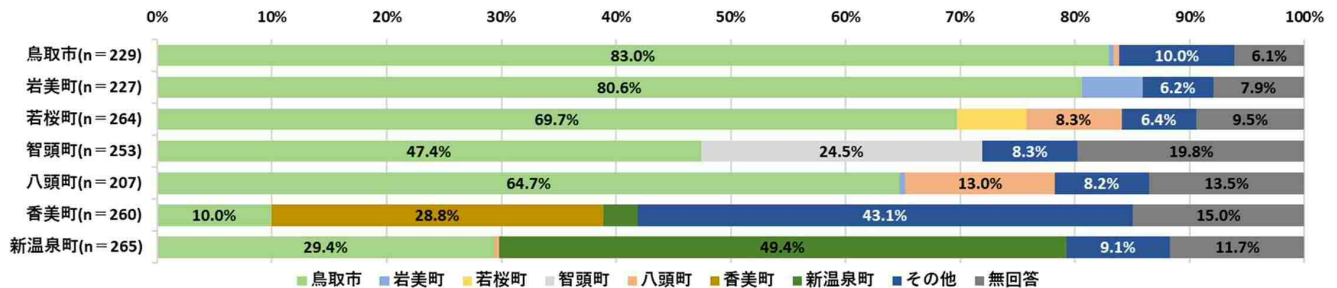


### 3-4 住民の購買行動

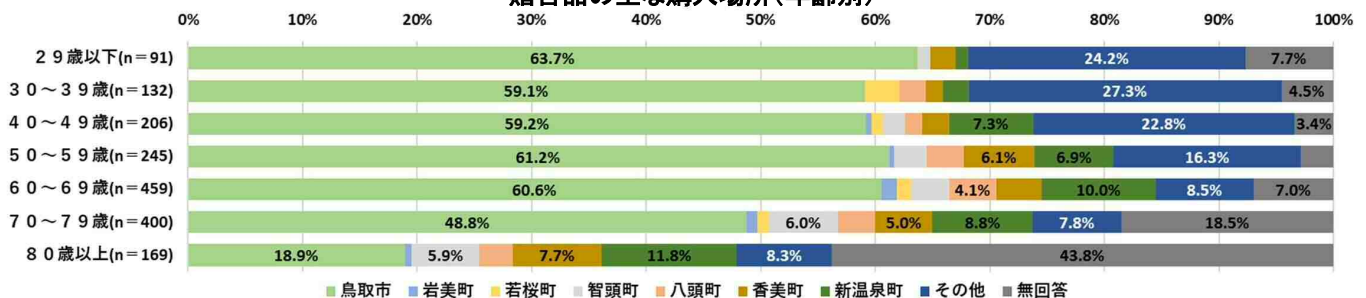
#### 3-4-5 贈答品 ①主な購入場所(市町)

- 贈答品の主な購入場所を居住地別にみると、鳥取県東部の市町は主な購入場所が「鳥取市」の割合が最も高くなっています。一方で、兵庫県北但西部の2町の主な購入場所は、香美町では「その他」、新温泉町では「新温泉町」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、主な購入場所が「鳥取市」である割合が最も高く、69歳以下ではいずれの年代も60%を超えています。80歳以上の主な購入場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

贈答品の主な購入場所(居住地別)



贈答品の主な購入場所(年齢別)

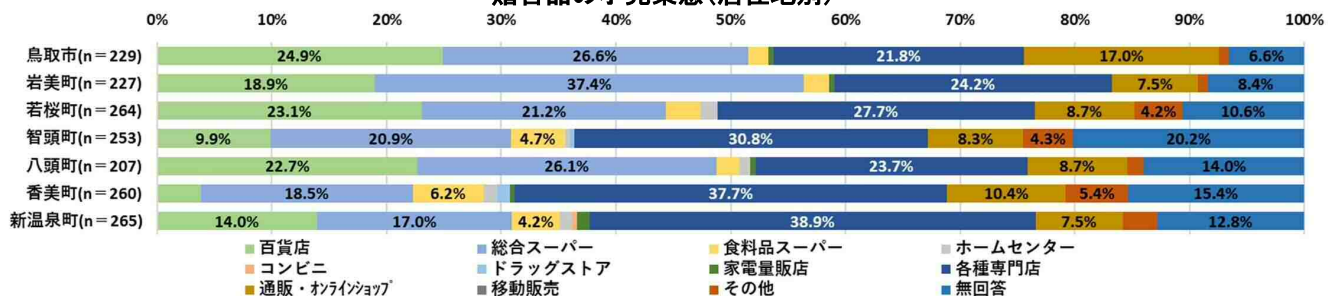


### 3-4 住民の購買行動

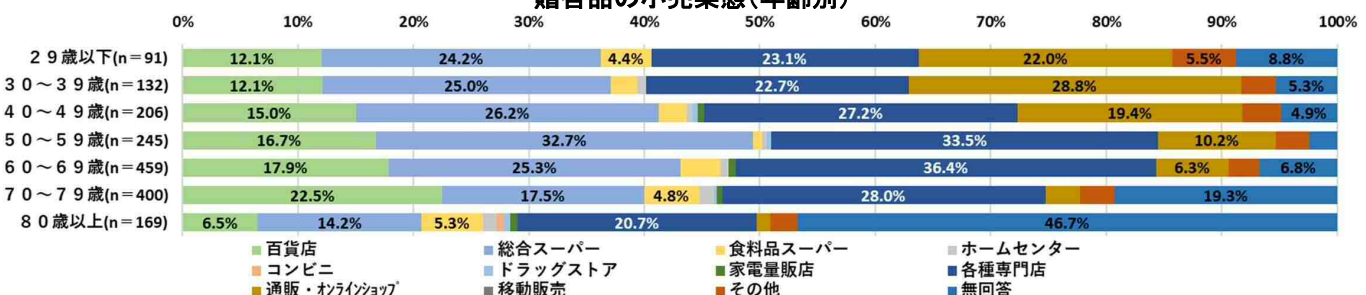
#### 3-4-5 贈答品 ②小売業態

- 圏域住民に「贈答品」の購入先の小売業態について聞きました。
- 贈答品の購入先の小売業態について、居住地別にみると、「鳥取市」、「岩美町」、「八頭町」は「総合スーパー」の割合が最も高く、「若桜町」、「智頭町」、「香美町」、「新温泉町」では「各種専門店」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、40~79歳では「各種専門店」の割合が最も高くなっています。29歳以下では「総合スーパー」、30~39歳では「通販・オンラインショップ」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

贈答品の小売業態(居住地別)



贈答品の小売業態(年齢別)

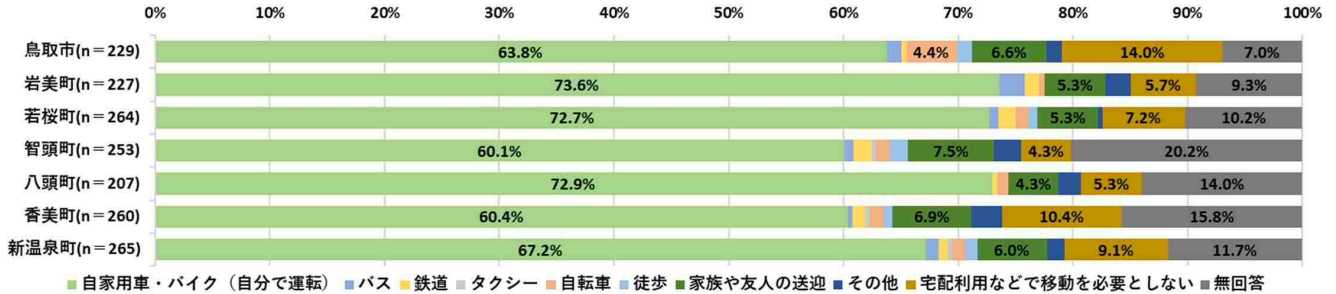


### 3-4 住民の購買行動

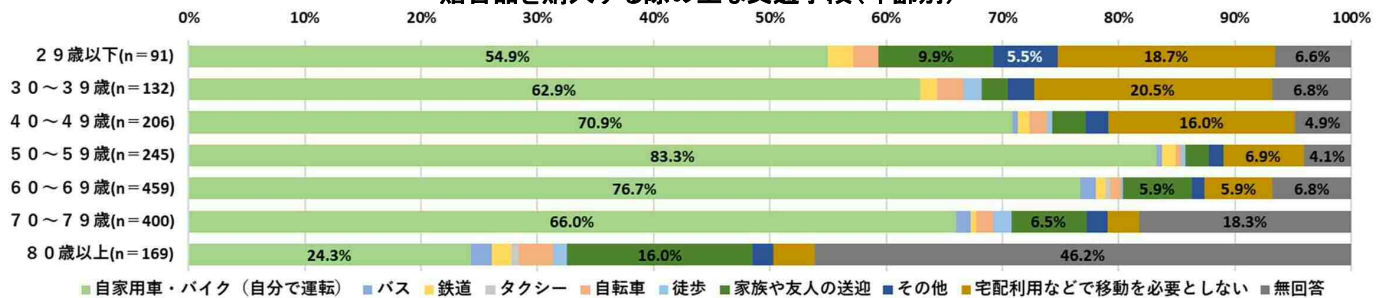
#### 3-4-5 贈答品 ③主な交通手段

- 圏域住民に「贈答品」を購入する際の主な交通手段について聞きました。
- 贈答品を購入する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、60%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、50%を超えています。また、80歳以上では「家族や友人の送迎」の割合が他の年齢と比較して高くなっています。

贈答品を購入する際の主な交通手段(居住地別)



贈答品を購入する際の主な交通手段(年齢別)



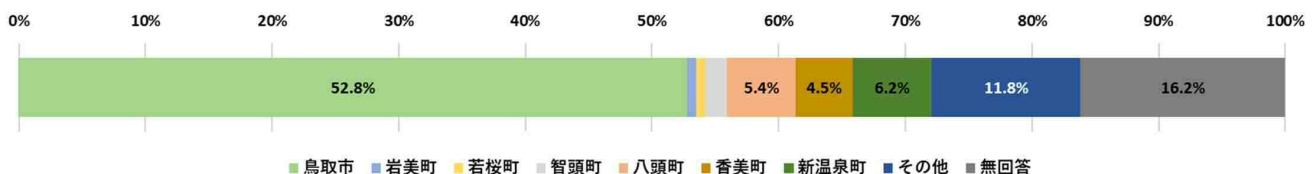
### 3-4 住民の購買行動

#### 3-4-6 書籍類 ①主な購入場所(市町)

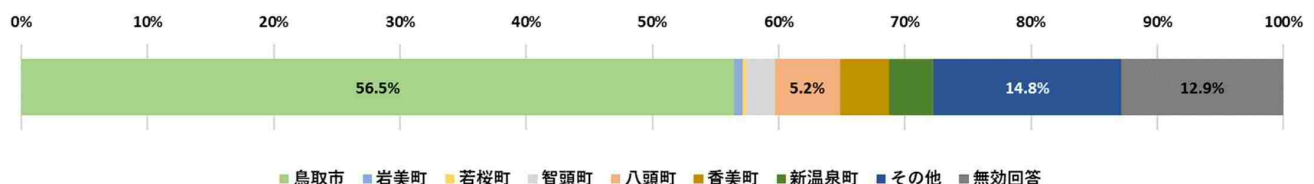
- 圏域住民に「書籍類」の主な購入場所(市町)について聞きました。
- 主な購入場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が3.7%上昇しました。次いで割合が高いのは「その他」であり、前回調査時よりも割合が3.0%上昇しました。

書籍類の主な購入場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)



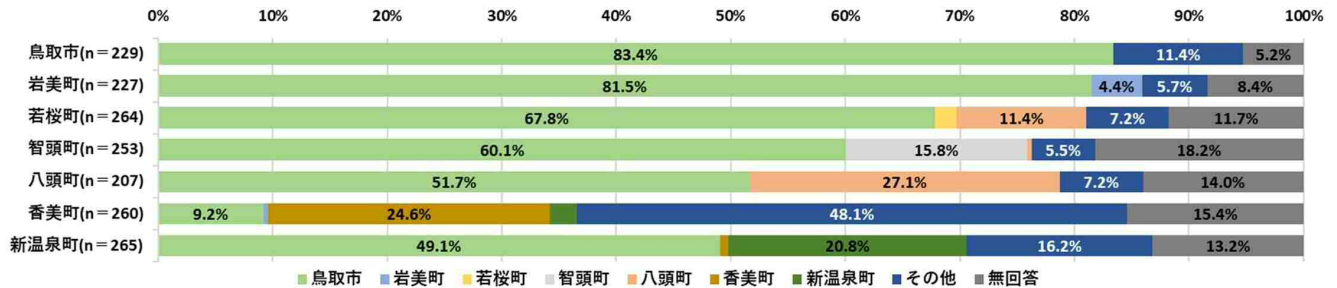


### 3-4 住民の購買行動

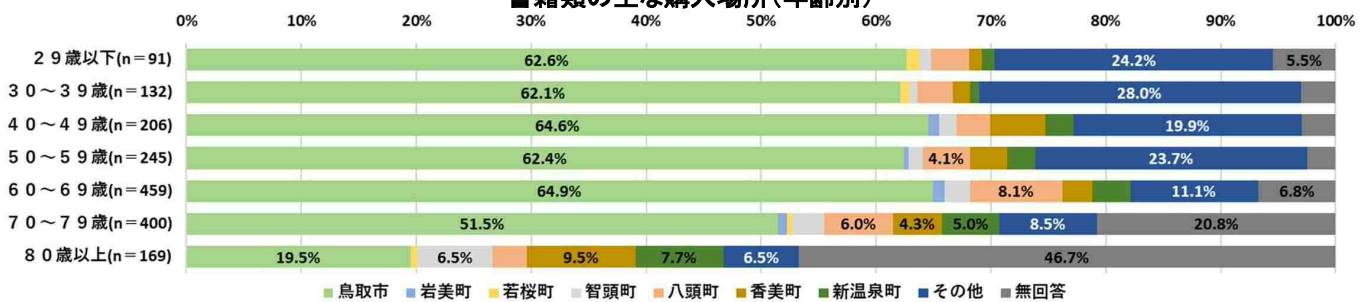
#### 3-4-6 書籍類 ①主な購入場所(市町)

- 書籍類の主な購入場所を居住地別にみると、香美町を除き、主な購入場所が「鳥取市」の割合が最も高く、概ね50%を超えています。香美町の主な購入場所の割合は「その他」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、主な購入場所が「鳥取市」である割合が最も高く、50%を超えています。また、80歳以上の主な購入場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

書籍類の主な購入場所(居住地別)



書籍類の主な購入場所(年齢別)

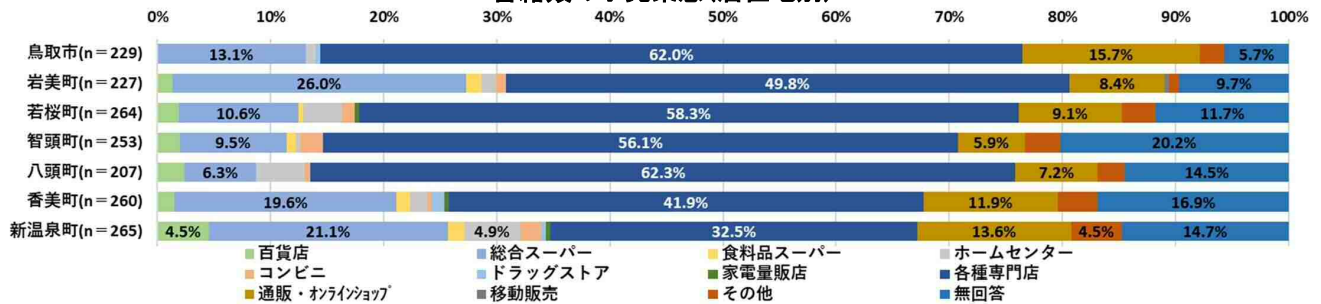


### 3-4 住民の購買行動

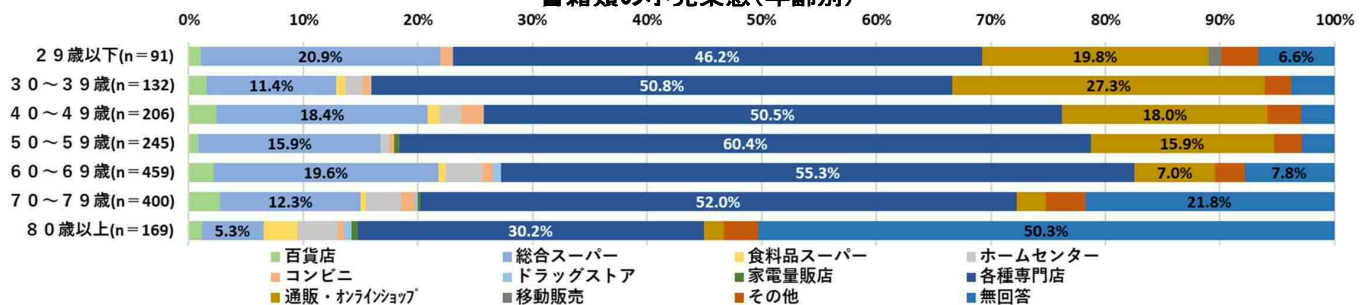
#### 3-4-6 書籍類 ②小売業態

- 圏域住民に「書籍類」の購入先の小売業態について聞きました。
- 書籍類の購入先の小売業態について、居住地別にみると、いずれの市町においても「各種専門店」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「各種専門店」の割合が最も高くなっています。なお、39歳以下の若い年齢層では「通販・オンラインショップ」の割合が高くなっています。

書籍類の小売業態(居住地別)



書籍類の小売業態(年齢別)

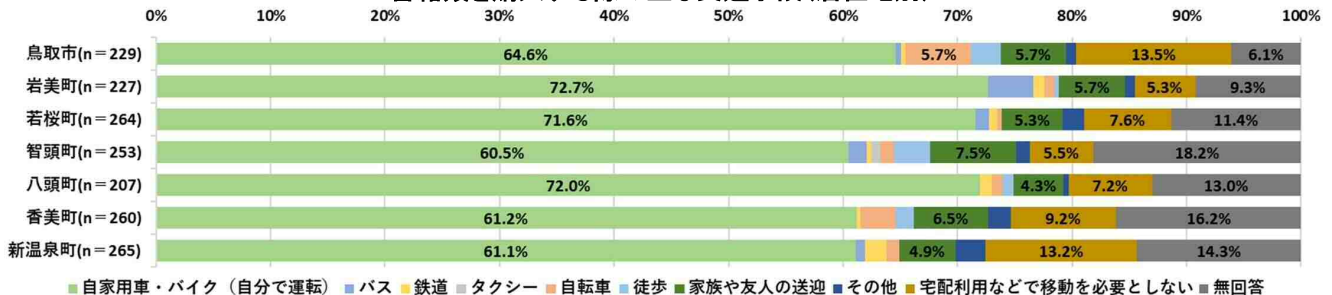


### 3-4 住民の購買行動

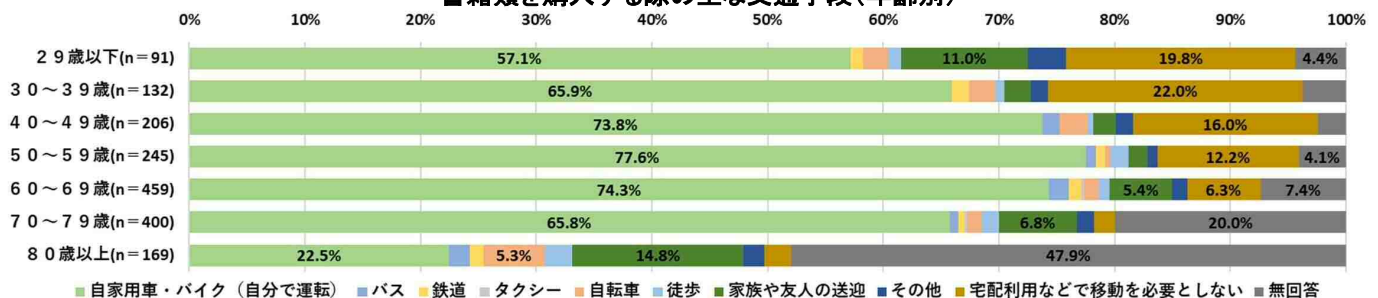
#### 3-4-6 書籍類 ③主な交通手段

- 圏域住民に「書籍類」を購入する際の主な交通手段について聞きました。
- 書籍類を購入する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、60%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、50%を超えています。また、80歳以上では「家族や友人の送迎」の割合が他の年齢と比較して高くなっています。

書籍類を購入する際の主な交通手段(居住地別)



書籍類を購入する際の主な交通手段(年齢別)



### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-1 映画館での映画鑑賞 ①活動場所(市町)

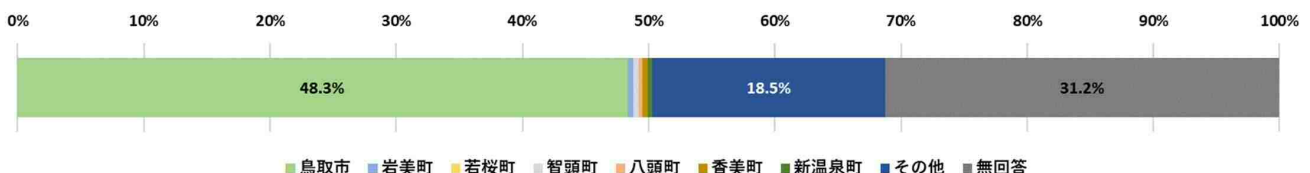
- 圏域住民に、映画館で映画鑑賞する際の主な活動場所(市町)について聞きました。
- 主な活動場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が1.4%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高いのは「その他」であり、前回調査時よりも割合が1.3%上昇しました。

映画館で映画鑑賞する際の活動場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

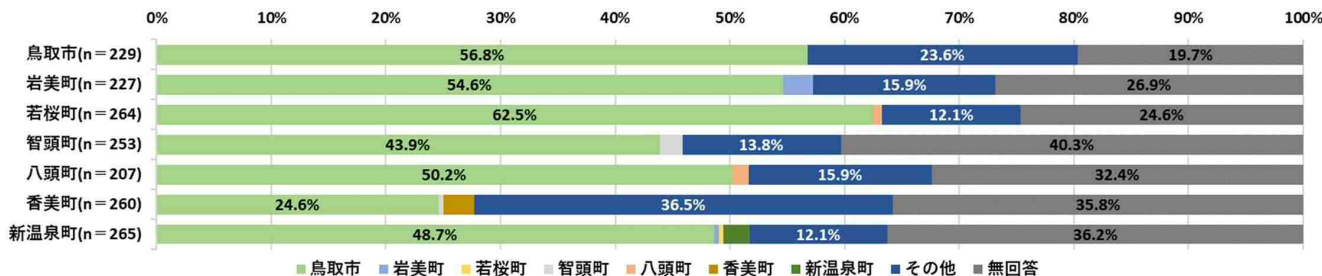


### 3-5 住民の余暇活動

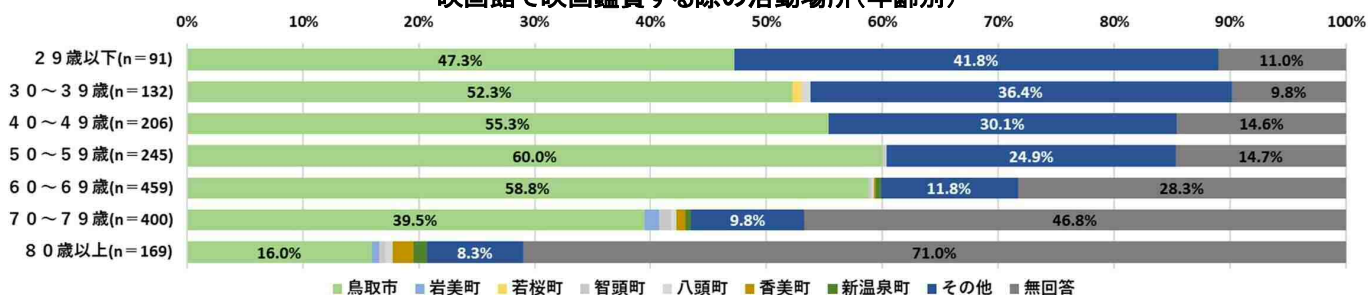
#### 3-5-1 映画館での映画鑑賞 ①活動場所(市町)

- 映画館で映画鑑賞する際の活動場所(市町)を居住地別にみると、香美町を除き、活動場所は「鳥取市」の割合が最も高くなっています。また、香美町の活動場所の割合は「その他」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下の活動場所が「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、70歳以上の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

映画館で映画鑑賞する際の活動場所(居住地別)



映画館で映画鑑賞する際の活動場所(年齢別)

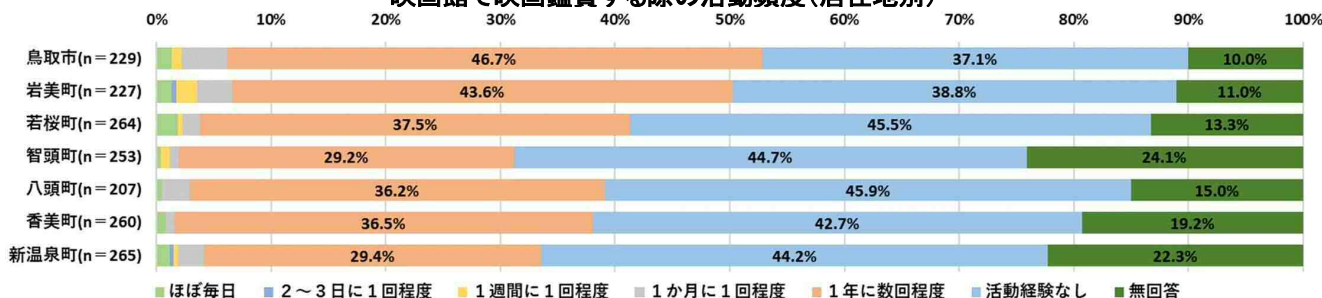


### 3-5 住民の余暇活動

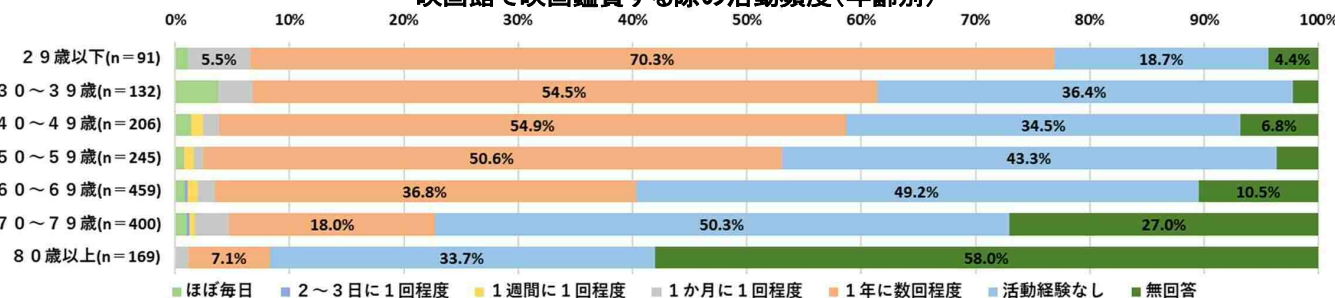
#### 3-5-1 映画館での映画鑑賞 ②活動頻度

- 圏域住民に、映画館で映画鑑賞する際の活動頻度について聞きました。
- 映画館で映画鑑賞する際の活動頻度を居住地別にみると、「鳥取市」、「岩美町」では「1年に数回程度」の割合が最も高く、「若桜町」、「智頭町」、「八頭町」、「香美町」、「新温泉町」では「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、59歳以下では「1年に数回程度」の割合が最も高く、60~79歳では「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

映画館で映画鑑賞する際の活動頻度(居住地別)



映画館で映画鑑賞する際の活動頻度(年齢別)

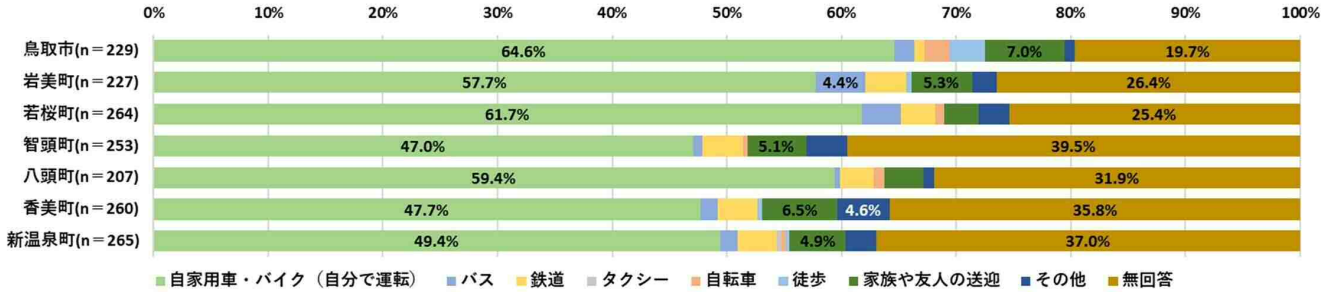


### 3-5 住民の余暇活動

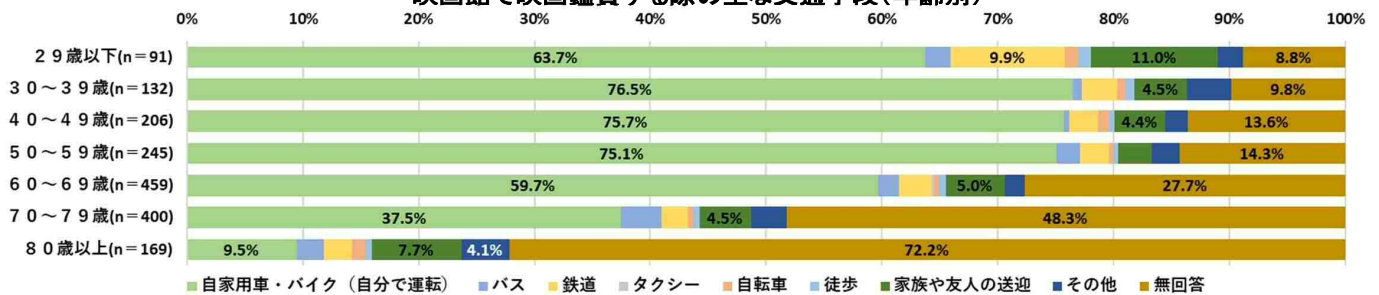
#### 3-5-1 映画館での映画鑑賞 ③主な交通手段

- 圏域住民に、映画館で映画鑑賞する際の主な交通手段について聞きました。
- 映画館で映画鑑賞する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下では「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、概ね60%を超えています。また、70歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

映画館で映画鑑賞する際の主な交通手段(居住地別)



映画館で映画鑑賞する際の主な交通手段(年齢別)



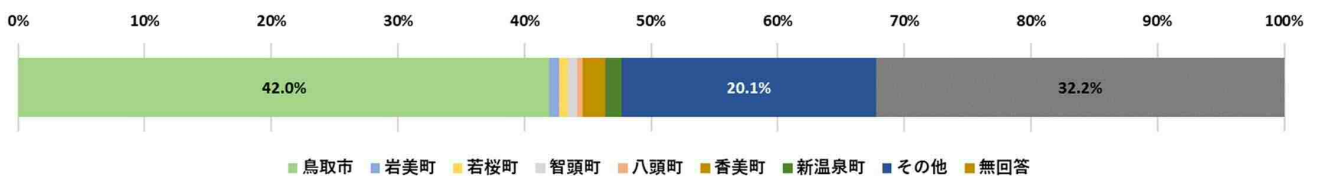
### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-2 演劇・コンサートなどの鑑賞 ①活動場所(市町)

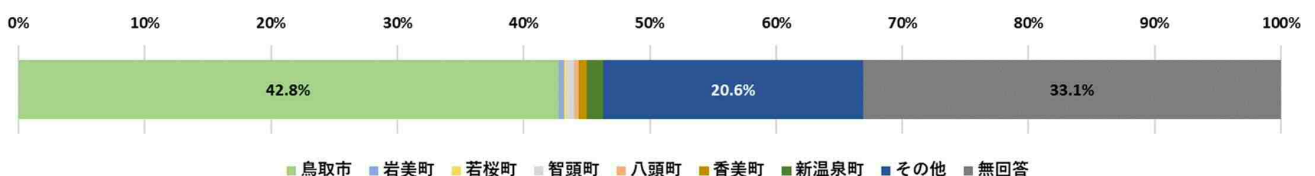
- 圏域住民に、演劇・コンサートなどを鑑賞する際の主な活動場所(市町)について聞きました。
- 主な活動場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が0.8%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高いのは「その他」であり、前回調査時よりも割合が0.5%上昇しました。

演劇・コンサートなどを鑑賞する際の活動場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

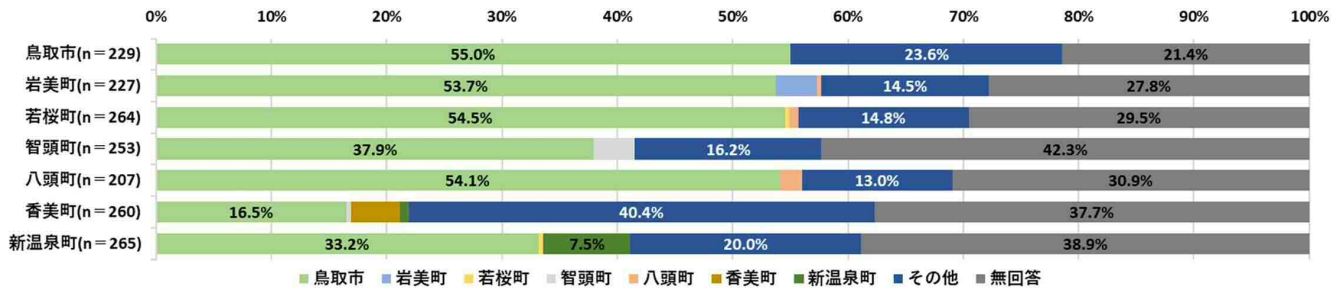


### 3-5 住民の余暇活動

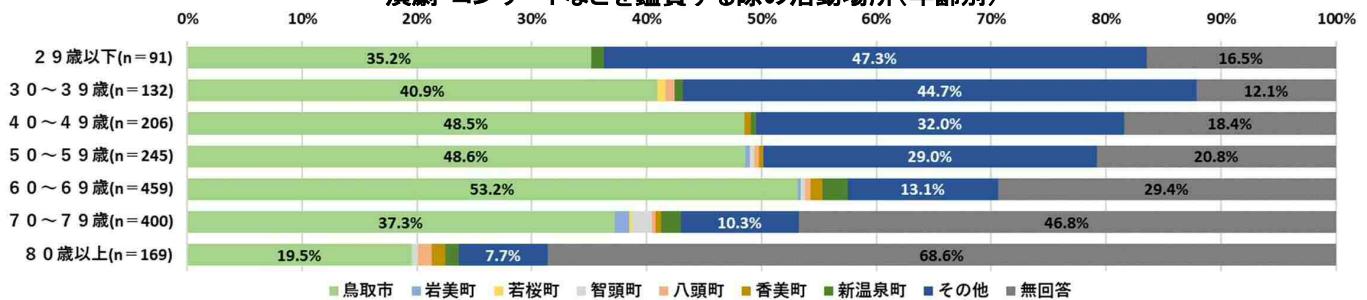
#### 3-5-2 演劇・コンサートなどの鑑賞 ①活動場所(市町)

- 演劇・コンサートなどを鑑賞する際の活動場所(市町)を居住地別にみると、智頭町を除き、活動場所は「鳥取市」の割合が最も高くなっています。また、智頭町の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下の活動場所が「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、70歳以上の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

演劇・コンサートなどを鑑賞する際の活動場所(居住地別)



演劇・コンサートなどを鑑賞する際の活動場所(年齢別)

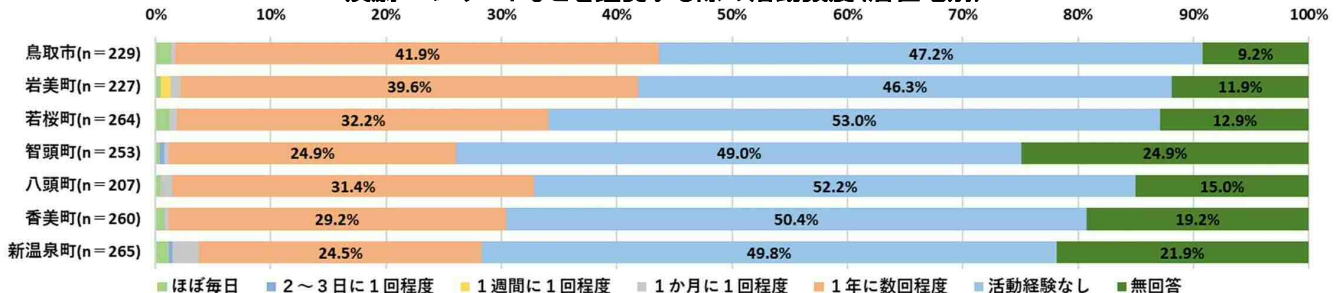


### 3-5 住民の余暇活動

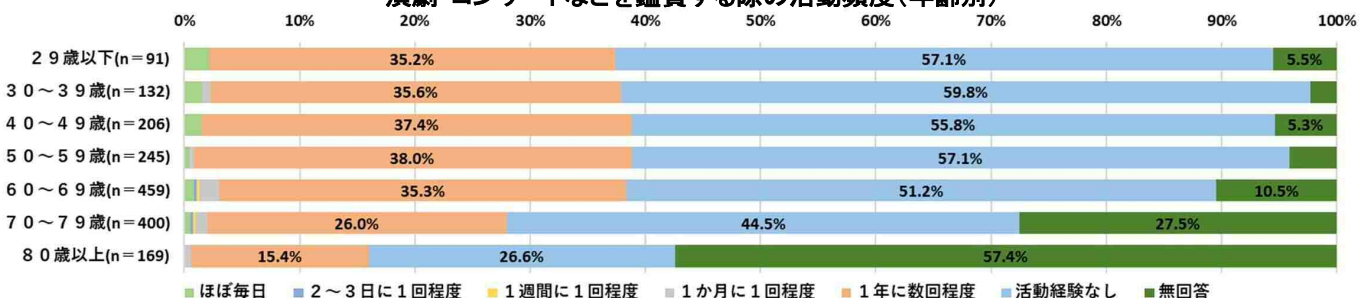
#### 3-5-2 演劇・コンサートなどの鑑賞 ②活動頻度

- 圏域住民に、演劇・コンサートなどを鑑賞する際の活動頻度について聞きました。
- 演劇・コンサートなどを鑑賞する際の活動頻度を居住地別にみると、いずれの市町でも「活動経験なし」の割合が最も高く、概ね50%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

演劇・コンサートなどを鑑賞する際の活動頻度(居住地別)



演劇・コンサートなどを鑑賞する際の活動頻度(年齢別)

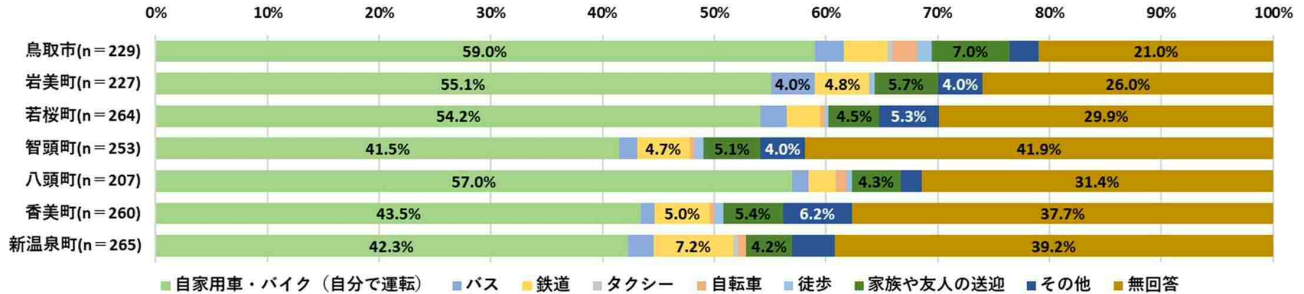


### 3-5 住民の余暇活動

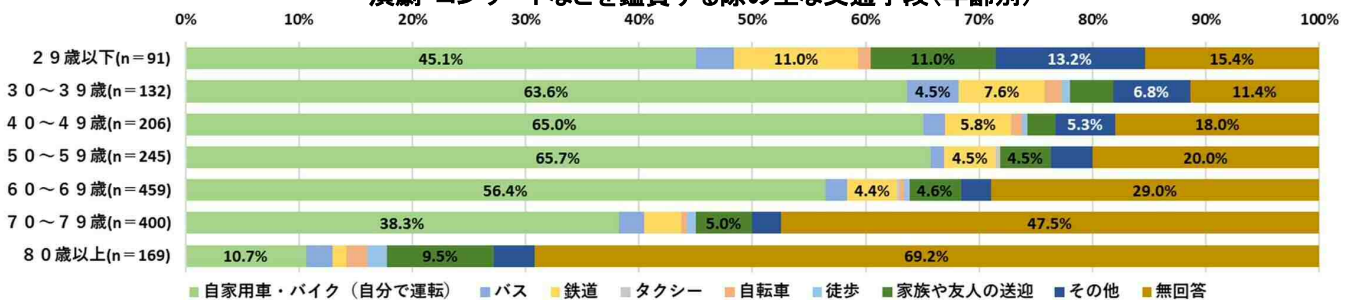
#### 3-5-2 演劇・コンサートなどの鑑賞 ③主な交通手段

- 圏域住民に、演劇・コンサートなどを鑑賞する際の主な交通手段について聞きました。
- 演劇・コンサートなどを鑑賞する際の主な交通手段を居住地別にみると、智頭町を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、智頭町では「無回答」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下では「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、70歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

演劇・コンサートなどを鑑賞する際の主な交通手段(居住地別)



演劇・コンサートなどを鑑賞する際の主な交通手段(年齢別)

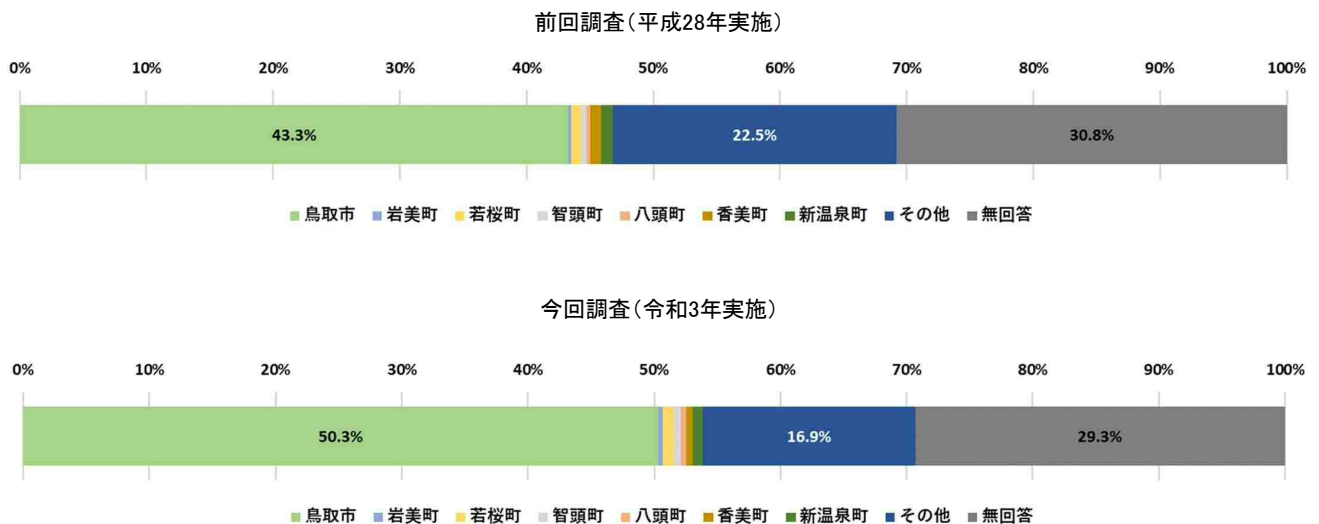


### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-3 美術館・博物館など展示施設での鑑賞 ①活動場所(市町)

- 圏域住民に、美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の主な活動場所(市町)について聞きました。
- 主な活動場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が7.0%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高いのは「その他」ですが、その割合は前回調査時よりも5.6%下降しました。

美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の活動場所(市町)

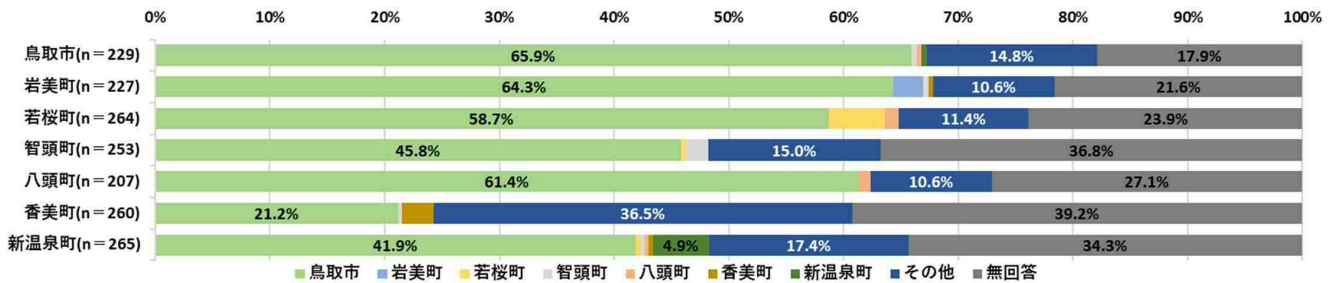


### 3-5 住民の余暇活動

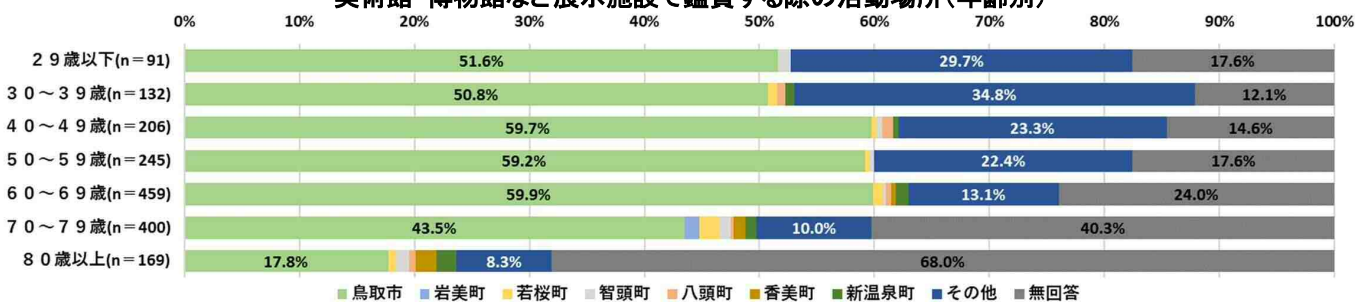
#### 3-5-3 美術館・博物館など展示施設での鑑賞 ①活動場所(市町)

- 美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の活動場所(市町)を居住地別にみると、香美町を除き、活動場所は「鳥取市」の割合が最も高くなっています。また、香美町の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、活動場所が「鳥取市」である割合が最も高くなっています。また、80歳以上の主な活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の活動場所(居住地別)



美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の活動場所(年齢別)

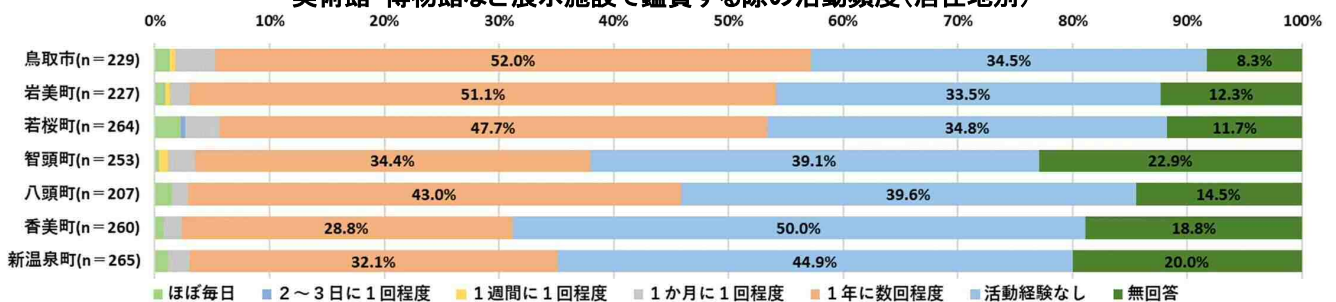


### 3-5 住民の余暇活動

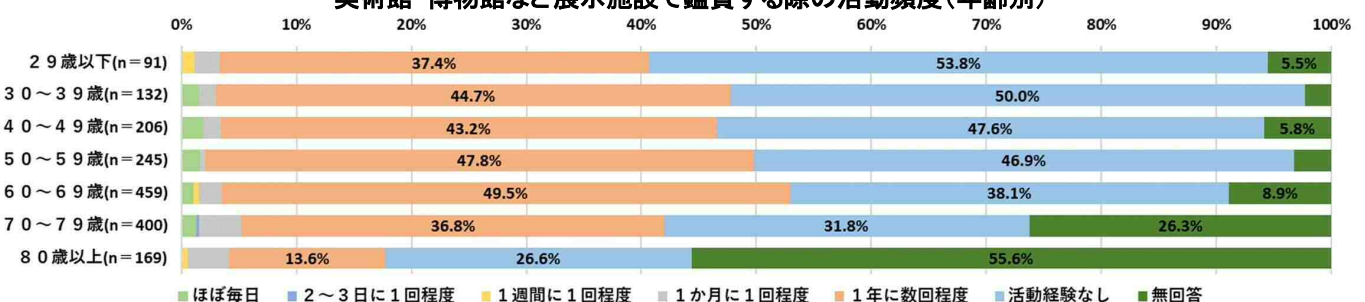
#### 3-5-3 美術館・博物館など展示施設での鑑賞 ②活動頻度

- 圏域住民に、美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の活動頻度について聞きました。
- 美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の活動頻度を居住地別にみると、「鳥取市」、「岩美町」、「若桜町」、「八頭町」では「1年に数回程度」の割合が最も高く、「智頭町」、「香美町」、「新温泉町」では「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、49歳以下では「活動経験なし」の割合が最も高く、50~79歳では「1年に数回程度」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の活動頻度(居住地別)



美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の活動頻度(年齢別)

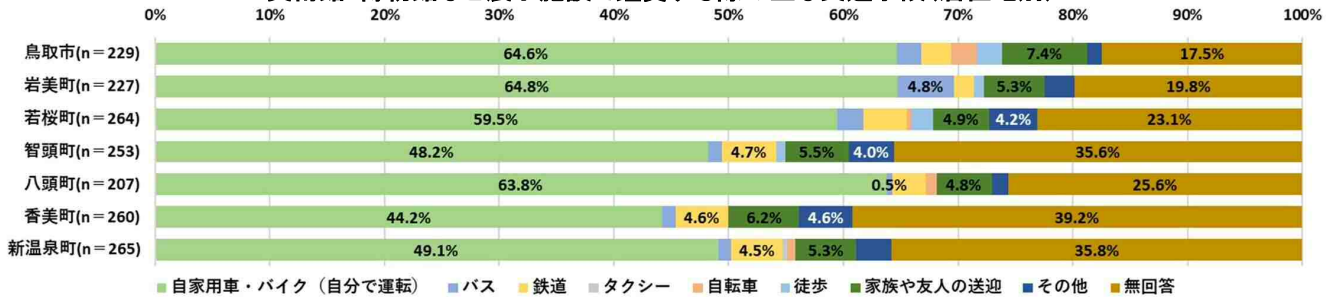


### 3-5 住民の余暇活動

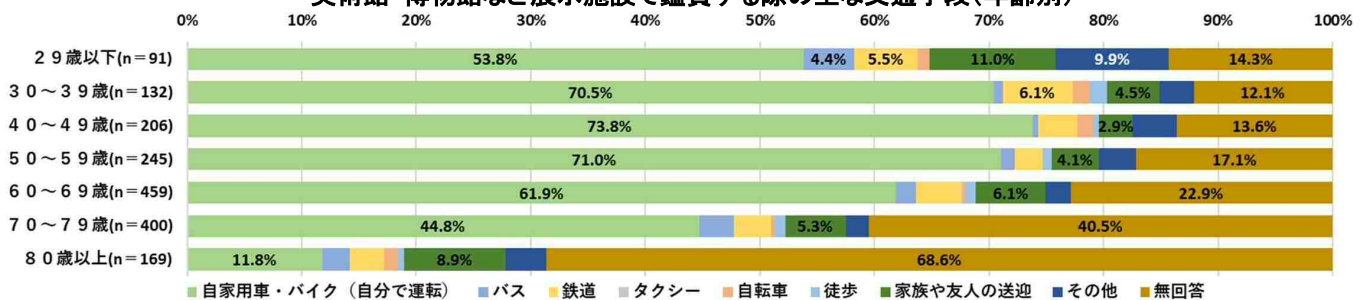
#### 3-5-3 美術館・博物館など展示施設での鑑賞 ③主な交通手段

- 圏域住民に、美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の主な交通手段について聞きました。
- 美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の主な交通手段(居住地別)



美術館・博物館など展示施設で鑑賞する際の主な交通手段(年齢別)



### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-4 スポーツ活動・体力づくり ①活動場所(市町)

- 圏域住民に、スポーツ活動や体力づくりをする際の主な活動場所(市町)について聞きました。
- 主な活動場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が3.2%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高い市町は「新温泉町」であり、前回調査時よりも割合が0.7%上昇しました。

スポーツ活動や体力づくりをする際の活動場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)



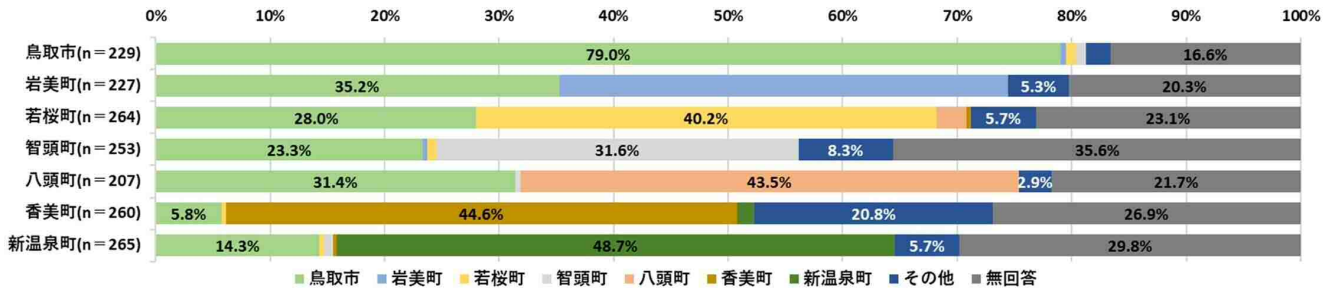


### 3-5 住民の余暇活動

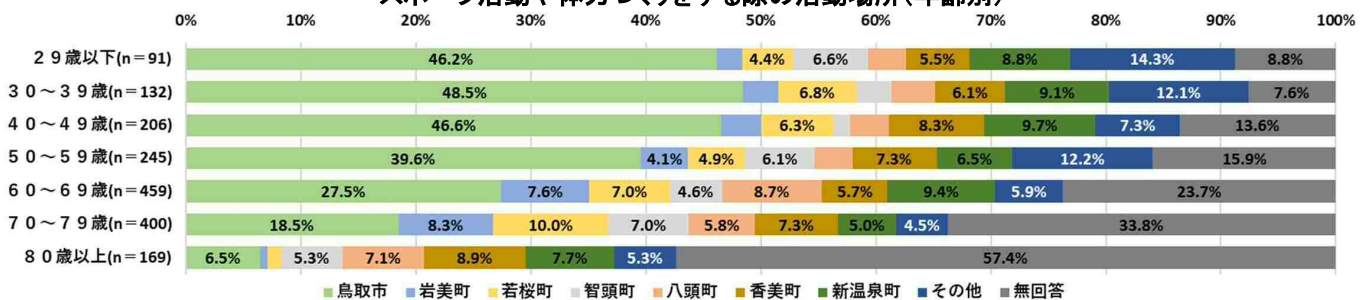
#### 3-5-4 スポーツ活動・体力づくり ①活動場所(市町)

- スポーツ活動や体力づくりをする際の活動場所(市町)を居住地別にみると、智頭町を除き、それぞれの居住地が活動場所となる割合が最も高くなっています。また、智頭町の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下の活動場所が「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、70歳以上の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

スポーツ活動や体力づくりをする際の活動場所(居住地別)



スポーツ活動や体力づくりをする際の活動場所(年齢別)

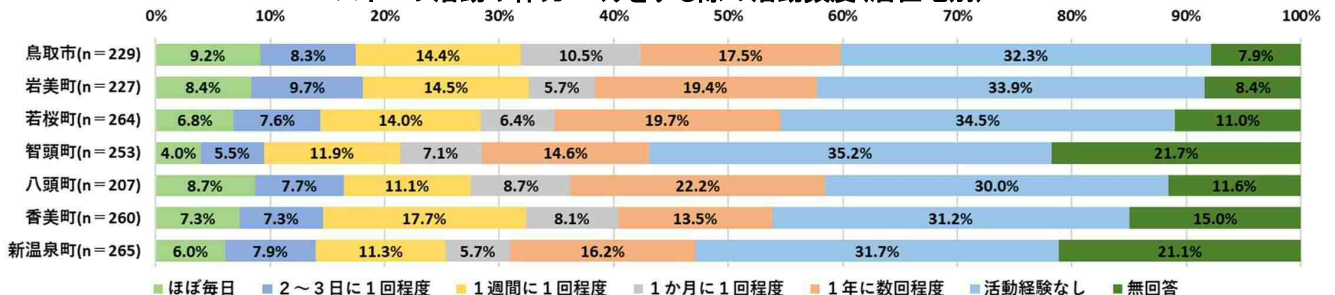


### 3-5 住民の余暇活動

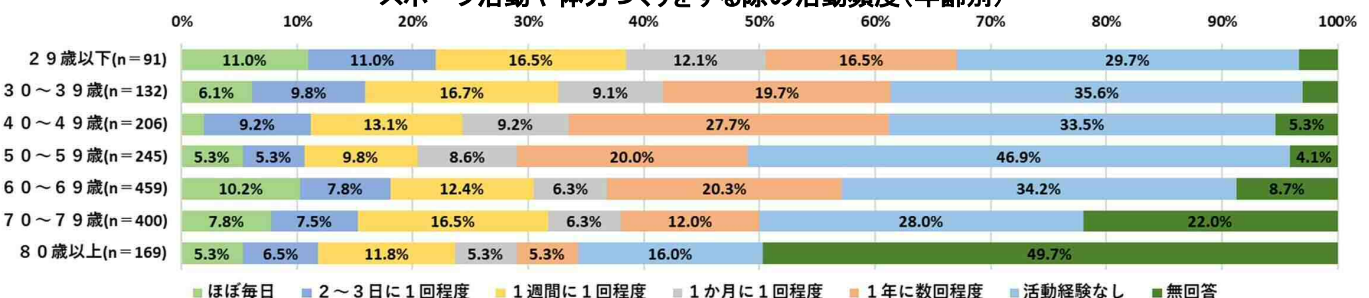
#### 3-5-4 スポーツ活動・体力づくり ②活動頻度

- 圏域住民に、スポーツ活動や体力づくりをする際の活動頻度について聞きました。
- スポーツ活動や体力づくりをする際の活動頻度を居住地別にみると、いずれの市町においても「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

スポーツ活動や体力づくりをする際の活動頻度(居住地別)



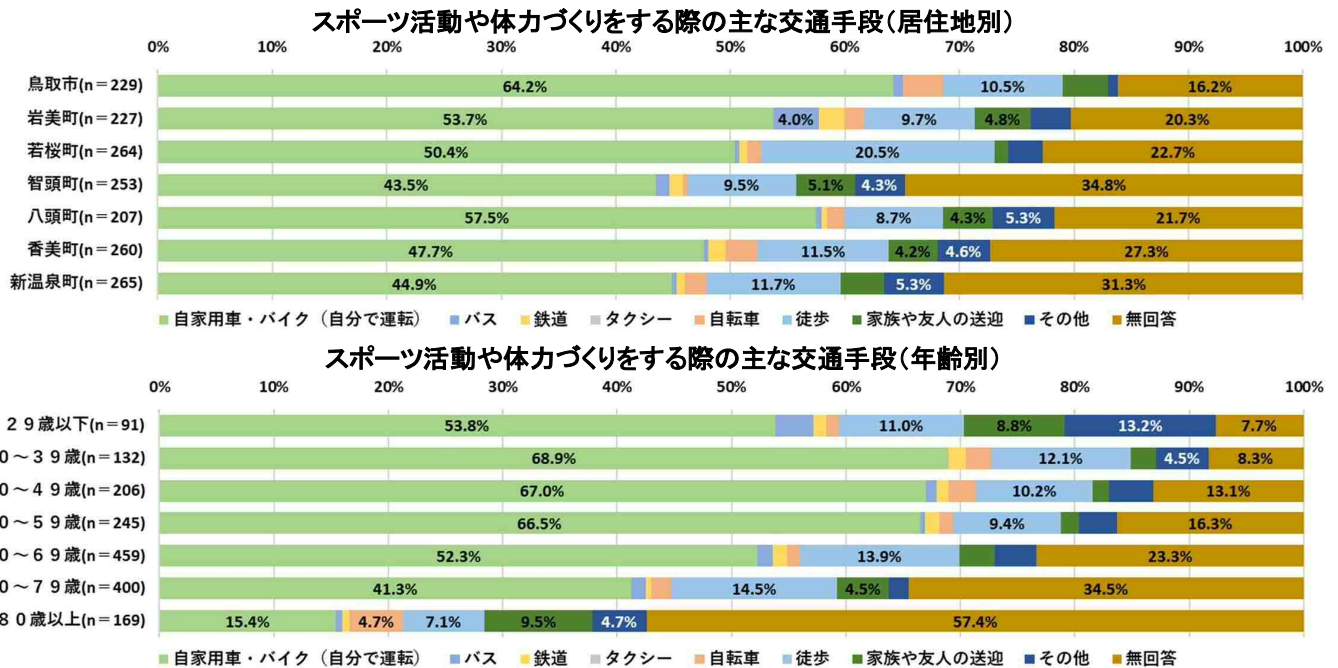
スポーツ活動や体力づくりをする際の活動頻度(年齢別)



### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-4 スポーツ活動・体づくり ③主な交通手段

- 圏域住民に、スポーツ活動や体づくりをする際の主な交通手段について聞きました。
- スポーツ活動や体づくりをする際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

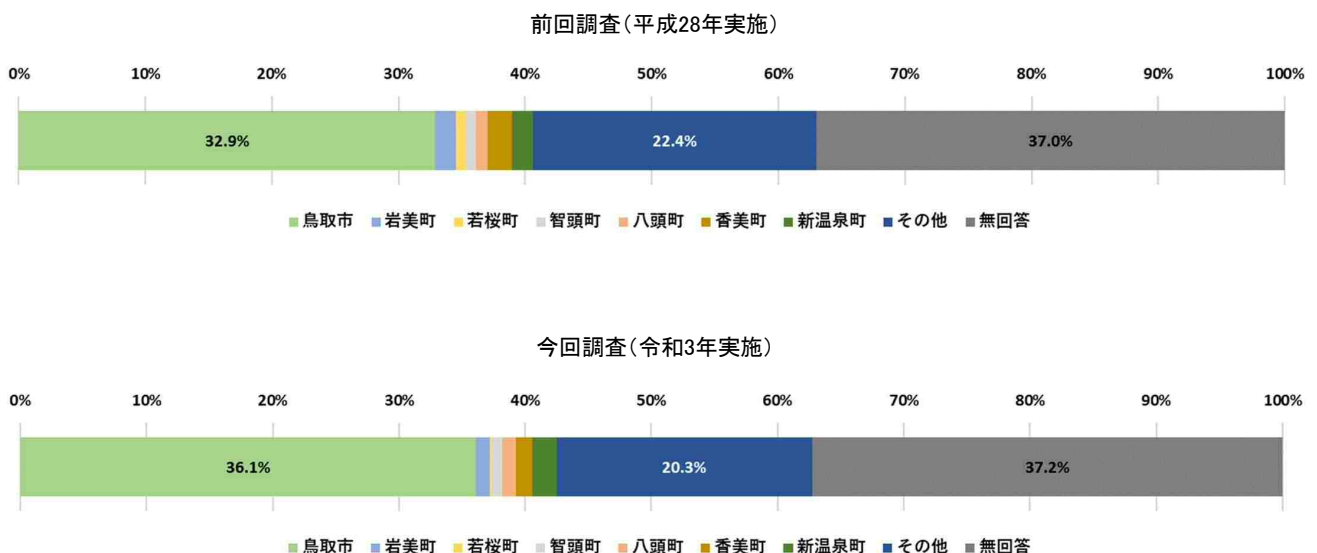


### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-5 スポーツ観戦 ①活動場所(市町)

- 圏域住民に、スポーツ観戦する際の主な活動場所(市町)について聞きました。
- 主な活動場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が1.0%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高いのは「その他」ですが、その割合は前回調査時よりも8.5%減少しました。

#### スポーツ観戦する際の活動場所(市町)

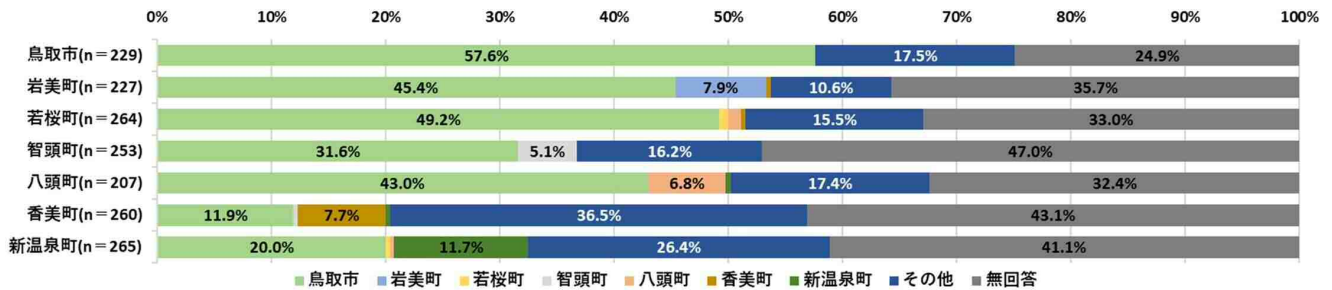


### 3-5 住民の余暇活動

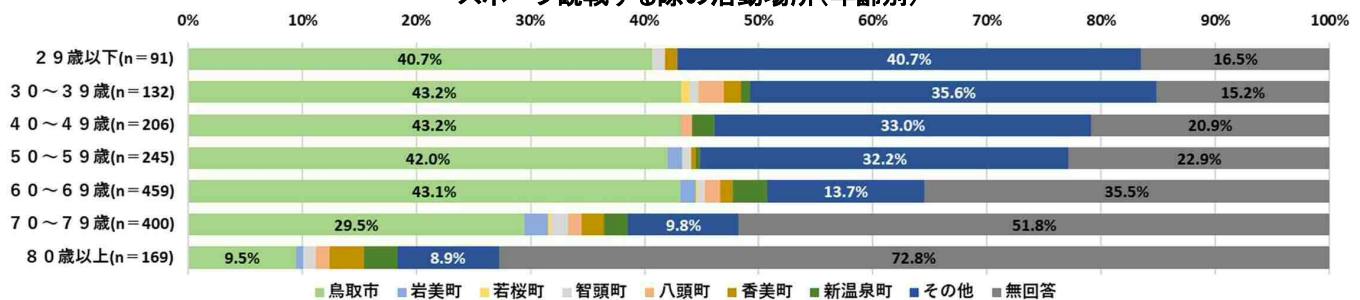
#### 3-5-5 スポーツ観戦 ①活動場所(市町)

- スポーツ観戦する際の活動場所(市町)を居住地別にみると、「鳥取市」、「岩美町」、「若桜町」、「八頭町」の活動場所の割合は「鳥取市」が最も多く、「智頭町」、「新温泉町」の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。また、「香美町」の活動場所の割合は「香美町」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下の活動場所が「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、70歳以上の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

スポーツ観戦する際の活動場所(居住地別)



スポーツ観戦する際の活動場所(年齢別)

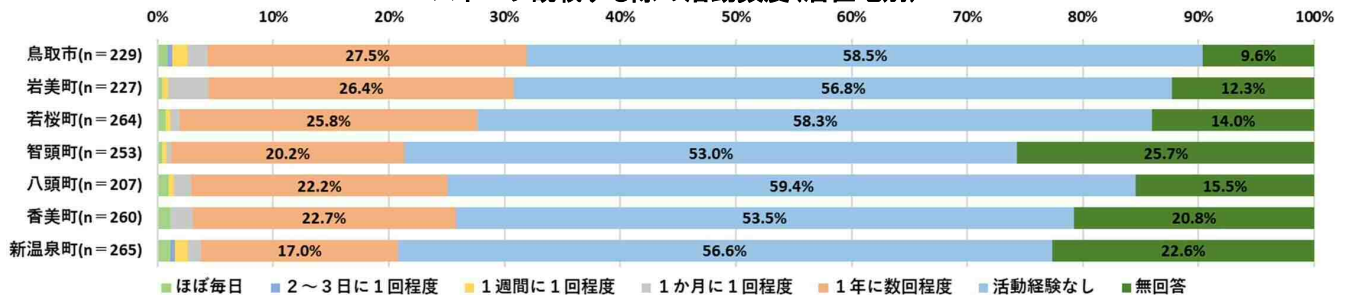


### 3-5 住民の余暇活動

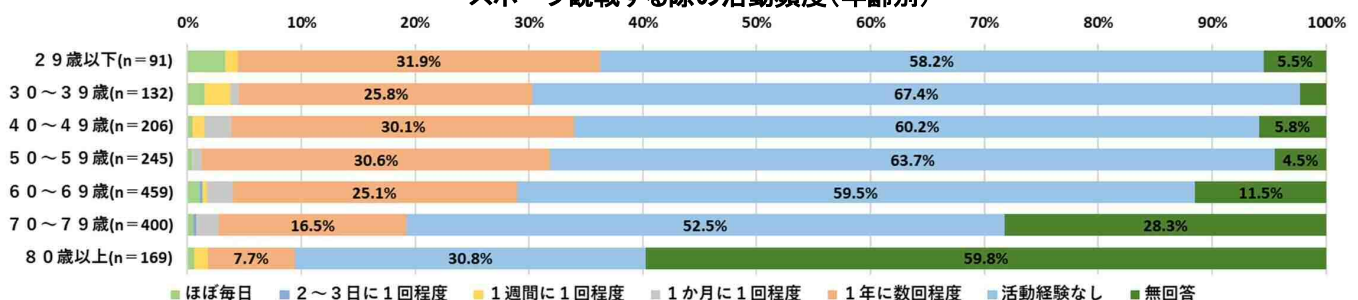
#### 3-5-5 スポーツ観戦 ②活動頻度

- 圏域住民に、スポーツ観戦する際の活動頻度について聞きました。
- スポーツ観戦する際の活動頻度を居住地別にみると、いずれの市町においても「活動経験なし」の割合が最も高く、50%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「活動経験なし」の割合が最も高く、50%を超えています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

スポーツ観戦する際の活動頻度(居住地別)



スポーツ観戦する際の活動頻度(年齢別)

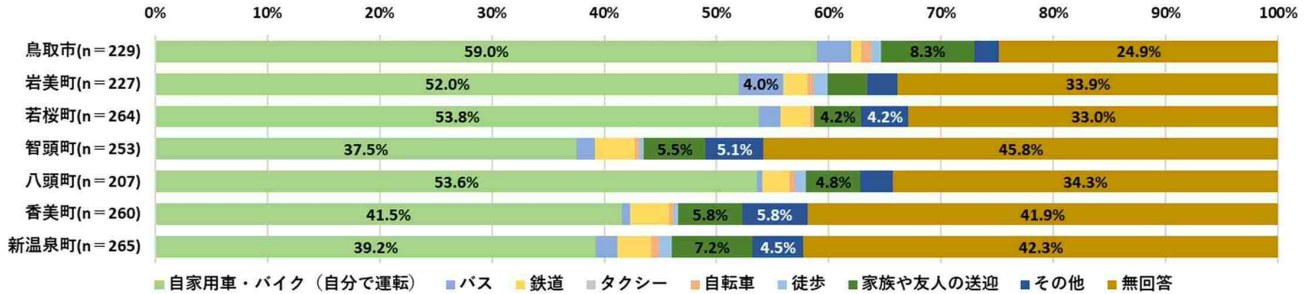


### 3-5 住民の余暇活動

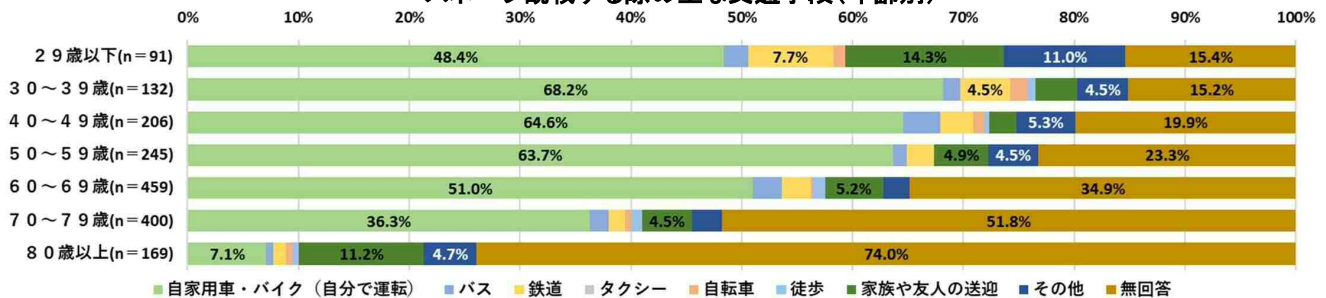
#### 3-5-5 スポーツ観戦 ③主な交通手段

- 圏域住民に、スポーツ観戦する際の主な交通手段について聞きました。
- スポーツ観戦する際の主な交通手段を居住地別にみると、「鳥取市」、「岩美町」、「若桜町」、「八頭町」の主な交通手段は「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も多く、「智頭町」、「香美町」、「新温泉町」では「無回答」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下では「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、70歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

スポーツ観戦する際の主な交通手段(居住地別)



スポーツ観戦する際の主な交通手段(年齢別)

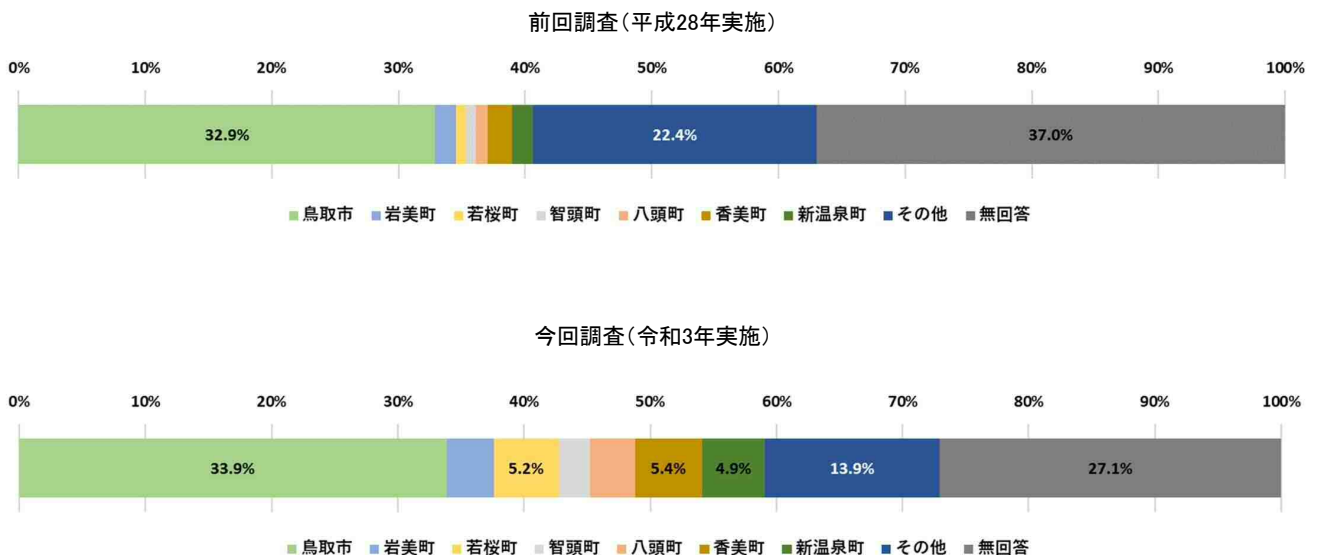


### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-6 アウトドア・レジャー・公園散策など ①活動場所(市町)

- 圏域住民に、アウトドアやレジャー、公園散策をする際の主な活動場所(市町)について聞きました。
- 主な活動場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が4.8%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高いのは「その他」ですが、その割合は前回調査時よりも5.3%減少しました。

アウトドアやレジャー、公園散策をする際の活動場所(市町)

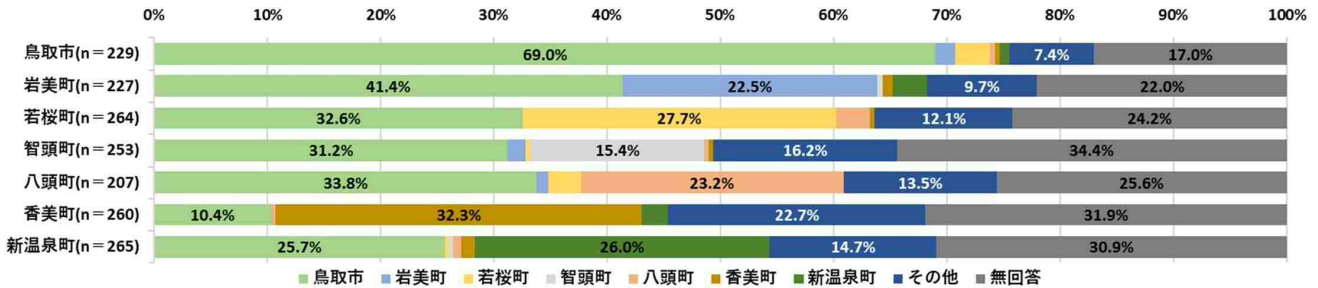


### 3-5 住民の余暇活動

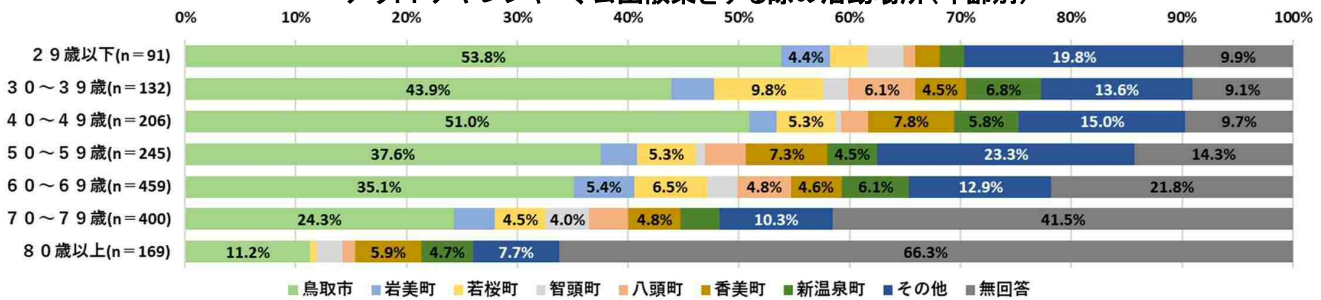
#### 3-5-6 アウトドア・レジャー・公園散策など ①活動場所(市町)

- アウトドアやレジャー、公園散策をする際の活動場所(市町)を居住地別にみると、「鳥取市」、「岩美町」、「若桜町」、「八頭町」の活動場所の割合は「鳥取市」が最も多く、「智頭町」、「新温泉町」の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。また、「香美町」の活動場所の割合は「香美町」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下の活動場所が「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、70歳以上の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

アウトドアやレジャー、公園散策をする際の活動場所(居住地別)



アウトドアやレジャー、公園散策をする際の活動場所(年齢別)

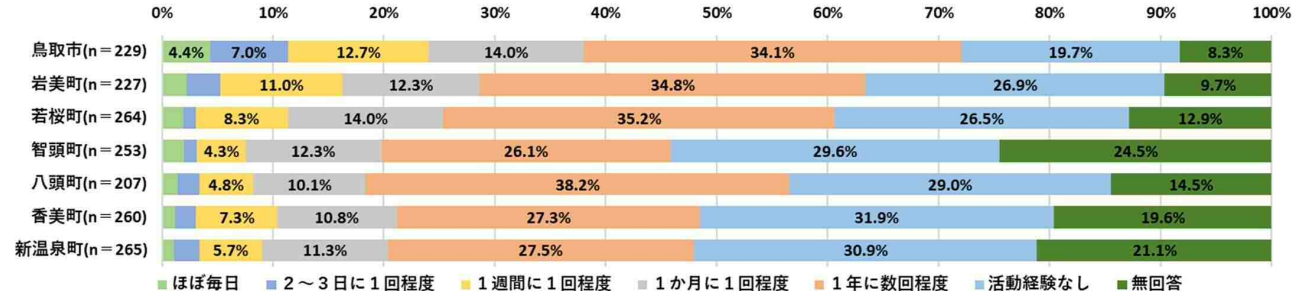


### 3-5 住民の余暇活動

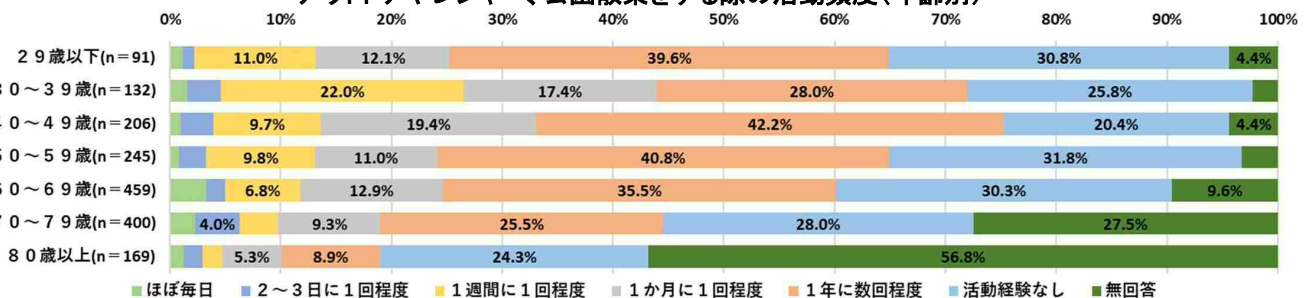
#### 3-5-6 アウトドア・レジャー・公園散策など ②活動頻度

- 圏域住民に、アウトドアやレジャー、公園散策をする際の活動頻度について聞きました。
- アウトドアやレジャー、公園散策をする際の活動頻度を居住地別にみると、「鳥取市」、「岩美町」、「若桜町」、「八頭町」では「1年に数回程度」の割合が最も高く、「智頭町」、「香美町」、「新温泉町」では「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下では「1年に数回程度」の割合が最も高く、70~79歳では「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

アウトドアやレジャー、公園散策をする際の活動頻度(居住地別)



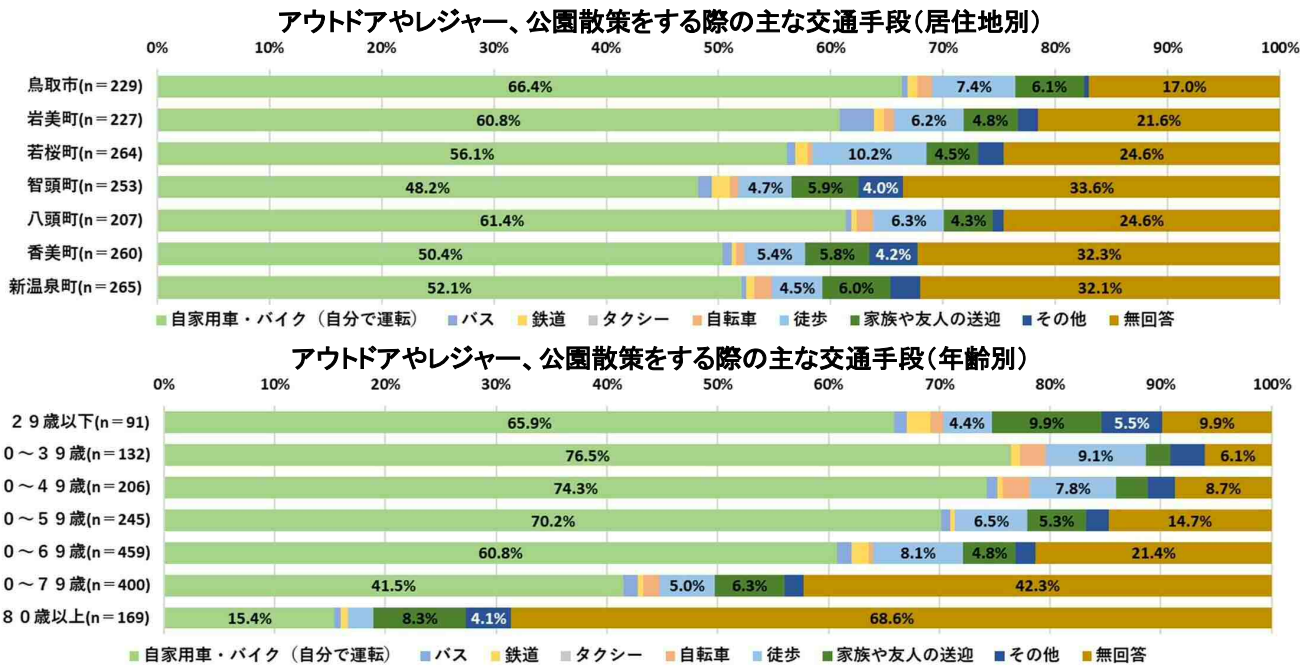
アウトドアやレジャー、公園散策をする際の活動頻度(年齢別)



### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-6 アウトドア・レジャー・公園散策など ③主な交通手段

- 圏域住民に、アウトドアやレジャー、公園散策をする際の主な交通手段について聞きました。
- アウトドアやレジャー、公園散策をする際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下では「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、60%を超えています。また、70歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

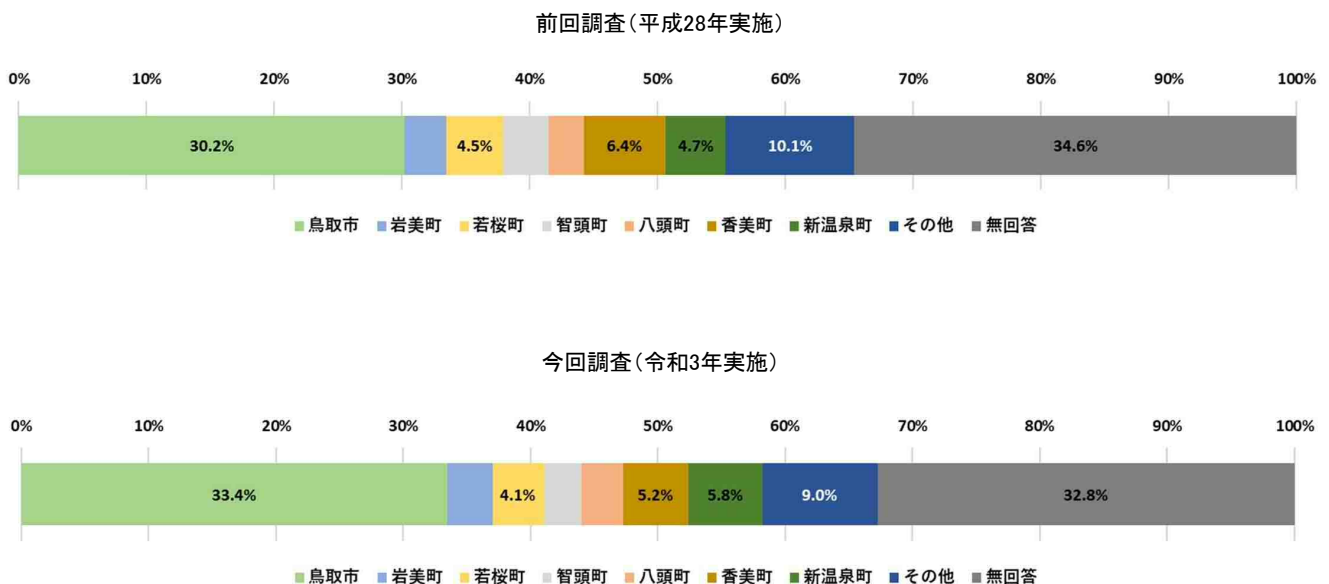


### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-7 趣味の文化・芸術活動(習い事などを含む) ①活動場所(市町)

- 圏域住民に、趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の主な活動場所(市町)について聞きました。
- 主な活動場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が3.2%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高いのは「その他」ですが、その割合は前回調査時よりも1.1%減少しました。

#### 趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の活動場所(市町)

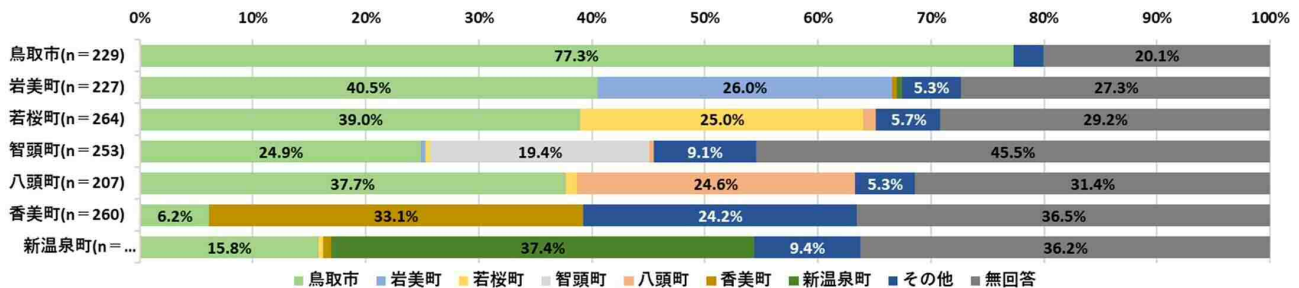


### 3-5 住民の余暇活動

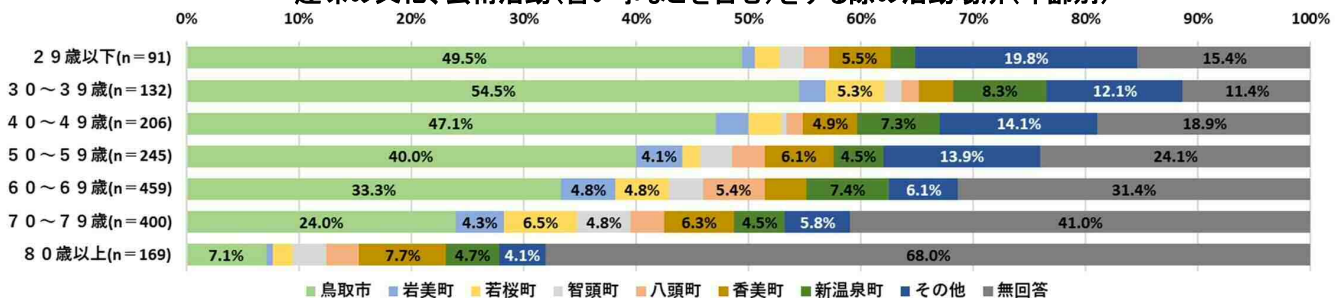
#### 3-5-7 趣味の文化・芸術活動(習い事などを含む) ①活動場所(市町)

- 趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の活動場所(市町)を居住地別にみると、「鳥取市」、「岩美町」、「若桜町」、「八頭町」の活動場所の割合は「鳥取市」が最も多く、「智頭町」、「香美町」の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。また、「新温泉町」の活動場所の割合は「新温泉町」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下の活動場所が「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、70歳以上の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の活動場所(居住地別)



趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の活動場所(年齢別)

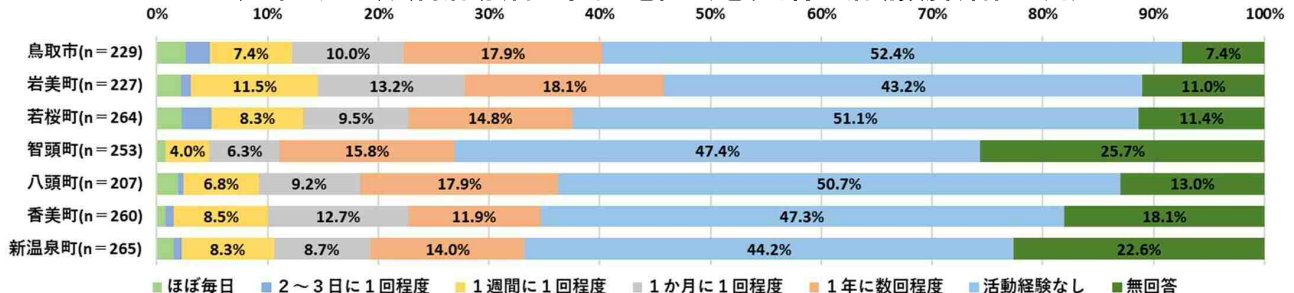


### 3-5 住民の余暇活動

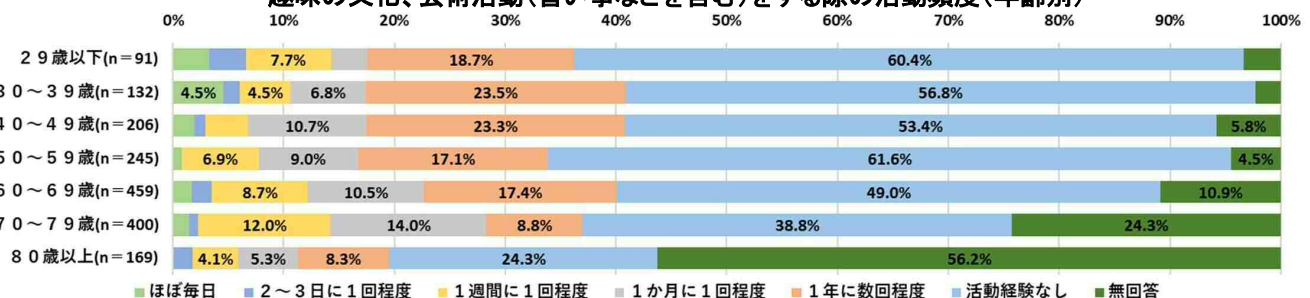
#### 3-5-7 趣味の文化・芸術活動(習い事などを含む) ②活動頻度

- 圏域住民に、趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の活動頻度について聞きました。
- 趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の活動頻度を居住地別にみると、いずれの市町においても「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「活動経験なし」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の活動頻度(居住地別)



趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の活動頻度(年齢別)

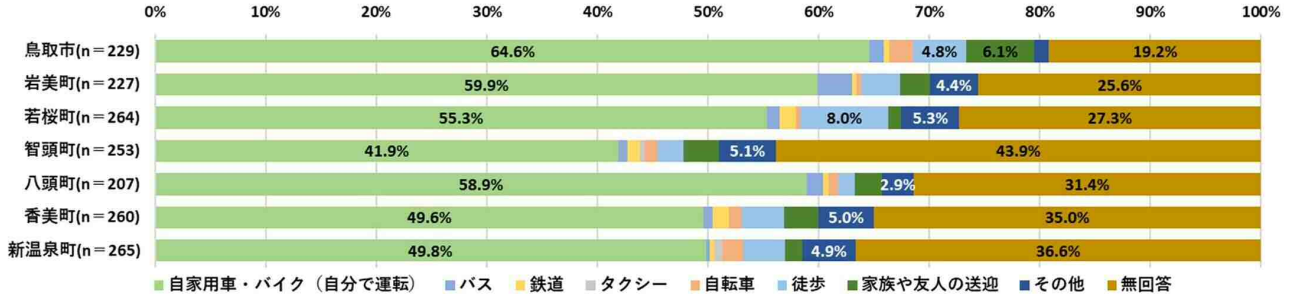


### 3-5 住民の余暇活動

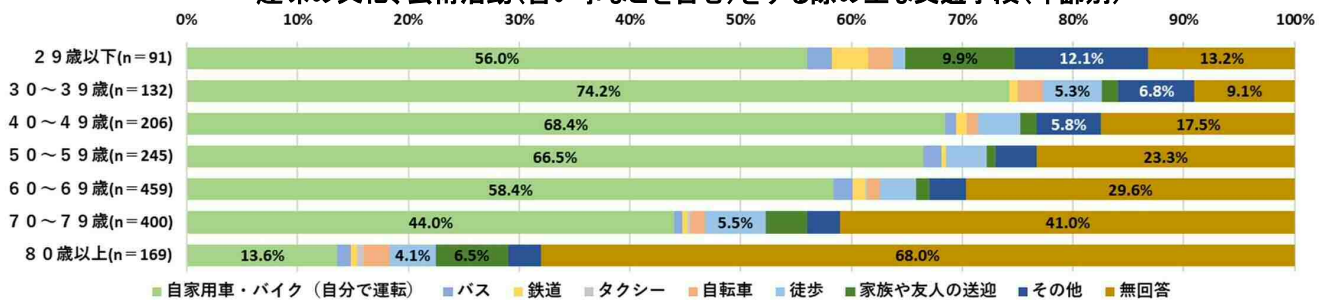
#### 3-5-7 趣味の文化・芸術活動(習い事などを含む) ③主な交通手段

- 圏域住民に、趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の主な交通手段について聞きました。
- 趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の主な交通手段を居住地別にみると、智頭町を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、概ね50%を超えています。また、智頭町では「無回答」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の主な交通手段(居住地別)



趣味の文化、芸術活動(習い事などを含む)をする際の主な交通手段(年齢別)



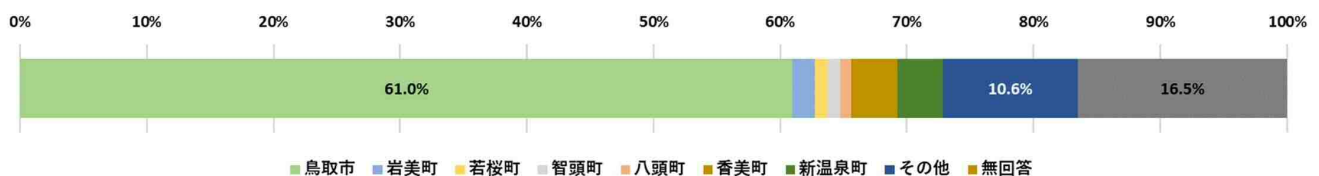
### 3-5 住民の余暇活動

#### 3-5-8 家族や友人との外食 ①活動場所(市町)

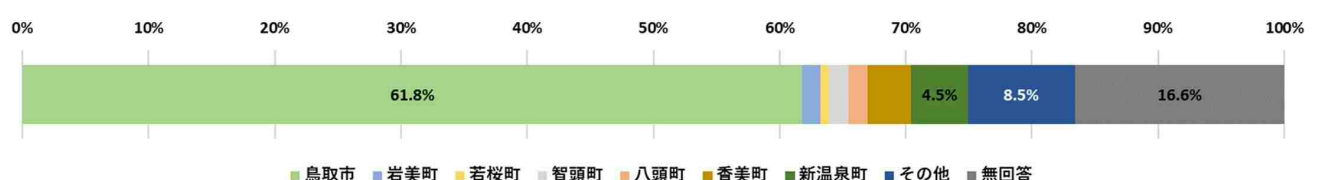
- 圏域住民に、家族や友人と外食する際の主な活動場所(市町)について聞きました。
- 主な活動場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が0.8%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高いのは「その他」ですが、その割合は前回調査時よりも2.1%減少しました。

家族や友人と外食する際の活動場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)



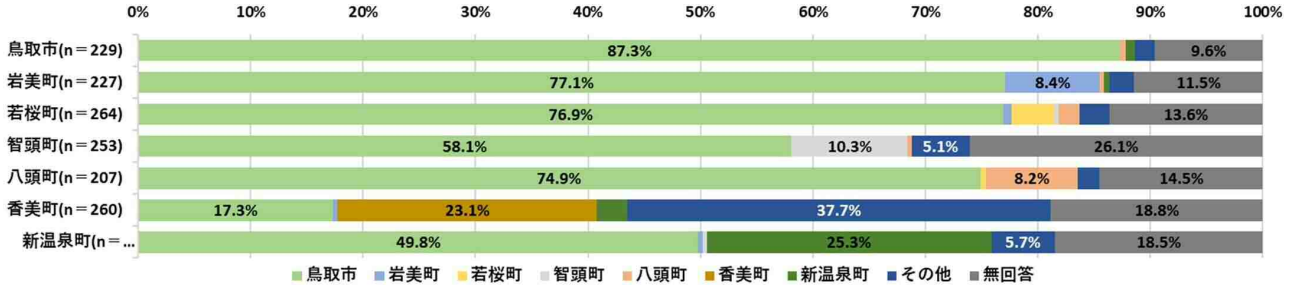


### 3-5 住民の余暇活動

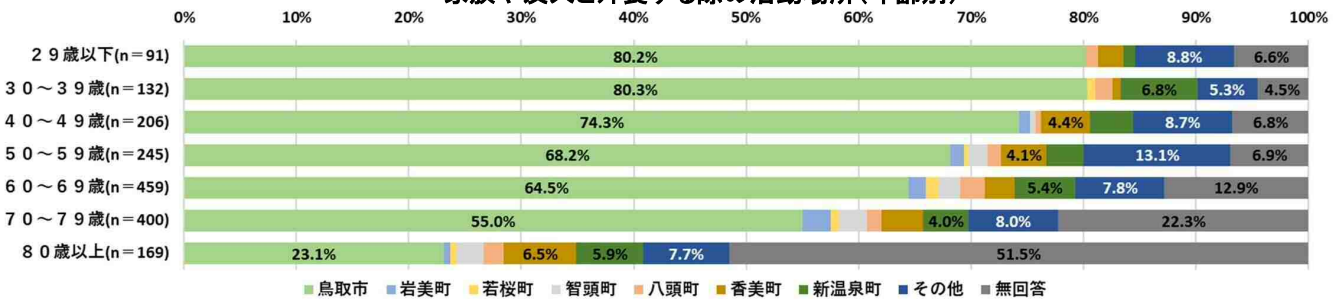
#### 3-5-8 家族や友人との外食 ①活動場所(市町)

- 家族や友人と外食する際の活動場所(市町)を居住地別にみると、香美町を除き、活動場所の割合は「鳥取市」が最も多く、概ね50%を超えています。また、香美町の活動場所の割合は「その他」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、活動場所が「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、80歳以上の活動場所の割合は「無回答」が最も高くなっています。

家族や友人と外食する際の活動場所(居住地別)



家族や友人と外食する際の活動場所(年齢別)

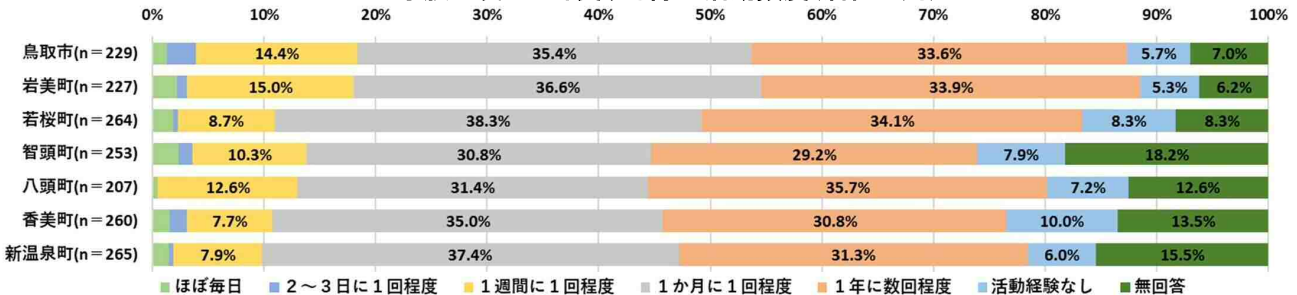


### 3-5 住民の余暇活動

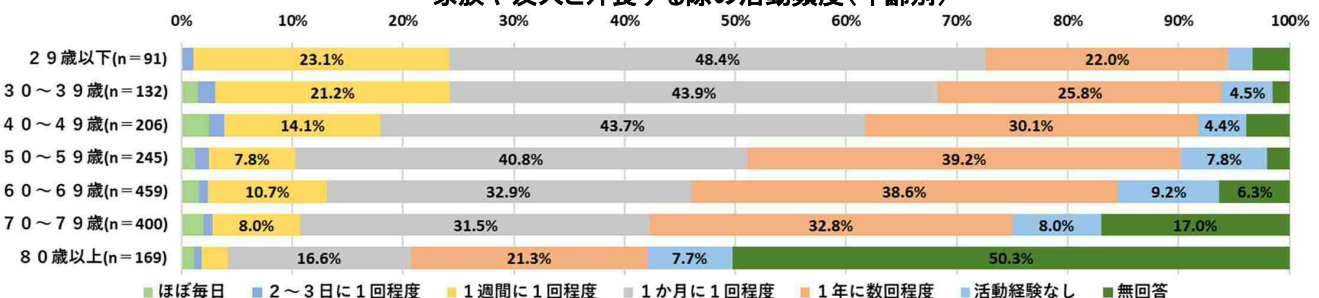
#### 3-5-8 家族や友人との外食 ②活動頻度

- 圏域住民に、家族や友人と外食する際の活動頻度について聞きました。
- 家族や友人と外食する際の活動頻度を居住地別にみると、八頭町を除き、「1か月に1回程度」の割合が最も高くなっています。また、八頭町では「1年に数回程度」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、59歳以下では「1か月に1回程度」の割合が最も高く、60~79歳では「1年に数回程度」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

家族や友人と外食する際の活動頻度(居住地別)



家族や友人と外食する際の活動頻度(年齢別)

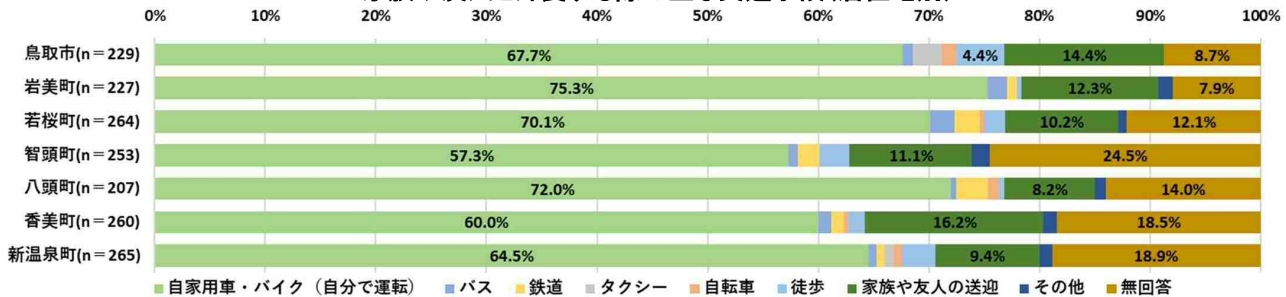


### 3-5 住民の余暇活動

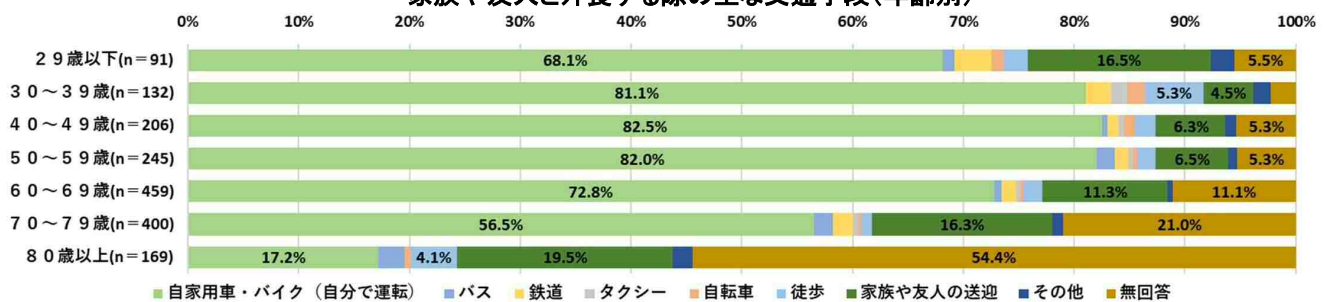
#### 3-5-8 家族や友人との外食 ③主な交通手段

- 圏域住民に、家族や友人と外食する際の主な交通手段について聞きました。
- 家族や友人と外食する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、50%を超えます。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、50%を超えます。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

家族や友人と外食する際の主な交通手段(居住地別)



家族や友人と外食する際の主な交通手段(年齢別)



### 3-6 公共施設の利用状況

#### 3-6-1 図書館 ①施設の場所(市町)

- 圏域住民に、どの市町の図書館を利用するかについて聞きました。
- 利用する図書館の市町として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」ですが、その割合は前回調査時よりも1.8%下降しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高い市町は「新温泉町」であり、前回調査時よりも割合が1.0%上昇しました。

利用する図書館の場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

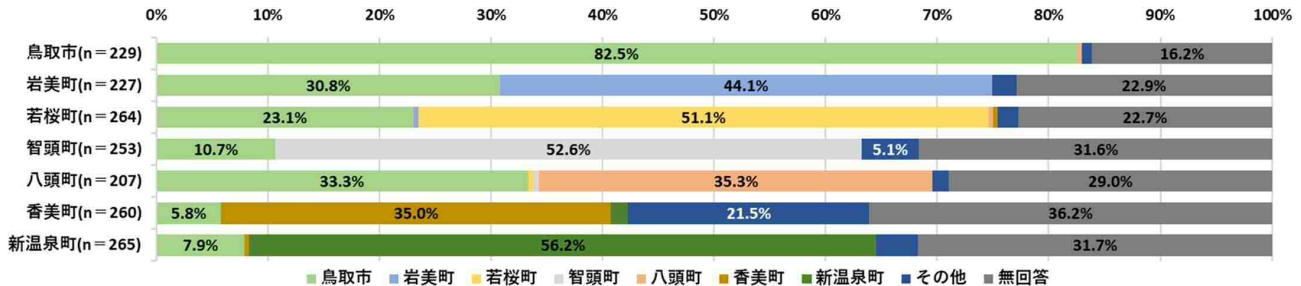


### 3-6 公共施設の利用状況

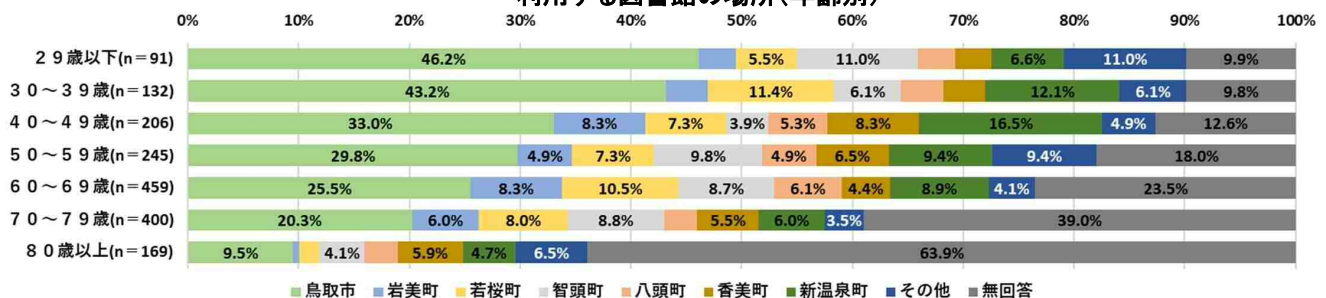
#### 3-6-1 図書館 ①施設の場所(市町)

- 利用する図書館の場所(市町)を居住地別にみると、それぞれの居住地の図書館を利用する割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下の利用する図書館は「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、70歳以上の利用する図書館の割合は「無回答」が最も高くなっています。

利用する図書館の場所(居住地別)



利用する図書館の場所(年齢別)

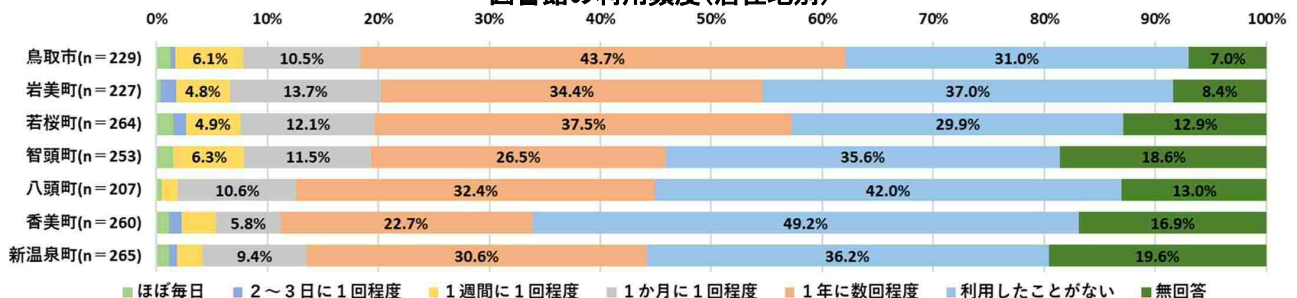


### 3-6 公共施設の利用状況

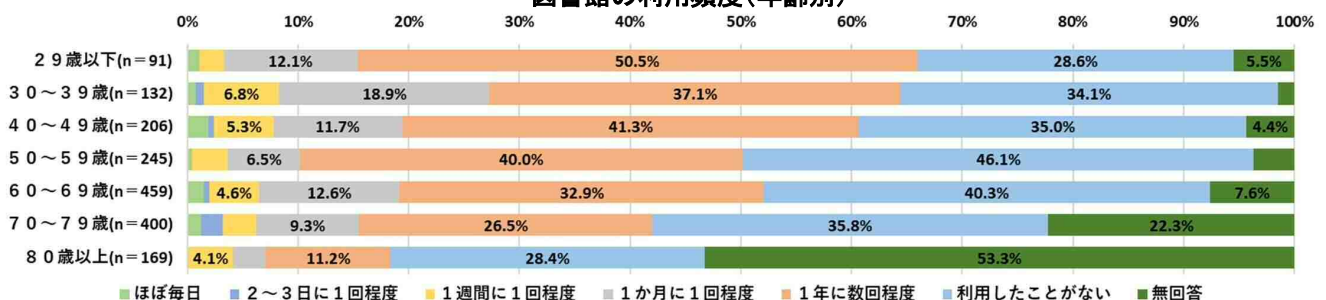
#### 3-6-1 図書館 ②利用頻度

- 圏域住民に、図書館の利用頻度について聞きました。
- 図書館の利用頻度を居住地別にみると、「鳥取市」、「若桜町」では「1年に数回程度」の割合が最も高く、「岩美町」、「智頭町」、「八頭町」、「香美町」、「新温泉町」では「利用したことがない」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、49歳以下では「1年に1回程度」の割合が最も高く、50~79歳では「利用したことがない」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

図書館の利用頻度(居住地別)



図書館の利用頻度(年齢別)

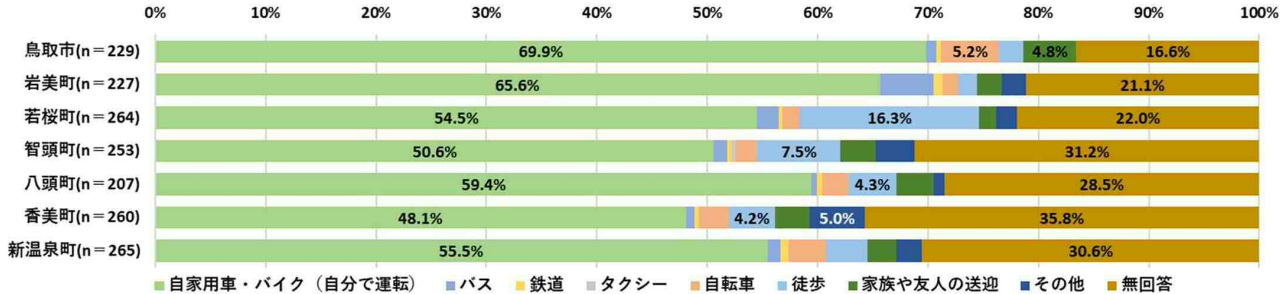


### 3-6 公共施設の利用状況

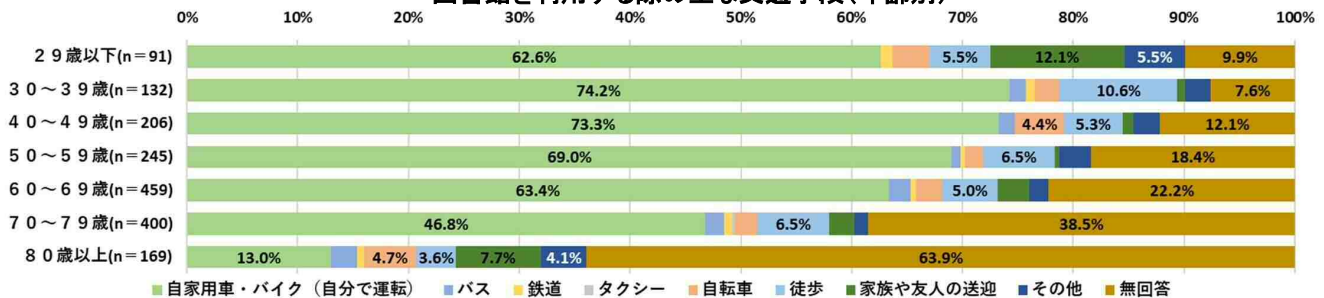
#### 3-6-1 図書館 ③主な交通手段

- 圏域住民に、図書館を利用する際の主な交通手段について聞きました。
- 図書館を利用する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

図書館を利用する際の主な交通手段(居住地別)



図書館を利用する際の主な交通手段(年齢別)



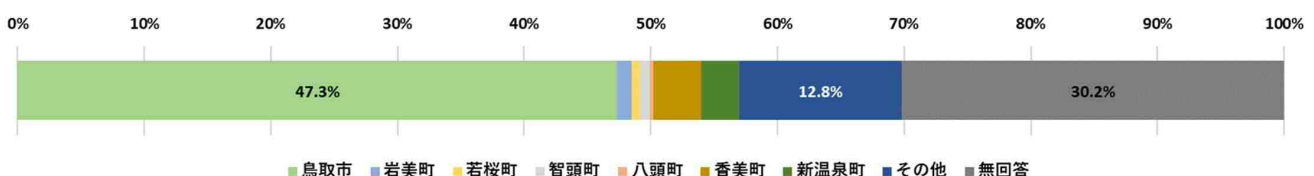
### 3-6 公共施設の利用状況

#### 3-6-2 文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等) ①施設の場所(市町)

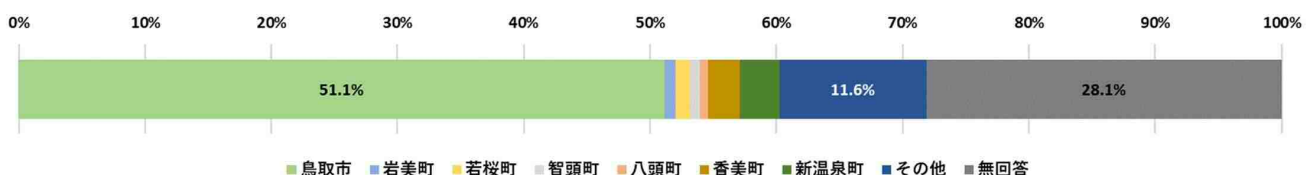
- 圏域住民に、どの市町の文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)を利用するかについて聞きました。
- 利用する文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)の市町として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が3.8%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高いのは「その他」ですが、その割合は前回調査時よりも1.2%下降しました。

利用する文化施設の場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

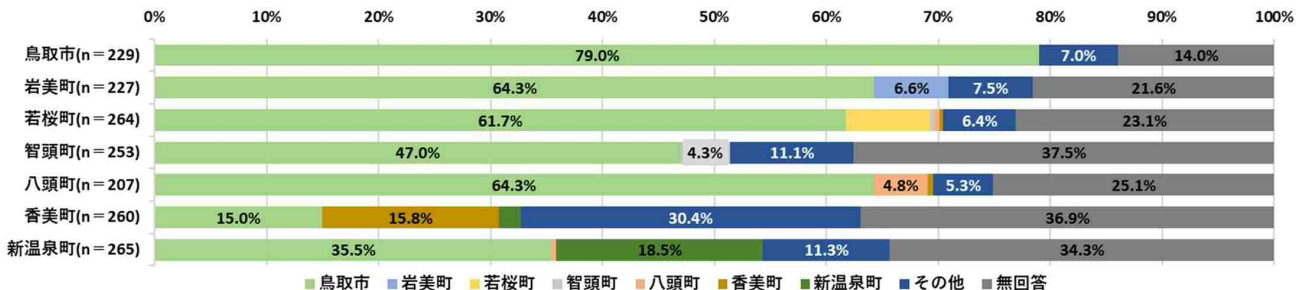


### 3-6 公共施設の利用状況

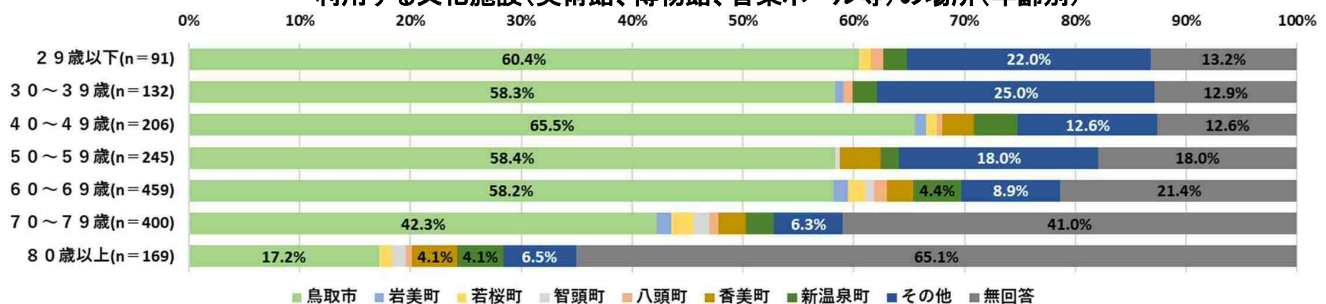
#### 3-6-2 文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等) ①施設の場所(市町)

- 利用する文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)の場所(市町)を居住地別にみると、香美町を除き、利用する文化施設の場所は「鳥取市」の割合が最も高くなっています。また、香美町の利用する文化施設の割合は「無回答」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、利用する文化施設が「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、80歳以上の利用する文化施設の割合は「無回答」が最も高くなっています。

利用する文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)の場所(居住地別)



利用する文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)の場所(年齢別)

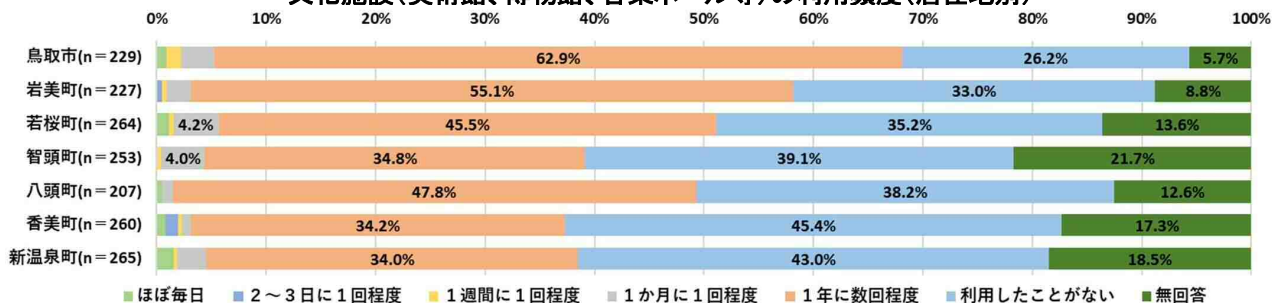


### 3-6 公共施設の利用状況

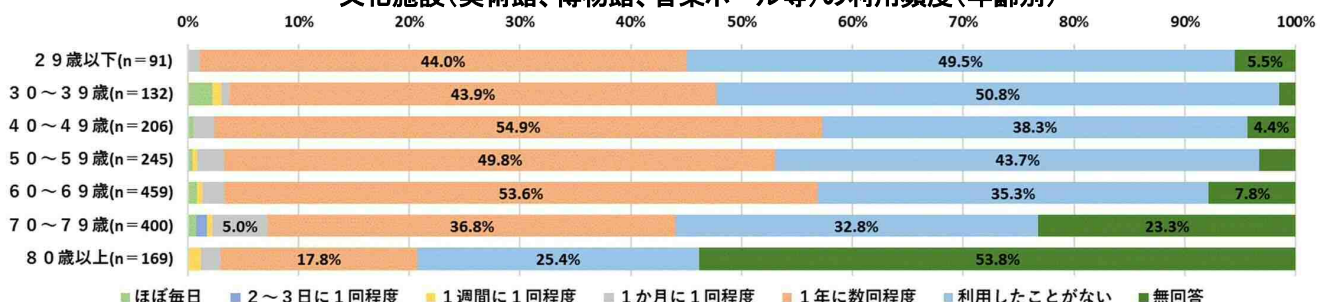
#### 3-6-2 文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等) ②利用頻度

- 圏域住民に、文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)の利用頻度について聞きました。
- 文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)の利用頻度を居住地別にみると、「鳥取市」、「岩美町」、「若桜町」、「八頭町」では「1年に数回程度」の割合が最も高く、「智頭町」、「香美町」、「新温泉町」では「利用したことがない」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、39歳以下では「利用したことがない」の割合が最も高く、40~79歳では「1年に数回程度」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)の利用頻度(居住地別)



文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)の利用頻度(年齢別)

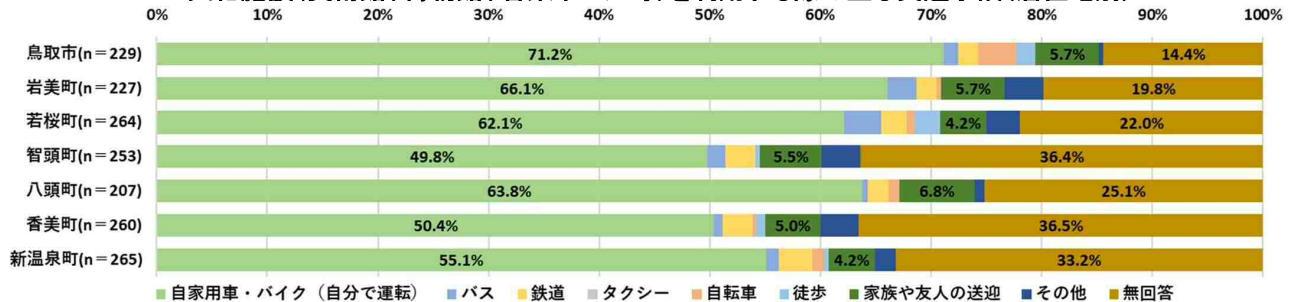


### 3-6 公共施設の利用状況

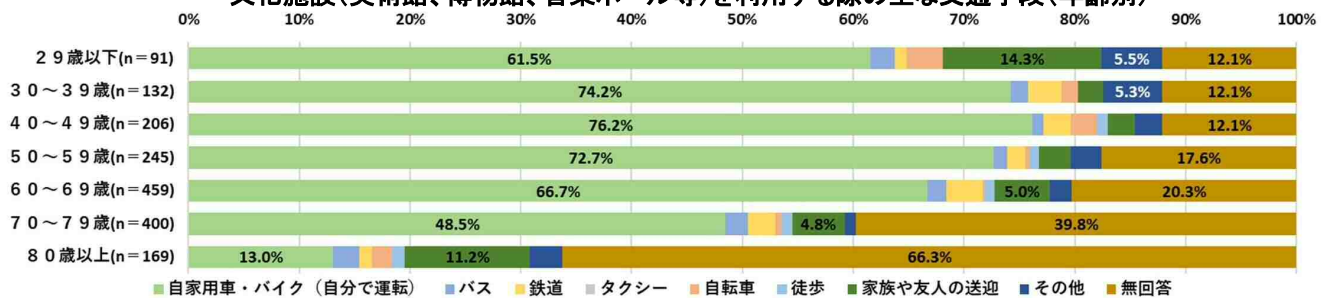
#### 3-6-2 文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等) ③主な交通手段

- 圏域住民に、文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)を利用する際の主な交通手段について聞きました。
- 文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)を利用する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、概ね50%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)を利用する際の主な交通手段(居住地別)



文化施設(美術館、博物館、音楽ホール等)を利用する際の主な交通手段(年齢別)



### 3-6 公共施設の利用状況

#### 3-6-3 体育施設(グラウンド、体育館、プール等) ①施設の場所(市町)

- 圏域住民に、どの市町の体育施設(グラウンド、体育館、プール等)を利用するかについて聞きました。
- 利用する体育施設(グラウンド、体育館、プール等)の市町として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が2.3%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高い市町は「若桜町」ですが、その割合は前回調査時から変化はありませんでした。

利用する体育施設の場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

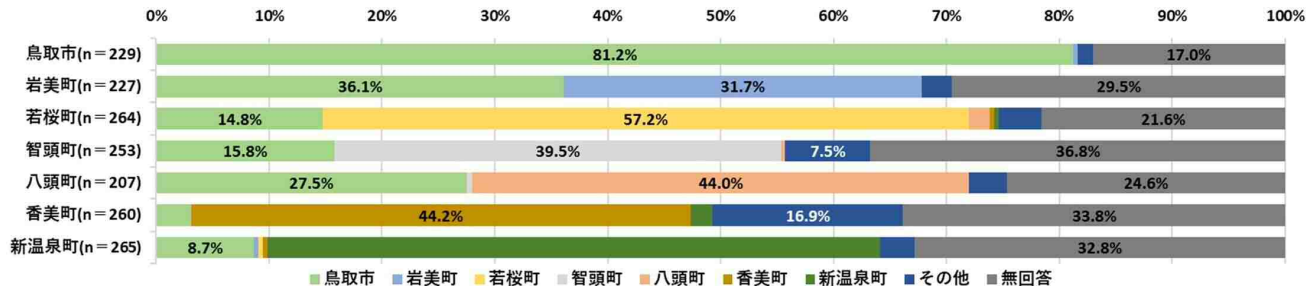


### 3-6 公共施設の利用状況

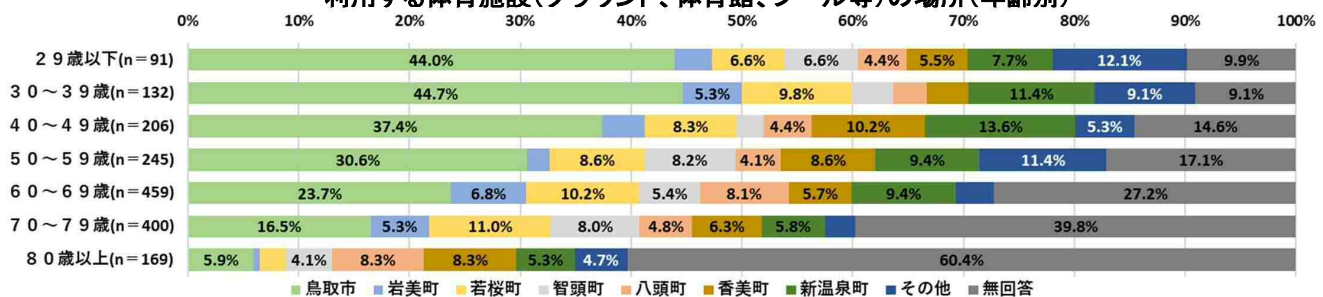
#### 3-6-3 体育施設(グラウンド、体育館、プール等) ①施設の場所(市町)

- 利用する体育施設(グラウンド、体育館、プール等)の場所(市町)を居住地別にみると、岩美町を除き、それぞれの居住地の体育施設を利用する割合が最も高くなっています。また、岩美町の利用する体育施設の割合は「鳥取市」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、59歳以下の利用する体育施設は「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、60歳以上の利用する体育施設の割合は「無回答」が最も高くなっています。

利用する体育施設(グラウンド、体育館、プール等)の場所(居住地別)



利用する体育施設(グラウンド、体育館、プール等)の場所(年齢別)

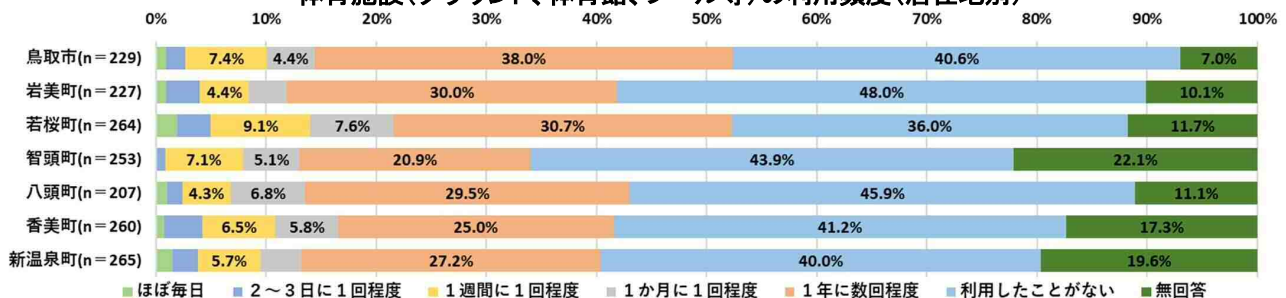


### 3-6 公共施設の利用状況

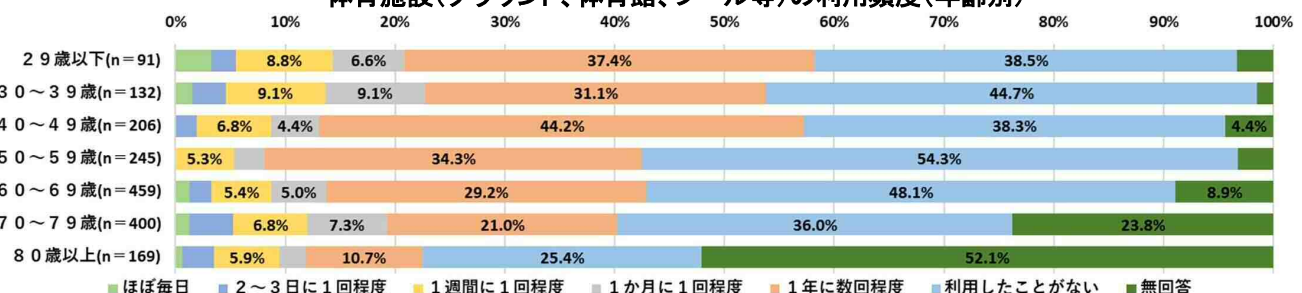
#### 3-6-3 体育施設(グラウンド、体育館、プール等) ②利用頻度

- 圏域住民に、体育施設(グラウンド、体育館、プール等)の利用頻度について聞きました。
- 体育施設(グラウンド、体育館、プール等)の利用頻度を居住地別にみると、いずれの市町においても「利用したことがない」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、40~49歳では「1年に数回程度」の割合が最も高く、39歳以下、50~79歳では「利用したことがない」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

体育施設(グラウンド、体育館、プール等)の利用頻度(居住地別)



体育施設(グラウンド、体育館、プール等)の利用頻度(年齢別)

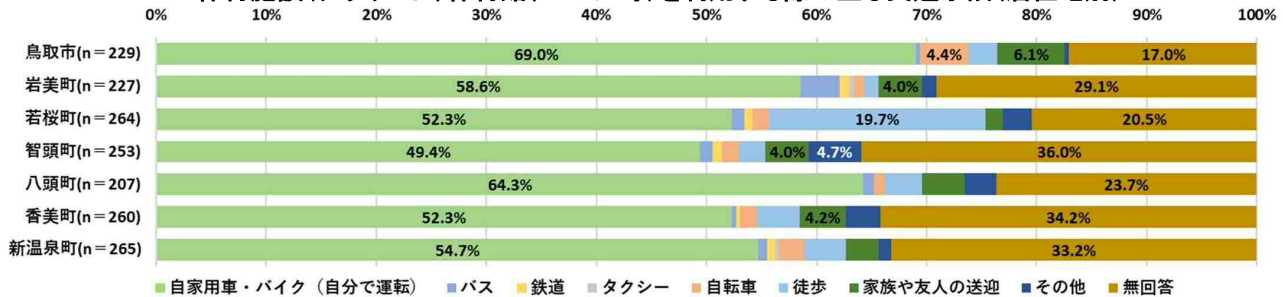


### 3-6 公共施設の利用状況

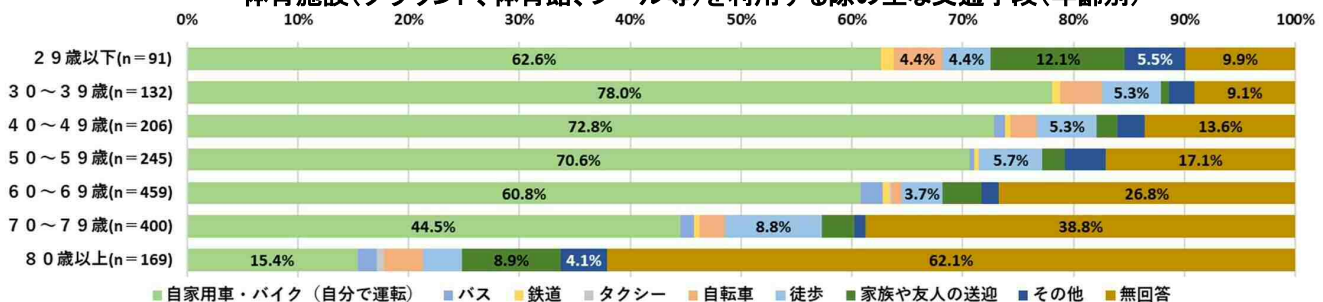
#### 3-6-3 体育施設(グラウンド、体育館、プール等) ③主な交通手段

- 圏域住民に、体育施設(グラウンド、体育館、プール等)を利用する際の主な交通手段について聞きました。
- 体育施設(グラウンド、体育館、プール等)を利用する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、概ね50%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

体育施設(グラウンド、体育館、プール等)を利用する際の主な交通手段(居住地別)



体育施設(グラウンド、体育館、プール等)を利用する際の主な交通手段(年齢別)



### 3-6 公共施設の利用状況

#### 3-6-4 公民館(会議室、学習室、情報室等) ①施設の場所(市町)

- 圏域住民に、どの市町の公民館(会議室、学習室、情報室等)を利用するかについて聞きました。
- 利用する公民館(会議室、学習室、情報室等)の市町として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が1.6%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高い市町は「若桜町」であり、前回調査時よりも割合が0.5%上昇しました。

利用する公民館の場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)



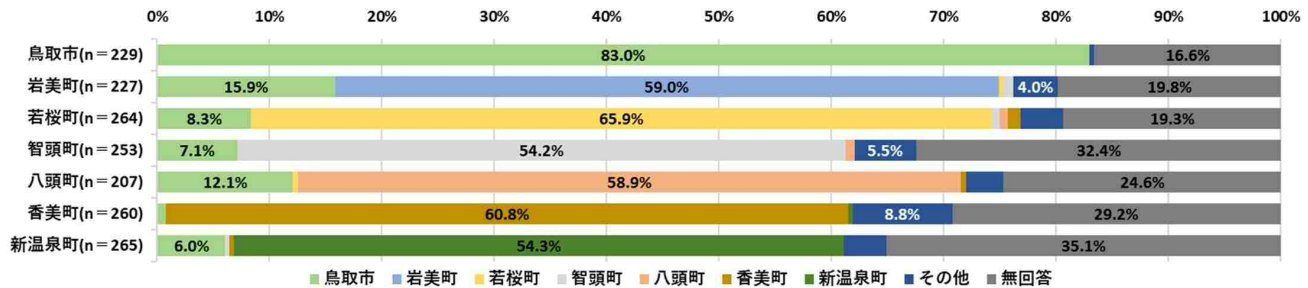


### 3-6 公共施設の利用状況

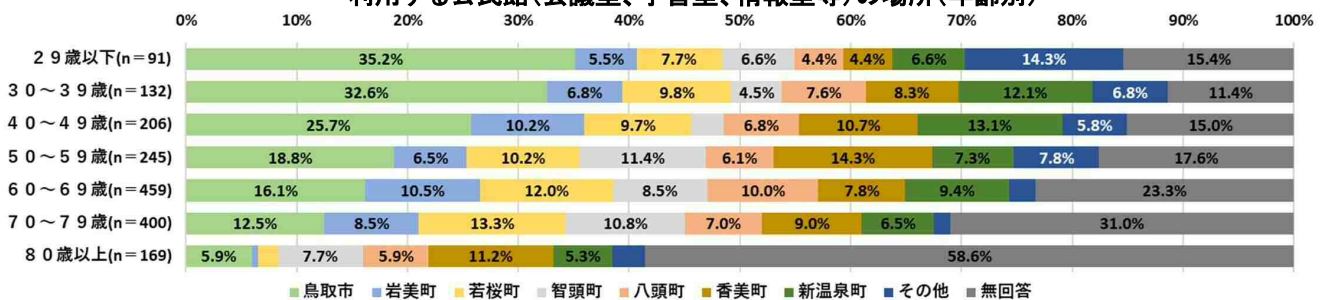
#### 3-6-4 公民館(会議室、学習室、情報室等) ①施設の場所(市町)

- 利用する公民館(会議室、学習室、情報室等)の場所(市町)を居住地別にみると、それぞれの居住地の公民館を利用する割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、59歳以下の利用する公民館は「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、60歳以上の利用する公民館の割合は「無回答」が最も高くなっています。

利用する公民館(会議室、学習室、情報室等)の場所(居住地別)



利用する公民館(会議室、学習室、情報室等)の場所(年齢別)

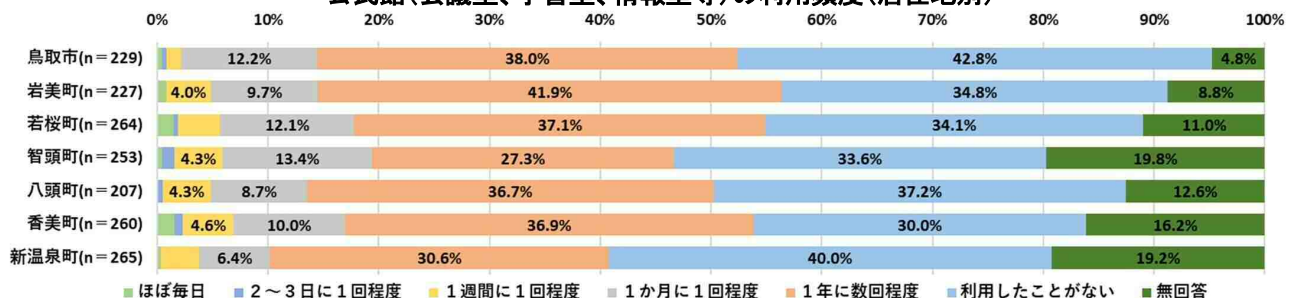


### 3-6 公共施設の利用状況

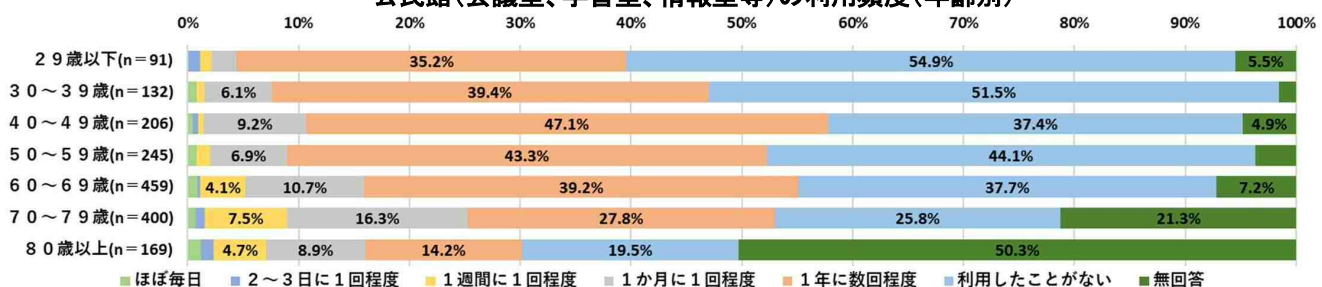
#### 3-6-4 公民館(会議室、学習室、情報室等) ②利用頻度

- 圏域住民に、公民館(会議室、学習室、情報室等)の利用頻度について聞きました。
- 公民館(会議室、学習室、情報室等)の利用頻度を居住地別にみると、「鳥取市」、「智頭町」、「八頭町」、「新温泉町」では「利用したことがない」の割合が最も高く、「岩美町」、「若桜町」、「香美町」では「1年に数回」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、39歳以下、50~59歳では「利用したことがない」の割合が最も高く、40~49歳、60~79歳では「1年に数回程度」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

公民館(会議室、学習室、情報室等)の利用頻度(居住地別)



公民館(会議室、学習室、情報室等)の利用頻度(年齢別)

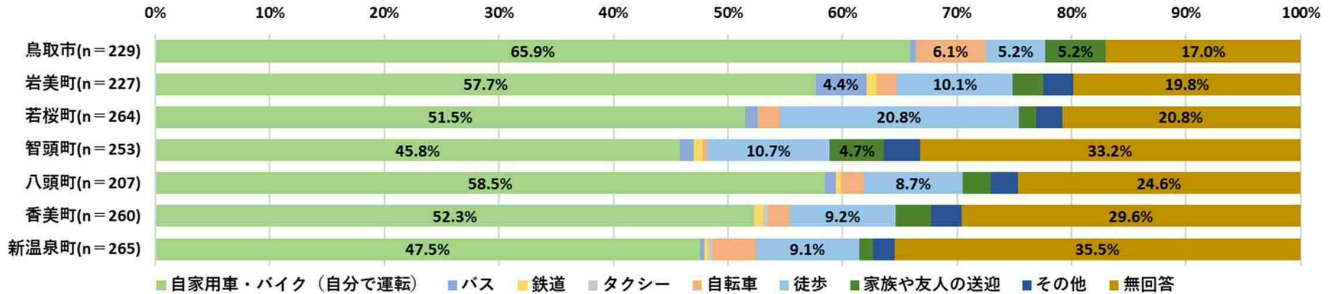


### 3-6 公共施設の利用状況

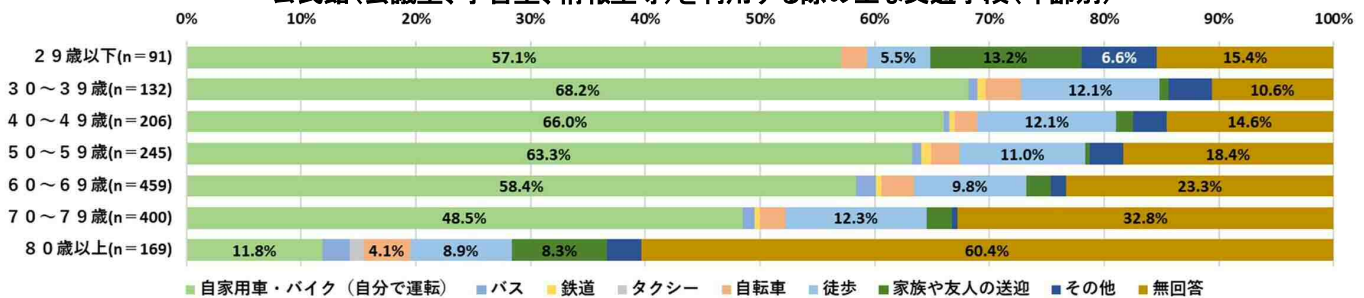
#### 3-6-4 公民館(会議室、学習室、情報室等) ③主な交通手段

- 圏域住民に、公民館(会議室、学習室、情報室等)を利用する際の主な交通手段について聞きました。
- 公民館(会議室、学習室、情報室等)を利用する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

公民館(会議室、学習室、情報室等)を利用する際の主な交通手段(居住地別)



公民館(会議室、学習室、情報室等)を利用する際の主な交通手段(年齢別)



### 3-6 公共施設の利用状況

#### 3-6-5 観光施設(道の駅、温泉施設等) ①施設の場所(市町)

- 圏域住民に、どの市町の観光施設(道の駅、温泉施設等)を利用するかについて聞きました。
- 利用する観光施設(道の駅、温泉施設等)の市町として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が3.4%上昇しました。「無回答」を除くと、次いで割合が高いのは「その他」ですが、その割合は前回調査時よりも6.8%下降しました。

利用する観光施設の場所(市町)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

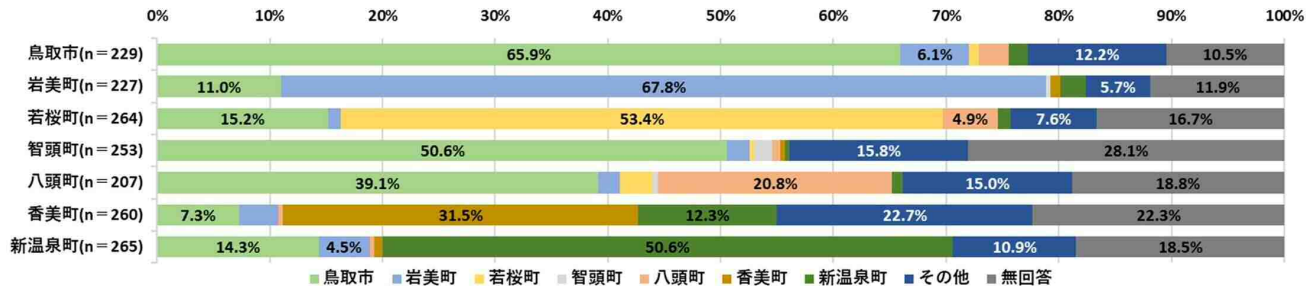


### 3-6 公共施設の利用状況

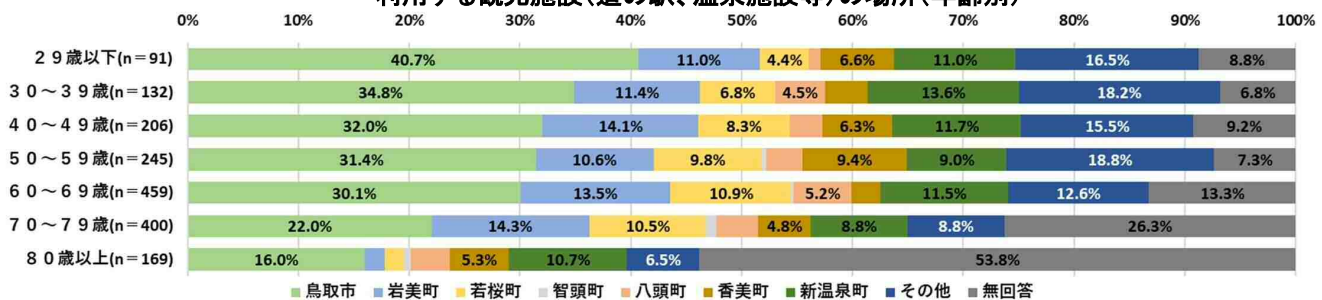
#### 3-6-5 観光施設(道の駅、温泉施設等) ①施設の場所(市町)

- 利用する観光施設(道の駅、温泉施設等)の場所(市町)を居住地別にみると、智頭町と八頭町を除き、それぞれの居住地の観光施設を利用する割合が最も高くなっています。智頭町と八頭町の利用する観光施設の割合は「鳥取市」が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、69歳以下の利用する観光施設は「鳥取市」である割合が最も高くなっています。一方、70歳以上の利用する観光施設の割合は「無回答」が最も高くなっています。

利用する観光施設(道の駅、温泉施設等)の場所(居住地別)



利用する観光施設(道の駅、温泉施設等)の場所(年齢別)

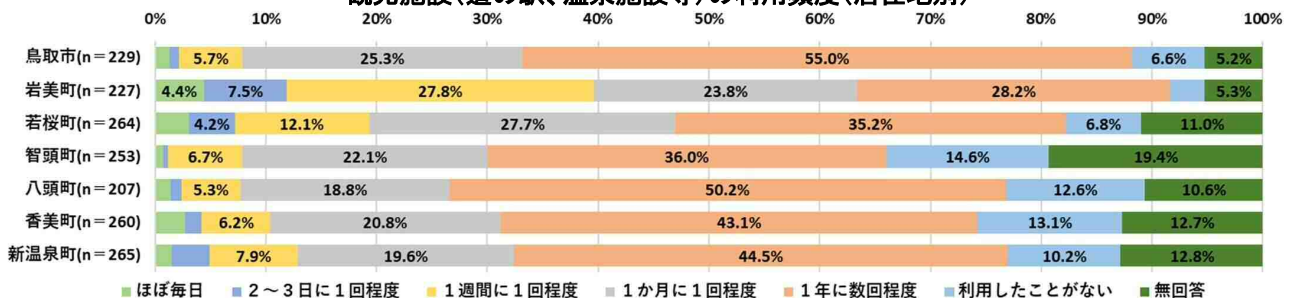


### 3-6 公共施設の利用状況

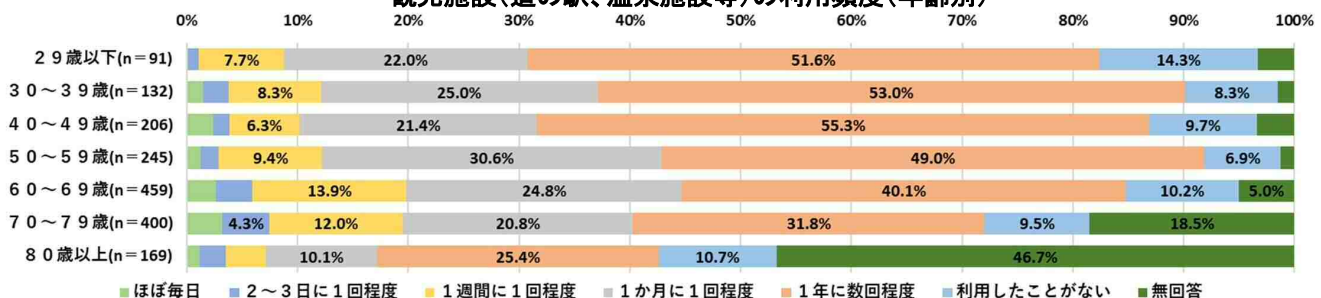
#### 3-6-5 観光施設(道の駅、温泉施設等) ②利用頻度

- 圏域住民に、観光施設(道の駅、温泉施設等)の利用頻度について聞きました。
- 観光施設(道の駅、温泉施設等)の利用頻度を居住地別にみると、いずれの市町においても「1年に数回程度」の割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「1年に数回程度」の割合が最も高くなっています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

観光施設(道の駅、温泉施設等)の利用頻度(居住地別)



観光施設(道の駅、温泉施設等)の利用頻度(年齢別)

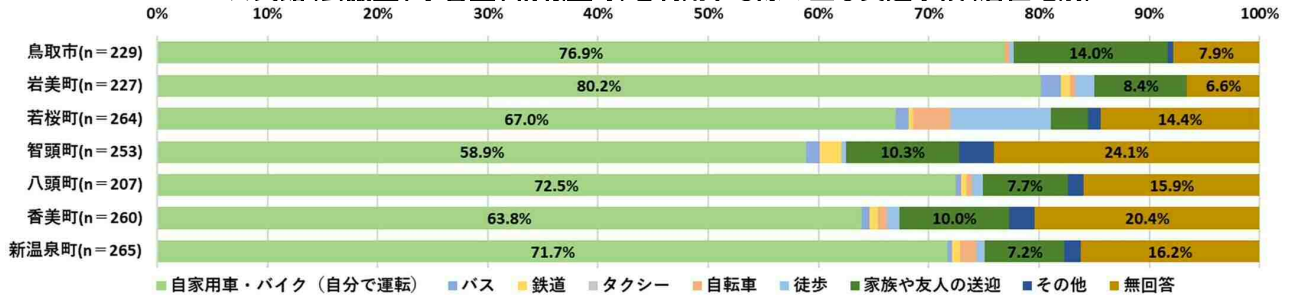


### 3-6 公共施設の利用状況

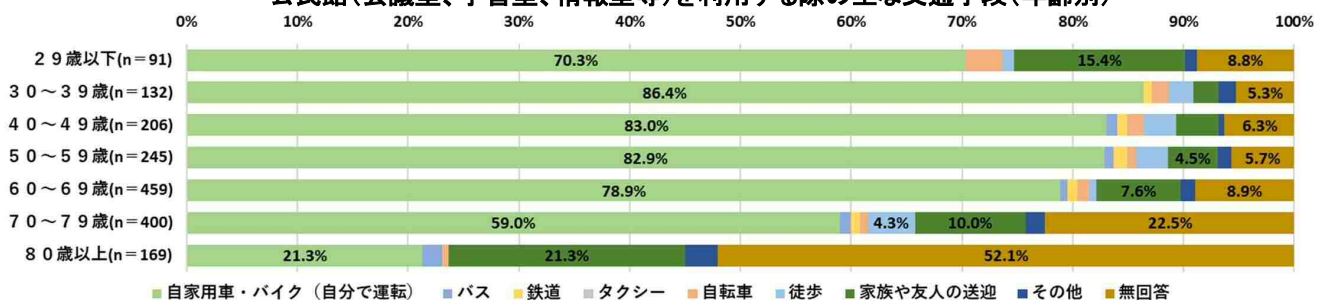
#### 3-6-5 観光施設(道の駅、温泉施設等) ③主な交通手段

- 圏域住民に、公民館(会議室、学習室、情報室等)を利用する際の主な交通手段について聞きました。
- 公民館(会議室、学習室、情報室等)を利用する際の主な交通手段を居住地別にみると、いずれの市町においても「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、50%を超えています。
- 年齢別にみると、80歳以上を除き、「自家用車・バイク(自分で運転)」の割合が最も高く、50%を超えています。また、80歳以上では「無回答」の割合が最も高くなっています。

公民館(会議室、学習室、情報室等)を利用する際の主な交通手段(居住地別)



公民館(会議室、学習室、情報室等)を利用する際の主な交通手段(年齢別)



### 3-7 医療福祉

#### 3-7-1 かかりつけの医療施設 ①所在地

- 圏域住民にかかりつけの医療施設の所在地について聞きました。
- 主な場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が1.9%上昇しました。次いで割合の高い市町は「新温泉町」であり、前回調査時よりも割合が1.0%上昇しました。

かかりつけの医療施設の所在地

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

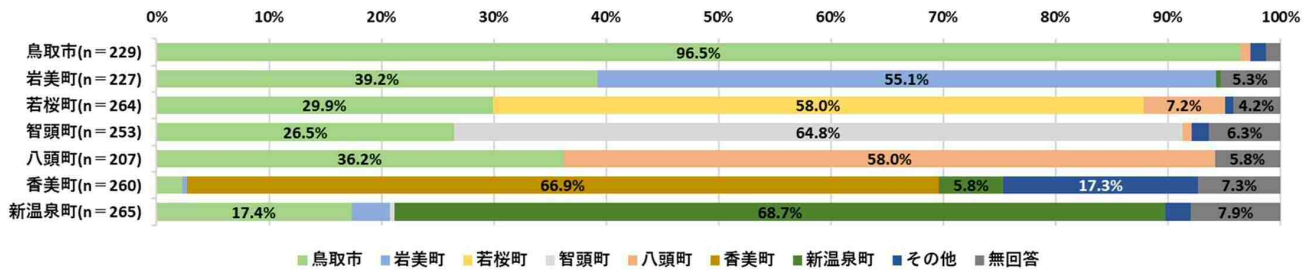


### 3-7 医療福祉

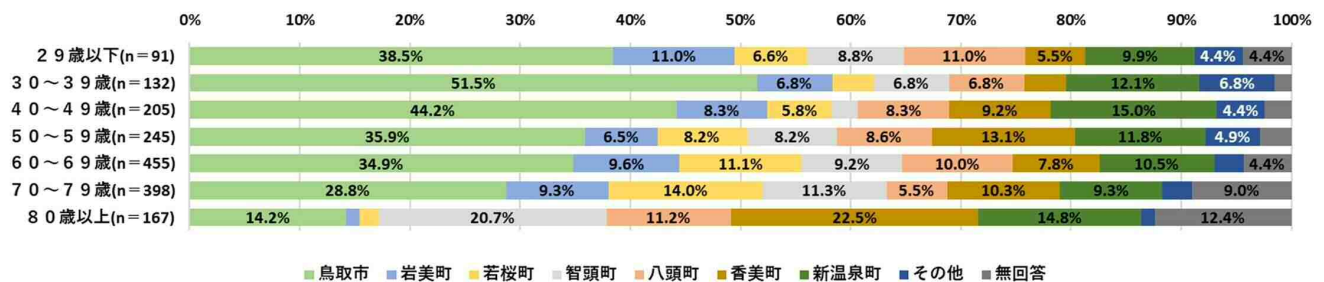
#### 3-7-1 かかりつけの医療施設 ①所在地

- かかりつけの医療施設の所在地を居住地別にみると、それぞれの居住地にある割合が最も高く、香美町を除き、その次は「鳥取市」の割合が高くなっています。
- 年齢別にみると、かかりつけの医療施設の所在地が「鳥取市」である割合は若い世代が高い傾向にあります。

かかりつけの医療施設の所在地(居住地別)



かかりつけの医療施設の所在地(年齢別)

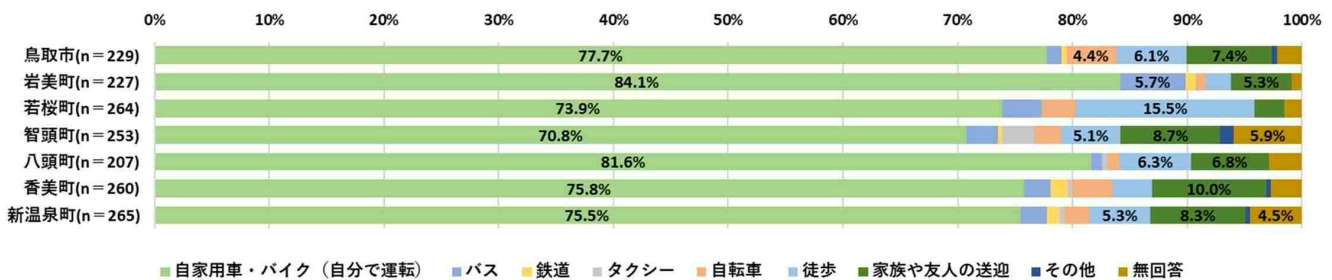


### 3-7 医療福祉

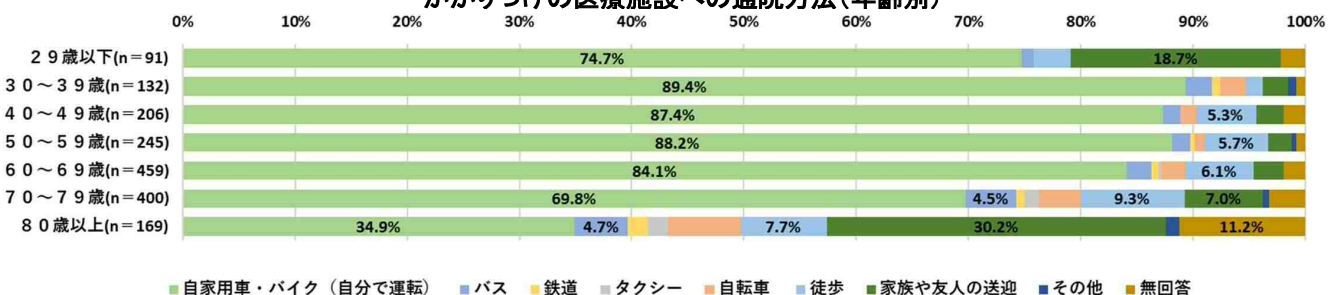
#### 3-7-1 かかりつけの医療施設 ②通院方法

- かかりつけの医療施設への通院方法を居住地別にみると、自家用車・バイクの割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、かかりつけの医療施設への通院方法は自家用車・バイクの割合すべての世代で高い傾向にあり、80歳以上になると家族や友人の送迎が高くなっています。

かかりつけの医療施設への通院方法(居住地別)



かかりつけの医療施設への通院方法(年齢別)



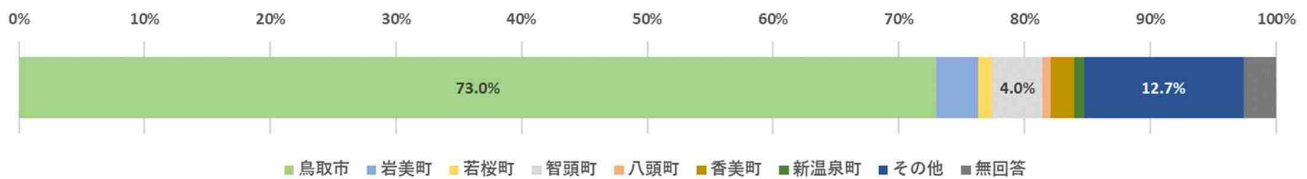
### 3-7 医療福祉

#### 3-7-2 高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設 ①所在地

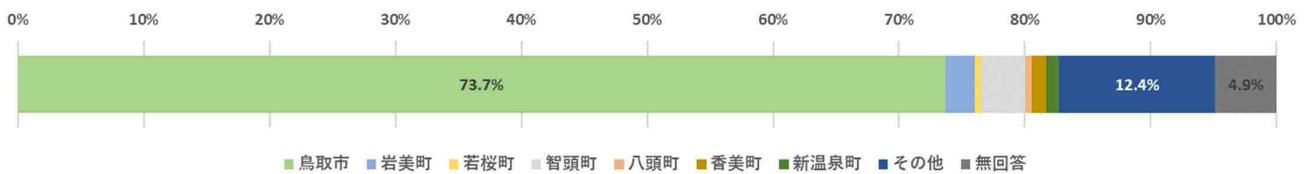
- 圏域住民に高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設の所在地について聞きました。
- 主な場所として最も割合の高い市町は前回調査時同様「鳥取市」であり、前回調査時よりも割合が0.7%上昇しました。次いで割合の高い市町は「新温泉町」であり、前回調査時よりも割合が0.3%下降しました。

高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設の所在地

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

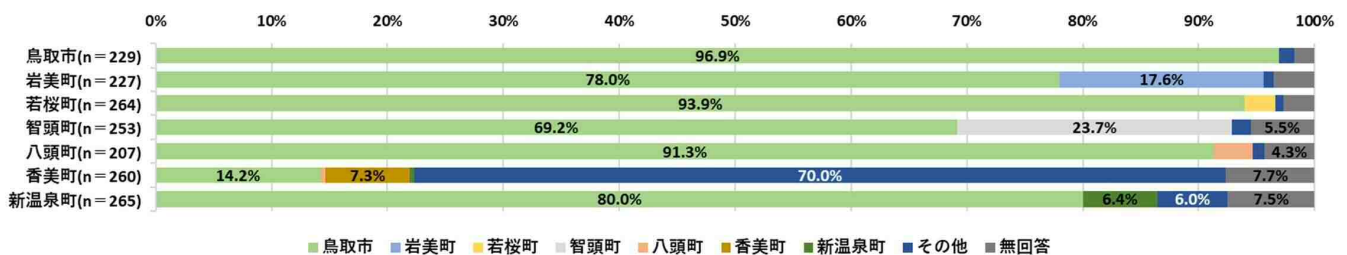


### 3-7 医療福祉

#### 3-7-2 高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設 ①所在地

- 高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設の所在地を居住地別にみると、香美町を除き、鳥取市の割合が高くなっています。
- 年齢別にみると、かかりつけの医療施設の所在地が「鳥取市」である割合は若い世代が高い傾向にあります。

高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設の所在地(居住地別)



高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設の所在地(年齢別)

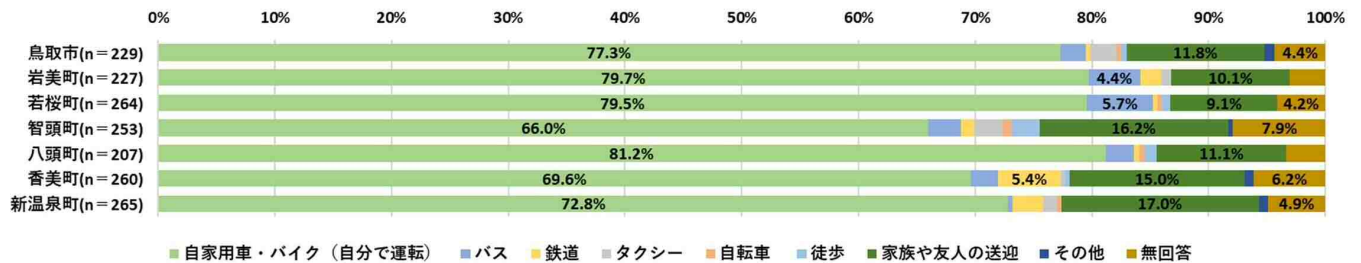


### 3-7 医療福祉

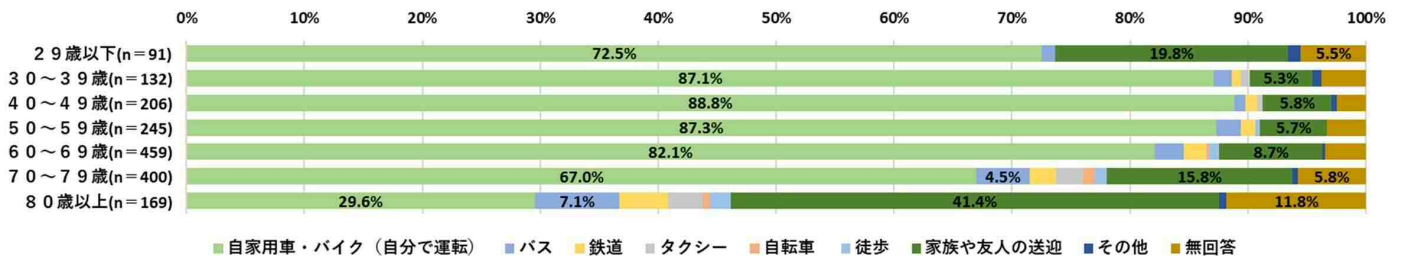
#### 3-7-2 高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設 ②通院方法

- 高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設への通院方法を居住地別にみると、すべての市町で自家用車・バイクの割合が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設への通院方法は自家用車・バイクの割合すべての世代で高い傾向にあり、80歳以上になると家族や友人の送迎が高くなっています。

高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設への通院方法(居住地別)



高度な医療サービスを受ける場合に利用する医療施設への通院方法(年齢別)

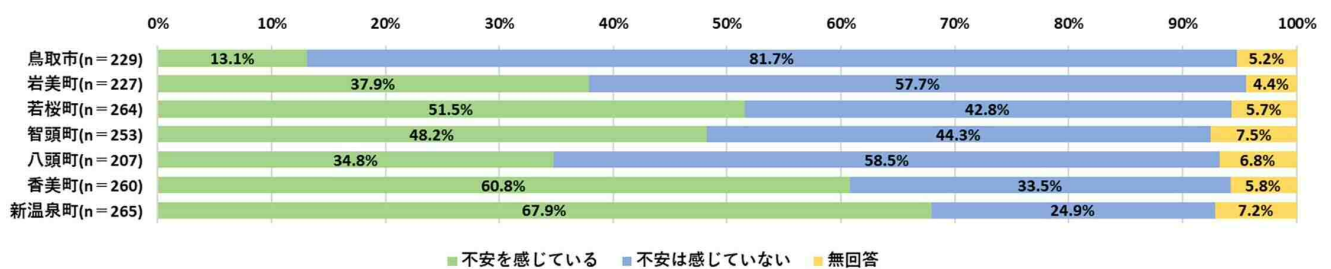


### 3-7 医療福祉

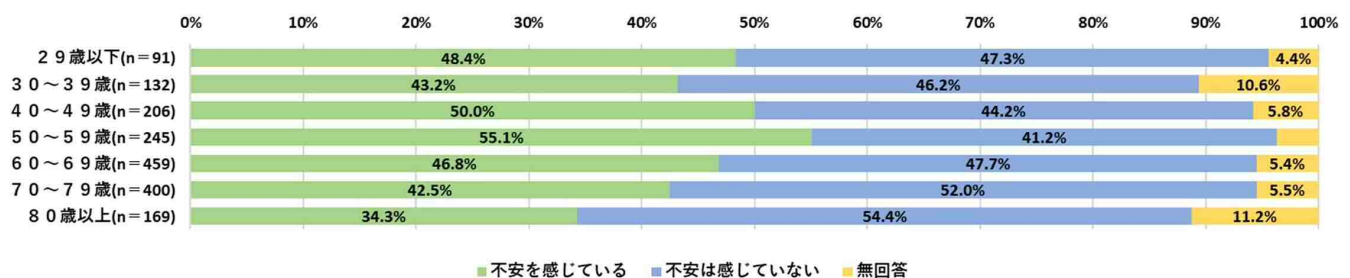
#### 3-7-3 地域の医療体制 ①住まいの市町の救急医療体制に対する不安感

- お住まいの市町の救急医療体制に対する居住地別の状況は、鳥取市、岩美町、八頭町では、「不安は感じていない」が「不安を感じている」を上回っています。
- 一方、年齢別の状況では、80歳以上で「不安を感じている」が少なくなっています。

お住まいの市町の救急医療体制に対して不安を感じているか(居住地別)



お住まいの市町の救急医療体制に対して不安を感じているか(年齢別)



### 3-7 医療福祉

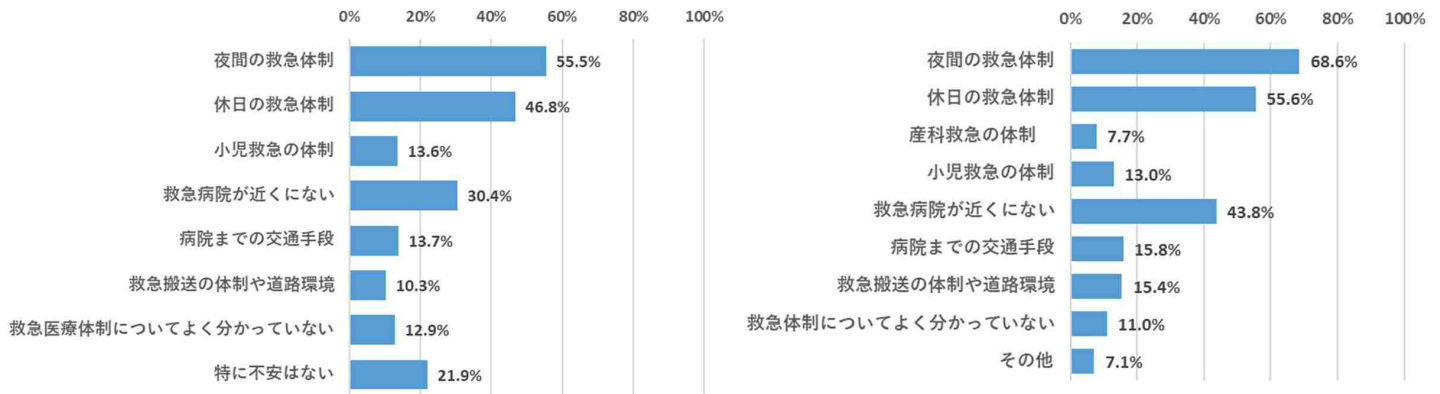
#### 3-7-3 地域の医療体制 ②住まいの市町の救急医療体制に対する不安の内容

- お住まいの市町の救急医療体制に対して不安を感じているかについて聞きました。
- 主な不安として最も割合の高いもの前回調査時同様「夜間の救急体制」であり、前回調査時よりも割合が13.1%上昇しました。次いで割合の高いものは「休日の救急体制」であり、前回調査時よりも割合が8.8%上昇しました。

#### 救急医療体制に対する不安の内容

前回調査(平成28年実施)

今回調査(令和3年実施)

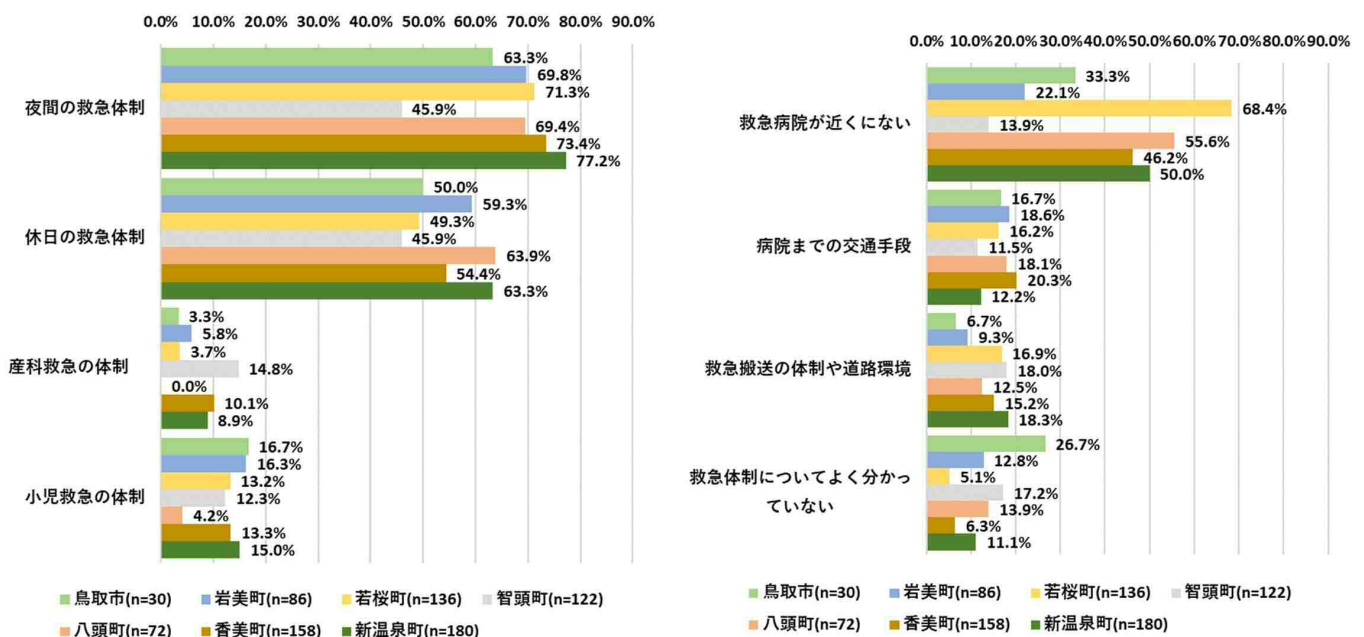


### 3-7 医療福祉

#### 3-7-3 地域の医療体制 ②住まいの市町の救急医療体制に対する不安の内容

- お住まいの市町の救急医療体制に対して不安を感じていることを居住地別にみると、智頭町を除く市町で夜間の救急体制に不安を感じている割合が最も高くなっています。

#### 地域の医療体制への不安について(居住地別)

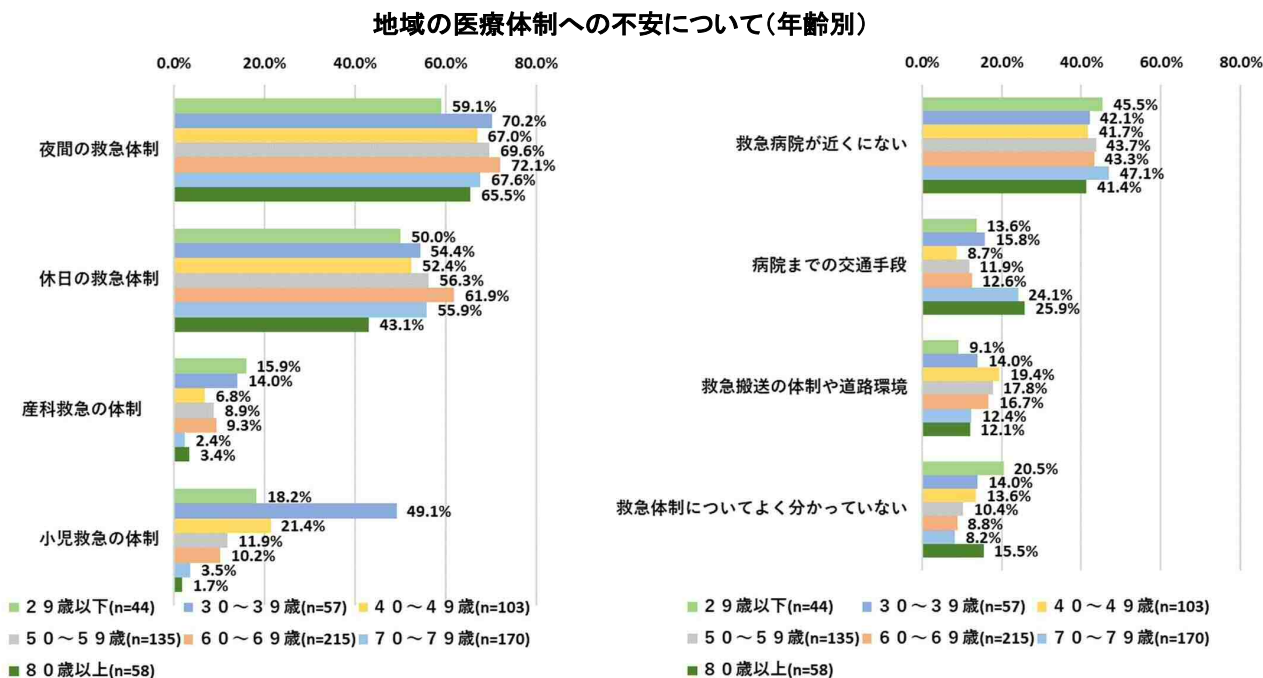




### 3-7 医療福祉

#### 3-7-3 地域の医療体制 ②住まいの市町の救急医療体制に対する不安の内容

- お住まいの市町の救急医療体制に対して不安を感じていることを年齢別にみると、全ての年齢で「夜間の救急体制」に不安を感じている割合が最も高くなっています。
- 30～39歳では「小児救急の体制」に不安を感じている割合が高くなっています。



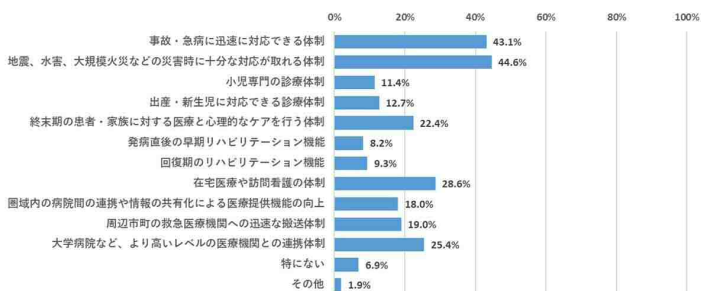
### 3-7 医療福祉

#### 3-7-3 地域の医療体制 ③今後、圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能

- 今後、圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能について聞きました。
- 今後、圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能として最も割合の高いもの前回調査時と異なり「事故・急病に迅速に対応できる体制」であり、前回調査時よりも割合が8.5%下降しました。次いで割合の高いものは「地震、水害、大規模火災などの災害時に十分な対応が取れる体制」であり、前回調査時よりも割合が13.0%下降しました。

#### 圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

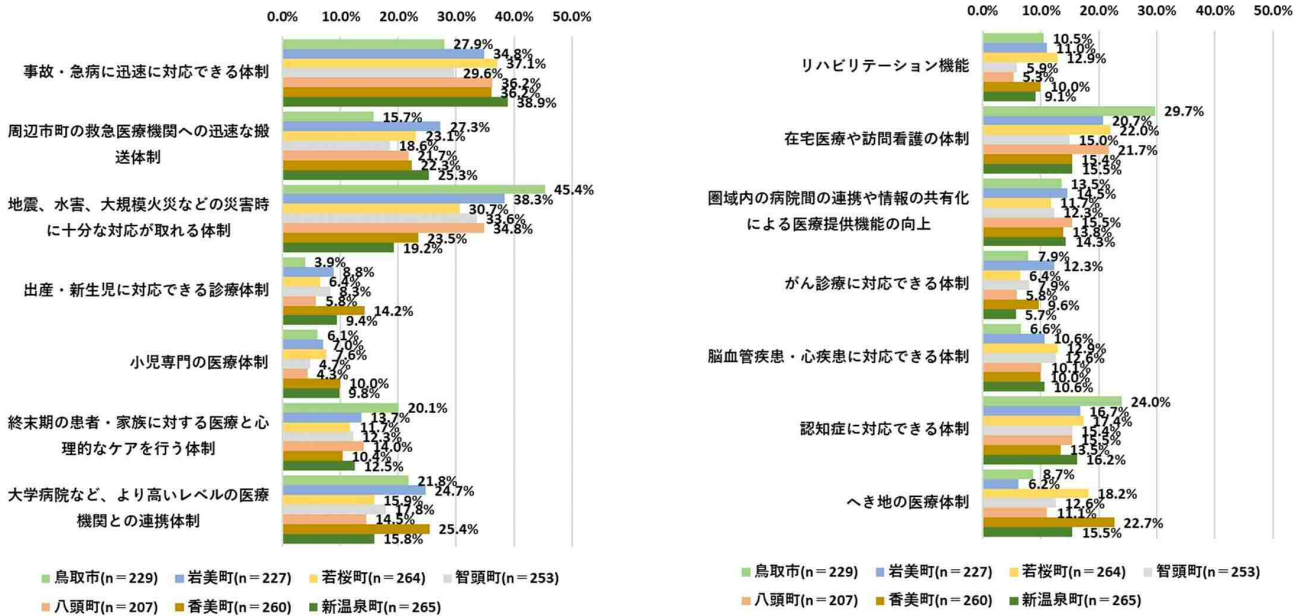


### 3-7 医療福祉

#### 3-7-3 地域の医療体制 ③今後、圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能

- 今後、圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能を居住地別にみると、すべての市町で「事故・急病に迅速に対応できる体制」と「地震、水害、大規模火災などの災害時に十分な対応が取れる体制」の割合が高くなっています。

今後、圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能について(居住地別)

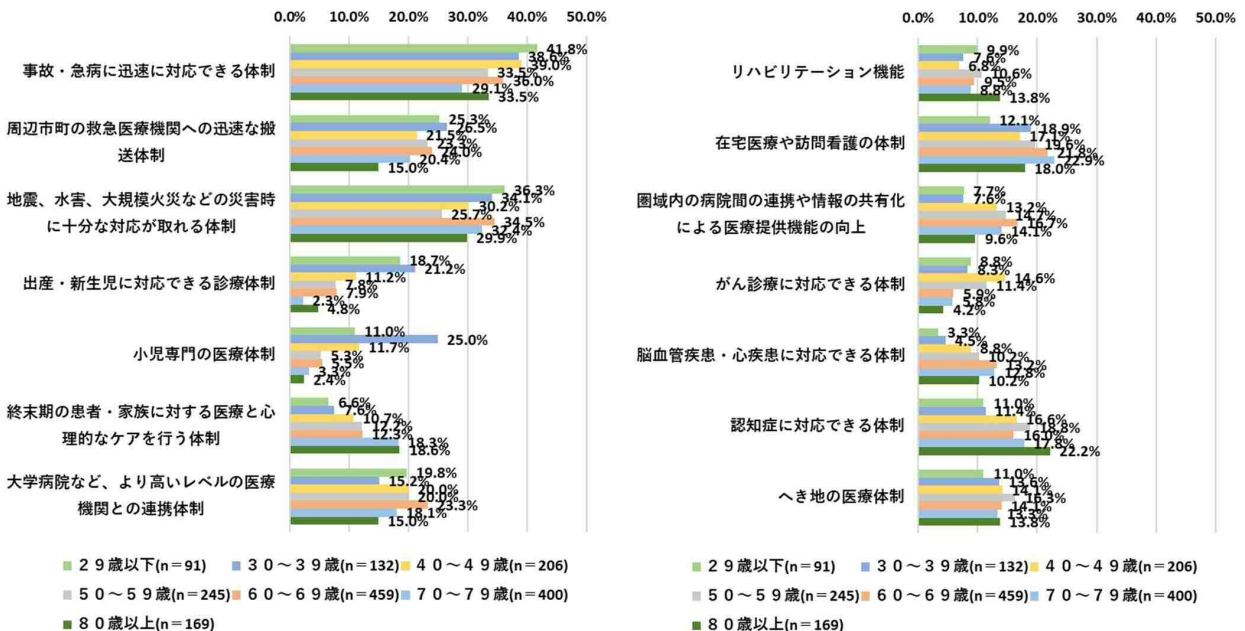


### 3-7 医療福祉

#### 3-7-3 地域の医療体制 ③今後、圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能

- 今後、圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能について年齢別にみるとすべての年齢で「事故・急病に迅速に対応できる体制」と「地震、水害、大規模火災などの災害時に十分な対応が取れる体制」の割合が高くなっています。
- 30～39歳では「小児専門の医療体制」の割合が高くなっています。

今後、圏域で充実すべきと思われる医療の体制・機能について(年齢別)

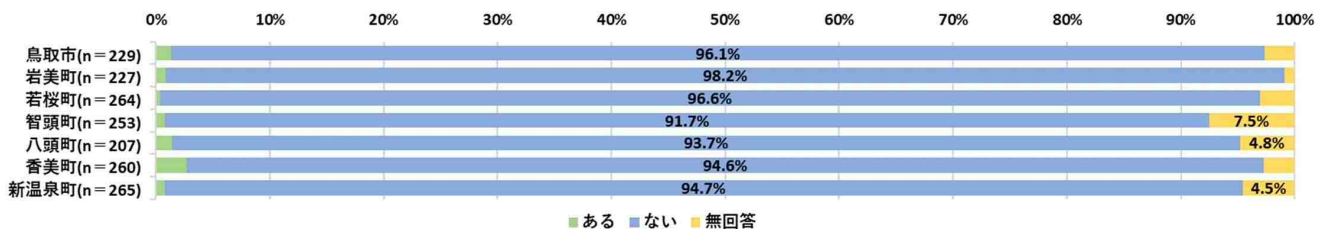


### 3-7 医療福祉

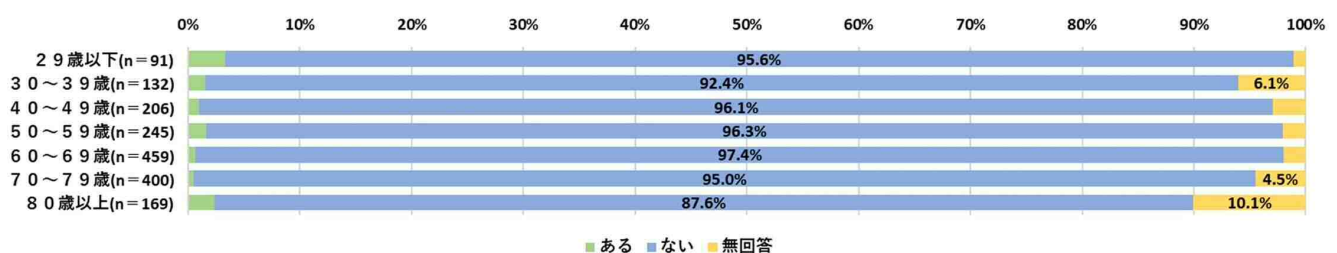
#### 3-7-4 遠隔医療(オンライン診療) ①遠隔医療(オンライン診療)の受診経験

- 遠隔医療(オンライン診療)の受診経験においてはいずれの居住地、年齢において、「ない」が大半を占めています。
- 香美町では、他市町と比較すると、「ある」が比較的高いです。
- 29歳以下と80歳以上については、他の年齢と比較すると、「ある」が比較的多いです。

遠隔医療(オンライン診療)の受診経験(居住地別)



遠隔医療(オンライン診療)の受診経験(年齢別)

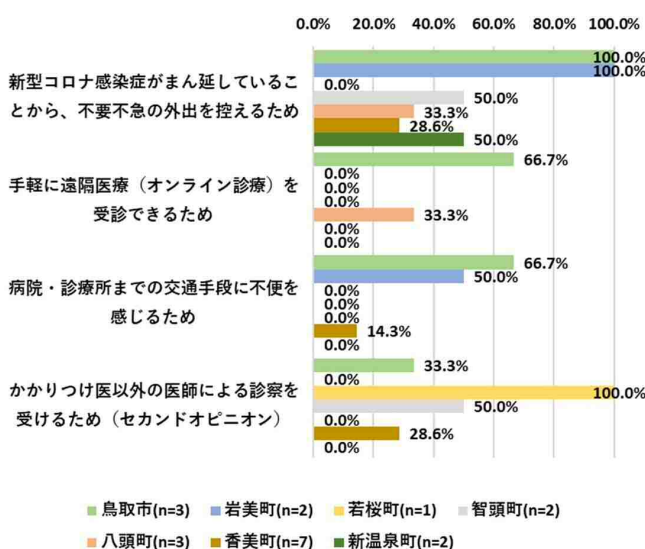


### 3-7 医療福祉

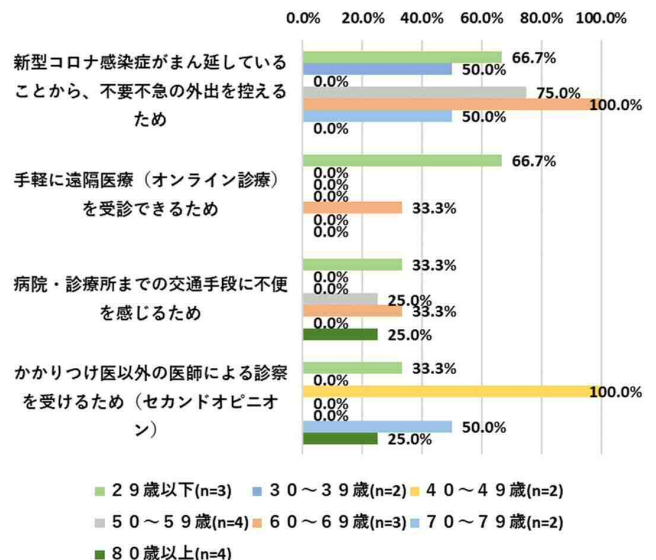
#### 3-7-4 遠隔医療(オンライン診療) ②遠隔医療(オンライン診療)の受診理由

- 遠隔医療(オンライン診療)の受診経験がある方のうち、受診理由における市町別の状況は、若桜町を除くいずれの市町においても、「新型コロナウイルス感染症がまん延していることから、不要不急の外出を控えるため」の割合が比較的高いです。
- 遠隔医療(オンライン診療)の受診経験がある方のうち、受診理由における年齢別の状況は、40～49歳を除くいずれの市町においても、「新型コロナウイルス感染症がまん延していることから、不要不急の外出を控えるため」の割合が比較的高いです。

遠隔医療(オンライン診療)の受診理由(居住地別)



遠隔医療(オンライン診療)の受診理由(年齢別)

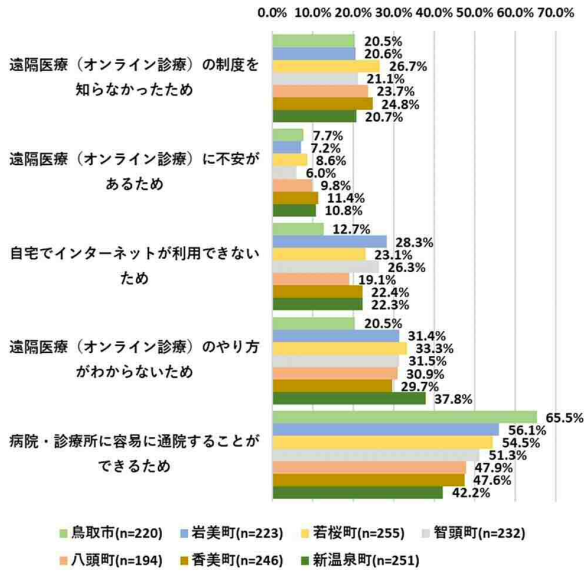


### 3-7 医療福祉

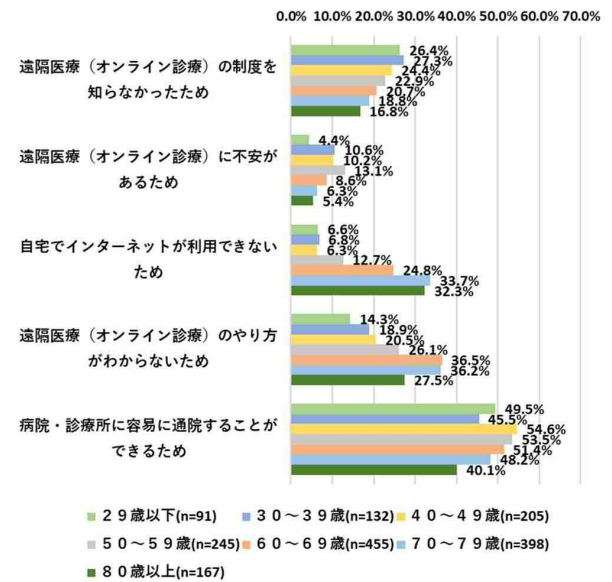
#### 3-7-4 遠隔医療(オンライン診療) ③遠隔医療(オンライン診療)の未受診理由

- 遠隔医療(オンライン診療)の受診経験がない方のうち、居住地別にみた未受診の理由、いずれの居住地についても、「病院・診療所に容易に通院することができるため」の割合が比較的高いです。
- 遠隔医療(オンライン診療)の受診経験がない方のうち、年齢別にみた未受診の理由、いずれの年代においても、「病院・診療所に容易に通院することができるため」の割合が比較的高いです。
- 一方、60歳以上では、若い世代と比較すると、「自宅でインターネットが利用できないため」、「遠隔医療(オンライン診療)のやり方がわからないため」の割合も比較的高いです。

遠隔医療(オンライン診療)の未受診理由(居住地別)



遠隔医療(オンライン診療)の未受診理由(年齢別)

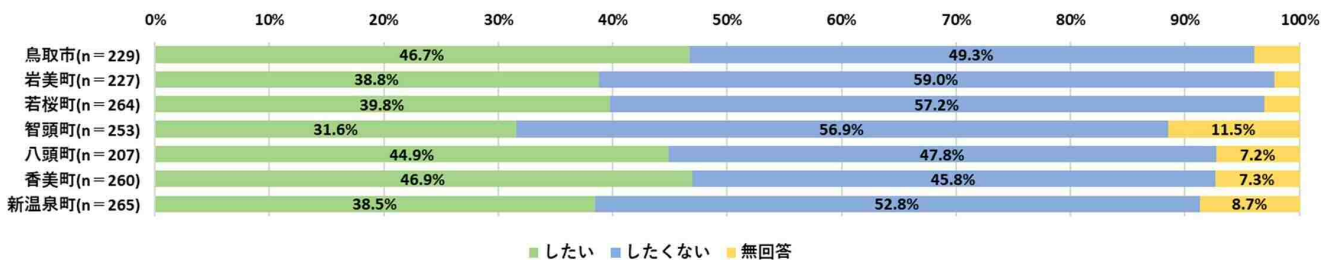


### 3-7 医療福祉

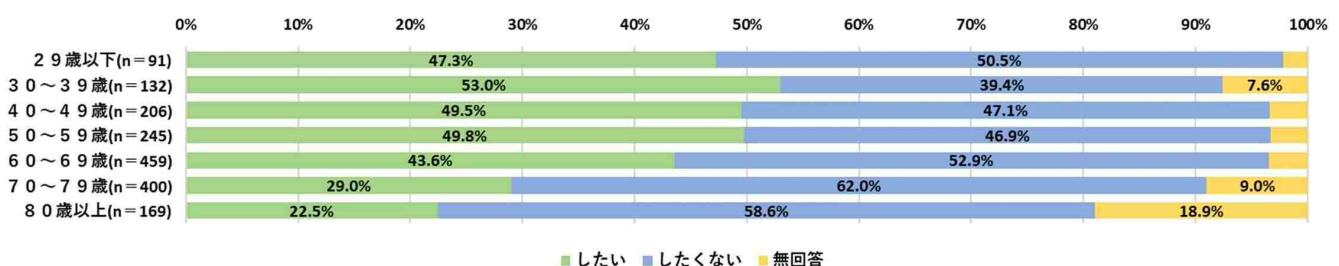
#### 3-7-4 遠隔医療(オンライン診療) ④遠隔医療(オンライン診療)の受診意向

- 今後の遠隔医療(オンライン診療)の受診意向の市町別の状況は、香美町を除くいずれの市町においても、「したくない」が「したい」を上回っています。一方で香美町では、「したい」が「したくない」を僅かに上回っています。
- 今後の遠隔医療(オンライン診療)の受診意向の年齢別の状況は、30~59歳では、「したい」が「したくない」を上回っています。
- また、60歳以上では「したくない」が「したい」を大きく上回っている。一方、29歳以下も同様に「したくない」の割合が多いが、差は僅かです。

遠隔医療(オンライン診療)の受診意向(居住地別)



遠隔医療(オンライン診療)の受診意向(年齢別)

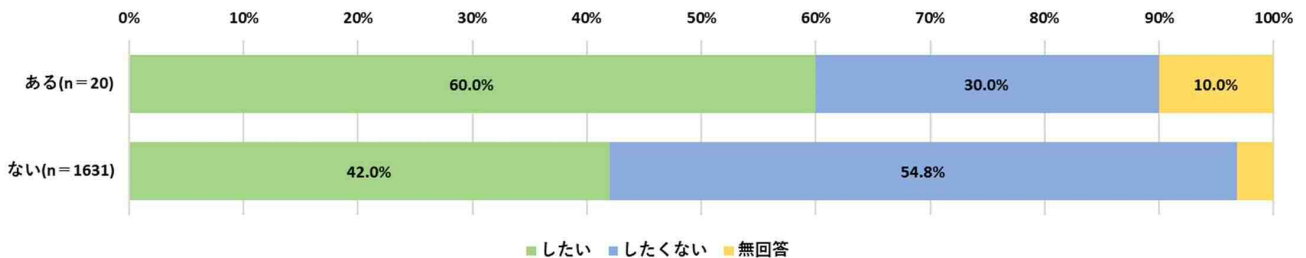


### 3-7 医療福祉

#### 3-7-4 遠隔医療(オンライン診療) ④遠隔医療(オンライン診療)の受診意向

■ 今後の遠隔医療(オンライン診療)の受診意向について、これまで受診経験がある人については、60%が「受診したい」と回答しています。

今後、遠隔医療(オンライン診療)を受診する機会があれば受診するか(受診経験有無別)

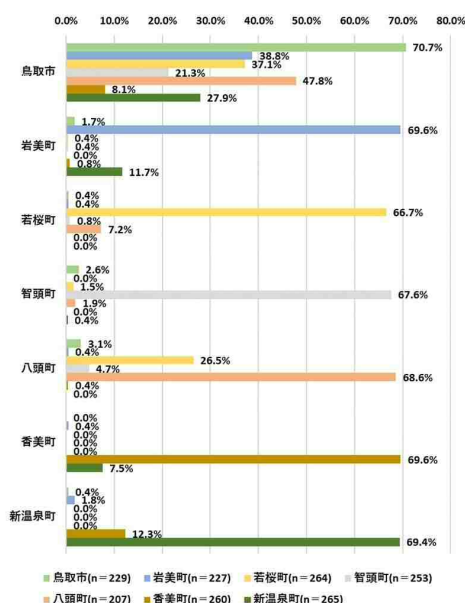


### 3-7 医療福祉

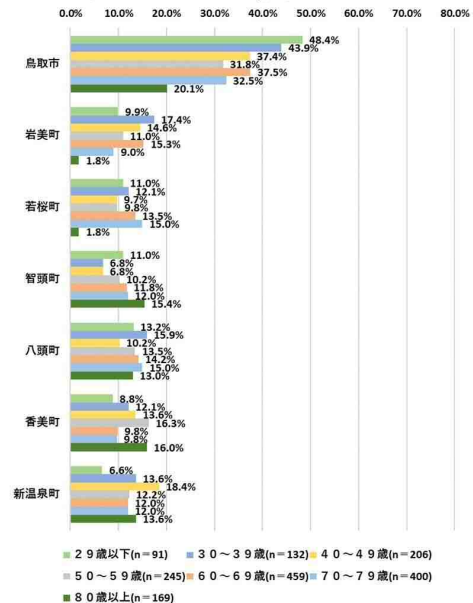
#### 3-7-5 利用している(利用する予定)の介護施設・事業所の所在地

- 現在介護で利用中および利用が想定される施設・事業所のある市町における市町別の状況は、いずれの市町においても、自市町の割合が最も高くなっています。
- 現在介護で利用中および利用が想定される施設・事業所のある市町における年齢別の状況は、特に29歳以下、30～39歳で鳥取市の回答が多くなっています。

利用中(予定含む)の介護施設の所在地(居住地別)



利用中(予定含む)の介護施設の所在地(年齢別)



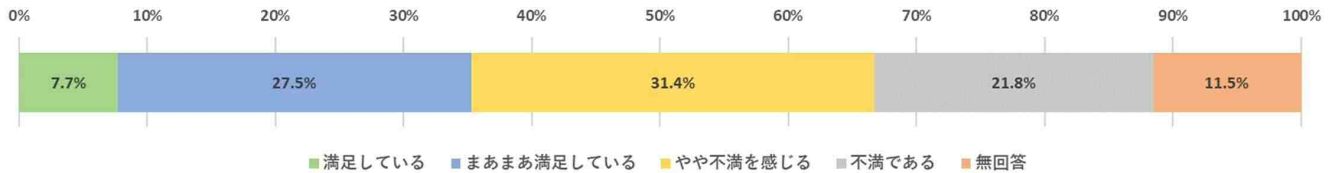
### 3-8 地域の公共交通機関

#### 3-8-1 公共交通に対する満足度 ①バス

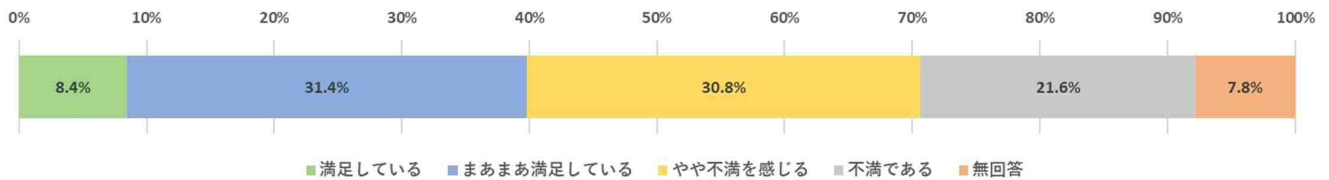
- 地域のバスに対する満足度について聞きました。
- 地域のバスに対する満足度については前回調査時と異なり「まあまあ満足している」であり、前回調査時よりも割合が3.9%上昇しました。次いで割合の高いものは「やや不満を感じる」であり、前回調査時よりも割合が0.6%下降しました。

#### 公共交通に対する満足度(バス)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

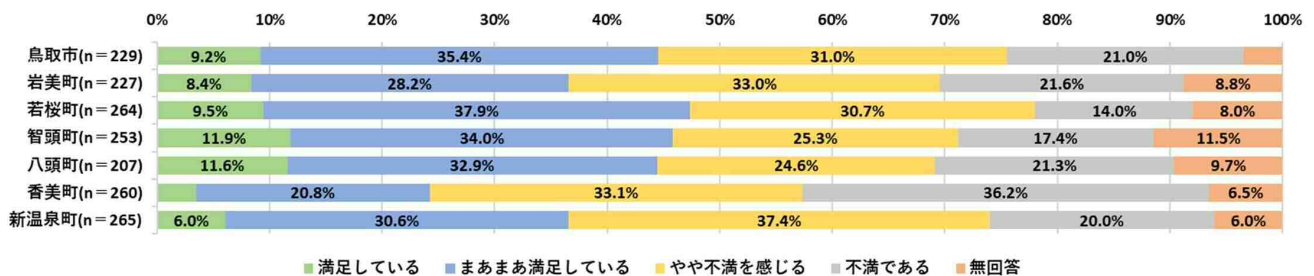


### 3-8 地域の公共交通機関

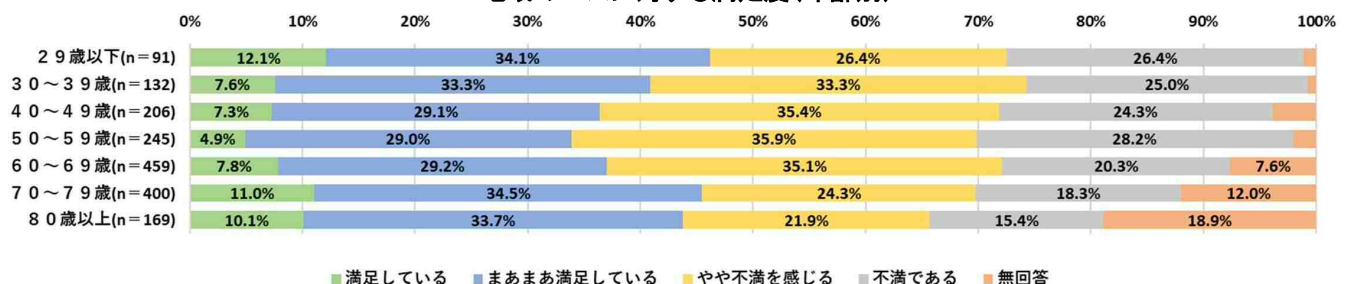
#### 3-8-1 公共交通に対する満足度 ①バス

- 地域のバスに対する満足度を居住地別にみると、香美町を除き、満足しているの割合と不満を持っている割合が同数程度となっています。
- 年齢別にみると、地域のバスに対する満足度は全年齢同じような傾向にあります。

#### 地域のバスに対する満足度(居住地別)



#### 地域のバスに対する満足度(年齢別)



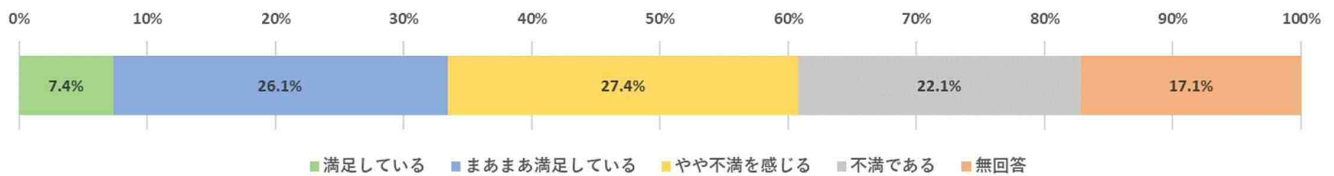
### 3-8 地域の公共交通機関

#### 3-8-1 公共交通に対する満足度 ②鉄道

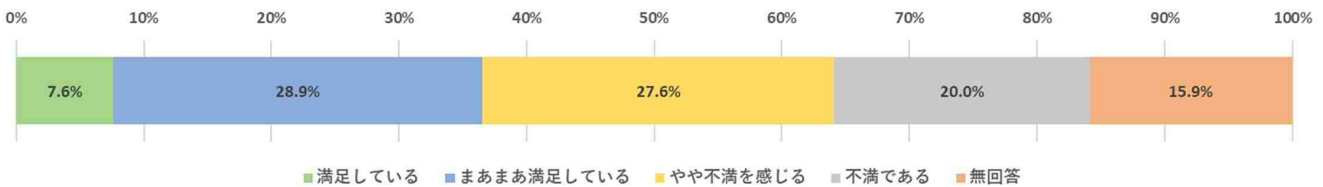
- 地域の鉄道に対する満足度について聞きました。
- 地域の鉄道に対する満足度については前回調査時と異なり「まあまあ満足している」であり、前回調査時よりも割合が3.9%上昇しました。次いで割合の高いものは「やや不満を感じる」であり、前回調査時よりも割合が0.2%上昇しました。

公共交通に対する満足度(鉄道)

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

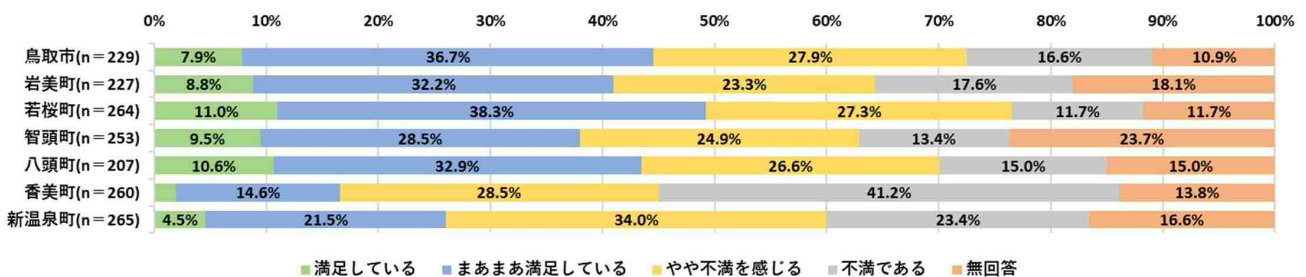


### 3-8 地域の公共交通機関

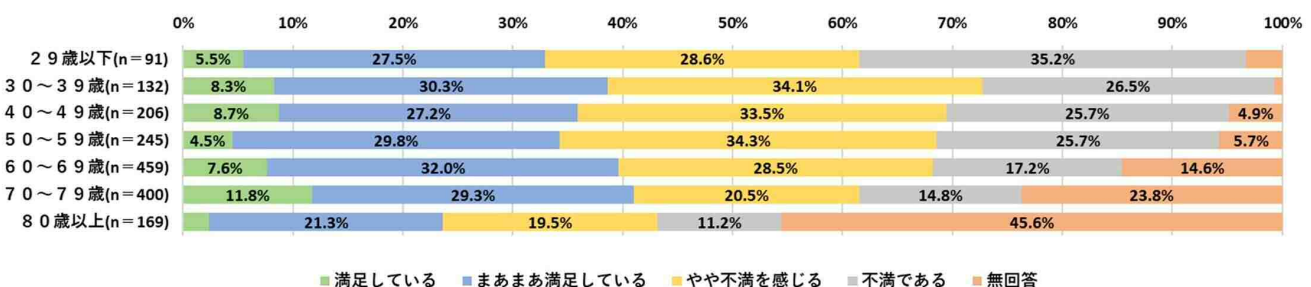
#### 3-8-1 公共交通に対する満足度 ②鉄道

- 地域の鉄道に対する満足度を居住地別にみると、香美町と新温泉町を除き、満足しているの割合と不満を持っている割合が同数程度となっています。
- 年齢別にみると、地域の鉄道に対する満足度は全年齢同ような傾向にあります。

地域の鉄道に対する満足度(居住地別)



地域の鉄道に対する満足度(年齢別)

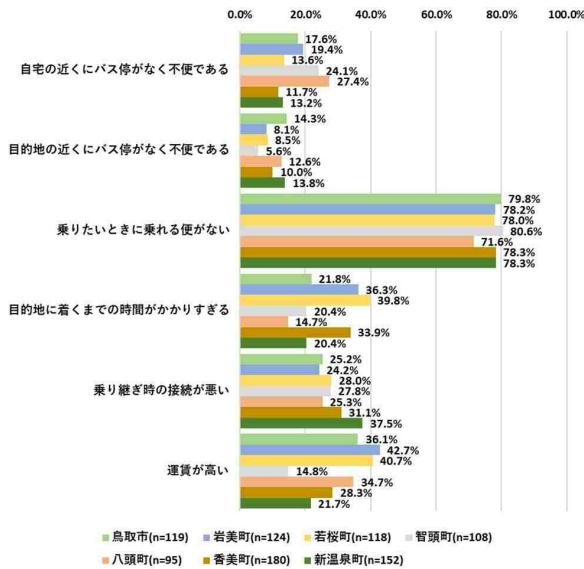


### 3-8 地域の公共交通機関

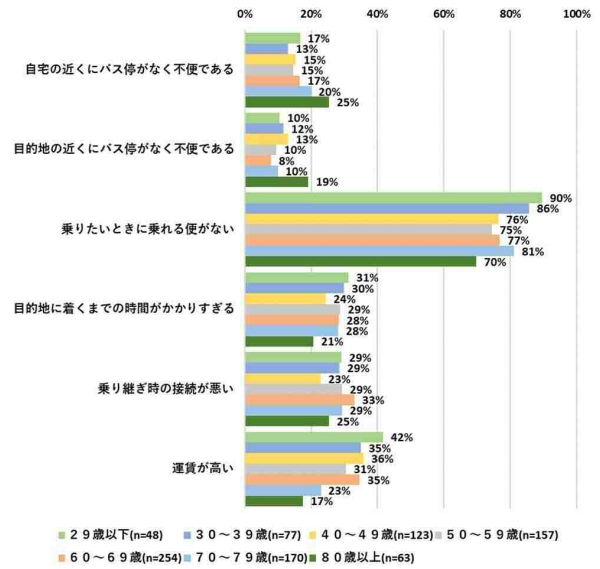
#### 3-8-2 公共交通に対する不満の理由 ①バス

- バスに対する不満について、居住地別にみると、どの市町においても「乗りたいときに乗れる便がない」が最も高くなっています。
- バスに対する不満について、年齢別にみると、いずれの年代においても「乗りたいときに乗れる便がない」が最も高くなっています。

地域のバスに対する不満の理由(居住地別)



地域のバスに対する不満の理由(年齢別)

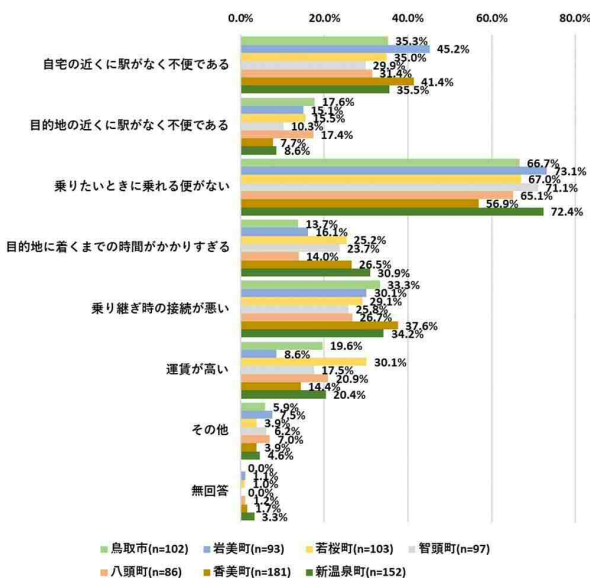


### 3-8 地域の公共交通機関

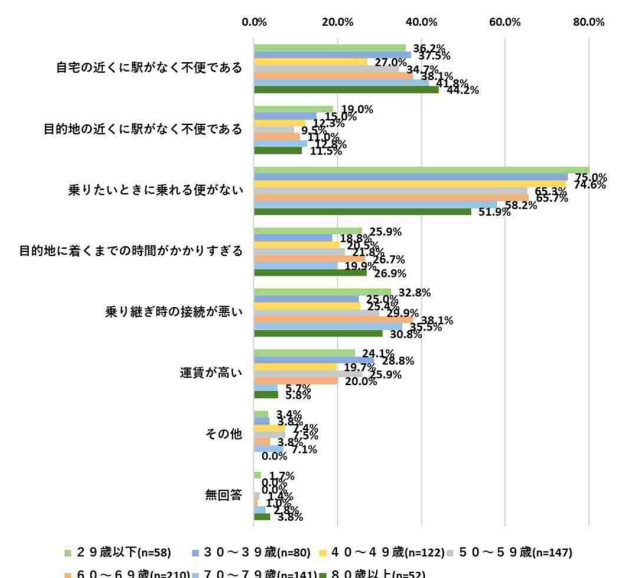
#### 3-8-2 公共交通に対する不満の理由 ②鉄道

- 鉄道に対する不満について居住地別にみると、どの市町においても「乗りたいときに乗れる便がない」が最も高くなっています。
- 鉄道に対する不満について年齢別にみると、いずれの年代においても「乗りたいときに乗れる便がない」が最も高くなっています。

地域の鉄道に対する不満の理由(居住地別)



地域の鉄道に対する不満の理由(年齢別)





### 3-8 地域の公共交通機関 3-8-3 今後の公共交通に望むこと

- 今後の公共交通に望むことについて聞きました。
- 今後の公共交通に望むこととして最も割合の高いものは前回調査時と同様に「運行本数を増便してほしい」であり、前回調査時よりも割合が12.0%下降しました。次いで割合の高いものは「運賃を安くしてほしい」であり、前回調査時よりも割合が8.1%下降しました。

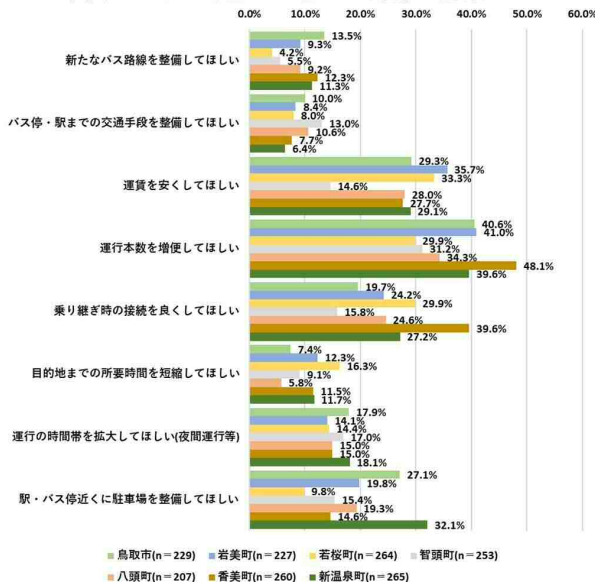
今後の公共交通に望むこと



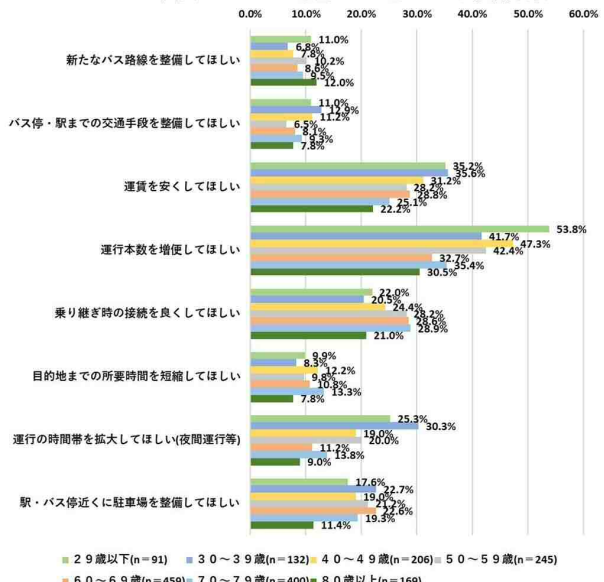
### 3-8 地域の公共交通機関 3-8-3 今後の公共交通に望むこと

- 今後の公共交通に望むことについて居住地別にみると運行本数を増便してほしいと回答している人は香美町が多くなっています。
- 今後の公共交通に望むことについて年齢別にみると、運行本数を増便してほしいと回答している人は若い人が多くなっています。

今後の公共交通に望むこと(居住地別)



今後の公共交通に望むこと(年齢別)



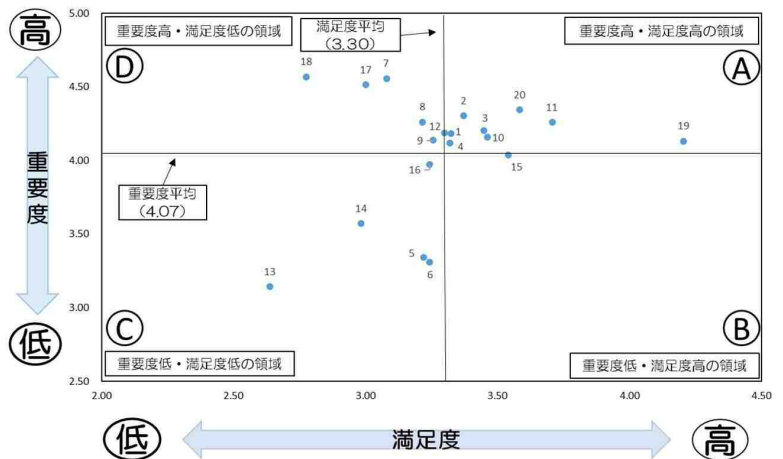
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-1 圏域全体

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「自然環境の豊かさ」や「廃棄物、下水道などの環境衛生」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「災害に対する安全性」や「雪害への対応」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(全体)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	A
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	A
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	A
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	B
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	C
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



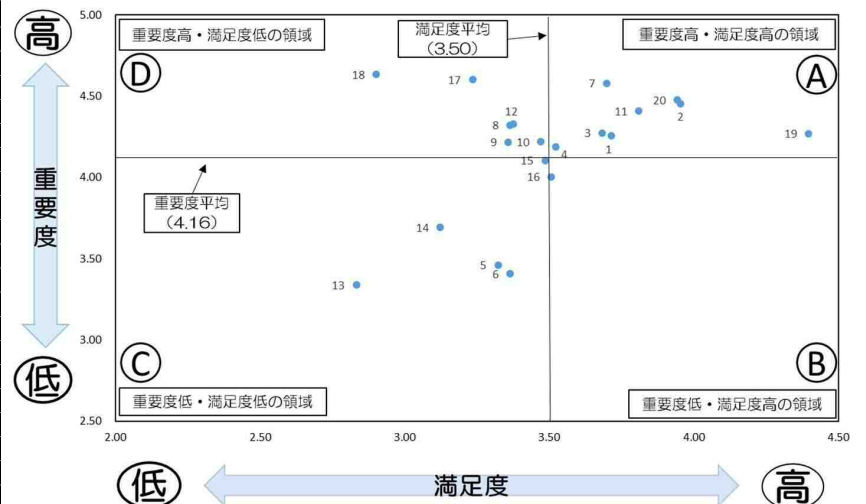
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-2 居住地別 ①鳥取市

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「総合的に見た生活環境・住み心地」や「日常的な買い物の利便性」、「自然環境の豊かさ」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「災害に対する安全性」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(鳥取市)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	A
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	A
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	A
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	D
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	D
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	C
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	B
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



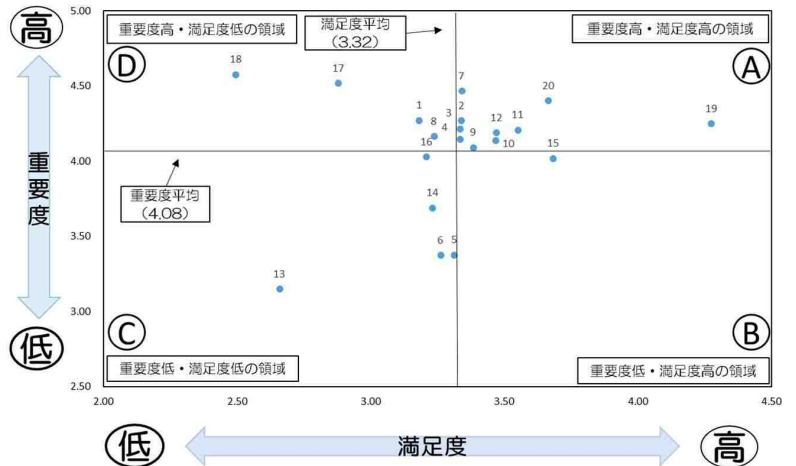
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-2 居住地別 ②岩美町

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「総合的に見た生活環境・住み心地」や「自然環境の豊かさ」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「災害に対する安全性」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(岩美町)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	D
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	A
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	A
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	A
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	A
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	B
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	C
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



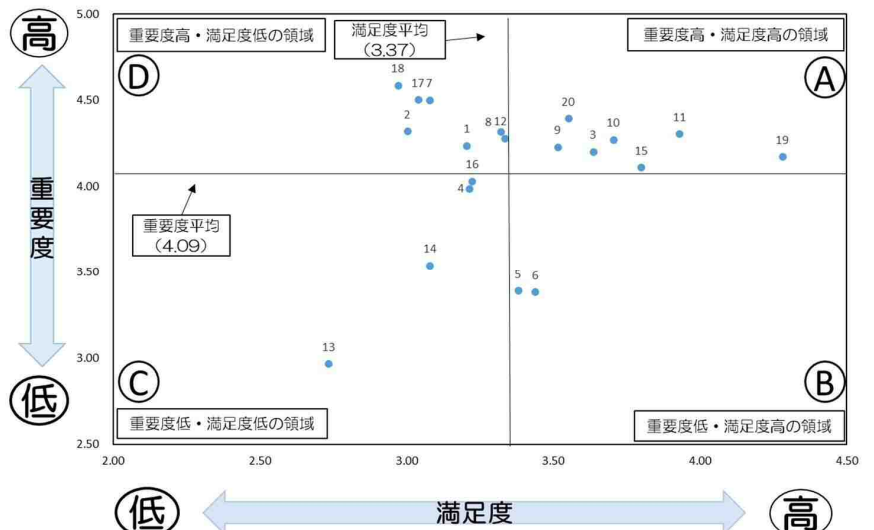
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-2 居住地別 ③若桜町

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「廃棄物、下水道などの環境衛生」や「自然環境の豊かさ」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「災害に対する安全性」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(若桜町)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	D
2	日常的な買い物の利便性	D
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	C
5	文化施設の利用のしやすさ	B
6	体育施設の利用のしやすさ	B
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	A
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	D
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	A
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	C
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



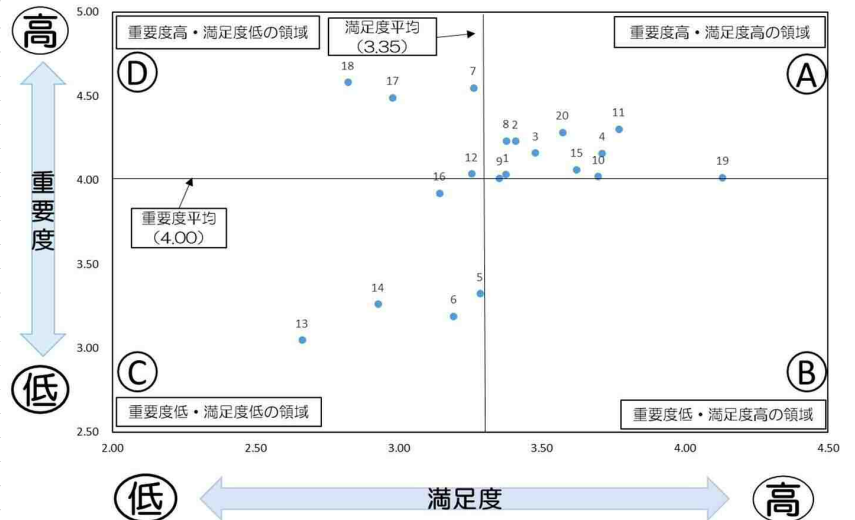
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-2 居住地別 ④智頭町

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「廃棄物、下水道などの環境衛生」や「国道・高速道など幹線道路網の整備状況」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「災害に対する安全性」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(智頭町)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学的环境、利便性	A
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	A
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	A
9	教育環境（施設・水準）	A
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	D
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	A
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	C
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



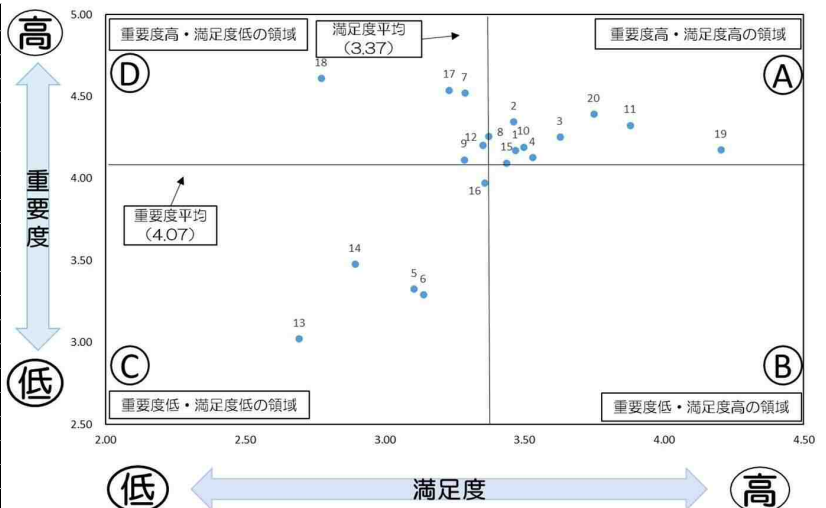
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-2 居住地別 ⑤八頭町

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「廃棄物、下水道などの環境衛生」や「総合的に見た生活環境・住み心地」、「自然環境の豊かさ」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「災害に対する安全性」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(八頭町)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学的环境、利便性	A
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	A
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	A
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	D
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	A
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	C
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



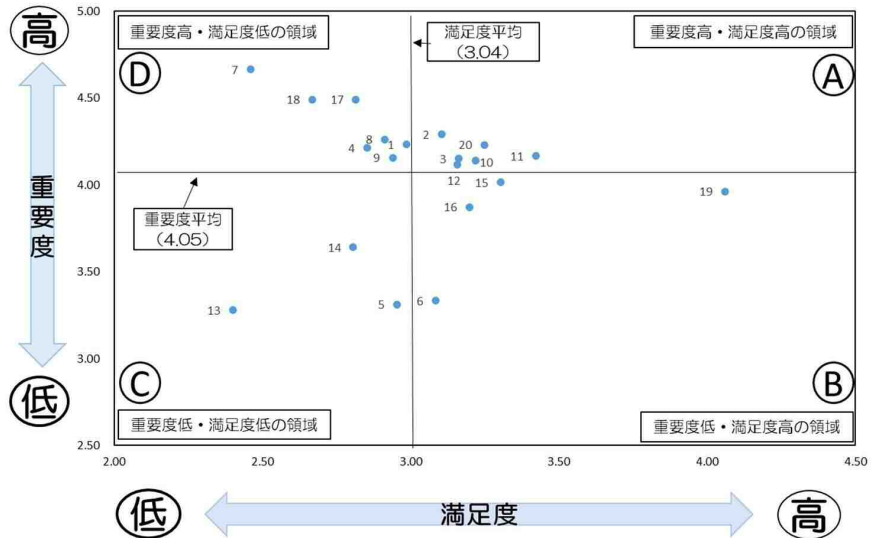
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-2 居住地別 ⑥香美町

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「廃棄物、下水道などの環境衛生」や「総合的に見た生活環境・住み心地」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「医療機能の充実」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(香美町)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	D
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	D
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	B
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	A
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	B
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	B
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	B
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



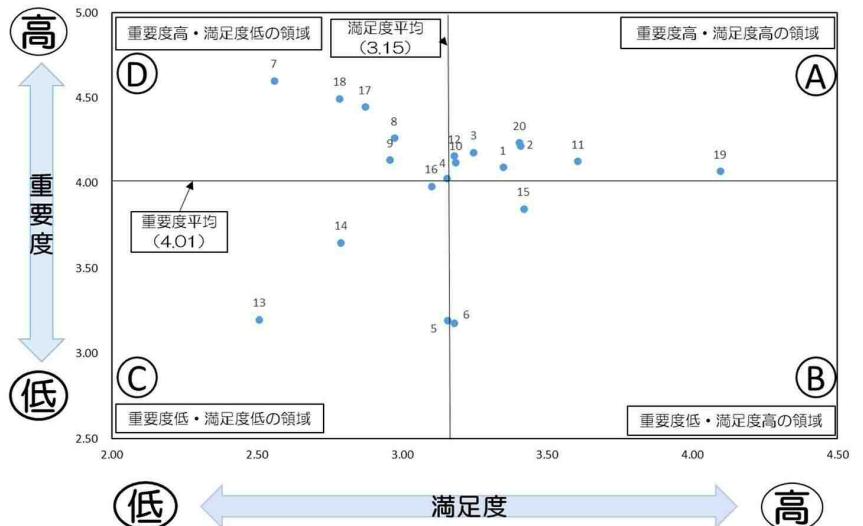
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-2 居住地別 ⑦新温泉町

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「廃棄物、下水道などの環境衛生」や「総合的に見た生活環境・住み心地」、「自然環境の豊かさ」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「医療機能の充実」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(新温泉町)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	A
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	A
5	文化施設の利用のしやすさ	B
6	体育施設の利用のしやすさ	B
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	A
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	B
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	C
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



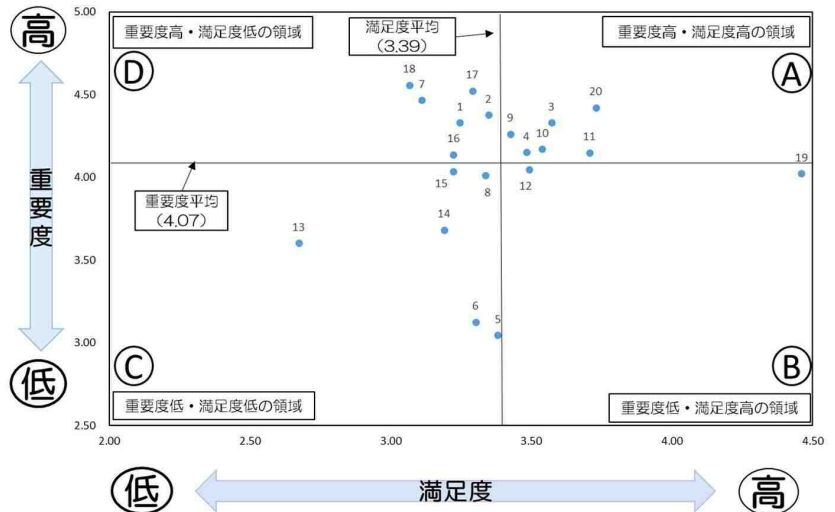
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-3 年齢別 ①29歳以下

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「廃棄物、下水道などの環境衛生」や「総合的に見た生活環境・住み心地」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「医療機能の充実」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(29歳以下)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	D
2	日常的な買い物の利便性	D
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	A
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	C
9	教育環境（施設・水準）	A
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	B
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	C
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	D
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	B
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



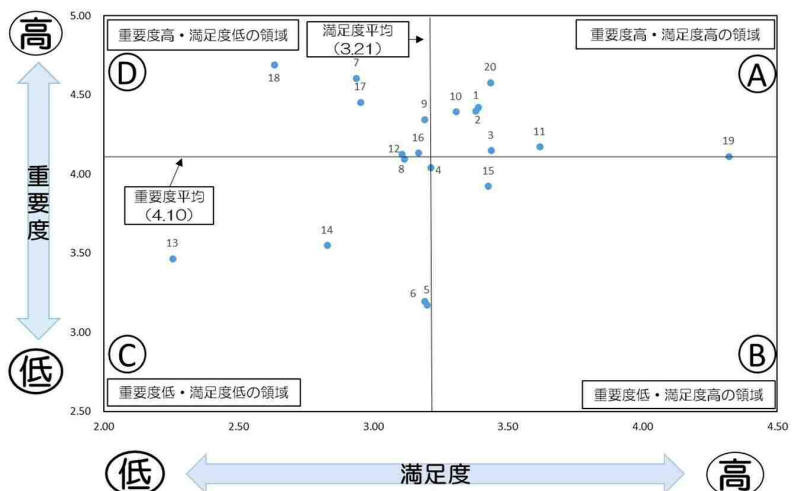
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-3 年齢別 ②30～39歳

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「廃棄物、下水道などの環境衛生」や「総合的に見た生活環境・住み心地」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「医療機能の充実」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(30～39歳)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	A
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	B
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	C
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	D
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	B
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	D
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



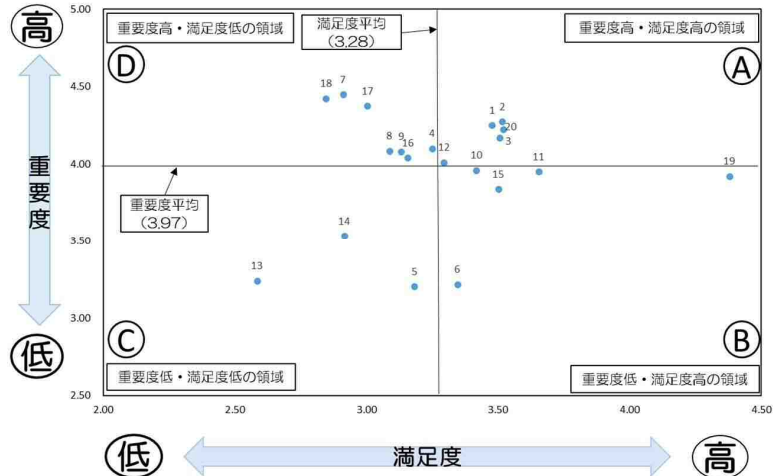
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-3 年齢別 ③40～49歳

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「日常的な買い物の利便性」や「総合的に見た生活環境・住み心地」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「医療機能の充実」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(40～49歳)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学的环境、利便性	A
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	D
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	B
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	B
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	B
12	行政の住民サービス全般	A
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	B
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	D
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	B
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



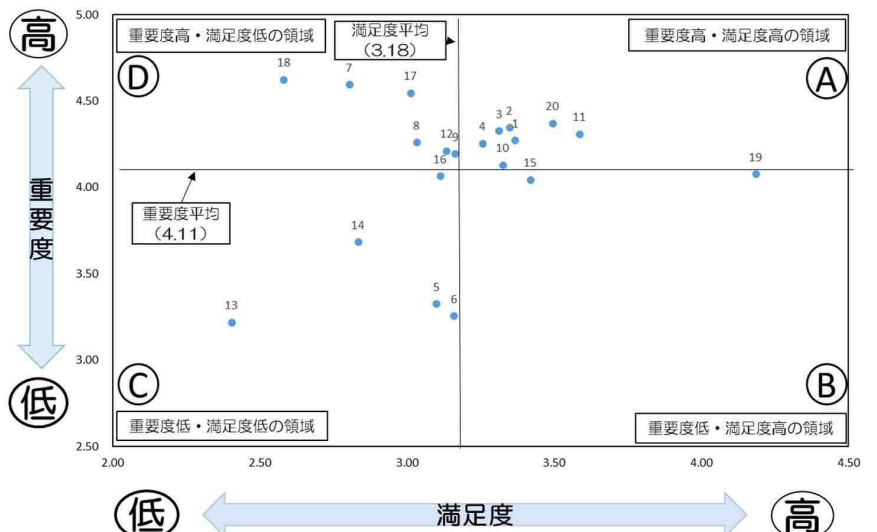
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-3 年齢別 ④50～59歳

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「廃棄物、下水道などの環境衛生」や「総合的に見た生活環境・住み心地」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「雪害への対応」や「医療機能の充実」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(50～59歳)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学的环境、利便性	A
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	A
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	D
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	B
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	C
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	B
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



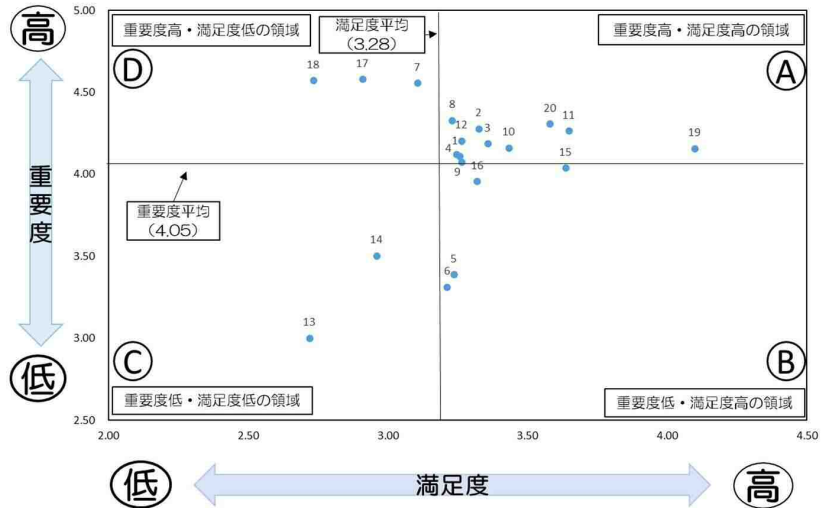
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-3 年齢別 ⑤60～69歳

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「自然環境の豊かさ」や「廃棄物、下水道などの環境衛生」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「災害に対する安全性」や「雪害への対応」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(60～69歳)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	D
2	日常的な買い物の利便性	A
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	D
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	D
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	B
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	B
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



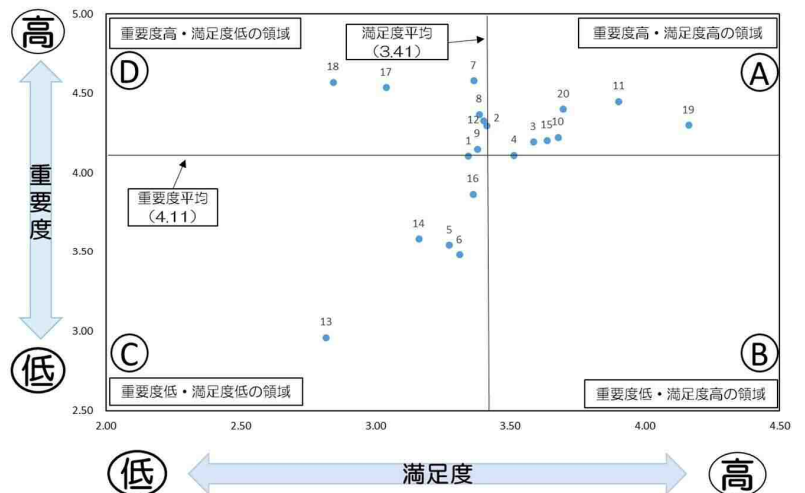
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-3 年齢別 ⑥70～79歳

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「総合的に見た生活環境・住み心地」や「廃棄物、下水道などの環境衛生」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「災害に対する安全性」や「雪害への対応」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(70～79歳)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	C
2	日常的な買い物の利便性	D
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	B
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	D
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	A
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	C
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A





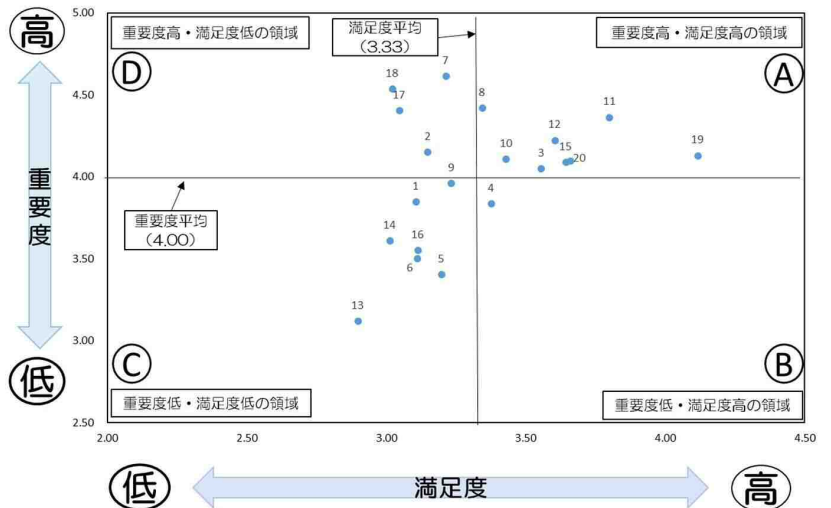
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-3 年齢別 ⑦80歳以上

- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「自然環境の豊かさ」や「廃棄物、下水道などの環境衛生」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「災害に対する安全性」や「雪害への対応」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(80歳以上)

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	C
2	日常的な買い物の利便性	D
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	B
5	文化施設の利用のしやすさ	C
6	体育施設の利用のしやすさ	C
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	A
9	教育環境（施設・水準）	C
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	A
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	A
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	A
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	C
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	A
20	総合的に見た生活環境・住み心地	A



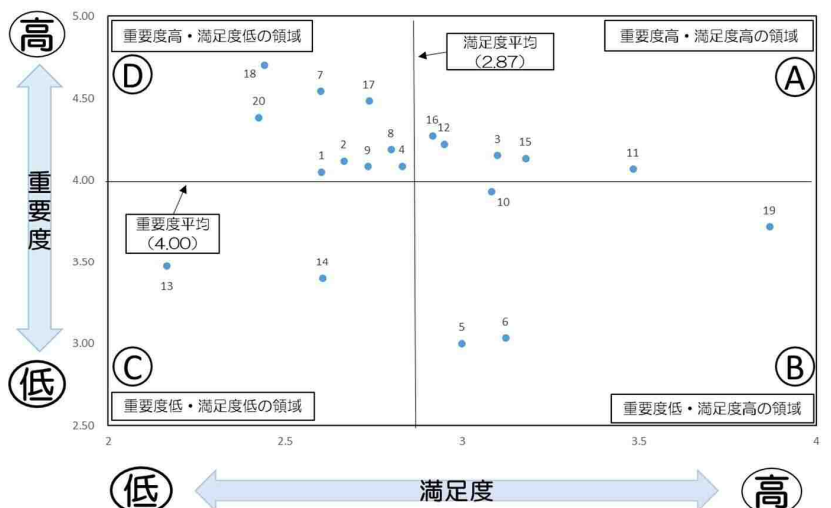
### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-4 その他(圏域に住み続けたくない人を対象とした分析) ①全体

- 圏域に住み続けたくないと回答した人を対象に生活環境・都市機能の満足度と重要度を分析しました。
- 重要度が高く、満足度が高い領域には、「自宅周辺の生活道路整備状況」や「金融機関店舗・ATMなどの利用」があり、今後もサービスを維持していく必要があります。
- 重要度が高く、満足度が低い領域には「医療機能の充実」や「雪害への対応」などがあり満足度を高めていく必要があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度

NO	選択肢	区分
1	通勤・通学の環境、利便性	D
2	日常的な買い物の利便性	D
3	自宅周辺の生活道路整備状況	A
4	国道・高速道など幹線道路網の整備状況	D
5	文化施設の利用のしやすさ	B
6	体育施設の利用のしやすさ	B
7	医療機能の充実	D
8	高齢者福祉機能の充実	D
9	教育環境（施設・水準）	D
10	幼児施設（幼稚園・保育所など）の充実	B
11	廃棄物、下水道などの環境衛生	A
12	行政の住民サービス全般	A
13	繁華街や娯楽施設	C
14	観光施設	C
15	金融機関店舗・ATMなどの利用	A
16	情報通信環境（CATV、インターネットなど）	A
17	災害に対する安全性	D
18	雪害への対応	D
19	自然環境の豊かさ	B
20	総合的に見た生活環境・住み心地	D



### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-4 その他(圏域に住み続けたくない人を対象とした分析) ②男女別

- 圏域に住み続けたくない人の満足度を男女別にみると、全体的に満足度が高いものも低いものも同じ傾向にあります。「情報通信環境(CATV、インターネットなど)」については男性の満足度が低く、女性の満足度が比較的高くなっています。
- 重要度について住み続けたくない人を男女別にみると、全体の傾向は大きく変わりません。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度と満足度(住み続けたくない人の男女別)

満足度	満足度	
	男性	女性
通勤・通学の環境、利便性	2.57	2.56
日常的な買い物の利便性	2.45	2.82
自宅周辺の生活道路整備状況	3.05	3.09
国道・高速道など幹線道路網の整備状況	2.82	2.81
文化施設の利用のしやすさ	2.91	3.00
体育施設の利用のしやすさ	3.09	3.10
医療機能の充実	2.59	2.64
高齢者福祉機能の充実	2.64	2.88
教育環境(施設・水準)	2.64	2.76
幼児施設(幼稚園・保育所など)の充実	3.45	2.91
廃棄物、下水道などの環境衛生	3.82	3.30
行政の住民サービス全般	2.91	2.97
繁華街や娯楽施設	1.95	2.27
観光施設	2.45	2.74
金融機関店舗・ATMなどの利用	3.00	3.35
情報通信環境(CATV、インターネットなど)	2.41	3.21
災害に対する安全性	3.00	2.50
雪害への対応	2.45	2.41
自然環境の豊かさ	3.68	4.00
総合的に見た生活環境・住み心地	2.41	2.44

オレンジ: 上位5つ 青: 下位5つ

重要度	重要度	
	男性	女性
通勤・通学の環境、利便性	3.90	4.13
日常的な買い物の利便性	4.18	4.06
自宅周辺の生活道路整備状況	4.18	4.13
国道・高速道など幹線道路網の整備状況	4.05	4.00
文化施設の利用のしやすさ	3.14	2.74
体育施設の利用のしやすさ	3.23	2.73
医療機能の充実	4.50	4.53
高齢者福祉機能の充実	4.09	4.22
教育環境(施設・水準)	3.91	4.19
幼児施設(幼稚園・保育所など)の充実	3.64	4.03
廃棄物、下水道などの環境衛生	4.23	3.97
行政の住民サービス全般	4.23	4.22
繁華街や娯楽施設	3.59	3.38
観光施設	3.45	3.27
金融機関店舗・ATMなどの利用	4.18	4.12
情報通信環境(CATV、インターネットなど)	4.36	4.22
災害に対する安全性	4.41	4.55
雪害への対応	4.73	4.67
自然環境の豊かさ	3.86	3.52
総合的に見た生活環境・住み心地	4.55	4.21

オレンジ: 上位5つ 青: 下位5つ

### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-4 その他(住み続けたくない人) ③年齢別

- 圏域に住み続けたくない人の満足度を年齢別にみると、全年齢で「廃棄物、下水道などの環境衛生」の満足度が高く、「繁華街や娯楽施設」の満足度が低くなっています。
- 「国道・高速道など幹線道路網の整備状況」では高齢になるほど満足度が比較的高い傾向にあり、「高齢者福祉機能の充実」では若いほど満足度が高い傾向があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての満足度(住み続けたくない人の年齢別)

	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
通勤・通学の環境、利便性	2.73	2.73	2.29	2.80	2.67	1.75	—
日常的な買い物の利便性	3.27	3.09	1.86	2.40	2.53	2.50	—
自宅周辺の生活道路整備状況	3.73	3.18	3.29	2.60	2.80	3.17	—
国道・高速道など幹線道路網の整備状況	3.09	2.64	2.14	3.00	3.00	2.80	—
文化施設の利用のしやすさ	3.45	2.91	3.00	2.90	3.00	2.50	—
体育施設の利用のしやすさ	3.27	3.09	3.29	3.00	3.00	3.20	—
医療機能の充実	3.27	3.09	1.86	2.30	2.20	2.83	—
高齢者福祉機能の充実	3.64	2.91	2.71	2.30	2.53	2.67	—
教育環境(施設・水準)	3.55	2.36	1.86	2.80	2.67	3.00	—
幼児施設(幼稚園・保育所など)の充実	3.64	3.18	2.00	3.20	3.00	3.17	—
廃棄物、下水道などの環境衛生	4.09	3.64	3.29	3.30	3.13	3.50	—
行政の住民サービス全般	3.82	2.91	3.00	2.56	2.67	2.71	—
繁華街や娯楽施設	2.73	2.18	1.71	1.70	2.13	2.50	—
観光施設	3.45	2.73	2.00	2.20	2.27	3.00	—
金融機関店舗・ATMなどの利用	3.27	3.36	3.14	2.60	3.27	3.43	—
情報通信環境(CATV、インターネットなど)	3.27	3.36	2.57	2.60	2.60	3.17	—
災害に対する安全性	3.45	3.00	2.29	2.40	2.40	2.86	—
雪害への対応	3.18	2.55	1.86	2.30	2.33	2.14	—
自然環境の豊かさ	4.45	3.64	4.00	4.00	3.47	3.86	—
総合的に見た生活環境・住み心地	2.82	2.55	1.43	2.80	2.53	1.86	—

オレンジ: 上位5つ 青: 下位5つ

※80歳以上で住み続けたくないと回答した人の有効回答がないため「—」で表示しています。

### 3-9 生活環境・都市機能の満足度重要度

#### 3-9-4 その他(住み続けたくない人) ③年齢別

- 重要度について住み続けたくない人を年齢別にみると、全年齢で「雪害への対応」の満足度が高く、「文化施設の利用のしやすさ」、「体育施設の利用しやすさ」、「繁華街や娯楽施設」の満足度が低くなっています。
- 「情報通信環境(CATV、インターネットなど)」では若いほど重要度が比較的高い傾向にあり、「高齢者福祉機能の充実」では高齢になるほど重要度が高い傾向があります。

日常生活における生活環境や都市機能についての重要度(住み続けたくない人の年齢別)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
通勤・通学の環境、利便性	4.18	4.45	4.00	3.60	4.13	3.50	—
日常的な買い物の利便性	4.09	4.55	4.43	4.20	3.67	4.00	—
自宅周辺の生活道路整備状況	4.27	4.18	4.14	4.10	4.13	4.00	—
国道・高速道など幹線道路網の整備状況	3.70	4.36	4.71	4.10	3.80	4.20	—
文化施設の利用のしやすさ	2.36	2.73	3.86	3.10	3.21	3.00	—
体育施設の利用のしやすさ	2.45	2.64	3.71	3.10	3.29	3.50	—
医療機能の充実	4.09	4.55	4.57	4.70	4.87	4.20	—
高齢者福祉機能の充実	3.18	4.27	3.86	4.70	4.80	3.80	—
教育環境(施設・水準)	4.00	4.73	4.57	4.00	3.67	3.60	—
幼児施設(幼稚園・保育所など)の充実	3.36	4.55	4.43	3.90	3.80	3.60	—
廃棄物、下水道などの環境衛生	3.73	4.00	4.29	4.30	3.93	4.60	—
行政の住民サービス全般	3.82	4.64	4.14	4.33	4.27	4.00	—
繁華街や娯楽施設	3.27	4.00	3.86	3.70	3.00	3.20	—
観光施設	3.18	3.73	4.14	3.20	3.20	3.17	—
金融機関店舗・ATMなどの利用	4.18	4.27	3.57	4.30	4.07	4.33	—
情報通信環境(CATV、インターネットなど)	4.00	4.64	4.43	4.20	4.47	3.40	—
災害に対する安全性	4.27	4.18	4.86	4.40	4.80	4.33	—
雪害への対応	4.45	4.64	5.00	4.80	4.67	4.83	—
自然環境の豊かさ	3.36	3.64	4.29	4.10	3.47	3.83	—
総合的に見た生活環境・住み心地	4.36	4.55	5.00	4.10	4.13	4.50	—

オレンジ: 上位5つ 青: 下位5つ

※80歳以上で住み続けたくないと回答した人の有効回答がないため「—」で表示しています。

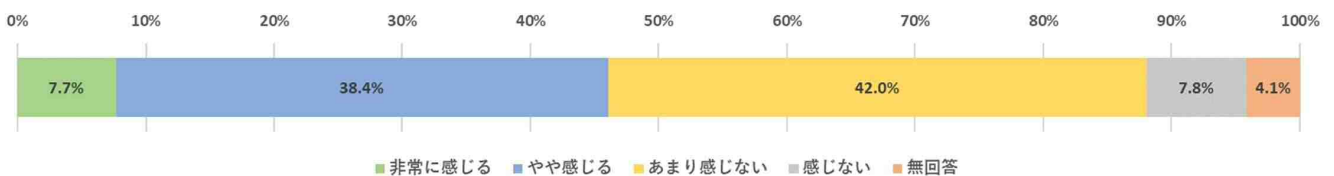
### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

#### 3-10-1 圏域内の市町に対する親近感

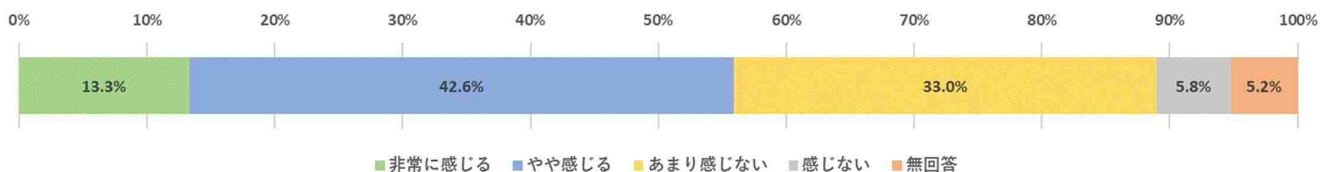
- 圏域内の他の市町に対する親近感を感じているかについて聞きました。
- 圏域内の他の市町に対する親近感を感じているかについて前回調査時と異なり「やや感じる」であり、前回調査時よりも割合が4.2%上昇しました。次いで割合の高いものは「あまり感じない」であり、前回調査時よりも割合が9.0%下降しました。

#### 圏域内の市町に対する親近感

前回調査(平成28年実施)



今回調査(令和3年実施)

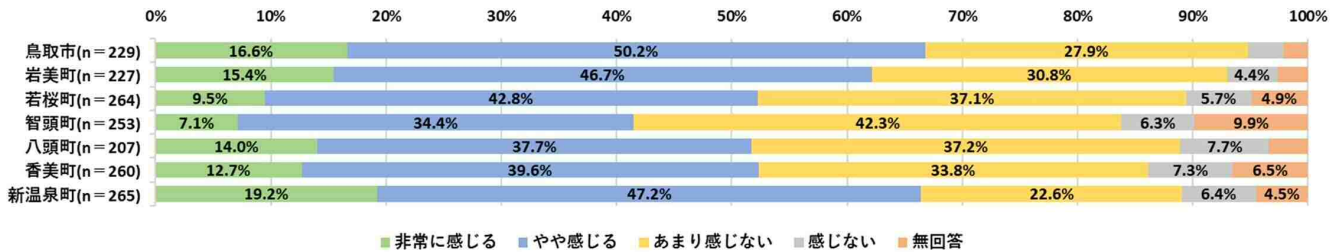


### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

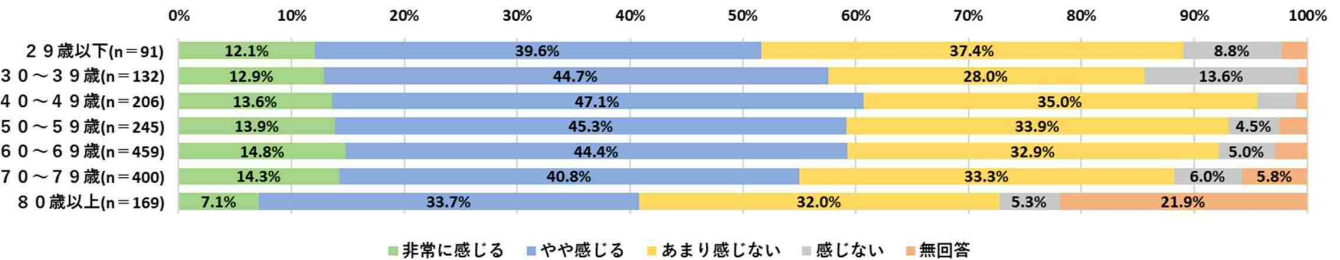
#### 3-10-1 圏域内の市町に対する親近感

- 圏域内の他の市町に対する親近感について居住地別でみると、智頭町を除く市町で半数以上が親近感を感じています。
- 圏域内の他の市町に対する親近感について年齢別でみると、80歳以上を除く市町で半数以上が親近感を感じています。

圏域内の市町に対する親近感(居住地別)



圏域内の市町に対する親近感(年齢別)

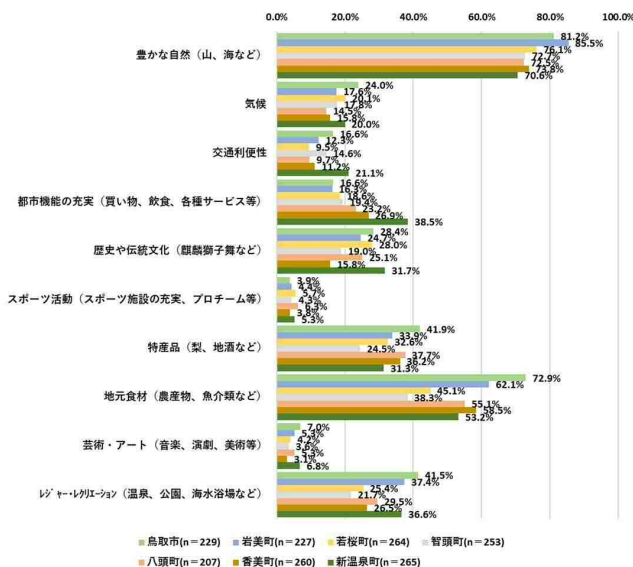


### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

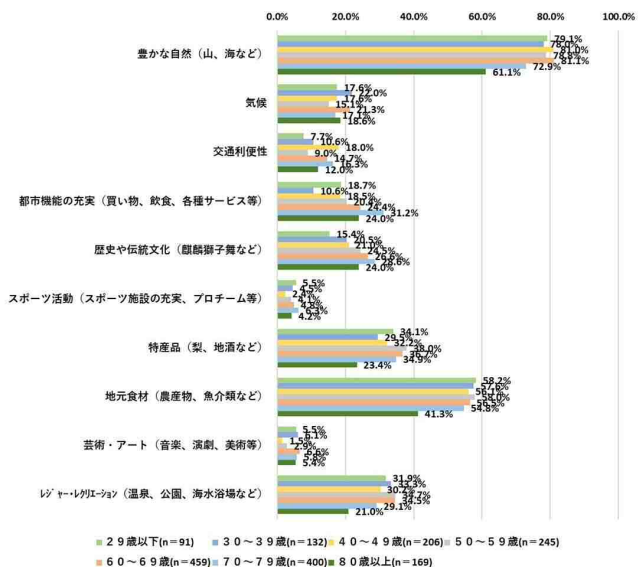
#### 3-10-2 圏域に対する魅力や愛着

- 圏域内の他の市町に対する親近感について居住地別でみると、智頭町を除く市町で半数以上が親近感を感じています。
- 圏域内の他の市町に対する親近感について年齢別でみると、80歳以上を除く市町で半数以上が親近感を感じています。

圏域に対する魅力や愛着(居住地別)



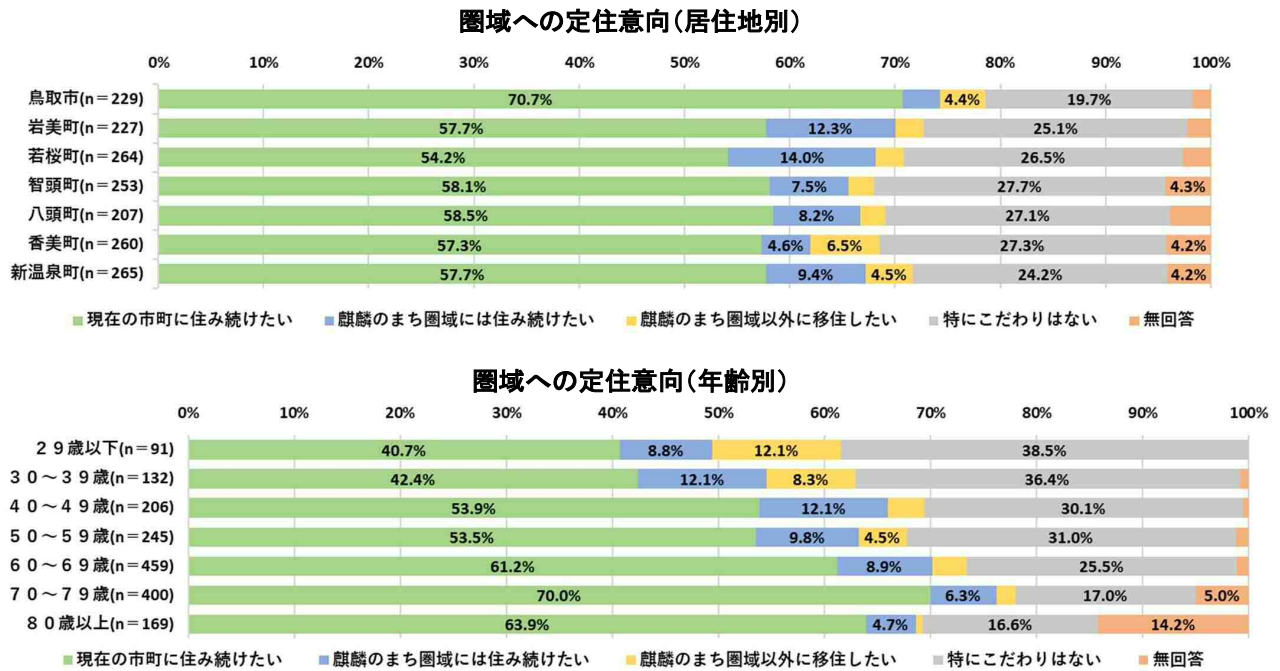
圏域に対する魅力や愛着(年齢別)



### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

#### 3-10-3 圏域への定住意向

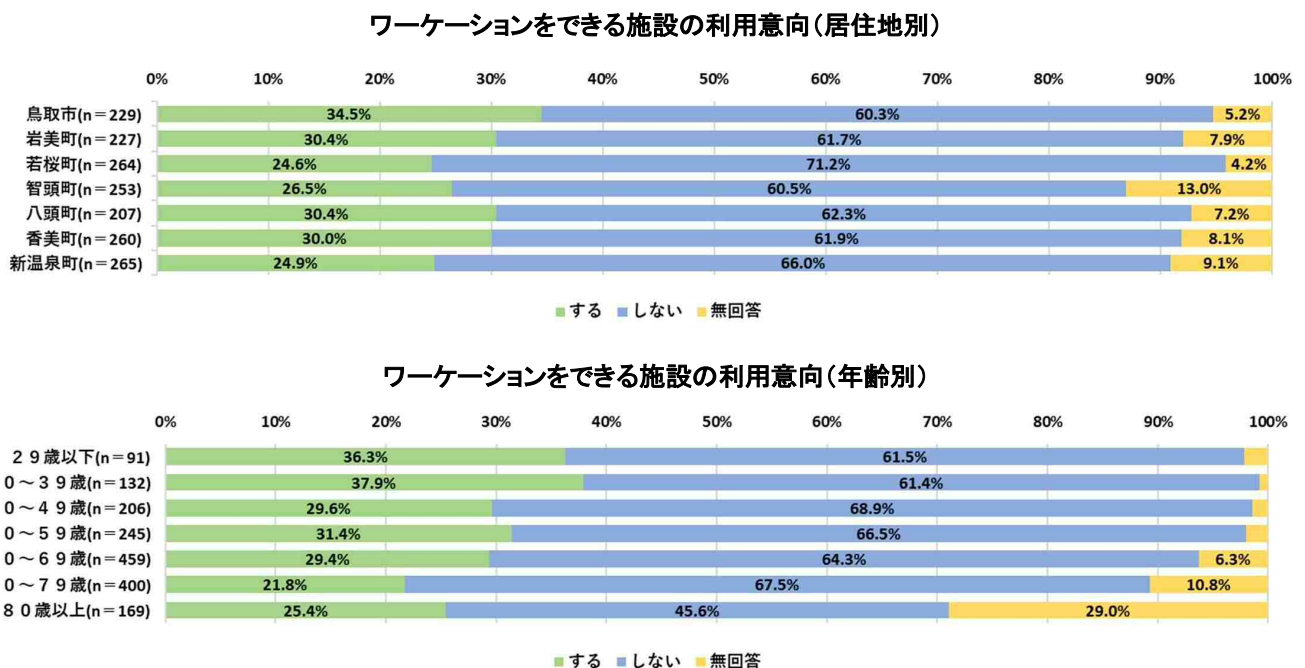
- 将来も当圏域に住み続けたいと思いますかについて居住地別でみると大きな差はみられません。
- 将来も当圏域に住み続けたいと思いますかについて年齢別でみると、年齢を重ねるにつれて住み続けたい人が多くなっています。



### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

#### 3-10-4 ワークーションをできる施設の利用意向

- 当圏域内にワークーションできる施設の利用について居住地別でみると大きな差はみられません。
- 当圏域内にワークーションできる施設の利用について年齢別でみると大きな差はみられません。

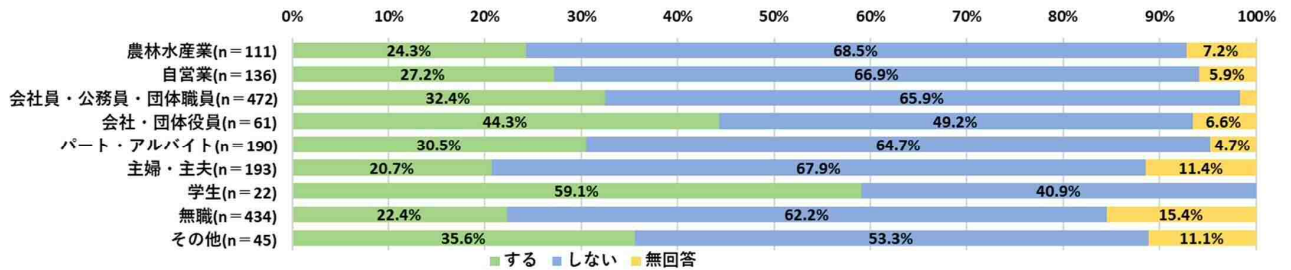


### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

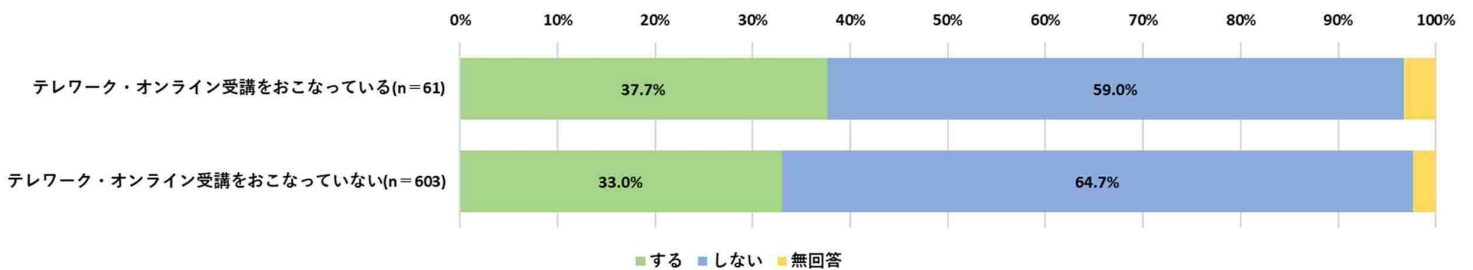
#### 3-10-4 ワークーションをできる施設の利用意向

- 当圏域内にワークーションできる施設の利用について職業別でみると学生が利用すると回答している人が多くなっています。
- 当圏域内にワークーションできる施設の利用についてテレワーク・オンライン受講別でみると大きな差はみられません。

ワークーションをできる施設の利用意向(職業別)



ワークーションをできる施設の利用意向(テレワーク・オンライン受講の経験別)

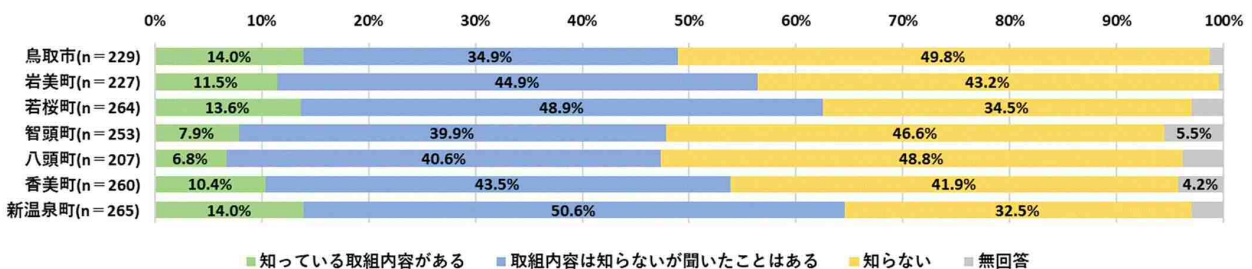


### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

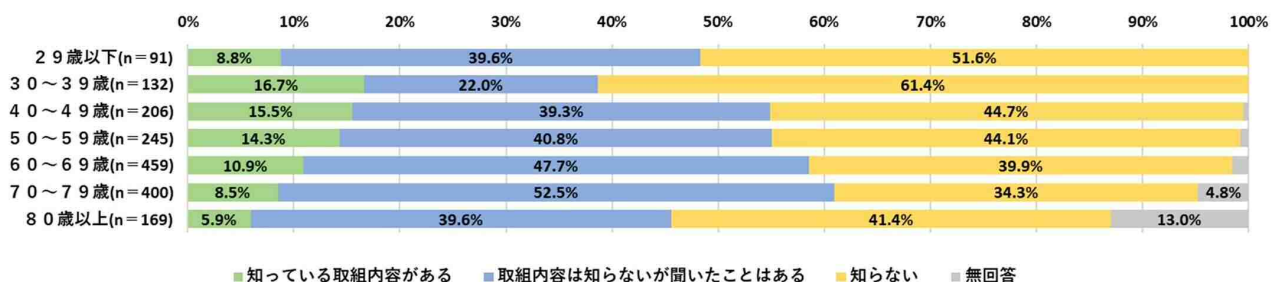
#### 3-10-5 麒麟のまち圏域の取組の認知度

- 麒麟のまち圏域の取組について居住地別でみると大きな差はみられません。
- 麒麟のまち圏域の取組について年齢別でみると大きな差はみられません。

麒麟のまち圏域の取組の認知度(居住地別)



麒麟のまち圏域の取組の認知度(年齢別)

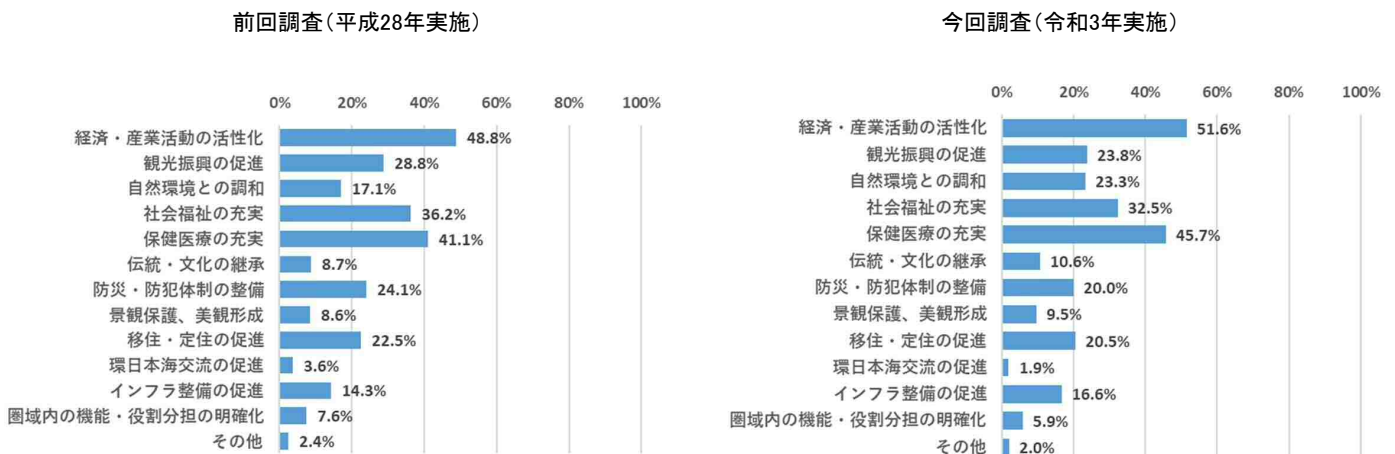


### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

#### 3-10-6 圏域の地域づくりで重視すべきこと

- 今後、当圏域で地域づくりを進めるうえで、何を重視して地域づくりを進めることが望ましいかについて聞きました。
- 今後、当圏域で地域づくりを進めるうえで、何を重視して地域づくりを進めることが望ましいかについて最も割合の高いもの前回調査時と同様に「経済・産業活動の活性化」であり、前回調査時よりも割合が2.8%上昇しました。次いで割合の高いものは「保健医療の充実」であり、前回調査時よりも割合が4.6%上昇しました。

#### 圏域内の地域づくりで重視すべきこと

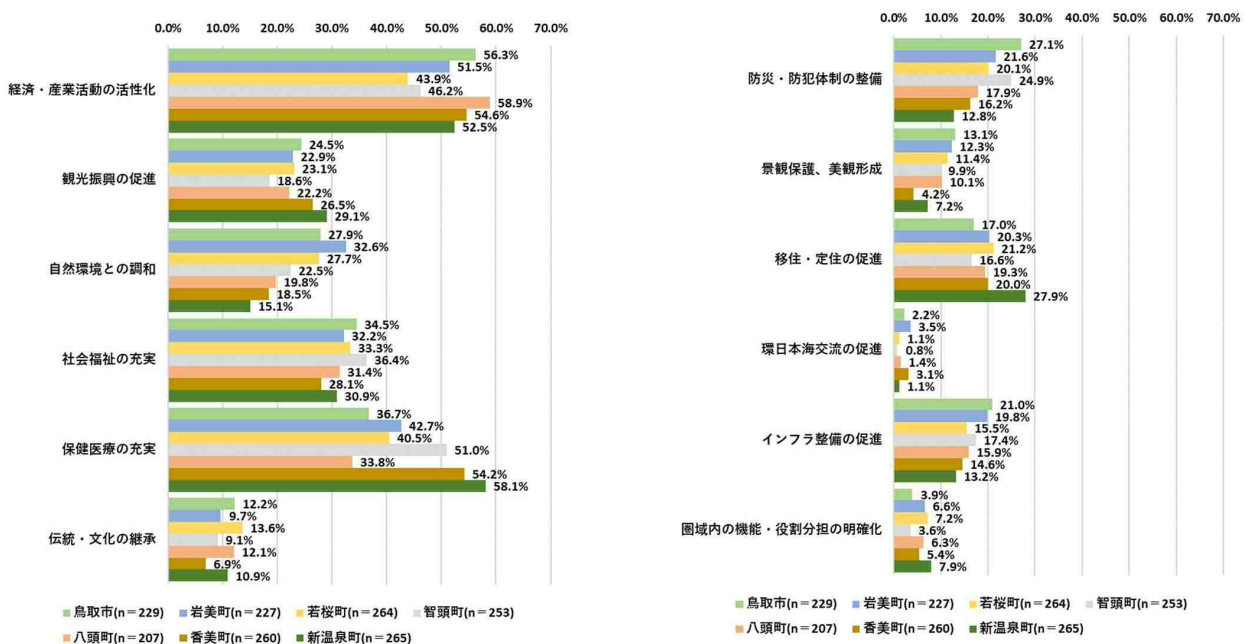


### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

#### 3-10-6 圏域の地域づくりで重視すべきこと

- 何を重視して地域づくりを進めるかについて居住地別でみると、移住・定住の促進と回答している割合は新温泉町が最も多くなっています。

#### 当圏域で地域づくりを進めるうえでの重視する点(居住地別)

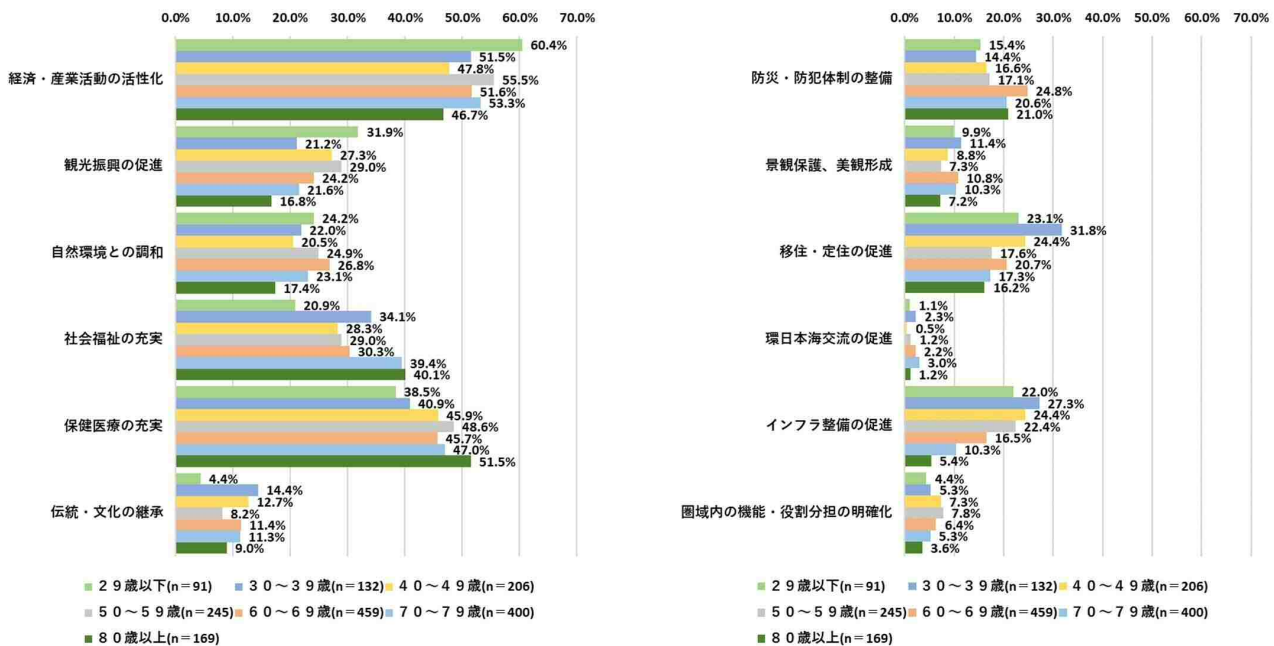


### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

#### 3-10-6 圏域の地域づくりで重視すべきこと

■ 何を重視して地域づくりを進めるかについて年齢別でみると、移住・定住の促進と回答している割合は30～39歳が最も多くなっています。

当圏域で地域づくりを進めるうえでの重視する点(年齢別)



### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

#### 3-10-7 近隣市町との連携が必要になると感じる分野

■ 今後、近隣市町との連携が必要になると感じる分野について聞きました。  
 ■ 今後、近隣市町との連携が必要になると感じる分野について最も割合の高いもの前回調査時と同様に「医療機能体制」であり、前回調査時よりも割合が5.7%上昇しました。次いで割合の高いものは「道路整備」であり、前回調査時よりも割合が1.2%下降しました。

近隣市町との連携が必要になると感じる分野



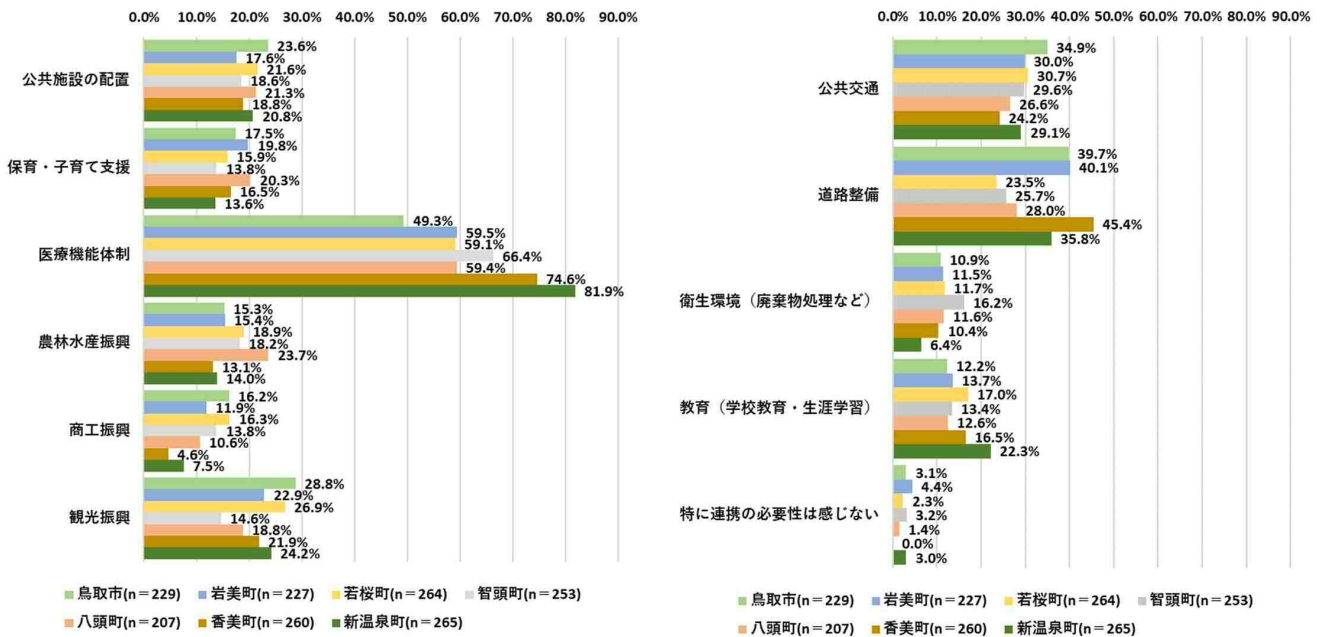


### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

#### 3-10-7 近隣市町との連携が必要になると感じる分野

■ お住まいの市町と近隣の市町との連携が特に必要になると感じる分野について居住地別でみると、医療機能体制と回答している割合は新温泉町が最も多くなっています。

今後、お住まいの市町と近隣の市町との連携が特に必要になると感じる分野(居住地別)

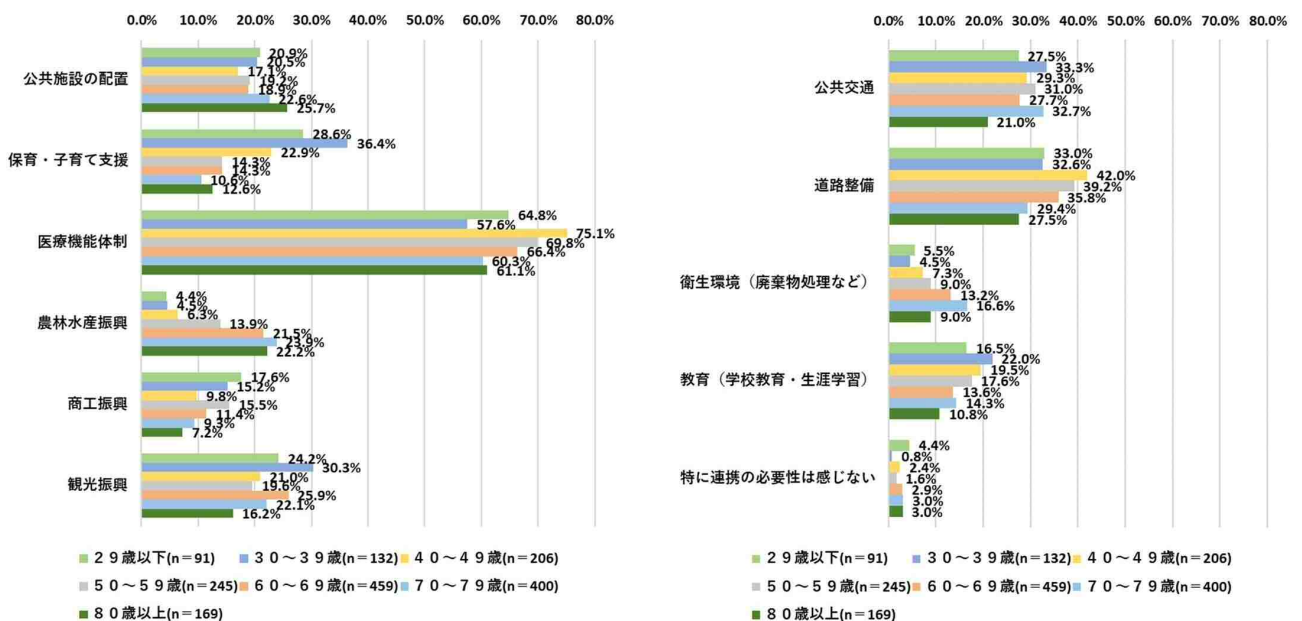


### 3-10 これからの当圏域内の連携や地域づくりに対する考え方

#### 3-10-7 近隣市町との連携が必要になると感じる分野

■ お住まいの市町と近隣の市町との連携が特に必要になると感じる分野について年齢別でみると、全年齢で医療機能体制や道路整備と回答している割合が多くなっています。

今後、お住まいの市町と近隣の市町との連携が特に必要になると感じる分野(年齢別)



### 3-11 自由記述

#### 3-11-1 「圏域全体の経済成長のけん引」に関連する意見

- 圏域全体の経済成長のけん引に関連する意見として、企業誘致による若者の移住促進、人材流出防止や観光資源の積極的な活用、商工振興を望む声が挙げられました。

##### 意見抜粋(原文ママ)

- 圏域内を横断するような、大企業の工場等誘致し、県域内の若者の就職等による人員増加を目ざして、人員流出を防ぐように試みることを考えてはどうかと思います。
- 若者が定住出来るように、企業誘致等前向きな検討を進めて頂きたい。災害の少ない鳥取ですから。
- 砂丘をもっと観光地にしてほしい。高速道路を早く整備して、ホテルやお店をどんどん増やしてほしい。
- 商工振興には特に取りくんでほしい。経済的に充実することは必要。その点で連携進めてほしい。
- 連携都市としての周遊プランを中心に各市町村で立ちよれるプランの中に地元食材などで楽しめる具体例で観光振興の促進があればよいと思います。
- 人口、世帯の減少の中、個人の役割が増加する公共の仕事ですることで、もっと年金世代の雇用を増やす事を考えるべき(シルバー人材センターの内容をもっといいものにする)で、若い世代の負担を減らす。もっと農林水産業と観光業をミックスして魅力を発信するべき。
- 浜坂・若桜間の連絡道、17世紀ごろまで有った牛坂や、旧美方町と諸鹿の道、小代道2本を整備したハイキング、登山路の整備と、空家を利用した宿泊(山小屋)施設の設置。県境をまたいだ住民の交流。

### 3-11 自由記述

#### 3-11-2 「高次の都市機能の集積・強化」に関連する意見

- 高次の都市機能の集積・強化に関連する意見として、道路の整備や通信インフラの整備を望む声が多くみられました。

##### 意見抜粋(原文ママ)

- インフラの充実。5G対応 東京などに行かなくても仕事はできる。
- 歩道を広くして自転車、車いす、バギーが通りやすいように(サイクル車OKの歩道)
- 鳥取、豊岡間の高速道路が偏りすぎているので、真ん中をできるだけ通してほしかった。とても不便に感じている。道路から遠い地区は、今以上に活気がなくなり、過疎化も進むと思う。
- 子供が雨の時にでも遊ぶ事が出来る様な公共施設等の整備や連携を進めるのであれば、まずは近隣の事を気にするのではなく町民の声を聞くのが先だと思う
- 圏域といいながら国道9号線と29号線の接続が非常に悪く、交流が皆無であり、身近に感じられない。若桜町から香美町へ氷ノ山越えの道路を早急に整備することにより、新たな交流も生まれ、氷ノ山、扇ノ山を活用した観光振興等も促進可能と思われる。
- 各市町村の公的医療の利用について相互に補完しあえる体制をもっと行って欲しい。各専門医療で診療日を相互に回せることが可能であればありがたい。(岩美病院に耳鼻科がない→浜坂病院にはある。)

## 3-11 自由記述

### 3-11-3 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」に関連する意見

- 圏域全体の生活関連機能サービスの向上に関連する意見として、公共交通や医療機関の充実、子育ての支援から老後の生活支援を望む声が挙がっています。

#### 意見抜粋(原文ママ)

- 私は現在、自家用車の運転が可能なので不自由を感じていませんが、今後、免許証を返納した場合でも、必要に応じて医療機関と連絡をとりながら健康を維持していけるような取り組みをしていただきたいと思います。例えば、オンライン診療、訪問診療などの充実です。お世話になります。よろしく願います。
- 移住・定住を促進し、子育て世代が地域に増えるよう、各市町の具体的取組を交流する行政施策窓口を是非立ち上げ、成果を交流・発信していただきたい。このままでは、地域が無くなってしまいます。早急をお願いします！！
- 住む地域に関係なく医療・教育を高いレベルで受けれる環境づくり。豊かな自然環境を経済・産業へ生かす取組み。地域内で循環可能な経済・産業への取組と体制の整備。住みつけられる地域づくり。
- 益々過疎化する地域では、医療体制の充実が必要不可欠。地域連携も必要だが単町で維持できるよう行政の支援を求めます。
- 鳥取の子育て支援パスポートを新温泉町民でも使える様にして欲しい。
- 高齢者のフレイルについて運動をすすめてほしい。デイに行かない迷っている世代にも生き生きと生活して田舎でできるせめてもの楽しみを見つけていく手助けをしてほしいです。
- 健康を促進するような内容に取り組む。
- 教育・福祉にお金を使う。(次世代への投資)

## 4 麒麟のまち圏域企業アンケート調査結果

### 4-1 企業アンケート実施概要

- 麒麟のまち圏域内の各企業・事業所における経営上の問題点や今後の意向、期待される産業振興支援策等を把握するため、圏域にある事業所を対象にアンケート調査を実施しました。
- 配布数は、各業種の特徴・ニーズ等を把握するため、業種と地域の偏りを考慮し、全体で700件としました。
- 回収数は全体で249件、有効回収率は35.6%でした。

#### 企業アンケート実施概要

項目	内容
調査対象	麒麟のまち圏域の事業所700社
調査方法	郵送による配布・回収、WEB回答
調査期間	令和3年11月26日～12月10日
配布数	700件
有効回収数	249件(有効回収率35.6%)

#### 今回調査(令和3年実施)結果

市町	配布数	回収数	回収率
鳥取市	504	184	36.5%
岩美町	20	7	35.0%
若桜町	8	4	50.0%
智頭町	18	4	22.2%
八頭町	32	9	28.1%
香美町	74	22	29.7%
新温泉町	44	19	43.2%
全体	700	249	35.6%

### 4-2 回答者の属性

#### 4-2-1 業種別の状況

- 回答者の属性を業種別にみると、圏域全体でも、各市町別でも「建設業」が最も多くなっています。「建設業」に並んで、岩美町では「製造業」、若桜町では「製造業」、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」が最も多くなっています。また、その他の市町では、「建設業」に次いで、鳥取市では「卸売業、小売業」、智頭町では「製造業」、「卸売業、小売業」、八頭町、香美町では「製造業」、新温泉町では「卸売業、小売業」が多くなっています。

#### 業種別

	鳥取市		岩美町		若桜町		智頭町		八頭町		香美町		新温泉町		圏域全体	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
農林水産業	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	9.1%	1	5.3%	4	1.6%
建設業	65	35.3%	2	28.6%	1	25.0%	2	50.0%	5	55.6%	8	36.4%	7	36.8%	90	36.1%
製造業	17	9.2%	2	28.6%	1	25.0%	1	25.0%	3	33.3%	5	22.7%	2	10.5%	31	12.4%
電気・ガス・熱供給・水道業	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	4	1.6%
情報通信業	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%
運輸業、郵便業	8	4.3%	1	14.3%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	1	5.3%	12	4.8%
卸売業、小売業	40	21.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	1	11.1%	3	13.6%	6	31.6%	51	20.5%
金融業、保険業	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
不動産業、物品賃貸業	10	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	4.0%
学術研究、専門・技術サービス業	8	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	9	3.6%
宿泊業、飲食サービス業	4	2.2%	1	14.3%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	7	2.8%
生活関連サービス業、娯楽業	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%
教育、学習支援業	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%
医療、福祉	7	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	8	3.2%
複合サービス事業	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%
その他サービス業	7	3.8%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	9	3.6%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%
計	184	100.0%	7	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	9	100.0%	22	100.0%	19	100.0%	249	100.0%

- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(原文ママ)

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 建築設計・監理</li> <li>➢ 造園業</li> <li>➢ 再生資源卸売業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 音響・照明・舞台</li> <li>➢ 有線放送業</li> <li>➢ 鳥取県立美術館整備運営事業</li> </ul> |
|---|--|

## 4-2 回答者の属性

### 4-2-2 従業員数別、現在地での創業(開設)時期別の状況

- 回答者の属性を従業員別にみると、圏域全体でも、各市町でも「10人未満」が最も多くなっています。なお、若桜町では「10人未満」と並んで「10～29人」が最も多くなっています。
- 回答者の属性を現在地での創業(開設)時期でみると、圏域全体では昭和44年以前に創業した企業が最も多くなっています。また、市町別では、鳥取県東部の5市町では昭和44年以前に創業した企業が最も多く、兵庫県但西西部2市町では昭和44年から昭和54年に創業した企業が最も多くなっています。

従業員数別  
(契約社員、パート・アルバイト含む)

	鳥取市		岩美町		若桜町		智頭町		八頭町		香美町		新温泉町		圏域全体	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
10人未満	97	52.7%	6	85.7%	2	50.0%	4	100.0%	6	66.7%	10	45.5%	11	57.9%	136	54.6%
10～29人	56	30.4%	1	14.3%	2	50.0%	0	0.0%	2	22.2%	9	40.9%	4	21.1%	74	29.7%
30～49人	11	6.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	1	4.5%	1	5.3%	14	5.6%
50～99人	12	6.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	13	5.2%
100～299人	6	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	2	10.5%	9	3.6%
300～499人	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	2	0.8%
500～999人	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
1,000人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	184	100.0%	7	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	9	100.0%	22	100.0%	19	100.0%	249	100.0%

現在地での創業(開設)時期別

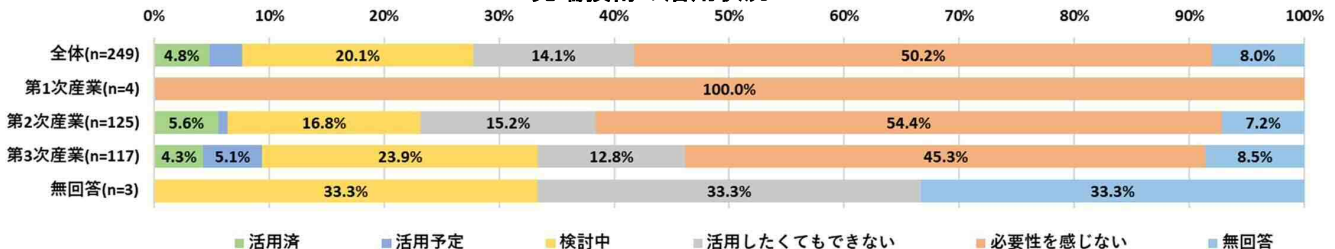
	鳥取市		岩美町		若桜町		智頭町		八頭町		香美町		新温泉町		圏域全体	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
1969 (S44)年以前	51	27.7%	2	28.6%	1	25.0%	2	50.0%	3	33.3%	7	31.8%	6	31.6%	72	28.9%
1970～1979 (S45～S54)年	34	18.5%	1	14.3%	1	25.0%	1	25.0%	3	33.3%	8	36.4%	7	36.8%	55	22.1%
1980～1989 (S55～H1)年	34	18.5%	1	14.3%	1	25.0%	1	25.0%	3	33.3%	4	18.2%	1	5.3%	45	18.1%
1990～1999 (H2～H11)年	24	13.0%	2	28.6%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	3	15.8%	31	12.4%
2000～2009 (H12～H21)年	26	14.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	1	5.3%	28	11.2%
2010～2019 (H22～R1)年	11	6.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	4.8%
2020 (R2)年以降	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%
無回答	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	1	5.3%	4	1.6%
計	184	100.0%	7	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	9	100.0%	22	100.0%	19	100.0%	249	100.0%

## 4-3 先端技術の活用状況

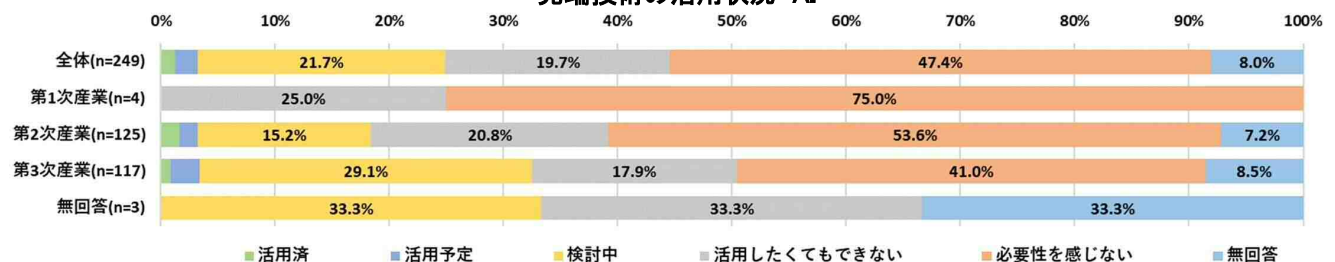
### 4-3-1 先端技術の活用状況 ①IoT、AI

- 圏域企業に先端技術(IoT、AI)の活用状況について聞きました。
- IoTの活用状況は、「必要性を感じない」が全体で最も多く、50.2%でした。
- IoTの活用状況を産業別にみても、第1次産業、第2次産業、第3次産業ともに最も多いのは「必要性を感じない」でした。
- AIの活用状況は、「必要性を感じない」が全体で最も多く、47.4%でした。
- AIの活用状況を産業別にみても、第1次産業、第2次産業、第3次産業ともに最も多いのは「必要性を感じない」でした。

先端技術の活用状況 IoT



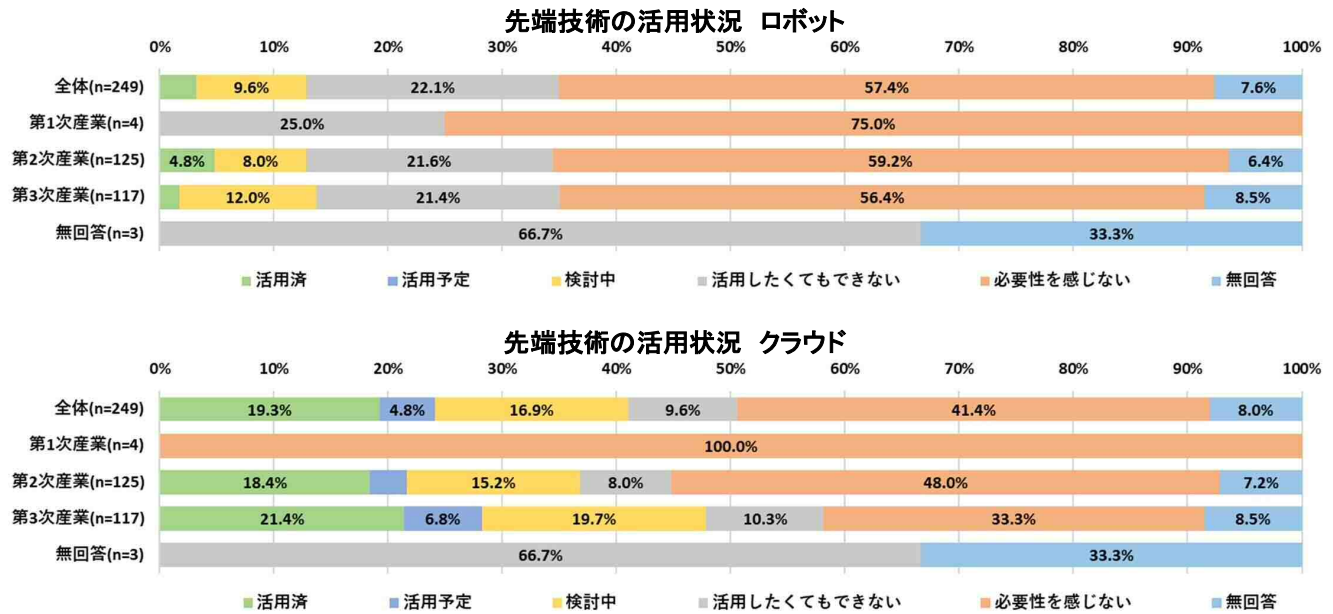
先端技術の活用状況 AI



### 4-3 先端技術の活用状況

#### 4-3-1 先端技術の活用状況 ②ロボット、クラウド

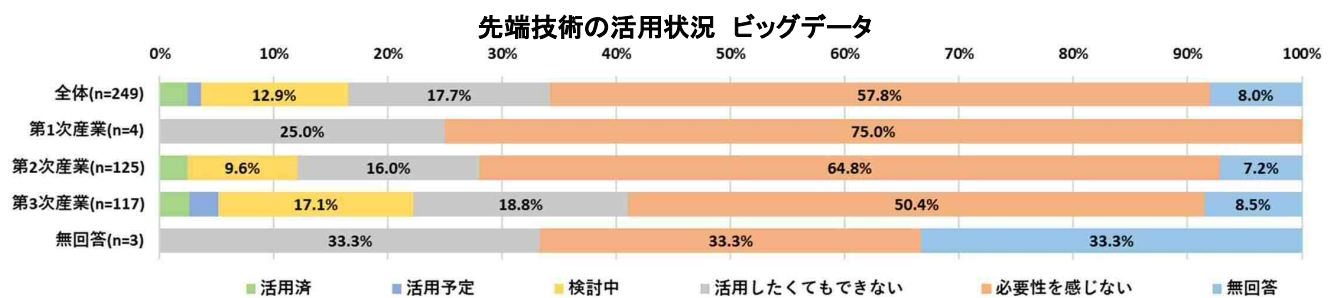
- 圏域企業に先端技術(ロボット、クラウド)の活用状況について聞きました。
- ロボットの活用状況は、「必要性を感じない」が全体で最も多く、57.4%でした。
- ロボットの活用状況を産業別にみても、第1次産業、第2次産業、第3次産業ともに最も多いのは「必要性を感じない」でした。
- クラウドの活用状況は、「必要性を感じない」が全体で最も多く、41.4%でした。
- クラウドの活用状況を産業別にみても、第1次産業、第2次産業、第3次産業ともに最も多いのは「必要性を感じない」でした。



### 4-3 先端技術の活用状況

#### 4-3-1 先端技術の活用状況 ③ビッグデータ

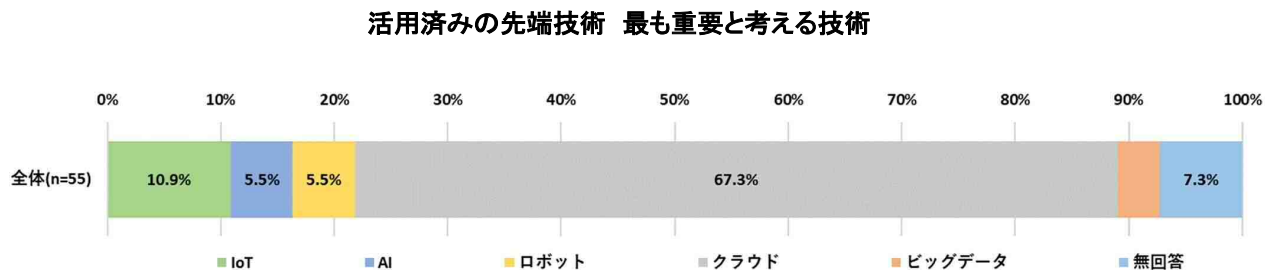
- 圏域企業に先端技術(ビッグデータ)の活用状況について聞きました。
- ビッグデータの活用状況は、「必要性を感じない」が全体で最も多く、57.8%でした。
- ビッグデータの活用状況を産業別にみても、第1次産業、第2次産業、第3次産業ともに最も多いのは「必要性を感じない」でした。



### 4-3 先端技術の活用状況

#### 4-3-2 活用済みの先端技術 ①最も重要と考える技術

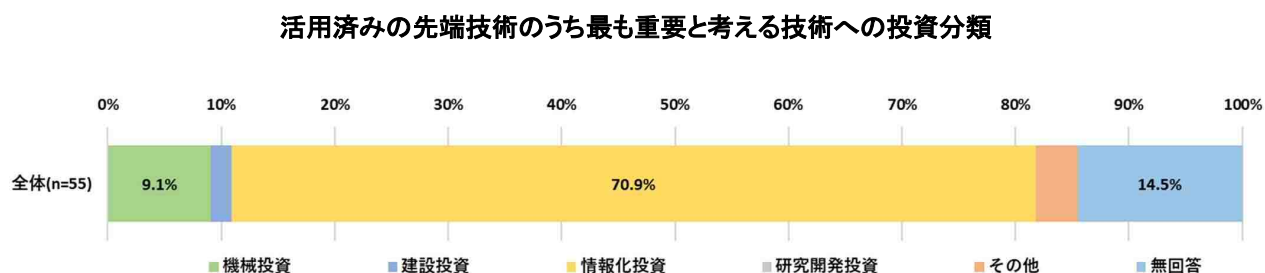
- 活用済みの先端技術がある企業に最も重要と考える技術について聞きました。
- その結果、活用済みの先端技術がある企業のうち、最も重要な技術が「クラウド」と回答した企業が最も多く67.3%、次いで「IoT」で10.9%でした。



### 4-3 先端技術の活用状況

#### 4-3-2 活用済みの先端技術 ②最も重要と考える技術への投資分類

- 活用済みの先端技術がある企業に最も重要と考える技術への投資分類について聞きました。
- その結果、活用済みの先端技術がある企業のうち、最も重要な技術への投資分類が「情報化投資」と回答した企業が最も多く70.9%、次いで「無回答」で14.5%でした。



- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

➤ データ保管	➤ 保育業務の書類のICT化を活用している。
---------	------------------------



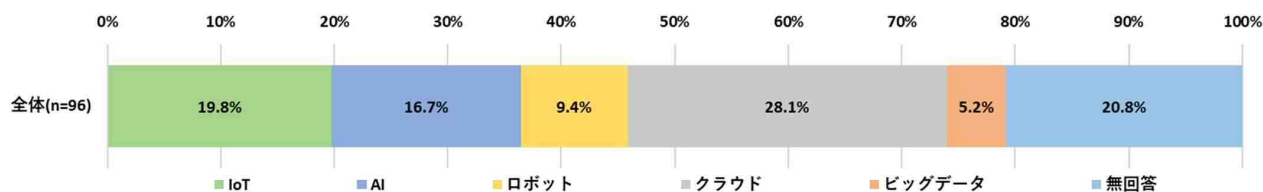


## 4-3 先端技術の活用状況

### 4-3-3 活用予定または検討中の先端技術

- 活用予定または検討中の先端技術がある企業に最も優先度が高い技術について聞きました。
- その結果、活用予定または検討中の先端技術がある企業のうち、最も優先度が高い技術について「クラウド」と回答した企業が最も多く28.1%、次いで「無回答」で20.8%でした。

活用予定または検討中の先端技術のうち最も優先度が高い技術



## 4-3 先端技術の活用状況

### 4-3-4 活用したくてもできない先端技術 ①最も優先度が高い技術

- 活用したくてもできない先端技術がある企業に最も優先度が高い技術について聞きました。
- その結果、活用したくてもできない先端技術がある企業のうち、「無回答」を除き、最も優先度が高い技術について「AI」と回答した企業が最も多く25.7%、次いで「ロボット」で24.3%でした。

活用したくてもできない先端技術のうち最も優先度が高い技術

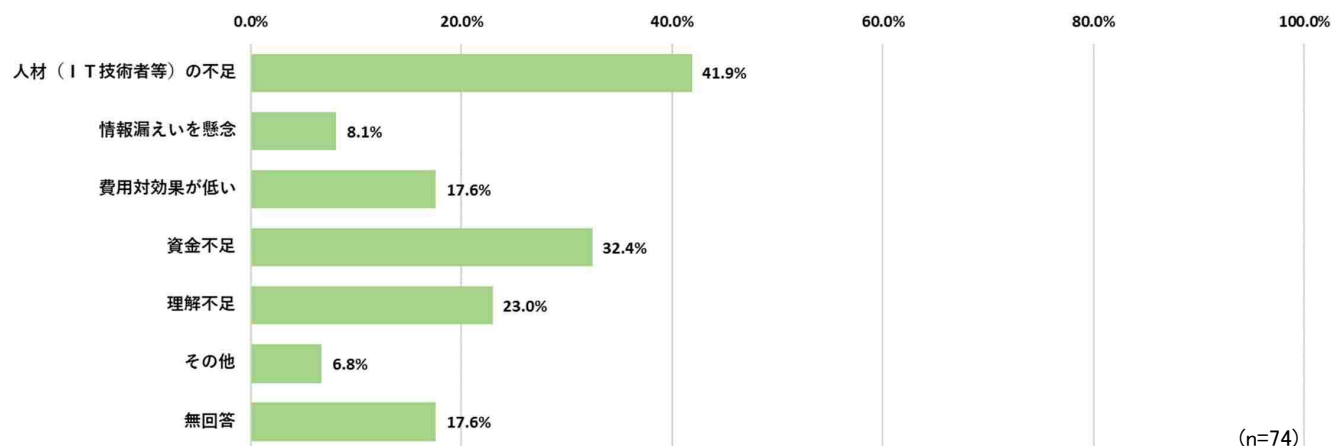


## 4-3 先端技術の活用状況

### 4-3-4 活用したくてもできない先端技術 ②活用できない理由

- 活用したくてもできない先端技術がある企業に活用できない理由について聞きました。
- その結果、活用したくてもできない先端技術がある企業のうち、「人材(IT技術者等)の不足」と回答した企業が最も多く41.9%、次いで「資金不足」で32.4%でした。

先端技術を活用できない理由



## 4-3 先端技術の活用状況

### 4-3-5 先端技術の必要性を感じない理由

- 先端技術の活用について、必要性を感じないと回答した企業にその理由を聞きました。
- その結果、事業が小規模であることや職種・業務の性質が先端技術となじまないこと、現在不便を感じていないこと等の理由が多かったです。

#### 意見抜粋(原文ママ)

- 本社の業種や規模を考慮すると必要性を感じません
- 中小企業のため、必要を感じないから
- 不動産業としているが、自社所有の賃貸のみの事業のため、新規顧客や開拓など行っていないため
- 接客業なので
- 運送業なのでマンパワーの方が必要
- 多くの業務が対面によるものであり、AIの活用やローカルデータの分析等に必要性をあまり感じない。
- 現在職人の手作業によって仕事をしているため
- 事務員1人でやれる仕事内容で、インターネット環境もないから。
- 業務改善・効率化に直結しない
- 今に不便を感じていない為。
- 先端技術についていけない/人材がいない/使用するべき場所、方法がわからない
- 費用対効果を考えると、今は必要性を感じない。

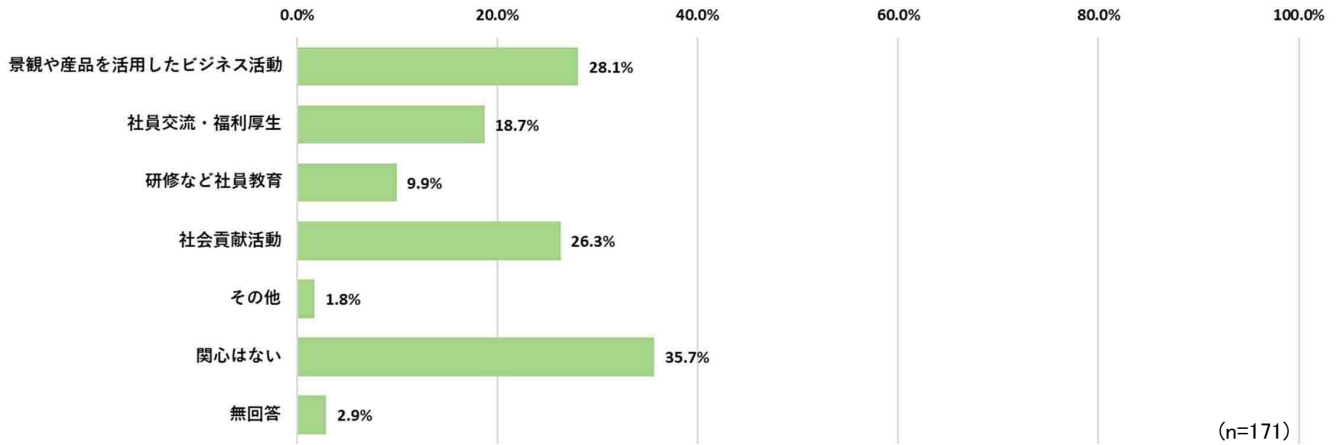


## 4-4 農林水産業または農村・漁村地域への関心

### 4-4-3 関心のある企業活動

- 農村・漁村地域で企業活動を実施していない又は今後実施する予定であると回答した企業に、関心のある企業活動を伺いました。
- その結果、「関心はない」と回答した企業が最も多く35.7%、次いで「景観や産品を活用したビジネス活動」で28.1%でした。

関心のある企業活動



## 4-5 現在の所在地での事業継続

### 4-5-1 事業継続の可能性

- 圏域企業に、現在の所在地での事業継続の可能性について聞きました。
- その結果、「当分の間は継続していき、その規模を維持または拡大させていく」と回答した企業が最も多く67.1%、次いで「当分の間は事業を継続するが、その規模は縮小させていく」で17.7%でした。

事業継続の可能性



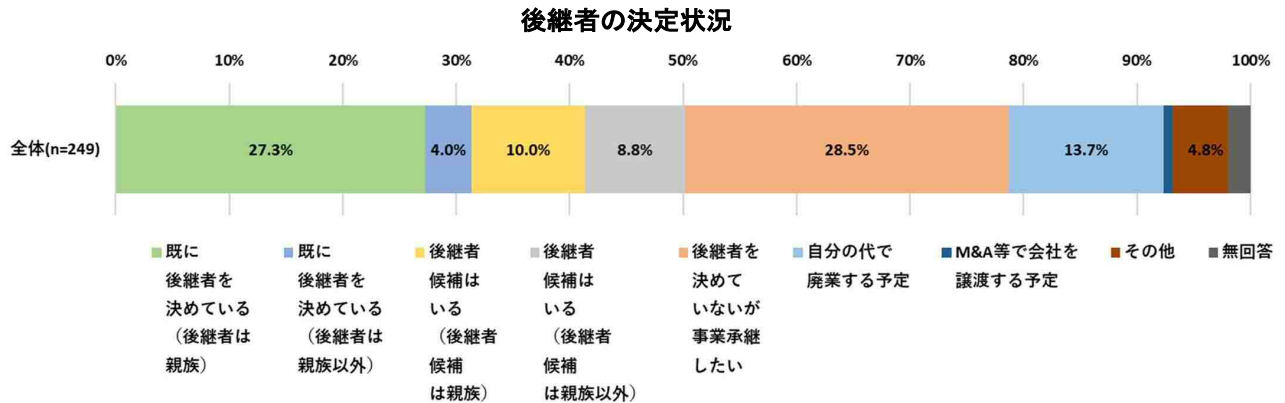
- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 法人経営で事業継続</li> <li>➢ 模索中</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 当分の間は事業を継続するが、規模は縮小してしまう。</li> <li>➢ 第三セクターなので何とも答えられない。</li> </ul> |
|--|--|

## 4-5 現在の所在地での事業継続

### 4-5-2 後継者の決定状況

- 圏域企業に、後継者の決定状況について聞きました。
- その結果、「後継者を決めていないが、事業承継したい」と回答した企業が最も多く28.5%、次いで「既に後継者を決めている(後継者は親族)」で27.3%でした。



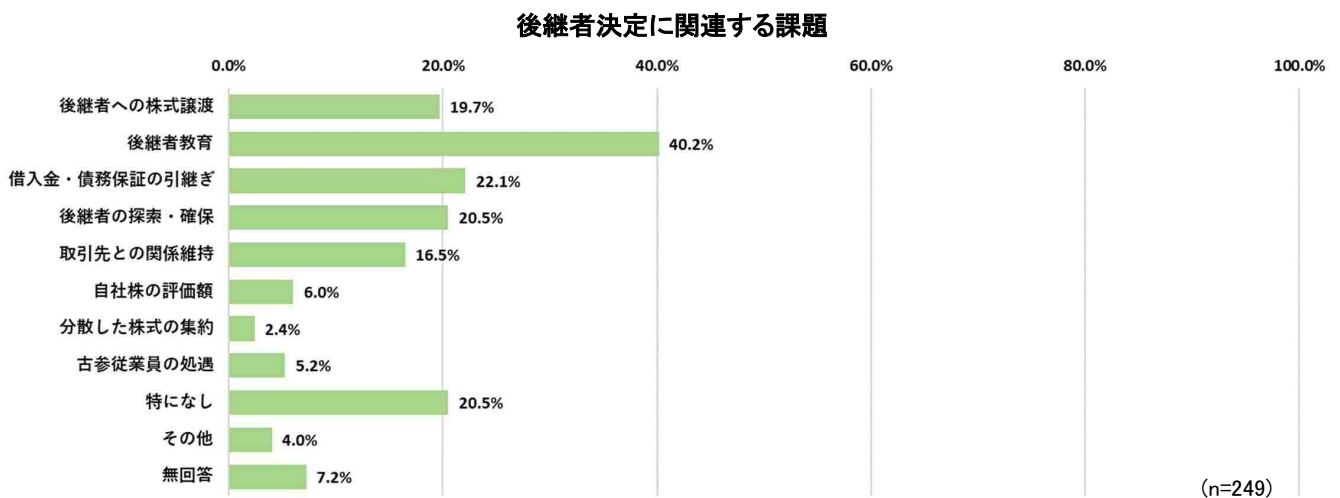
- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 親会社の決定による</li> <li>➢ 未定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 直近に後継者へ事業承継したばかりで、検討する段階にない。</li> <li>➢ 後継者に移行中</li> </ul> |
|---|---|

## 4-5 現在の所在地での事業継続

### 4-5-3 後継者決定に関連する課題

- 圏域企業に、後継者の決定で課題となっている点について聞きました。
- その結果、「後継者教育」と回答した企業が最も多く40.2%、次いで「借入金・債務保証の引継ぎ」で22.1%でした。



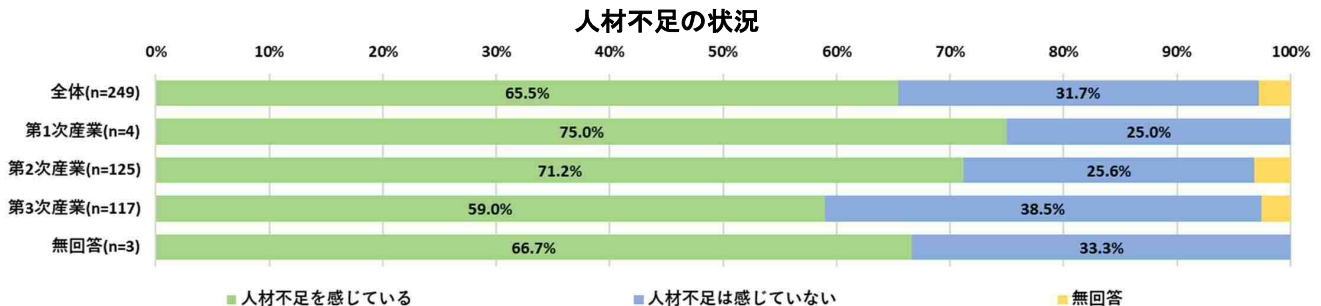
- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2年前に代替。次回事業継承は20年後</li> <li>➢ 3年前に承継したてで実感がない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 後継者の能力</li> </ul> |
|---|--|

## 4-6 人材確保・人材育成の状況

### 4-6-1 人材不足の状況

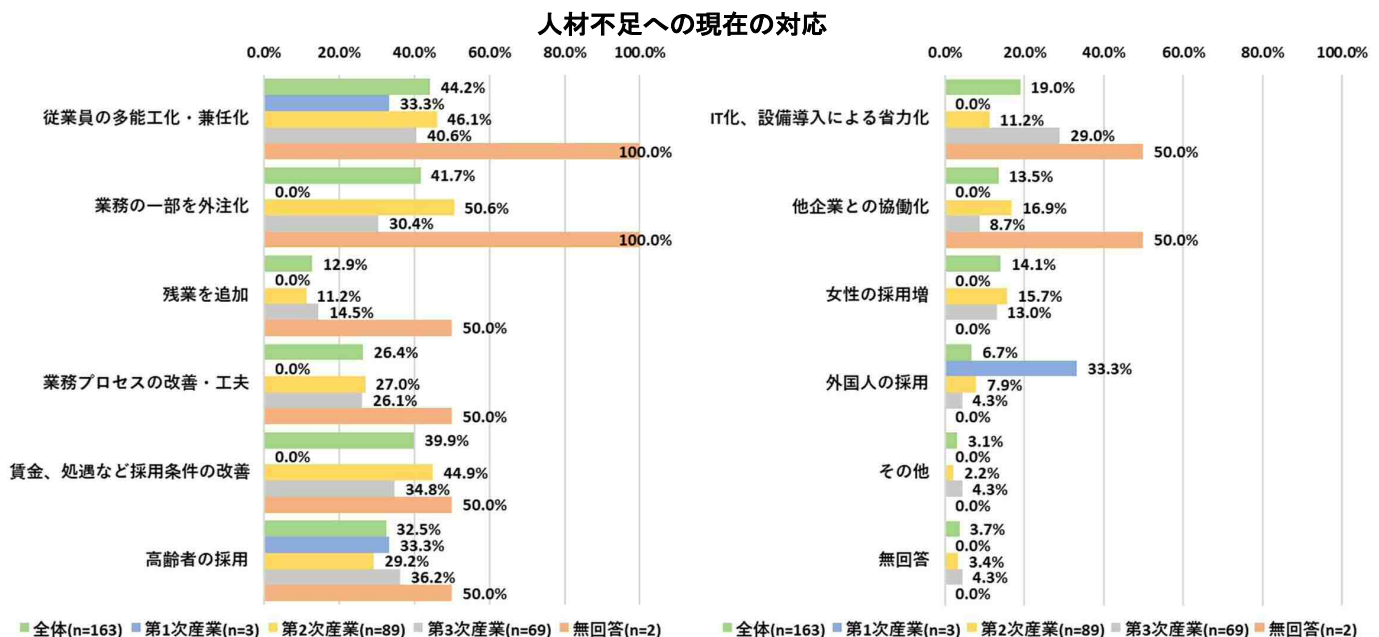
- 圏域企業に、人材の状況について聞きました。
- その結果、圏域全体では「人材不足を感じている」と回答した企業は65.6%、「人材不足を感じていない」と回答した企業は31.7%となり、人材不足を感じている企業が大幅に上回りました。
- 産業別でも、いずれの産業も「人材不足を感じている」と回答した企業が「人材不足を感じていない」と回答した企業を上回りました。



## 4-6 人材確保・人材育成の状況

### 4-6-2 人材確保の状況 ①人材不足への現在の対応

- 人材不足を感じていると回答した企業に、人材不足へどのように対応しているか聞きました。
- その結果、全体では「従業員の多能工化・兼任化」と回答した企業が最も多くなりました。
- 産業別にみると、最も多いのは第1次産業では「従業員の多能工化・兼任化」、「高齢者の採用」、「外国人の採用」、第2次産業では「業務の一部を外注化」、第3次産業では「従業員の多能工化・兼任化」でした。



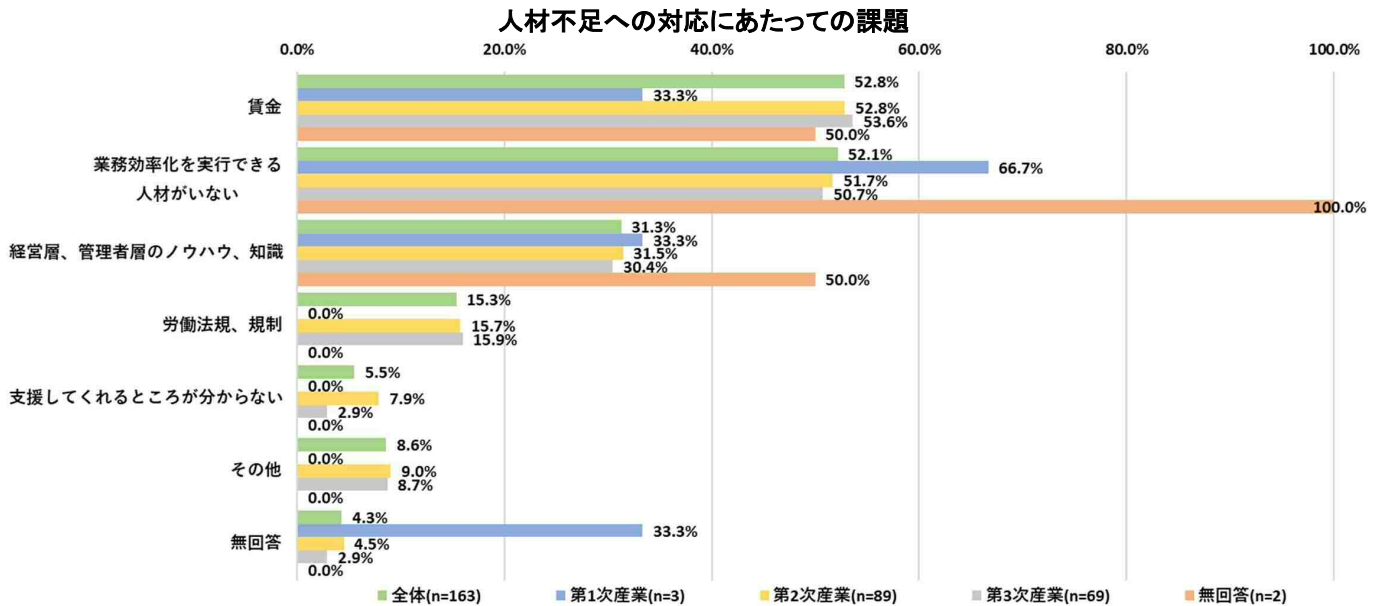
- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

> 社内外研習
> 定年延長

## 4-6 人材確保・人材育成の状況

### 4-6-2 人材確保の状況 ②人材不足への対応にあたっての課題

- 人材不足を感じていると回答した企業に、人材不足への対応にあたっての課題について聞きました。
- その結果、全体では「賃金」と回答した企業が最も多くなりました。
- 産業別にみると、最も多いのは第1次産業では「業務効率化を実行できる人材がない」、第2次産業、第3次産業では「賃金」でした。



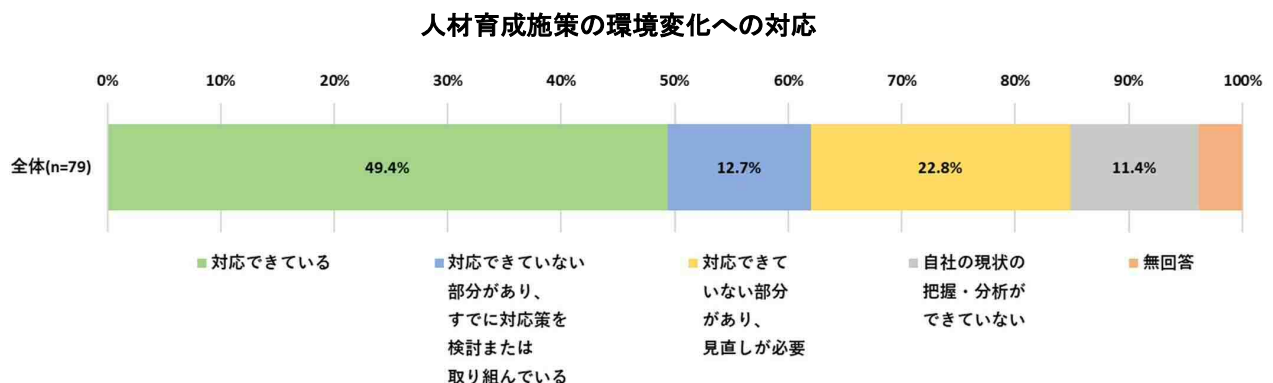
- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

- |                   |                        |                 |
|-------------------|------------------------|-----------------|
| ➢ 求人しても来てくれない     | ➢ 大型免許のある人がいるが募集しても来ない | ➢ 他社の能力         |
| ➢ 採用しても続かない       | ➢ 若者が地元に残らない           | ➢ 若者の業種ばなれ      |
| ➢ 課長・主任クラスのスキルアップ | ➢ 人材の高齢化               | ➢ そもそも人がいない 人口減 |

## 4-6 人材確保・人材育成の状況

### 4-6-3 人材育成の状況 ①人材育成施策の環境変化への対応

- 人材不足を感じていないと回答した企業に、人材育成施策が環境変化に対応しているか聞きました。
- その結果、「対応できている」と回答した企業が最も多く49.4%、次いで「対応できていない部分があり、見直しが必要」で22.8%でした。



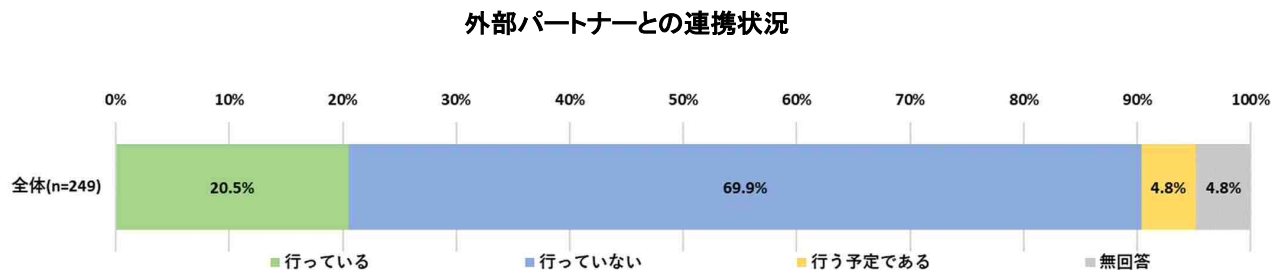




## 4-7 外部パートナーとの連携

### 4-7-1 外部パートナーとの連携状況

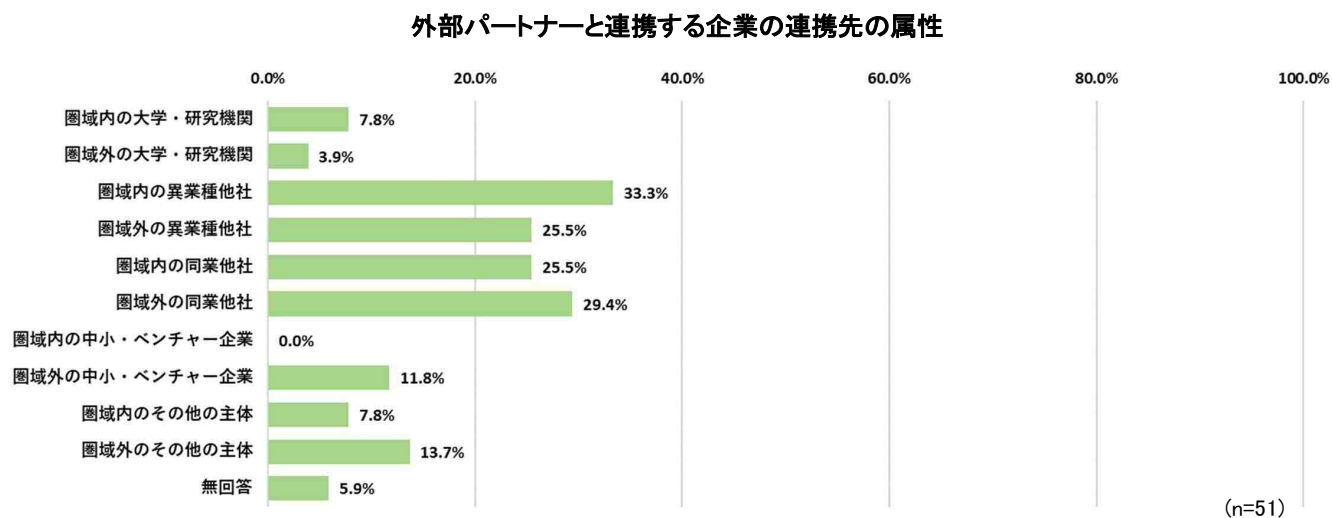
- 研究機関や他企業など、圏域内外の各主体との連携や交流は、企業活動の創造性向上に一定の効果が期待できると言えます。
- そこで、圏域企業に、外部パートナーとの連携状況について聞きました。
- その結果、外部パートナーとの連携を「行っている」と回答した企業は20.5%、「行っていない」と回答した企業は69.9%となり、外部パートナーとの連携を行っていない企業が大幅に上回りました。



## 4-7 外部パートナーとの連携

### 4-7-2 外部パートナーと連携する企業 ①連携先の属性

- 外部パートナーとの連携を行っていると回答した企業に、連携する外部パートナーの属性について聞きました。
- その結果、「圏域内の異業種他社」と回答した企業が最も多く33.3%、次いで「圏域外の同業他社」で29.4%でした。

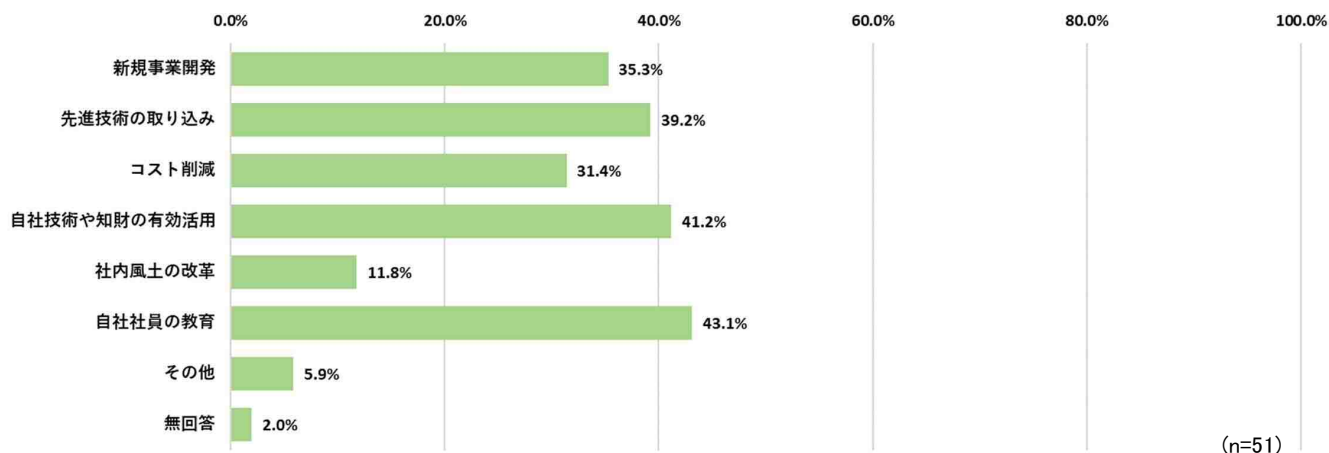


## 4-7 外部パートナーとの連携

### 4-7-2 外部パートナーの連携する企業 ②連携目的

- 外部パートナーとの連携を行っている企業に、連携する目的について聞きました。
- その結果、「自社社員の教育」と回答した企業が最も多く43.1%、次いで「自社技術や知財の有効活用」で41.2%でした。

外部パートナーと連携する企業の連携目的



- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

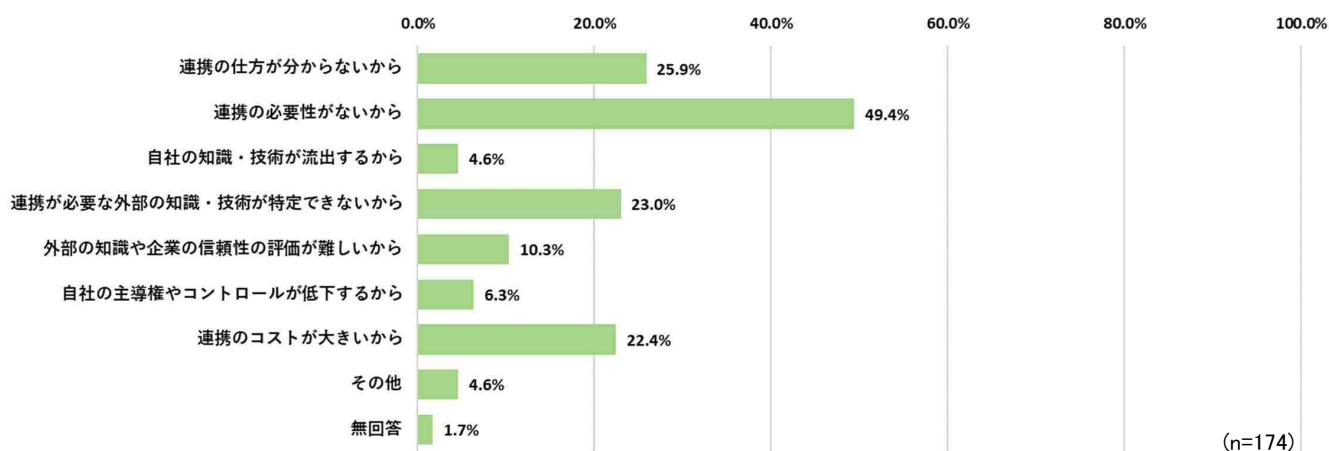
- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 医療連携</li> <li>➢ 業務の効率化、顧客管理</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 自社に無いものを担う</li> </ul> |
|---|--|

## 4-7 外部パートナーとの連携

### 4-7-3 外部パートナーと連携しない企業

- 外部パートナーとの連携を行っていない企業に、外部連携しない理由について聞きました。
- その結果、「連携の必要性がないから」と回答した企業が最も多く49.4%、次いで「連携の仕方が分からないから」で25.9%でした。

外部パートナーと連携しない企業の連携しない理由



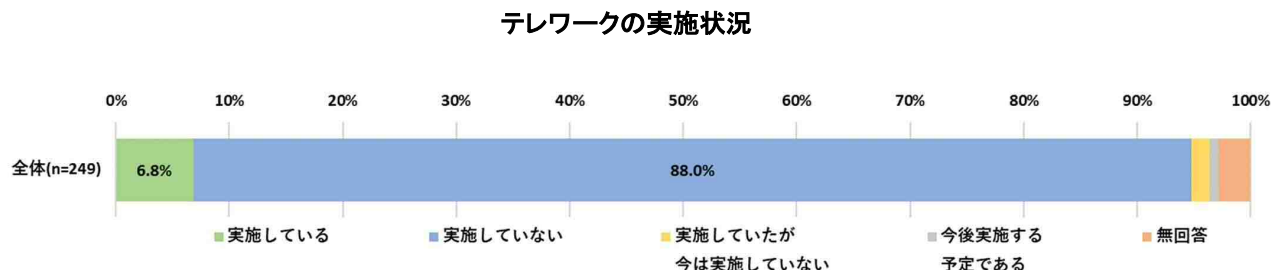
- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 連絡会的なことは行っている</li> <li>➢ メーカーとの連携が主である為</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 廃業予定</li> </ul> |
|---|--|

## 4-8 テレワークの導入状況

### 4-8-1 テレワークの実施状況

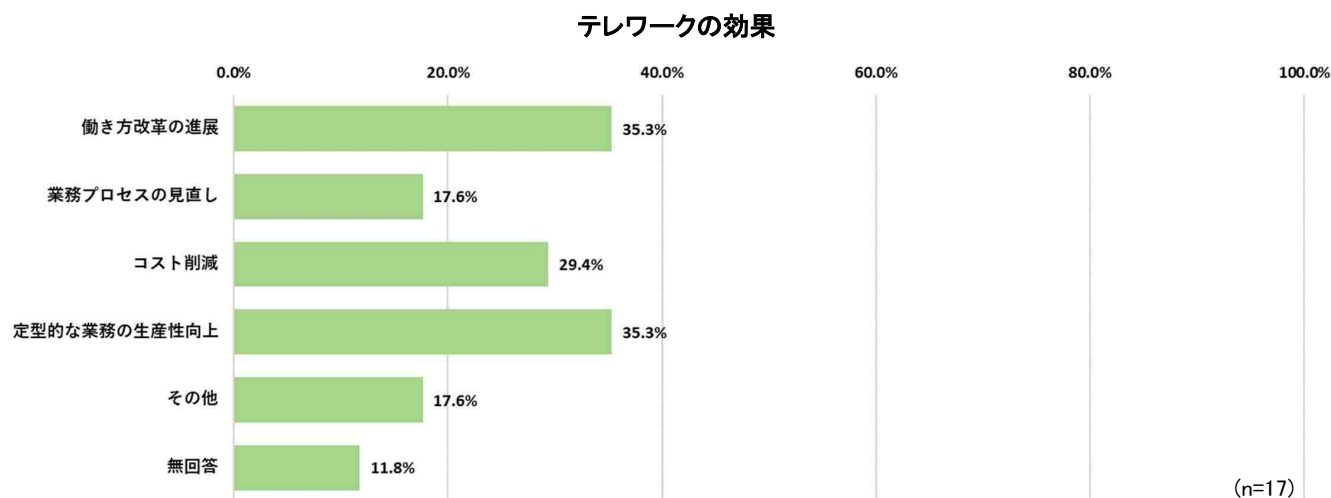
- 圏域企業に、テレワークの実施状況について聞きました。
- その結果、テレワークを「実施している」と回答した企業は6.8%、「実施していない」と回答した企業は88.0%となり、テレワークを実施していない企業が大幅に上回りました。



## 4-8 テレワークの導入状況

### 4-8-1 テレワーク導入企業 ①テレワークの効果

- テレワークを実施していると回答した企業に、テレワークの効果について聞きました。
- その結果、「働き方改革の進展」、「定型的な業務の生産性向上」と回答した企業が最も多く35.3%、次いで「コスト削減」で29.4%でした。



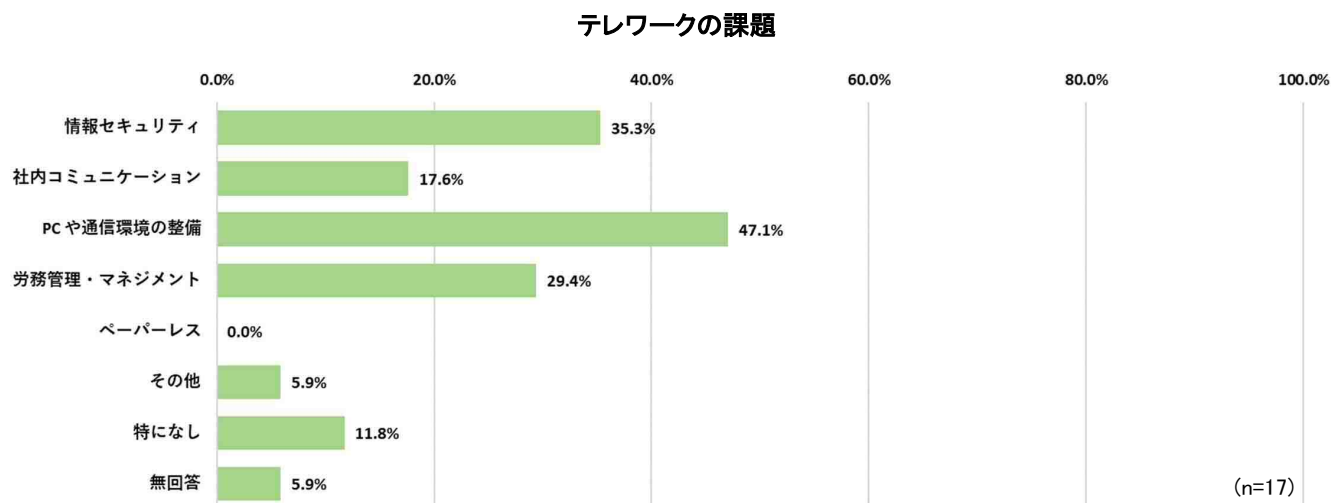
- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

➤ コロナウィルス対策の一環

## 4-8 テレワークの導入状況

### 4-8-1 テレワーク導入企業 ②テレワークの課題

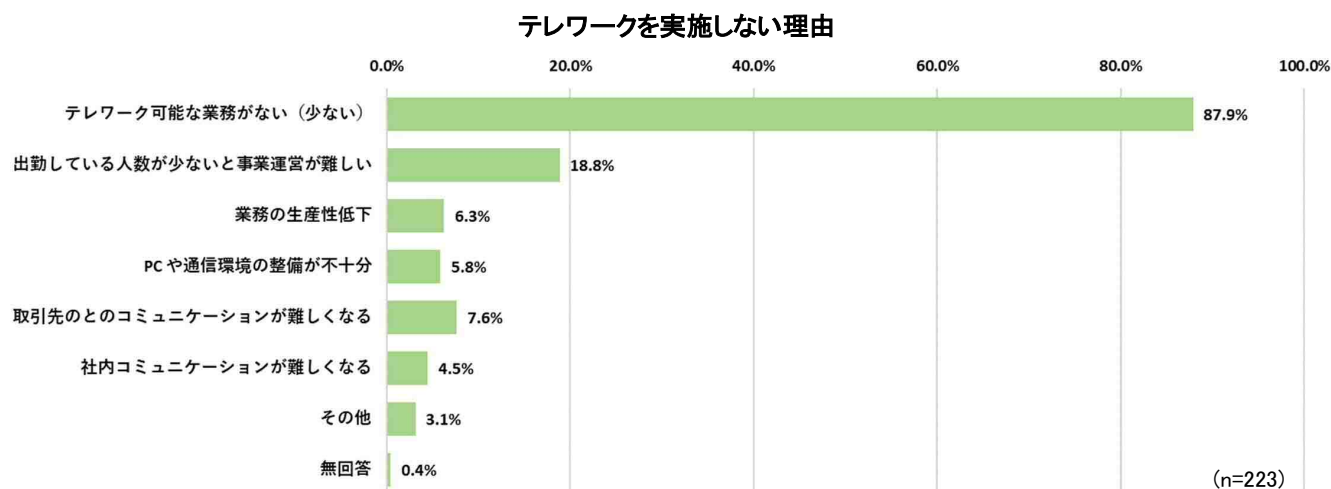
- テレワークを実施していると回答した企業に、テレワークの課題について聞きました。
- その結果、「PCや通信環境の整備」と回答した企業が最も多く47.1%、次いで「情報セキュリティ」で35.3%でした。



## 4-8 テレワークの導入状況

### 4-8-2 テレワークを導入していない企業

- テレワークを実施していない、または、実施していたが今は実施していないと回答した企業に、テレワークを実施していない、または、実施を取りやめた理由について聞きました。
- その結果、「テレワーク可能な業務がない(少ない)」と回答した企業が最も多く87.9%、次いで「出勤している人数が少ないと事業運営が難しい」で18.8%でした。



- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

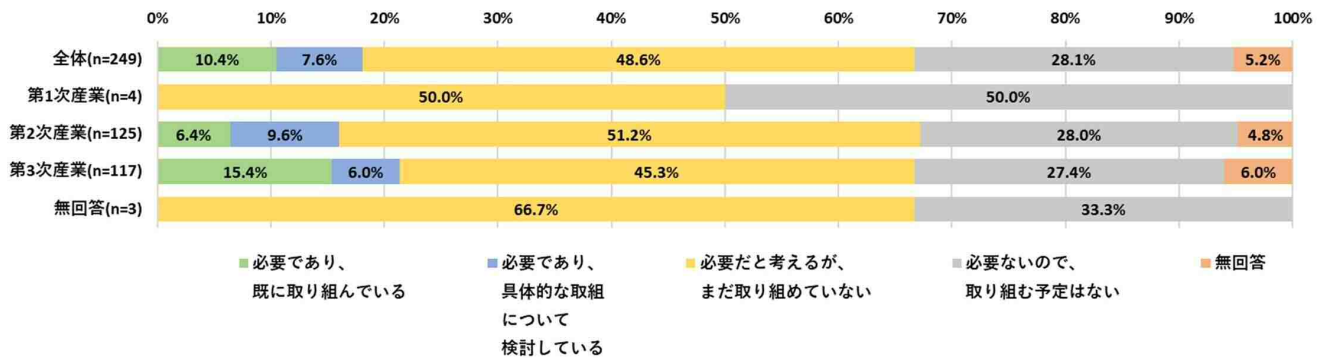
- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 建設業のため</li> <li>➢ 製造に携わる者が絶対数である為</li> <li>➢ 特にテレワーク自体を要望する社員がいない。</li> <li>➢ コロナ関連の安全が上がってきたから</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 接客業の為に物理的に無理</li> <li>➢ テレワークできるのは事務部門しかない</li> <li>➢ テレワークできる仕事はあるが、効率はどうしても下がる。</li> <li>➢ 従業員がいない</li> </ul> |
|---|--|

## 4-9 カーボンニュートラルへの取組状況

### 4-9-1 カーボンニュートラルへの取組の必要性和取組状況

- 圏域企業に、カーボンニュートラルへの取組の必要性和取組状況について聞きました。
- その結果、圏域全体では、「必要だと考えるが、まだ取り組めていない」と回答した企業が最も多く48.6%、次いで「必要ないので、取り組む予定はない」で28.1%でした。
- 産業別にみても、第1次産業、第2次産業、第3次産業ともに最も多いのは「必要だと考えるが、まだ取り組めていない」でした。

カーボンニュートラルの必要性和取組状況

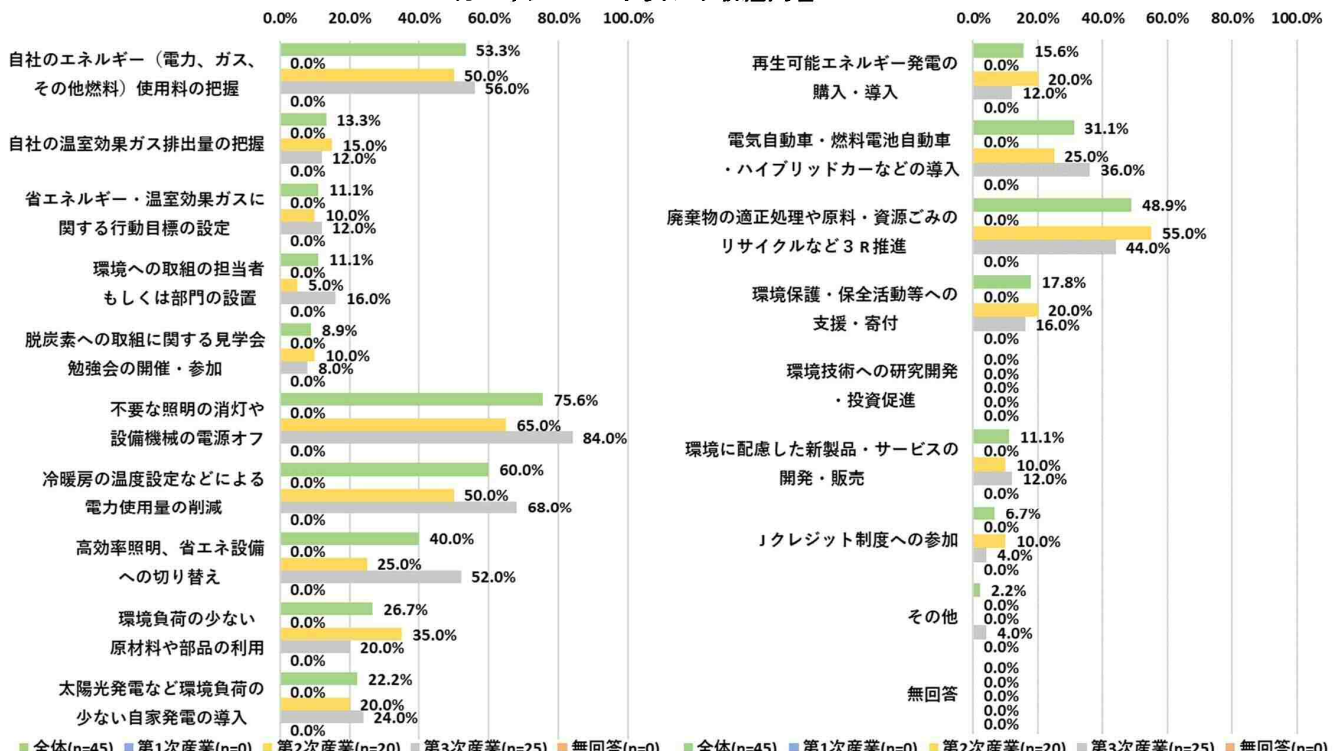


## 4-9 カーボンニュートラルへの取組状況

### 4-9-2 カーボンニュートラルへの取組を必要と考える企業 ①取組内容

- カーボンニュートラルに既に取り組んでいる、または、具体的な取組について検討している企業に取組内容を聞きました。
- その結果、圏域全体、また産業別にみても「不要な照明の消灯や設備機械の電源オフ」と回答した企業が最も多くなりました。

カーボンニュートラルの取組内容

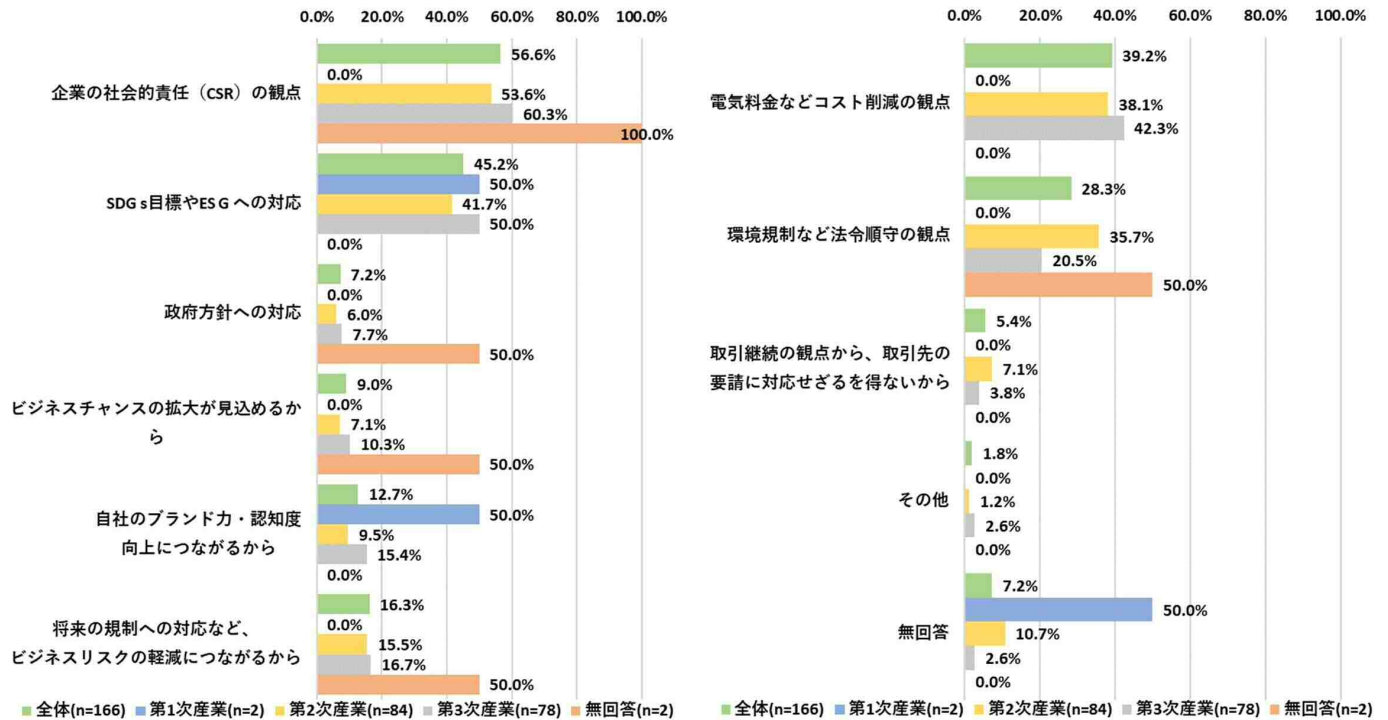


## 4-9 カーボンニュートラルへの取組状況

### 4-9-2 カーボンニュートラルへの取組を必要と考える企業 ②必要な理由

- カーボンニュートラルへの取組が必要と考える企業に、必要と考える理由について聞きました。
- その結果、圏域全体、第2次産業、第3次産業では「企業の社会的責任(CSR)の観点」と回答した企業が最も多くなりました。

カーボンニュートラルが必要な理由

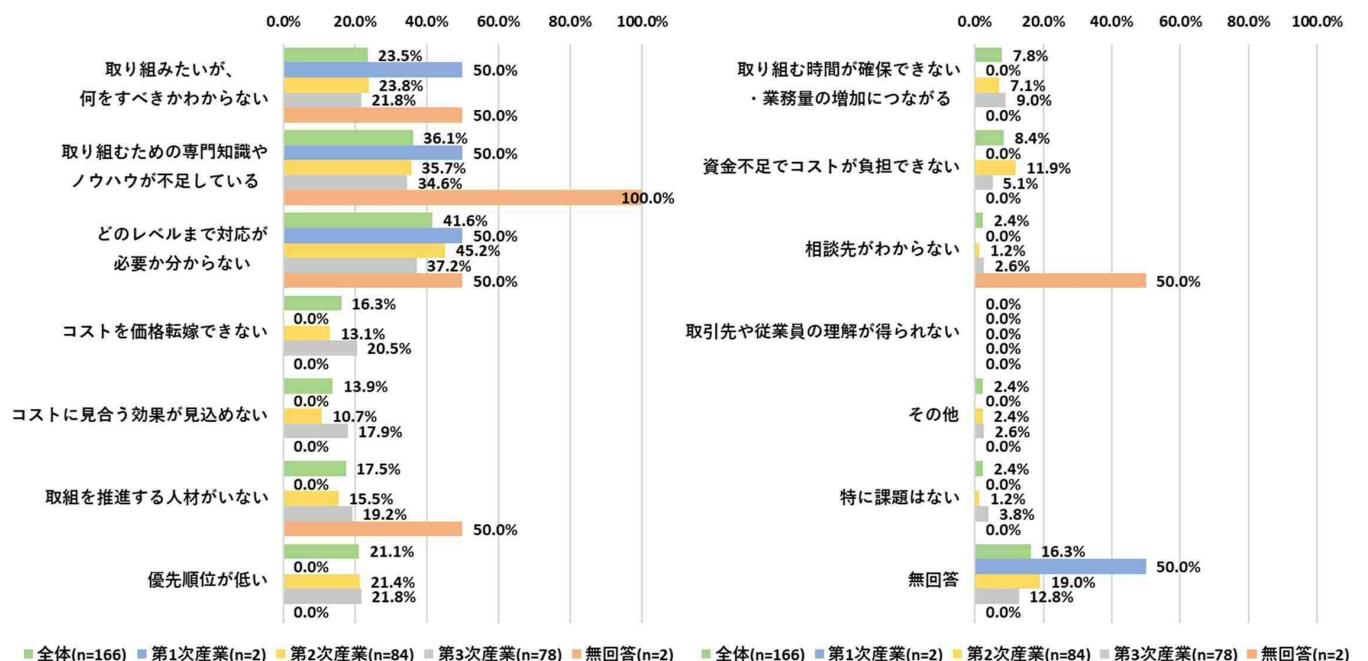


## 4-9 カーボンニュートラルへの取組状況

### 4-9-2 カーボンニュートラルへの取組を必要と考える企業 ③課題

- カーボンニュートラルへの取組が必要と考える企業に、カーボンニュートラルに取り組む上での課題について聞きました。
- その結果、圏域全体、第2次産業、第3次産業では「どのレベルまで対応が必要か分からない」が最も多くなりました。

カーボンニュートラルに取り組む上での課題





## 4-9 カーボンニュートラルへの取組状況

### 4-9-3 カーボンニュートラルへの取組を必要ないと考える企業

- カーボンニュートラルへの取組を必要ないと考える企業に関する調査で、各項目でその他と回答した企業の回答は以下の通りです。  
(一部抜粋・原文ママ)

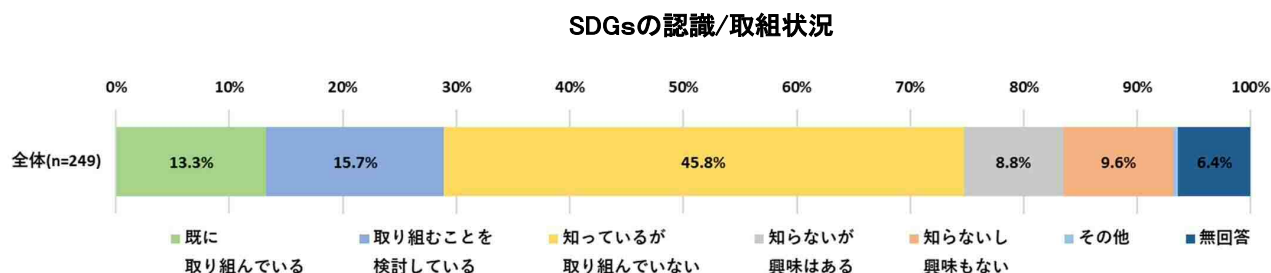
#### 4-9-3 カーボンニュートラルへの取組を必要ないと考える企業

- よくわかっていないから。
- 自社で農業部門があり、ある程度はカーボンニュートラルに貢献していると思われる為
- 子会社なため、親会社が必要と判断すれば一緒にする。

## 4-9 カーボンニュートラルへの取組状況

### 4-9-4 SDGsの認識/取組状況

- 圏域企業に、SDGsについての認識やSDGs達成に向けた取組について聞きました。
- その結果、SDGsについて「知っているが取り組んでいない」と回答した企業が最も多く45.8%、次いで「取り組むことを検討している」で15.7%でした。



- その他と回答した企業の回答は以下の通りです。(一部抜粋・原文ママ)

- 住んでいる地域の環境を大切にしたいという当たり前の取り組みは、これまでもあり、これからも続けます。



## 4-10 自由記述

### 4-10-1 今後各市町で連携を進めてほしい取組

- 今後各市町で連携を進めてほしい取組として、後継者不足や人材不足への対応、観光や医療の分野での更なる広域連携の推進などの意見が挙がっています。

#### 意見抜粋(原文ママ)

<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 後継者不足や零細であるため事業承継できない一次産業を地域毎に組織化、法人化してJA等を介さないで、ブランドを立上げる等のバックアップを産官学連携にて取組んでほしい。</li><li>➢ 建設業の問題で、1番なやんでいるのは人手不足で有る。人材確保の方法についての具体的な協力を求める。</li><li>➢ 土木、建築などの役所担当者の共有化をするなどして専門人材の育成をお願いしたい。</li><li>➢ 圏域内の交流を計り相互理解を深めるため行政指導に依る若者育成を推進。中学、高校生のスポーツ文化の交流で競争、共同に依り地域に住む喜びを共有する。</li><li>➢ 普通科の高校生の(大学生も)職場見学の機会を増やして欲しい。</li><li>➢ 観光の更なる広域連携</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 医療の更なる広域連携</li><li>➢ 協会けんぽの保険料率の圏域統一</li><li>➢ 医療機関の集約</li><li>➢ 経済連携できるように企業マッチングを行って欲しい</li><li>➢ 県民所得が2番目に低い現状を連携して打開して欲しい。</li><li>➢ 企業誘致(情報産業など)</li><li>➢ 多方面から企業情報の交流 オープン的に情報共有を</li><li>➢ 道路網の早期完工</li><li>➢ 市街地の緑化景観を大切にほしい</li></ul>
---	---

## 5 医療機関・企業ヒアリング

### 5-1 医療機関ヒアリング

#### 5-1-1 ヒアリング概要

- 医療機関ヒアリングは、医療体制の充実に向けて、圏域で担うべき役割を検討する材料とするために実施しました。
- ヒアリング項目は、主に、遠隔医療(オンライン診療)と医療連携に関するもので、現状や課題、そして行政への期待について聞き取りを行いました。
- ヒアリングの対象は、遠隔医療(オンライン診療)や医療連携に取り組む医療機関等とし、3つの医療機関と1つの関係団体に対して実施しました。

#### ヒアリング項目

項目
遠隔医療(オンライン診療)の導入状況
遠隔医療(オンライン診療)の必要性
遠隔医療(オンライン診療)における課題
遠隔医療(オンライン診療)にかかる今後の展望
医療連携の現状
医療連携における課題
医療体制の充実に向けて行政に期待すること

#### 対象医療機関

医療機関名	所在地	診療科
病院A	鳥取市	内科、神経内科、精神科、外科、脳神経外科、産婦人科、循環器内科 等
診療所B	鳥取市	内科、小児科
診療所C	鳥取市	内科、外科、循環器科 等
関係団体D	鳥取市	—

### 5-1 医療機関ヒアリング

#### 5-1-2 遠隔医療(オンライン診療)の導入状況

- 遠隔医療の導入状況については、オンライン診療を実施している医療機関、電話のみの対応をしている医療機関、実施していない医療機関など様々でした。
- オンライン診療を実施している医療機関については、診療所内のICT環境も整備し、診療所内のスタッフ間のやり取りにおいてもiPadなどの端末も活用していました。
- 高齢患者については、いざオンライン診療を使い始めると、楽しみながら活用しているといった実態も確認できました。

#### 医療機関の声

- 遠隔医療については電話だけ対応しており、画像診断等はしていない。初診は対象としておらず、再診のみである。数回ではなく、定期的に通院されていて、病状も落ち着いている患者が対象となっている。なお、電話対応はコロナをきっかけとして始めた(病院A)
- 医療費の支払いは患者に振込伝票を郵送して、振り込んでもらっている。郵送料は病院側が負担している。(病院A)
- 新型コロナウイルス感染症拡大を機にオンライン診療を始めた。(診療所B)
- 高齢者が多い病院であるため、患者やその家族からどのようなアプリなら使えるかアンケートを取った結果、新しいアプリを入れてまでやるのは難しいため、LINEを使用することになった。現在はLINEのビデオ通話サービスを利用して実施している。(診療所B)
- 県外の患者についても初診からオンラインで行った実績がある。(診療所B)
- 発熱外来も行っており、新型コロナウイルス感染症対策のために診療所内(レッドゾーンからイエローゾーン)ではiPadを使用しビデオ通話でやり取りを行っている。(診療所B)
- 高齢患者にウェアラブル端末を付けて、血圧を取ることを進めている。(診療所B)
- 高齢患者とビデオ会議をしたら楽しそうで好評だった。オンライン飲み会のような気分で楽しんでもらった。(診療所B)
- 現在はオンライン診療の実績はないが、厚生労働省のレクチャーを受けて、実施できるような体制は取っている。(診療所C)
- オンラインシステムを導入しなくても、電話でのやり取りで充分である。音声だけでも十分把握できる部分はある。(診療所C)
- 外科では遠隔医療の導入は難しい。(関係団体D)

## 5-1 医療機関ヒアリング

### 5-1-3 遠隔医療(オンライン診療)における課題

- 医療機関側のインターネット環境の整備や、診療や決済のためのツールの導入などコスト面における負担が課題として挙げられました。
- 高齢患者のITリテラシーも課題であり、高齢者がオンライン診療を活用するためには訪問看護や介護サービスなどと連携し、端末操作のサポートが必要だという意見が挙げられました。
- 個人情報漏洩のリスクや患者のプライバシーの保護も課題であるという意見が挙げられました。
- 病院では診療所と異なり、検査の必要がある患者が多いので、遠隔医療(オンライン診療)はなじまないといった意見が挙げられました。
- 遠隔医療(オンライン診療)については、診療報酬の関係でできることに制限があるといったことも課題として挙げられました。

#### 医療機関の声

- 病院側のインターネット環境の整備など新たなコスト負担が発生することは課題である。(病院A)
- 病院の場合は診療所と違い薬だけをもらいに來るのではなく、検査をする患者が多いため、オンライン診療で対応できる範囲は限られている。(病院A)
- 高齢患者のITリテラシーが課題である。(病院A)
- 個人情報漏洩の懸念が病院のIT部門や医師にあり、抵抗感が強い。(病院A)
- 治療費の授受にハードルがある(現在はPayPayもしくは振込で対応している)。今後よりオンライン診療を推進していくのであれば、アマゾンアカウント払いができるようになると良い。アマゾンなら口座やカードの登録もしているため、円滑に支払いができる。(診療所B)
- オンライン診療のみでは採算は合っていない。オンライン診療のガイドラインに完全に準拠した診療を行うためには、相当のコストがかかってくると理解している。(診療所B)
- 高齢患者がオンライン診療を活用するためには訪問看護の看護師やヘルパーなどの協力も必要。企業も社員にスマホ支給しているように、一人一端末を持つような形にすることがあるべき姿である。(診療所B)
- 薬の郵送や入金の確認などの手間も増えることは課題である。(診療所B)
- オンライン診療のアプリに対する信頼性、決済方法、手数料が課題になっている。手数料の負担をどうするかは特に課題である。オンライン診療は点数が低いため、医療機関が決裁手数料を負担するとなると儲けがなくなる。(診療所B)
- オンライン診療においては、薬を処方する場合、PDFで処方箋を出すなど、処方箋の出し方を検討する必要がある。(診療所B)
- 高齢患者のITリテラシーとプライバシーの保護が課題である。(診療所B)
- 遠隔医療による医師同士が連携した診察といった話については、診療報酬の問題が障壁になる。(関係団体D)

## 5-1 医療機関ヒアリング

### 5-1-4 遠隔医療(オンライン診療)の意義と今後の展望

- 遠隔医療(オンライン診療)は、特定の診療科(内科、心療内科、精神科)などで一定の効果があるといった意見が挙げられました。
- 医師や患者の移動の手間がなくなるため、地域の医師数の偏りに伴う課題は若干解消するのではないかと意見が挙げられました。
- 患者の通院の負担が減るため医療を受けやすくなり、その結果継続治療につながるという意見が挙げられました。
- 将来的にはドローンによる薬の輸送など、他の技術を活用することで、遠隔医療がより充実するといった意見が挙げられました。

#### 医療機関の声

- 特定の診療科(内科など)については一定の効果があると思われる。(病院A)
- 往診するにも限度があるため、より多くの方を見ることができると考えている。(診療所B)
- 通常なら来院できない方(県外の方を含む)も診られるようになるため、新患の獲得にもつながっている。(診療所B)
- 移動時間が少なくなったため、医師の負担が減った。ただ、医師不足に寄与しているかと言われると微妙なところである。県外の患者も見られるようになるため、地域による医師数の偏りは若干解消するとは考えている。(診療所B)
- 通院する負担が減るため、治療を継続することの後押しになる。働き盛りの人にとっては使いやすと思う。元気だけど高血圧の患者などは仕事先でオンライン診療して薬がもらえるのであれば助かると思う。(診療所B)
- 退院時カンファレンスもオンライン化できるのではないかと考えている。オンライン化すれば開業医側の参加率も上がると考えている。(診療所B)
- 将来的にはドローンで薬が届くようになれば良いと考えている。(診療所B)
- アフターコロナにおいてもオンライン診療は継続していきたいと考えている。(診療所B)
- 診療科や地域によっては効果的である。心療内科や精神科は通院するハードルもあるため、患者が通いやすくなるのではないかと、遠隔医療(オンライン診療)が効果的なケースを整理して導入を判断していく必要がある。(関係団体D)

## 5-1 医療機関ヒアリング

### 5-1-5 医療連携の現状・課題

- 病院とへき地の診療所との連携としては、医師が不在になる場合にスポット的に病院から診療所へ医師を派遣をするなどの取組が主なもののことでした。
- 医療機関同士の連携については、各医療機関で使用している電子カルテシステムが異なっていることで連携がとりにくくなっているという意見が挙げられました。
- 医療連携については、新たな仕組みをつくるよりは、今ある仕組みを十分に活用することが重要だという意見が挙げられました。

#### 医療機関の声

- 病院とへき地の診療所の連携としては、診療所の医師が不在になる場合などスポットで医師を派遣するなどしている。しかし、定期的にカンファレンスを行うなどの取組は行っていない。(病院A)
- 鳥取県の取組でD to Dの取組は検討している。クラウドでのカルテ共有なども進んでいるものの使い勝手が悪いこと等からなかなか進まない状況にある。また、個人情報観点からインターネット環境にカルテを繋げないのは課題となっている。(病院A)
- ICTの活用により地域の診療所の医師が病院の医師に相談しやすくなるという効果が期待される。(病院A)
- 県内の大学を出ていないため、横の人脈ができていないため、あまり情報交換ができない。ICTの活用により県内の医師だけでなく、例えば出身大学の医師同士で連携をとれるようになると良い。(診療所B)
- ICTの活用により、ダブルドクター体制で診察をできれば、セカンドオピニオンのような形となり患者側からするよ良いと思う。(診療所B)
- 医療連携は現時点で整備されている仕組みで充分であり、むしろ仕組みを活用しきれていないというほうが課題であると考えている。病診連携の取組も活用しきれていない状況にあるため、これ以上仕組みを作っても意味がない。例えば、病診連携のカンファレンスの仕組みがあるが、病院の医師の参加は必須ではないため、来ない場合がある。病院の医師が参加しないため、連携が不十分になる。(診療所C)
- 鳥取県内に専門医が多いわけではないため、仮にオンラインで遠隔の医師と連携するとなっても、専門知識がないため安心して任せられないという思いがある。(関係団体D)
- 病院間連携では、手薄な診療科などをサポートしたり、手術の面で連携したりしている。麒麟のまち圏域といっても、鳥取県と兵庫県で分かれているため、医師の派遣等の連携は難しいと考えている。(関係団体D)

## 5-1 医療機関ヒアリング

### 5-1-6 行政への期待

- 電子カルテシステムやオンライン診療のアプリなどについては、行政が推奨するものを整理してほしいといった意見が挙げられました。
- ドローンなど新技術については、行政側で積極的に実証実験を実施し、現場に還元してほしいといった意見が挙げられました。
- ICT技術の活用については、コストがかかるのでランニングコストを含めて補助があると良いといった意見が挙げられました。
- 過疎地の医療提供などについては、公民館などの施設の活用と、オンライン診療を組み合わせることにより、高齢患者も利用しやすくなるのではないかといい意見が挙げられました。
- 自身の健康より仕事を優先する人もいるので、医療をより受けやすくなるような社会風土をつくっていくことが重要だという意見が挙げられました。

#### 医療機関の声

- 各医療機関で導入している電子カルテが異なり、医療機関同士の連携の1つの障壁になっている。行政が主導となり各医療機関で共通のシステムを導入するようしてほしい。(病院A)
- 市が推薦するオンライン診療アプリのようなものがあればありがたい。どのアプリを使えばリスクがないのか分かりにくいので、お墨付きがあると導入しやすい。さらに言うと統一的なアプリがあるとありがたい。他の医療機関への紹介等もアプリ上でできるようになればスムーズである。(診療所B)
- 過疎地で来院のためにタクシーで5千円かけてきているような地域もあるため、ドローンや遠隔医療の実証実験をしてほしい。公民館やバス停をドローンの基地として実施したら良いのではないか。(診療所B)
- 看護師やヘルパーへの端末支給に対して補助し、訪問看護や介護と連携してオンライン診療を実施できるようになると良い。そうすればIT端末の操作に不安のある高齢者もオンライン診療を利用しやすくなる。(診療所B)
- 公民館等に診療ブースを設置して、オンライン診療を受けてもらう形が良いのではないか。公民館の職員がいるため、ITリテラシーがない高齢者に対してもオンライン診療を提供することができるのではないか。(関係団体D)
- 体調が悪くても仕事が休めないため病院に行けないというような社会環境の方が課題である。そうした風土改革も合わせて取り組んでいくことが重要であり、行政がそのような取組を進めてほしい。(関係団体D)
- 患者が来院するにしても、医師が訪問するにしてもアクセスが悪いと移動しにくいので、交通アクセスを充実させることが重要である。(関係団体D)
- オンライン診療については、システムのランニングコストへの補助がないと難しいのではないか。(関係団体D)

## 5-2 ワークーション事業所ヒアリング

### 5-2-1 ヒアリング概要

- ワークーション事業所ヒアリングは、ワークーション普及に際して圏域で担うべき役割を検討するための材料とするために実施しました。
- ヒアリング項目は、主にワークーションに関するもので、現状や課題、そして行政への期待について聞き取りを行いました。
- ヒアリングの対象は、主にワークーションの受け入れ先となるコワーキングスペース提供事業者や宿泊施設を対象とし、3つの宿泊事業者と2つのワークスペース運営事業者に対して実施しました。

#### ヒアリング項目

項目
ワークーションに関する取り組み状況について
ワークーションの意義について
ワークーションの促進に係る課題について
ワークーションの推進に当たって行政に期待すること

#### 対象事業所

事業所名	所在地	概要
事業所A	鳥取市	カプセルホテル、ワークスペースのあるカフェ併設
事業所B	八頭町	シェアオフィス、コワーキングスペース、コミュニティスペース
事業所C	八頭町	リゾートホテル、各種アクティビティ有
事業所D	新温泉町	一棟貸しログハウス、バーベキュー設備、ワークスペース
事業所E	新温泉町	カフェ、ワークスペース、コミュニティスペース

## 5-2 ワークーション事業所ヒアリング

### 5-2-2 ワークーションに関する取り組み状況

- 各事業者でワークーション受け入れに向けた環境整備は進めており、Wi-Fi 環境やワークスペースの提供に加えて、画像編集ソフト等のソフトウェアを利用できる施設もありました。
- さらには、シェアオフィスに入居する企業とのネットワークや金融機関からの経営支援、企業向けのアウトドアミーティングプランなどそれぞれの施設の特徴を活かしたサービスを提供しています。
- 一方で1つの事業者だけでは宿泊やワークスペース、アクティビティなどのコンテンツを全て整備することは難しいことから、近隣の事業者で補完しあいながら、ワークーションを推進していくことが重要となります。

#### 事業者の声

- 以前からワークスペースは設置していたが、コロナになってから、利用者が増えてきた。(事業所A)
- 利用者層はフリーランスのようなところで働けるような方が多い。(事業所A)
- ビジネスホテルよりも、レジャーホテルで、ワークスペースもあるというような形の方が良いと考えている。(事業所A)
- 仕事ができる環境があること、40社の入居企業があり、ネットワークがあることが強みとなっている。(事業所B)
- 共用PCを設置してやAdobe等のソフトウェアも無償で提供している。(事業所B)
- コミュニティ複合施設というコンセプトで運営しており、企業だけではなく、子連れママなど地域住民の利用も多い。子供向け・家族連れ向けのコンテンツも多く提供している。(事業所B)
- 出資者でもある鳥取銀行からの出向者がおり、入居企業の相談に乗ったり、資金調達など経営面でのサポートをしている。(事業所B)
- 半年間の伴走型での起業・創業プログラムも運営している。(事業所B)
- ワークーション推進に取り組んでいきたいと考えており、来年度はモニターツアーの実施等も検討している。(事業所B)
- 共有のワークスペースはないが、近隣のコワーキングスペースを使用してもらうような形で連携できたら良いと考えている。(事業所C)
- キャンプ用品メーカーと提携を結び、アウトドアミーティングなどができるようなプランを作っている。単価も高いため、企業の研修や合宿での利用を想定している。(事業所C)
- ワークーションに来る層は一定の所得があると考えられるため、食材や内装にもこだわり、少し高めの価格設定となっている。(事業所C)
- 各棟にWi-Fiを整備し、ワークスペースもあるものの、利用者は町の関係者以外はほほいしない状況にある。(事業所D)
- 企業のワークーションプログラムや公募の地域活性化推進支援員との交流の機会を設定している。(事業所E)

## 5-2 ワークーション事業所ヒアリング

### 5-2-3 ワークーションの意義

- ワークーションを単に集客のための手段として捉えるのではなく、ワークーションの推進を通じた施設としての価値の向上や圏域外企業との連携、地域課題の解決などを見据えた捉え方をしている事業者が複数ありました。
- また、ワークーションとの相性が良い利用方法としては、企業による社員研修や合宿などチームビルディングを目的とした利用との相性が良いのではないかと声が多くありました。
- 一方で、新型コロナウイルス感染症拡大を契機として注目を浴びているワークーションに対して、本当に効果があるのか、今後浸透しうのか疑念を抱く声も複数あげられました。

#### 事業者の声

- カプセルホテルであるため、少人数での利用が多く、旅行の合間に仕事をしている方も多い傾向である。(事業者A)
- とりあえず人を呼ばばいいのではなく、ワークーションを推進することにより、施設としての価値や企業ネットワークの強化などに繋がるようにしていきたい。(事業者B)
- 個人単位でよりも、企業単位での利用の方がワークーションとの相性は良いと感じている。ワークーションを外部の企業とつながるきっかけとしたい。(事業者B)
- 単に誰でもいいから人を呼ぶようなワークーション施設になると、観光客が来ているのと変わらない。(事業者B)
- 鳥取市内に、コワーキングスペースが少ないため、旅行ではなく出張で来た人が作業場所として来るケースもある。(事業者B)
- コロナをきっかけに一般的になった概念だと考えており、あまり本質的なものではないと考えている。(事業者C)
- ワークーション目的の利用はほとんどないというのが実情であり、ワークーションが浸透するかは不透明である。ワークーションに対するニーズがあるのかそもそも分からないというのが本音である。(事業者C)
- 社員研修等の企業単位でのワークーションはチーム力をあげるようなツールになりうるのではないかと。(事業者C)
- 一時的な滞在の意味合いのあるワークーションというよりも、より生活に近い、2拠点居住のような形の方が良いのではないかと考えている。(事業者D)
- ワークーションの推進によって、プラスの効果があるかは微妙なところである。施設としては、整備しないとイケない設備がまた1つ増えたという負担感がある。(事業者E)
- 正直なところ、ワークーションそのものが成り立たないと思っている。既に集客力のあるような観光地であれば成り立つかもしれないが、有名な観光地と比較して集客力がないため、成り立たせるのは難しい。(事業者E)
- ワークーションよりも、課題解決型プログラムで地域とつながって、関係人口となってもらうような方向性の方が良いと考えている。地域に入り込んでもらい、一緒に課題解決に取り組んでもらうようなスキームを作っていきたい。(事業者E)

## 5-2 ワークーション事業所ヒアリング

### 5-2-4 ワークーション促進にかかる課題

- 都心からの訪問者の中には車を運転することができない人も多くいることから、二次交通の整備の必要性が挙げられ、宿泊施設や観光地、体験型施設をどのように繋いでいくか課題であるという声も複数ありました。
- 近隣の事業者同士で連携して、セット割引やパッケージプランの開発等にも取り組みたい意欲がある一方で、それぞれの事業者の考えの違いもあり、上手く連携することができていないことも明らかとなりました。
- また、そもそもワークーション自体について、日本人の価値観として、家族旅行の際に父親が仕事をすることは現実的ではないとの声もありました。

#### 事業者の声

- 観光地との連携したパッケージ開発を進めて行く必要がある。(事業者A)
- 近隣の宿泊事業者とセットで利用した際の割引などについては整備できていない。今後はモニターツアーの共同実施など、何らかの連携を考えていきたいと考えている。(事業者B)
- 観光資源が豊富なわけではないため、“パッケージ色”を前面に打ち出すよりも、企業単位で来てもらえるような情報の発信をしていくことができれば良いと考えている。(事業者B)
- 2次交通が課題であり、車が運転できない人や公共交通機関で来た人にとっては非常に不便である。(事業者C)
- 日本人のライフスタイルや価値観からすると、家族旅行の際にお父さんが仕事をするのは難しいのではないかと。(事業者C)
- 宿泊者に対して、アンケート等を実施しておらず、属性把握もきちんとしてきていない状況にある。(事業者D)
- 宿泊施設が1棟貸しで定員4名という設計になっており、一人一部屋が原則となっている昨今では企業研修でも利用しにくいと思われる。(事業者D)
- 近隣に様々な体験ができる施設があるが、連携したプログラムは提供できていない。また、事前申込が必要な体験が多いため、気軽に利用することはできない。(事業者D)
- 公共交通機関が充実しておらず、移動には車がないと不便な状況である。(事業者D)
- ワークーションで利用している人はほとんどおらず、地域の方が利用するにも、周辺で駐車場が確保できない。(事業者E)
- 現在は、コロナ対策関連の補助金があるため、モニターツアー等の実施もできているが、補助金がなくなると厳しくなると考えている。最終的には企業に拠点を置いてもらうような形にしていけないと持続性はないとかがえている。(事業者E)
- 旅館と連携したパッケージ提供や施設の相互利用ができるようにしようという動きはあるが、地域の全ての事業者の協力を得られているわけではない。(事業者E)

## 5-2 ワークेशन事業所ヒアリング

### 5-2-5 行政に期待すること

- 行政に期待することとしては、課題としても挙げられていた公共交通網の整備に関して、実現可能性の低さは指摘しつつも複数の事業者から要望が寄せられました。
- また、ワークेशनの受け入れ側である事業者だけではなく、ワークेशनに送り出す側の企業に対する支援の必要についても言及がありました。
- そのほかにも、経済的な支援や行政側の担当者の積極的な協力に関する期待がありました。

#### 事業者の声

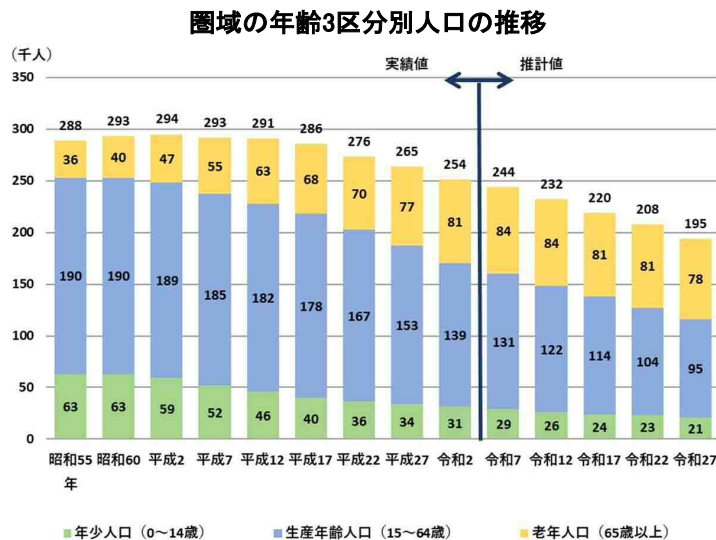
- 宿泊業界の支援がなされているが、元々安価な水準でサービスを提供しているカプセルホテルについては恩恵を得られていない状況である。(事業者A)
- 情報発信面では行政には期待していない。むしろ自身の方が情報発信の方は得意であると考えている。(事業者B)
- 八頭町は3町が合併しているが、単地域のみが活性化しているように見られがちな状況になっているため、その辺は一緒に解決していきたい。(事業者B)
- 行政側の担当者の熱意が、施設の立ち上げた当初のと比べて落ちてきているような印象がある。(事業者B)
- 行政の費用負担により、コンテナオフィスを整備してもらえた。(事業者B)
- バスは走っているが1時間に一本程度しかなく、利便性に欠けるため、簡単ではないと思うが公共交通の充実を検討してほしい。(事業者C)
- 魅力的なコンテンツ自体は点在しているが、それをつなぐ交通手段がないため、バスの本数を増やしたり、タクシー会社と連携をしたりとすることができたら良いのではないかと。(事業者C)
- 企業がテレワークやワークेशनを福利厚生として整備することで、利用が増えるような仕組みになってくるとありがたい。モニターツアーで終わらないようなスキームを行政が検討してほしい。(事業者C)
- データに基づかない判断で観光事業を実施してきているため、マーケティング調査等を実施することができたら良い。(事業者D)
- 施設の改修に際しては、行政が予算獲得の面でも支援(県や国の予算の活用)してくれている。(事業者D)
- 公共交通機関の整備は、簡単ではないため期待してはいないが、移手段がないと宿泊施設から観光地への移動も難しい状況である。(事業者D)

## 6 圏域の将来推計及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響

### 6-1 人口動態

#### 6-1-1 総人口及び年齢3区分ごとの将来推計 ①人口推計

- 年少人口は昭和60年の63千人をピークに、令和27年には21千人と、令和2年の約68%まで減少すると見込まれています。
- 生産年齢人口は昭和60年の190千人をピークに、令和27年には95千人と、令和2年の約68%まで減少すると見込まれています。
- 老年人口は増加傾向にありますが、令和7年頃をピークに減少に転じると見込まれています。



注：昭和55年～令和2年は年齢不詳を含むため、年齢3区分人口の合計は総人口と一致しない

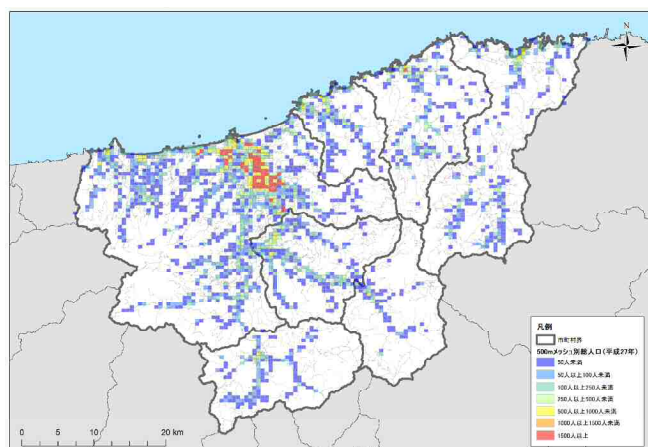
出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

### 6-1 人口動態

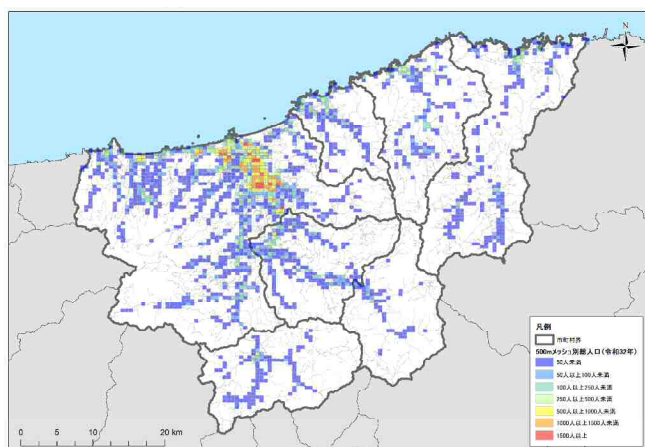
#### 6-1-1 総人口及び年齢3区分ごとの将来推計 ②圏域内総人口分布

- 平成27年の圏域の総人口の分布状況を見ると、鳥取駅周辺の市街地では人口1500人以上のエリアが多くなっていますが、その他の地域では人口100人未満のエリアが多くなっています。
- 令和32年の圏域の総人口の分布状況を見ると、鳥取駅周辺の市街地においても人口1500人以上のエリアが少なくなり、その他の地域においては人口50人未満のエリアが多くなっています。

500mメッシュ別圏域内総人口分布(平成27年)



500mメッシュ別圏域内総人口分布(令和32年)



出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

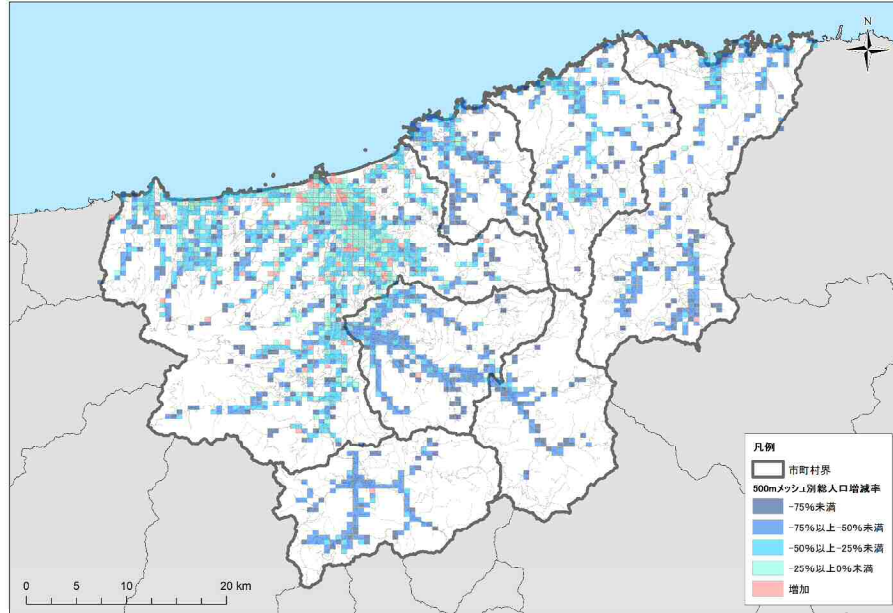


## 6-1 人口動態

### 6-1-1 総人口及び年齢3区分ごとの将来推計 ②圏域内総人口分布

- 平成27年から令和32年の圏域の総人口の増減率については全体として減少傾向にあります。
- 鳥取市内では-50%以上0%未満と比較的減少率が小さいエリアが多くなっていますが、他の町では-50%未満と減少率が大きなエリアが多くなっています。

500mメッシュ別圏域内総人口増減率(平成27年～令和32年)



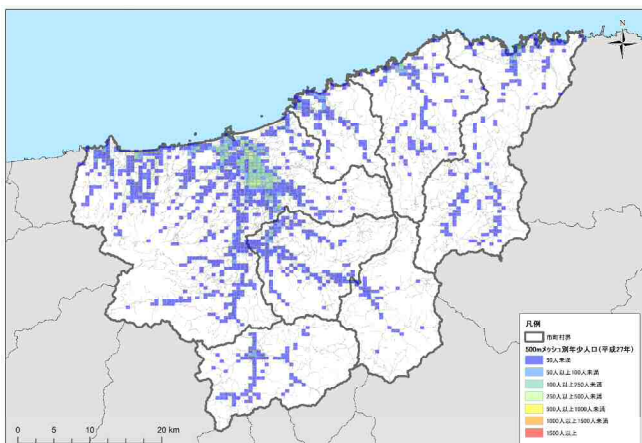
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-1 人口動態

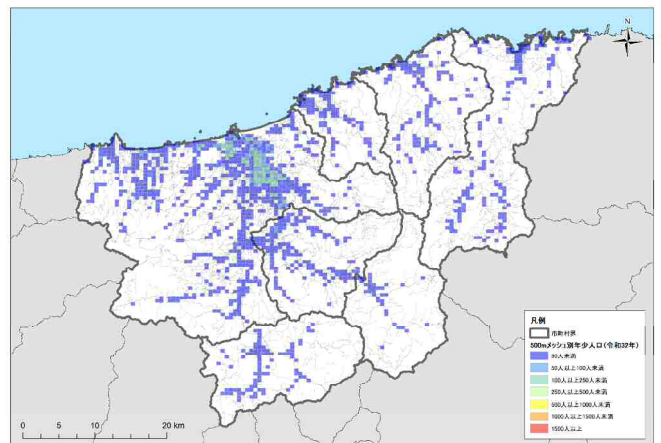
### 6-1-1 総人口及び年齢3区分ごとの将来推計 ③圏域内年少人口分布

- 平成27年の圏域の年少人口の分布状況を見ると、鳥取駅周辺の市街地では人口100人以上500人未満のエリアが多くなっていますが、その他の地域では人口50人未満のエリアが多くなっています。
- 令和32年の圏域の年少人口の分布状況を見ると、鳥取駅周辺の市街地においては人口250人以上のエリアが少なくなり市街地においても年少人口は減少しています。

500mメッシュ別圏域内年少人口分布(平成27年)



500mメッシュ別圏域内年少人口分布(令和32年)



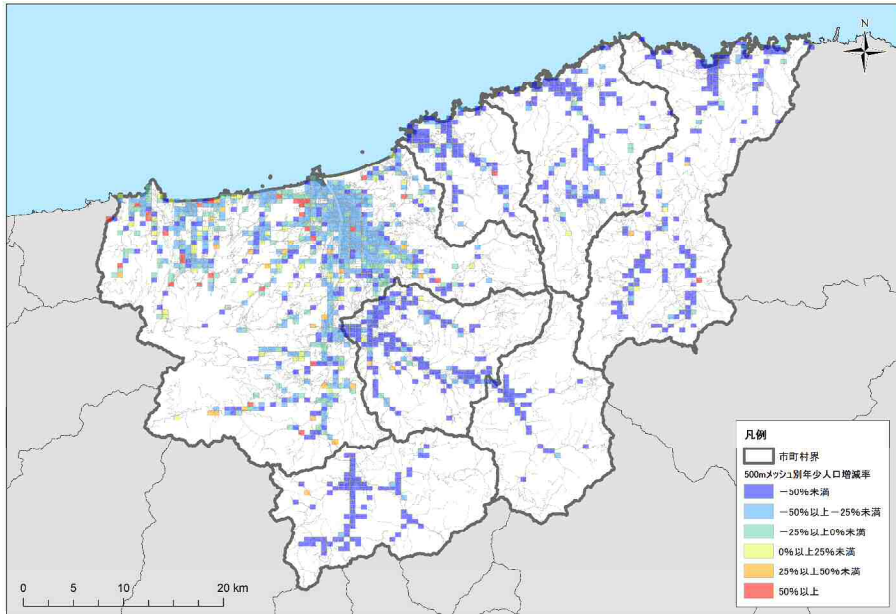
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-1 人口動態

### 6-1-1 総人口及び年齢3区分ごとの将来推計 ③圏域内年少人口分布

- 平成27年から令和32年の圏域の年少人口の増減率については全体として減少傾向にあります。
- 鳥取市内では-50%以上0%未満と比較的減少率が小さいエリアが多くなっていますが、他の町では-50%未満と減少率が大きなエリアが多くなっています。

500mメッシュ別圏域内年少人口増減率(平成27年～令和32年)



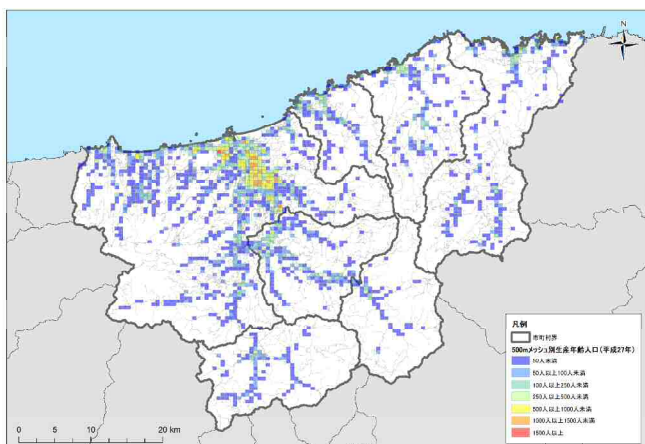
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-1 人口動態

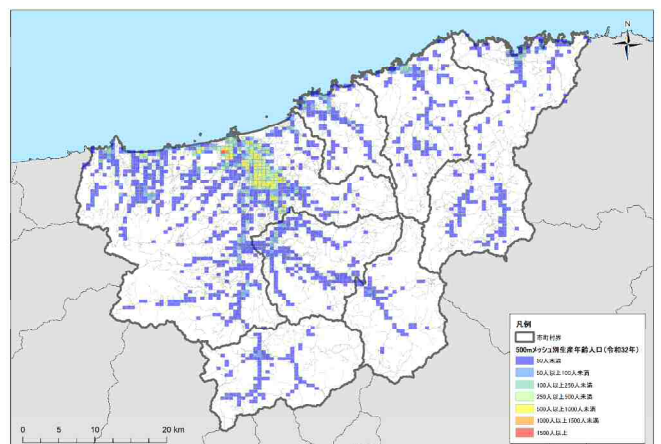
### 6-1-1 総人口及び年齢3区分ごとの将来推計 ④圏域内生産年齢人口分布

- 平成27年の圏域の生産年齢人口の分布状況を見ると、鳥取駅周辺の市街地では人口500人以上1500人未満のエリアが多くなっていますが、その他の地域では人口50人未満のエリアが多くなっています。
- 令和32年の圏域の生産年齢人口の分布状況を見ると、鳥取駅周辺の市街地においては人口1000人以上のエリアが少なくなり市街地においても生産年齢人口は減少しています。

500mメッシュ別圏域内生産年齢人口分布(平成27年)



500mメッシュ別圏域内生産年齢人口分布(令和32年)



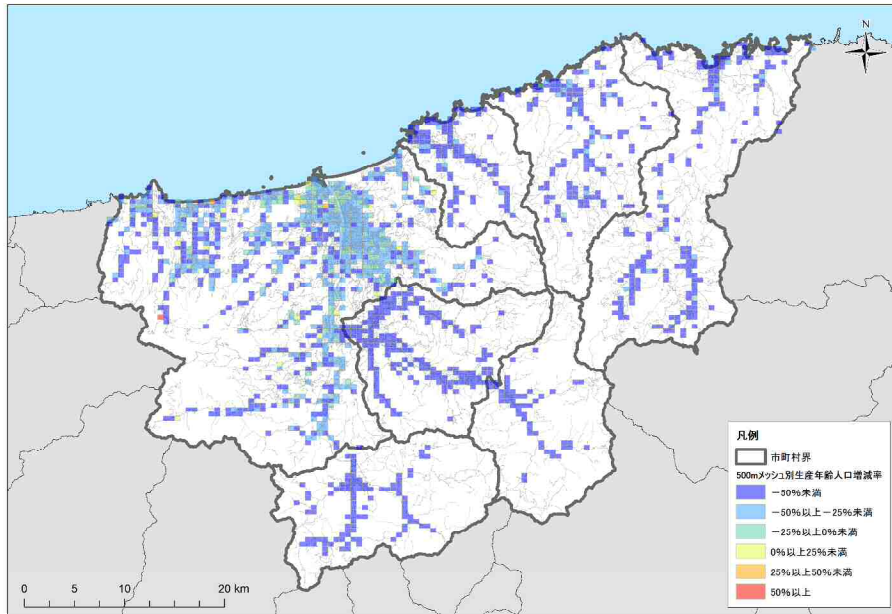
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-1 人口動態

### 6-1-1 総人口及び年齢3区分ごとの将来推計 ④圏域内生産年齢人口分布

- 平成27年から令和32年の圏域の生産年齢人口の増減率については全体として減少傾向にあります。
- 鳥取市内では-50%以上0%未満と比較的減少率が小さいエリアが多くなっていますが、他の町では-50%未満と減少率が大きなエリアが多くなっています。

500mメッシュ別圏域内生産年齢人口増減率(平成27年～令和32年)



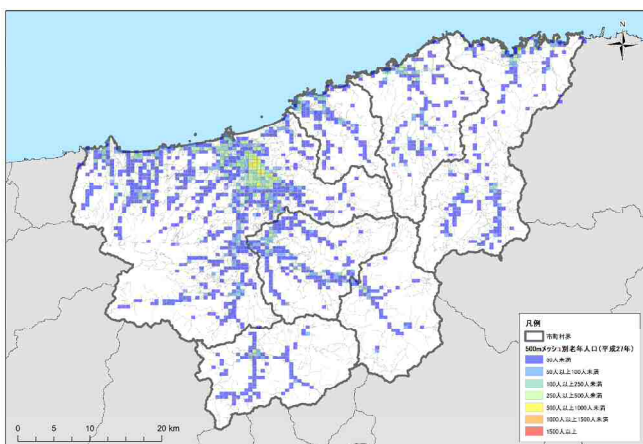
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-1 人口動態

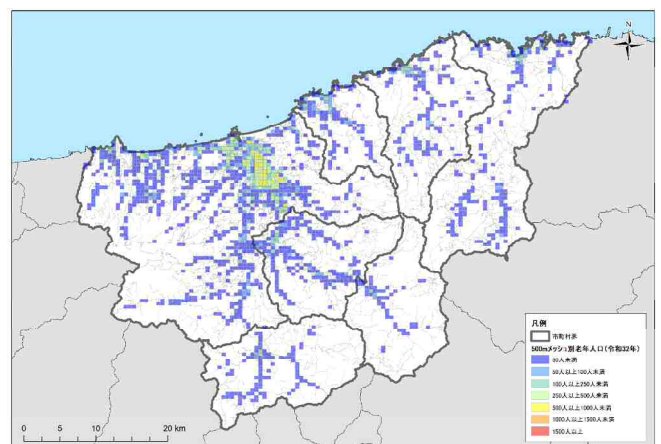
### 6-1-1 総人口及び年齢3区分ごとの将来推計 ⑤圏域内老年人口分布

- 平成27年の圏域の老年人口の分布状況を見ると、鳥取駅周辺の市街地では人口250人以上1000人未満のエリアが多くなっていますが、その他の地域では人口50人未満のエリアが多くなっています。
- 令和32年の圏域の老年人口の分布状況を見ると、鳥取駅周辺の市街地においては人口500人以上1000人未満のエリアが多くなっており市街地においては老年人口が増加しています。

500mメッシュ別圏域内老年人口分布(平成27年)



500mメッシュ別圏域内老年人口分布(令和32年)



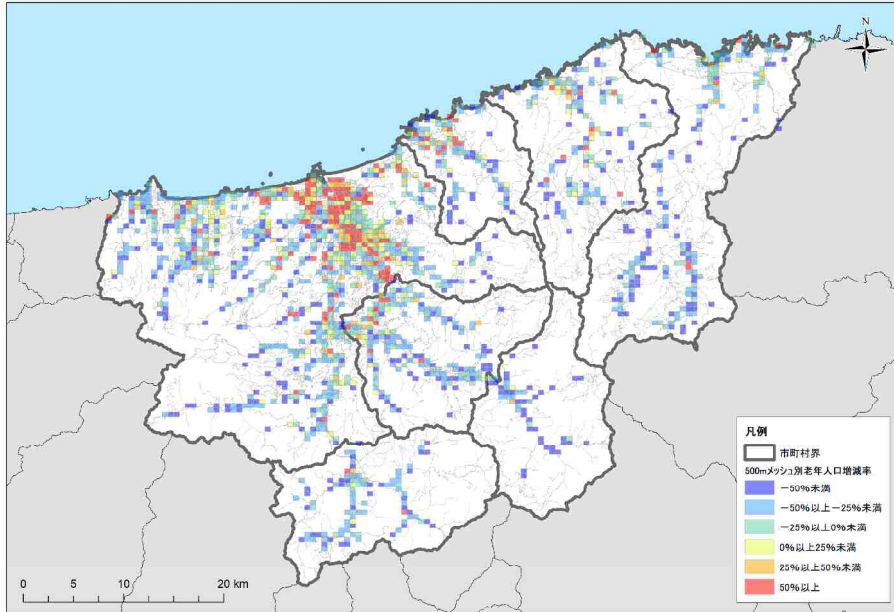
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-1 人口動態

### 6-1-1 総人口及び年齢3区分ごとの将来推計 ⑤圏域内老年人口分布

- 平成27年から令和32年の圏域の老年人口の増減率については鳥取市内の市街地では増加傾向、その他の地域では減少傾向にあります。
- 鳥取市内の市街地では50%以上のエリアが多く、老年人口が大きく増加しています。

500mメッシュ別圏域内老年人口増減率(平成27年～令和32年)



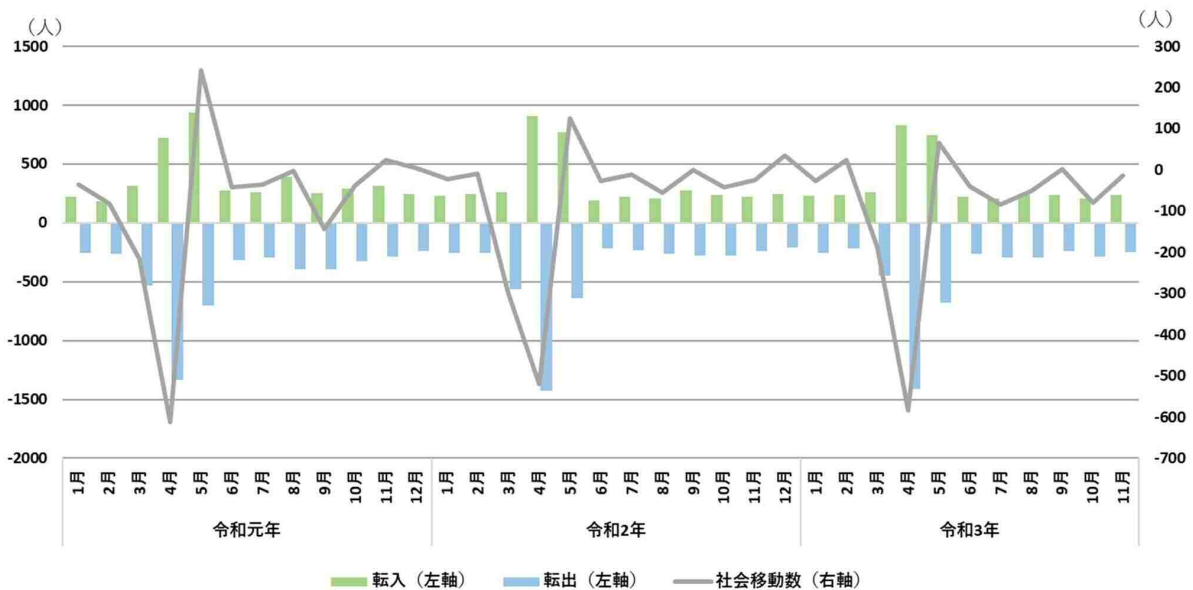
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-1 人口動態

### 6-1-2 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ①転入・転出

- 令和元年から令和3年のいずれも、4月の社会移動数が最も負で大きくなっており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がでる前と後で同様の傾向となっています。

麒麟のまち圏域の社会移動の推移



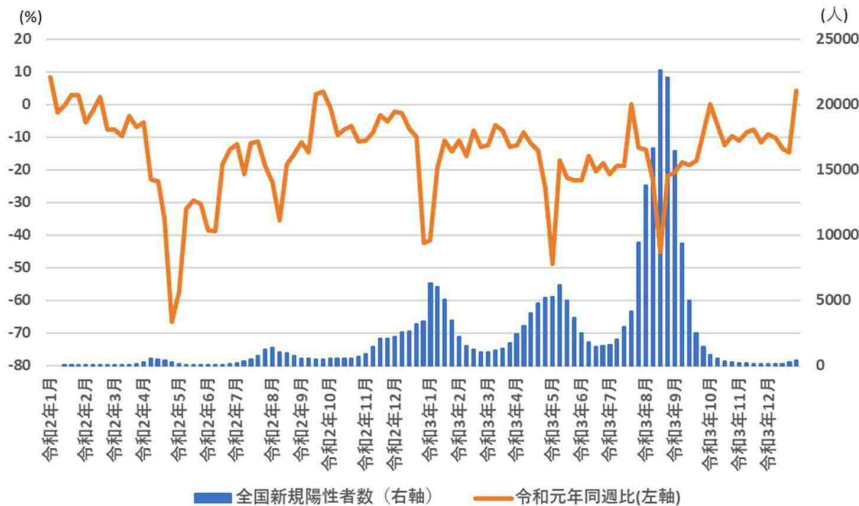
出所:各市町調べ

## 6-1 人口動態

### 6-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ②移動人口

- 鳥取県の移動人口の対令和元年同週比をみるとほぼすべての週で令和元年の値を下回っています。
- 全国で新規陽性者数が増加しているタイミングで、鳥取県の移動人口の対令和元年比も大きく下降しています

鳥取県の移動人口の対令和元年同月比の推移(令和2年1月－令和3年12月)



※移動人口：指定した時点で市区町村に滞在している人口のうち、推計居住地が他の市区町村である人口

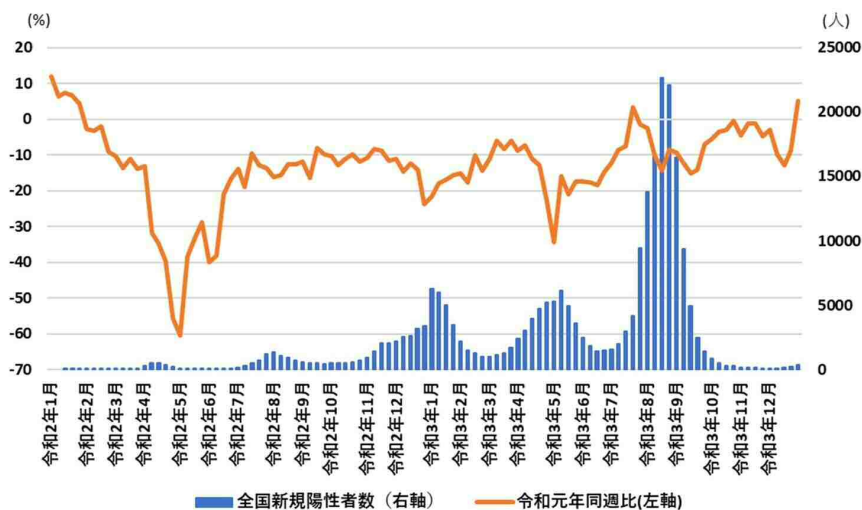
出所：V-RESAS(株式会社Agoop「流動人口データ」)

## 6-1 人口動態

### 6-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ②移動人口

- 兵庫県の移動人口の対令和元年同週比をみるとほぼすべての週で令和元年の値を下回っています。
- 全国で新規陽性者数が増加しているタイミングで、兵庫県の移動人口の対令和元年比も大きく下降していますが、下降の幅は縮小傾向にあります。

兵庫県の移動人口の対令和元年同月比の推移(令和2年1月－令和3年12月)



※移動人口：指定した時点で市区町村に滞在している人口のうち、推計居住地が他の市区町村である人口

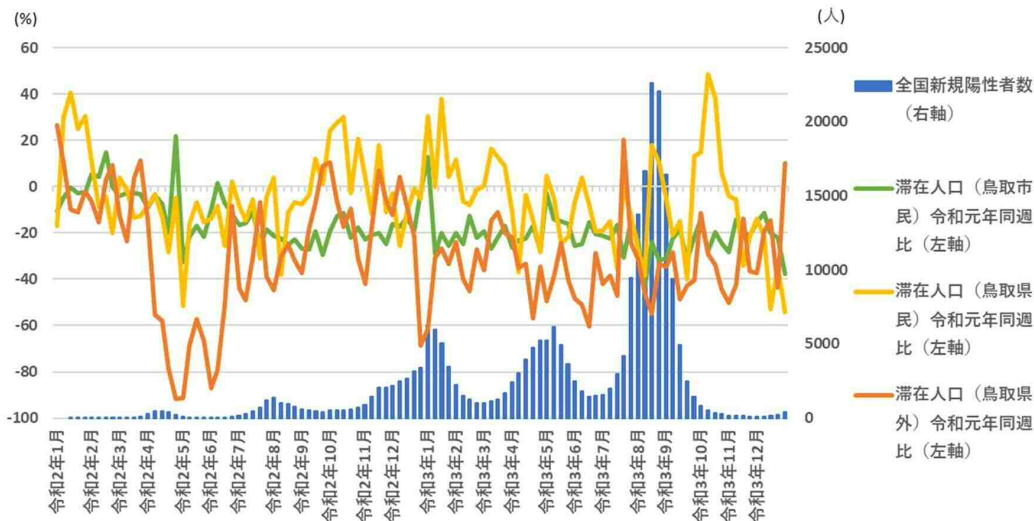
出所：V-RESAS(株式会社Agoop「流動人口データ」)

## 6-1 人口動態

### 6-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ③滞在人口

- 鳥取駅周辺の滞在人口の対令和元年同週比の動向をみると鳥取市民と鳥取県外の住民については、総じて下回っています。特に鳥取県外の住民については、緊急事態宣言が全国に拡大された時期(令和2年4月)は大きく下回っています。
- 鳥取県民については、令和元年度を上回る時期と下回る時期があります。

鳥取駅周辺の滞在人口の対令和元年同週比の推移(令和2年1月—令和3年12月)



※滞在人口:平均して滞在していると推定される換算人口(滞在時間を考慮した人口)数

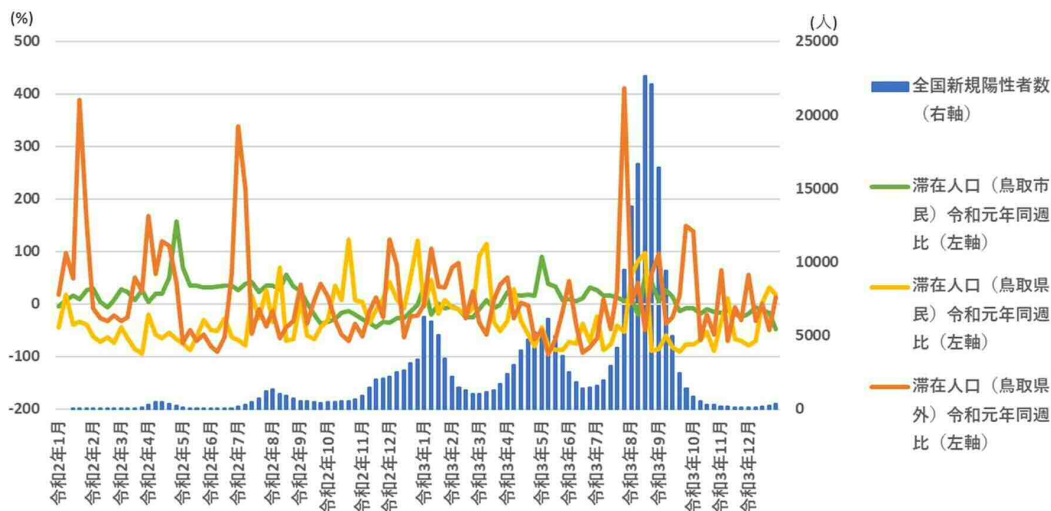
出所:V-RESAS(株式会社Agoop「流動人口データ」)

## 6-1 人口動態

### 6-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ③滞在人口

- 鳥取大学前駅周辺の滞在人口の対令和元年同週比の動向をみると鳥取市民と鳥取県民については、上下しながら推移しています。
- 鳥取県外の住民については、令和元年を大きく上回っている時期があります。

鳥取大学前駅周辺の滞在人口の対令和元年同週比の推移(令和2年1月—令和3年12月)



※滞在人口:平均して滞在していると推定される換算人口(滞在時間を考慮した人口)数

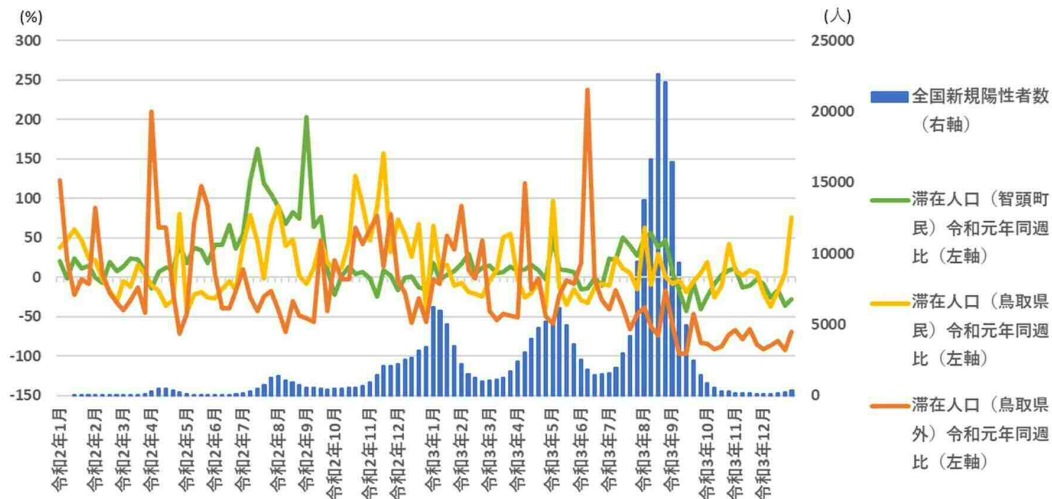
出所:V-RESAS(株式会社Agoop「流動人口データ」)

## 6-1 人口動態

### 6-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ③滞在人口

- 智頭駅周辺の滞在人口の対令和元年同週比の動向をみる智頭町民と鳥取県民については、令和元年を上回っています。
- 鳥取県外の住民については、令和2年4月頃と令和3年6月頃に、令和元年を大きく上回っています。

智頭駅周辺の滞在人口の対令和元年同月比の推移(令和2年1月—令和3年12月)



※滞在人口：平均して滞在していると推定される換算人口(滞在時間を考慮した人口)数

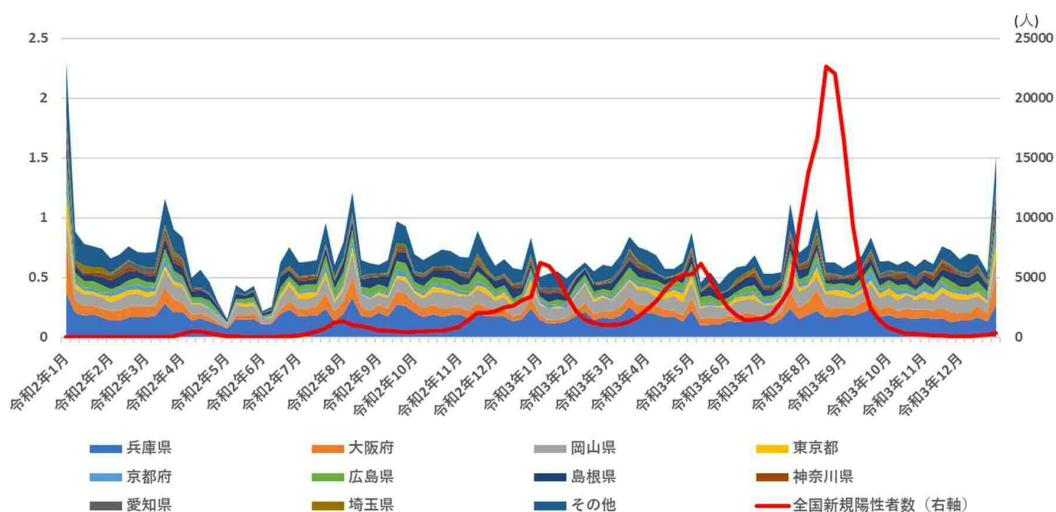
出所：V-RESAS(株式会社Agoop「流動人口データ」)

## 6-1 人口動態

### 6-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ④都道府県を跨いだ移動

- 他都道府県からの鳥取県東部地区への移動は、概ね令和元年を下回っています。
- 他都道府県から鳥取県東部地区への移動の令和元年同週比についてみると、主に兵庫県から来る人が多いことが分かります。

他都道府県から鳥取県東部地区への移動(上位10都道府県)



※他都道府県から鳥取県東部地区への移動：鳥取県東部地区に滞在している人口を、居住地の存在する都道府県別に集計したもの

1) 選択したエリアに滞在している人口について、居住地である都道府県毎、週毎に、移動人口を合計。

2) 1)で求めたものについて、下記の式によってyの値を計算し、縦軸に示す。

$y = \text{当該週に他都道府県から当該都道府県・エリアに移動してきた人口} \div \text{令和元年の週平均の他都道府県から当該都道府県・エリアに移動してきた人口}$

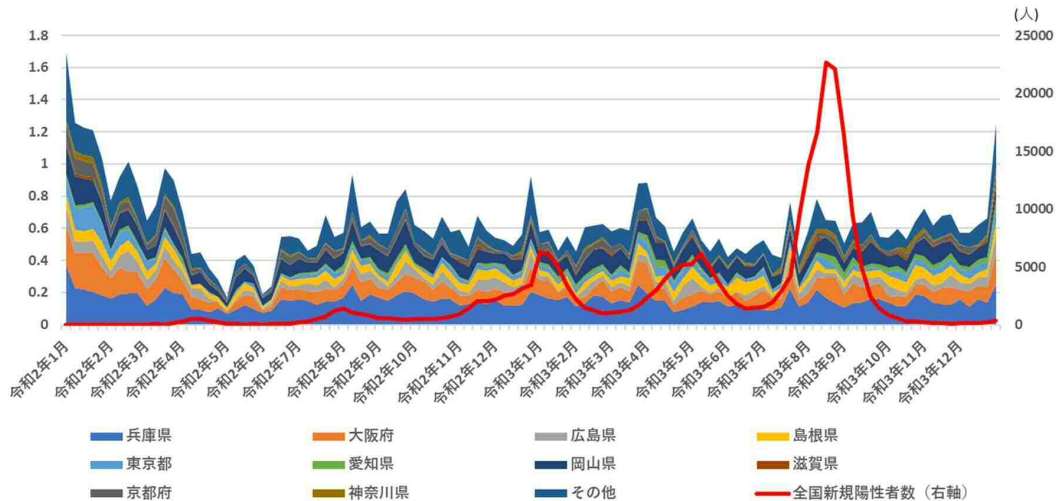
出所：V-RESAS(株式会社Agoop「流動人口データ」)

## 6-1 人口動態

### 6-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ④都道府県を跨いだ移動

- 鳥取県東部地区から他都道府県への移動は、概ね令和元年を下回っています。
- 鳥取県東部地区から他都道府県への移動の令和元年同週比についてみると、主に兵庫県と大阪府が移動先として多くなっていることが分かります。

鳥取県東部地区から他都道府県への移動(上位10都道府県)



※他都道府県から鳥取県東部地区への移動:鳥取県東部地区に滞在している人口を、居住地の存在する都道府県別に集計したもの

1) 選択したエリアに滞在している人口について、居住地である都道府県毎、週毎に、移動人口を合計。

2) 1) で求めたものについて、下記の式によってyの値を計算し、縦軸に示す。

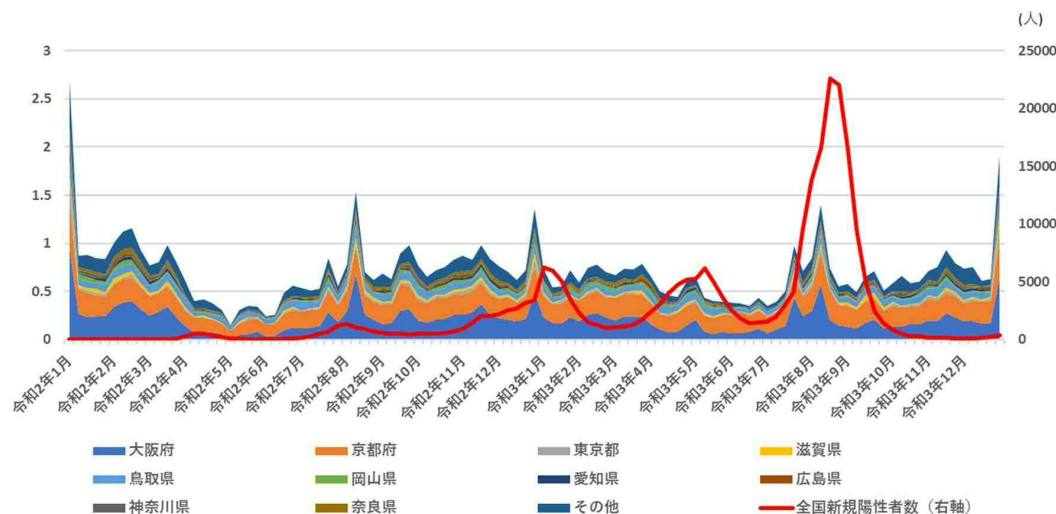
$y = \text{当該週に他都道府県から当該都道府県・エリアに移動してきた人口} \div \text{令和元年の週平均の他都道府県から当該都道府県・エリアに移動してきた人口}$   
出所: V-RESAS(株式会社Agoop「流動人口データ」)

## 6-1 人口動態

### 6-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ④都道府県を跨いだ移動

- 他都道府県からの兵庫県但馬地区への移動は、概ね令和元年を下回っています。
- 全国新規陽性者数が増加している時期と、他都道府県から兵庫県但馬地区への移動者数が増加している時期は概ね一致しています。
- 他都道府県から兵庫県但馬地区への移動の令和元年同週比についてみると、主に大阪府から来る人が多いことが分かります。

他都道府県から兵庫県但馬地区への移動(上位10都道府県)



※他都道府県から鳥取県東部地区への移動:鳥取県東部地区に滞在している人口を、居住地の存在する都道府県別に集計したもの

1) 選択したエリアに滞在している人口について、居住地である都道府県毎、週毎に、移動人口を合計。

2) 1) で求めたものについて、下記の式によってyの値を計算し、縦軸に示す。

$y = \text{当該週に他都道府県から当該都道府県・エリアに移動してきた人口} \div \text{令和元年の週平均の他都道府県から当該都道府県・エリアに移動してきた人口}$   
出所: V-RESAS(株式会社Agoop「流動人口データ」)

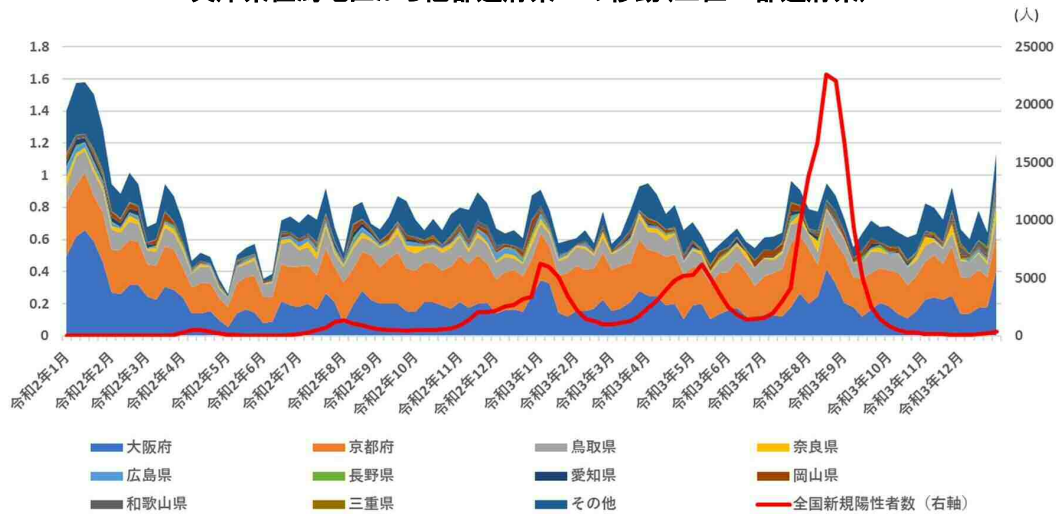


## 6-1 人口動態

### 6-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ④都道府県を跨いだ移動

- 兵庫県但馬地区から他都道府県への移動は、概ね令和元年を下回っています。
- 兵庫県但馬地区から他都道府県への移動の令和元年同週比についてみると、主に大阪府と京都府が移動先として多くなっていることが分かります。

兵庫県但馬地区から他都道府県への移動(上位10都道府県)



※他都道府県から鳥取県東部地区への移動: 鳥取県東部地区に滞在している人口を、居住地の存在する都道府県別に集計したもの

1) 選択したエリアに滞在している人口について、居住地である都道府県毎、週毎に、移動人口を合計。

2) 1) で求めたものについて、下記の式によってyの値を計算し、縦軸に示す。

$y = (\text{当該週に他都道府県から当該都道府県・エリアに移動してきた人口} \div \text{令和元年の週平均の他都道府県から当該都道府県・エリアに移動してきた人口})$

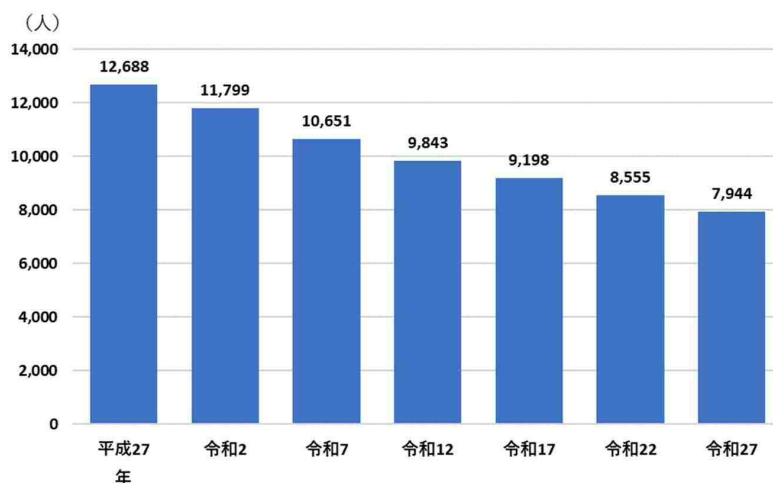
出所: V-RESAS(株式会社Agoop「流動人口データ」)

## 6-2 分野ごとの将来推計

### 6-2-1 子育て ①0～5歳の人数

- 0～5歳の未就学児の人数は一貫して減少傾向が続くと推定されます。
- 令和27年の0～5歳人口は7,944人と推定され、これは平成27年の12,688人の約63%となります。

0～5歳の人数

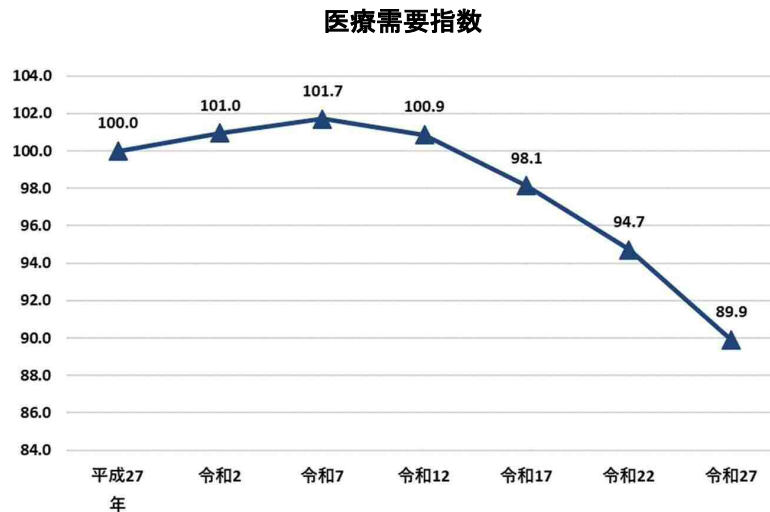


出所: 国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-2 分野ごとの将来推計

### 6-2-2 医療・介護 ①医療需要推計

- 圏域の医療需要予測指数は、令和7年をピークに減少に転じると見込まれており、令和12年から令和17年の間に、平成27年の医療需要を下回る見込みです。
- 医療需要のピークと老年人口のピークは概ね一致しています。



※各年の需要量を以下で計算し、2015年の国勢調査に基づく需要量=100として指数化

$$【医療需要量】=【14歳以下人口 \times 0.6】+【15 \sim 39歳人口 \times 0.4】+【40 \sim 64歳人口 \times 1.0】+【65 \sim 74歳人口 \times 2.3】+【75歳以上人口 \times 3.9】$$

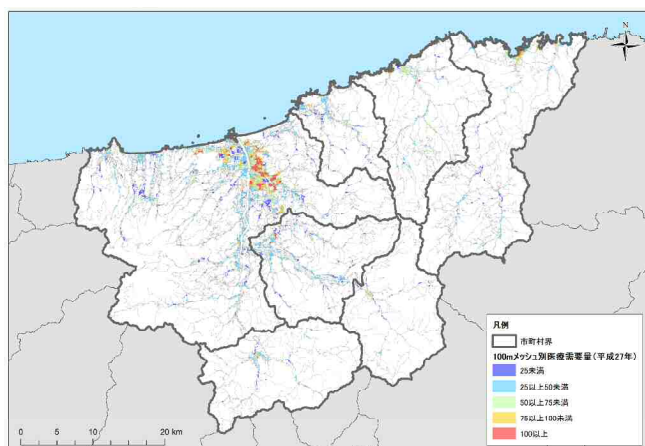
出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

## 6-2 分野ごとの将来推計

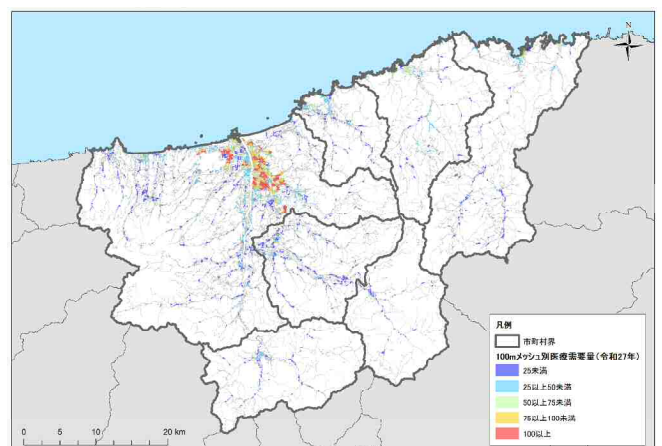
### 6-2-2 医療・介護 ②圏域内医療需要の状況

- 平成27年の医療需要をみると鳥取市の市街地において高くなっています。
- 令和27年の医療需要については、平成27年と比較すると老年人口が増加する鳥取市の市街地では増加しています。

100mメッシュ別圏域内医療需要(平成27年)



100mメッシュ別圏域内医療需要(令和27年)



$$【医療需要量】=【14歳以下人口 \times 0.6】+【15 \sim 39歳人口 \times 0.4】+【40 \sim 64歳人口 \times 1.0】+【65 \sim 74歳人口 \times 2.3】+【75歳以上人口 \times 3.9】$$

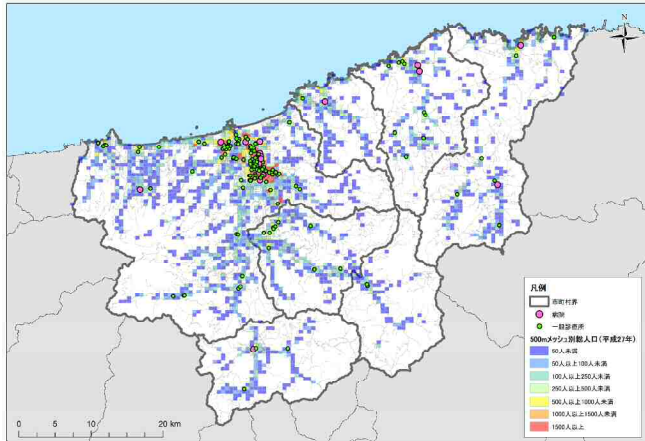
出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

## 6-2 分野ごとの将来推計

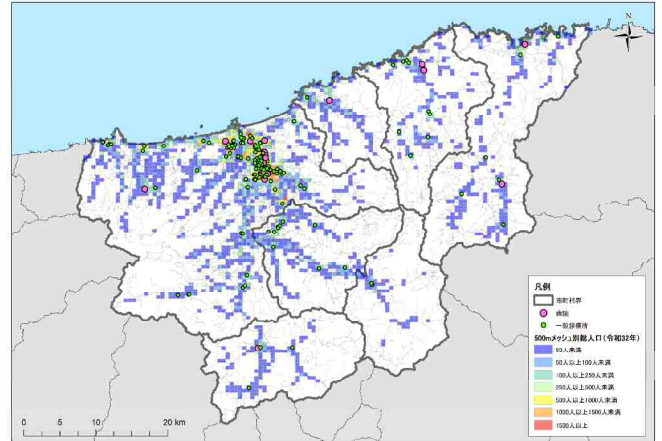
### 6-2-2 医療・介護 ③圏域内人口分布と医療機関の配置状況

- 医療機関の配置状況については鳥取市市街地に集中しています。
- 医療機関については、鳥取市以外の町については、人口分布の範囲に対し、医療機関の数が少なくなっています。

500mメッシュ別圏域内総人口(平成27年)と  
医療機関の分布状況



500mメッシュ別圏域内総人口(令和32年)と  
医療機関の分布状況



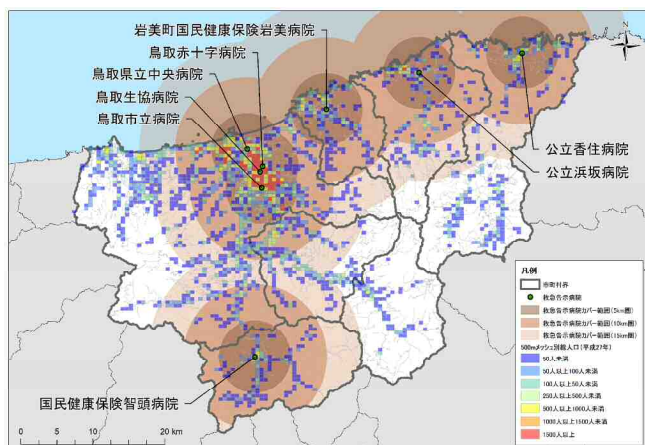
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-2 分野ごとの将来推計

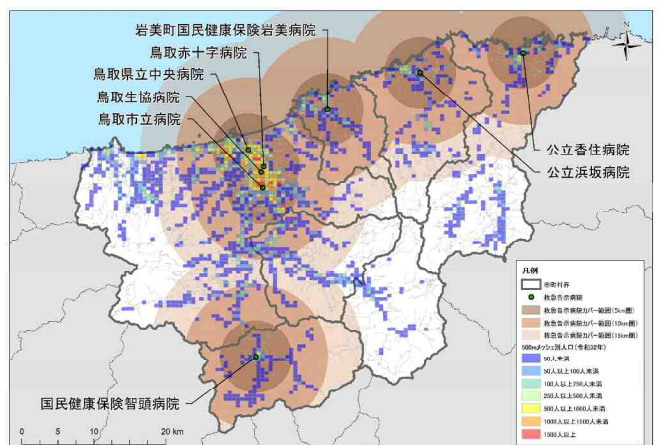
### 6-2-2 医療・介護 ④圏域内人口分布と救急告示病院のカバー範囲

- 圏域内の救急告示病院の配置状況とカバー範囲についてみると、鳥取市の西部、若桜町の南部、香美町の南部は、圏域内の救急告示病院の15km圏外にあることが分かります。

500mメッシュ別圏域内総人口(平成27年)と  
救急告示病院のカバー範囲



500mメッシュ別圏域内総人口(令和32年)と  
救急告示病院のカバー範囲



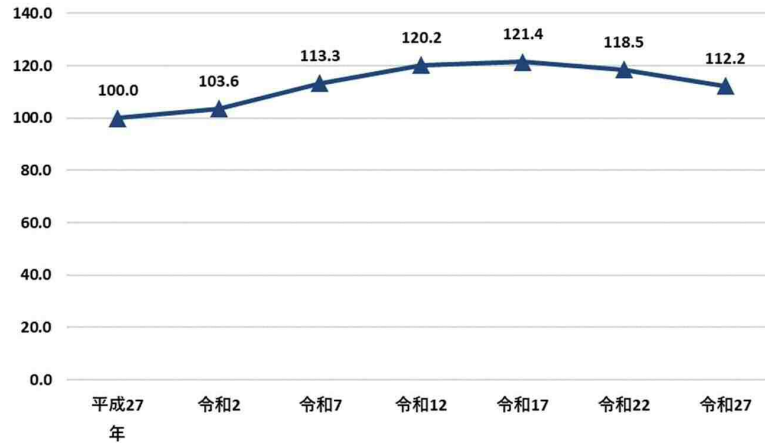
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」、鳥取県HP、兵庫県HP

## 6-2 分野ごとの将来推計

### 6-2-2 医療・介護 ⑤介護需要

- 圏域の介護需要予測指数は、令和17年をピークに減少に転じると見込まれていますが、令和27年まで、平成27年の介護需要を上回る見込みである。

介護需要指数



※各年の需要量を以下で計算し、2015年の国勢調査に基づく需要量=100として指数化  
 【2045年までの各年の介護需要量】=【40～64歳人口×1.0】+【65～74歳人口×9.7】+【75歳以上人口×87.3】

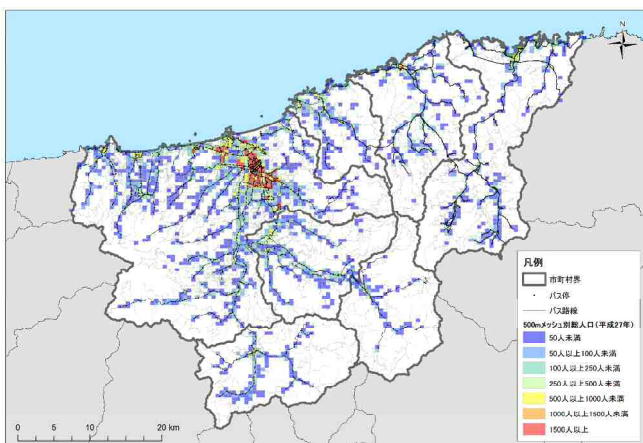
出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」、地域医療情報システム「地域別統計」

## 6-2 分野ごとの将来推計

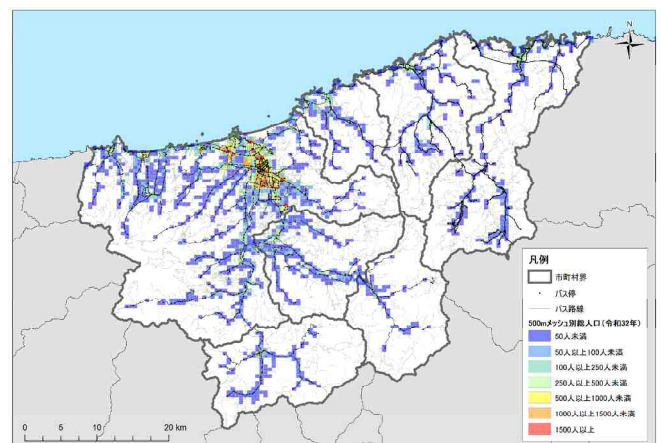
### 6-2-3 公共交通 ①圏域内総人口分布とバス路線の状況

- 概ね人口が分布されている地域についてはバス路線が整備されています。
- 将来的には人口が少ないエリアが広く分布することが予測されるため、長いバス路線であるにも関わらず、バス路線沿線の人口が少なくなることが見込まれます。

圏域の総人口の分布（平成27年）とバス路線



圏域の総人口の分布（令和32年）とバス路線



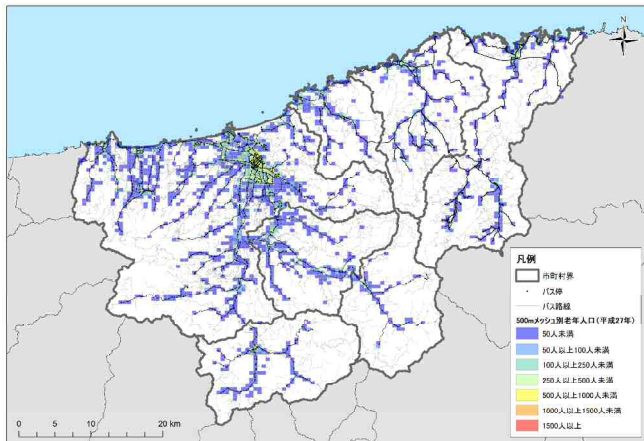
出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」、市提供データ

## 6-2 分野ごとの将来推計

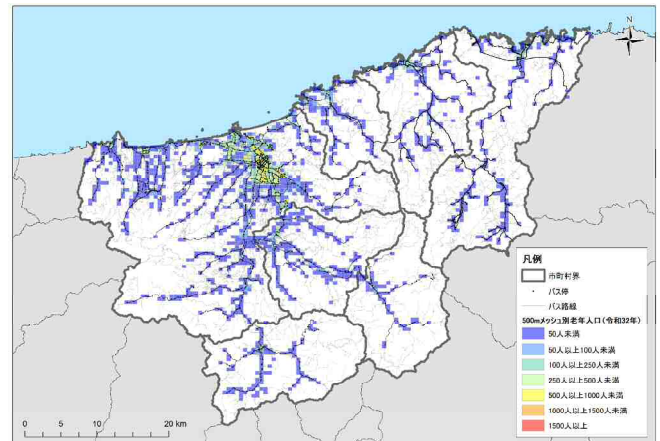
### 6-2-3 公共交通 ②圏域内老年人口分布とバス路線の状況

- 老年人口については鳥取市や岩美町、新温泉町の一部の地域で増加しており、公共交通サービスのニーズが高まる可能性があります。

圏域の老年人口の分布(平成27年)とバス路線



圏域の老年人口の分布(令和32年)とバス路線



出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

## 6-2 分野ごとの将来推計

### 6-2-4 観光

- 新型コロナウイルス感染症拡大の前後では、人口の移動が減少しています。
- 観光庁がWithコロナ・afterコロナへの政策として基盤の整備を試みています。麒麟のまち圏域においても、政策と足並みをそろえて宿泊事業者への支援や観光資源の高付加価値化、活用外国人観光客への対応に取り組んでいく必要があります。

基盤整備	内容
宿泊事業者支援パッケージ	宿泊事業者の収益力向上や、感染拡大防止ガイドラインを踏まえた施設等の整備、新たなビジネスモデルの構築等に対し、様々な制度を活用しながら総合的に支援を行う。
誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成	自然、歴史・文化、食、イベントなどの観光資源を、地域の関係者が感染拡大予防ガイドラインの遵守、新しい生活様式の実践を徹底しながら、より安全で、誘客力の高いものに磨き上げる取組に対して、外部の企業・専門家と連携して滞在コンテンツの造成・商品化等を支援することで、観光地等の高付加価値化や誘客の多角化を促進する。
訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業	これまで進めてきた、訪日外国人旅行者等がストレスフリーで観光できる受入環境整備を、各国との人的交流が回復するまでの時間を活用し、各地域で戦略的に取り組む。
地域の観光人材のインバウンド対応能力の強化	観光人材のインバウンド対応能力の強化に取り組む宿泊事業者等に対し、インバウンド減少の影響を強く受ける通訳案内士等を講師として派遣し、接客能力の向上や、マーケティング、ブランディングに係るノウハウの蓄積等を図る。

出所:観光庁「Withコロナ・afterコロナの日本の観光政策」

## II 考察

### 1 麒麟のまち圏域の都市機能の利用実態等の分析

#### 1-1 人口にかかる課題および方向性の考察

##### 現状・課題

##### ■ 人口減少・少子高齢化

圏域の人口は減少傾向にあり、人口構造については少子高齢化が進んでいます。社会動態をみると男女ともに30代以下の若年層の転出が多くなっており、若年層の転出の要因としては、通勤・通学や日常的な買い物の不便さ、教育環境に対する不満が挙げられます。また、合計特殊出生率は横ばいですが、15歳から44歳の女性人口は減少傾向にあること、男女ともに未婚率が上昇していることから、今後少子化は一層進むことが予測されます。

##### ■ 圏域住民の行動範囲

昼夜間人口について、鳥取市以外では100%を下回っています。衣料品や家電製品など、食料品・日用品以外のものの購入や、映画などの余暇活動について、圏域住民の多くは、鳥取市において行う割合が高くなっており、これは、圏域内における事業所や学校、大規模商業施設が鳥取市に集中していることが要因であると考えられます。また、特に年齢が若くなると、圏域外まで足をのばしている傾向が強くなり、若者に対する地域の魅力を如何に創出していくかが課題と考えられます。

##### ■ 高齢者世帯の増加

世帯数は増加していますが、世帯当たりの人員は減少傾向となっています。さらに、高齢者世帯比率と高齢夫婦世帯比率は増加していることから、子世代の転出により、その親にあたる高齢者の世代のみが残っていることが推測されます。高齢者は移動の手段として家族の送迎に頼ることが多いですが、高齢者のみの世帯が増えることにより高齢者の移動手段の確保が課題になると考えられます。

## 1-1 人口にかかる課題および方向性の考察

### 方向性

#### ■ 若者にとって魅力的な環境づくり

今後は、30代以下の若年層にとって魅力的な地域をつくる必要があります。若年層は、教育環境や幼児施設の充実を重要視しており、子どもにとって良い環境は、その親のニーズに応えると同時に、子ども達自身が「将来この地で子育てをしたい」と感じることに繋がります。また、未婚率の上昇も少子化の一つの要因であると考えられるため、出会いの機会の提供など、婚姻率を上昇させる取組も推進していく必要があります。

若年層の行動範囲については、圏域外で買い物や余暇活動をする割合が高くなっており、買い物、飲食といった部分で圏域に対する魅力・愛着が低くなっていることがわかります。地域の特性を活かした、若年層にとって魅力的な地域づくりを行っていくことが求められます。

#### ■ 高齢者世帯の支援

高齢者のみで構成される世帯は増加しており、こうした世帯への支援が必要であると考えられます。

現在、圏域全体における移動手段については、自家用車の割合が高くなっており、特に80歳以上の高齢者については、家族や友人の送迎に頼る割合が高くなっています。しかし、高齢者のみで構成される高齢者世帯の場合は、公共交通に頼らざるを得ません。現在、圏域を走るバス路線は、おおよそ人口が分布されているエリアをカバーしていますが、便数が少ないなど課題があります。デマンド交通の導入など、ニーズとコストを考慮しながら、公共交通の利便性を高め、高齢者の移動手段の確保を図る必要があります。

高齢者人口の増加により介護ニーズが高まることが予測されていますが、高齢者世帯については、家族による介護が困難であるため、地域での介護予防の取組や見守り、そして生活支援サービスの一層の充実が求められます。そのほか、介護人材の不足が社会的な問題となっており、圏域でも介護人材の確保に取り組むなど、介護サービスを提供するための体制を強化する必要があります。

また、高齢単身者については、社会とのつながりが失われることも懸念されるため、高齢者の孤立を防ぐための取組も求められます。

## 1-2 産業にかかる課題および方向性の考察

### 現状・課題

#### ■ 労働人口の減少

圏域全体の労働人口をみると、20代から30代前半が少なくなっています。女性の就業率は、男性就業率と比較すると低くなっていますが、全国平均より高く、女性の社会進出が進んでいることが、本圏域の強みであると考えられます。圏域の就業者数を産業別にみると第二次産業の就業者が一貫して減少傾向にあります。今後は少子高齢化が進むことにより、一層人手不足が懸念されます。圏域の産業を支えるためには働き手の確保が必要であり、そのためには労働力人口を増やすことや、就業率を上昇させることが課題と考えられます。

#### ■ 鳥取市への産業の集中

本圏域の第一次産業、第二次産業、第三次産業別の事業所数をみると全ての産業において鳥取市が最も多く、特に第三次産業においては、鳥取市の構成比が高くなっています。圏域の付加価値額については、「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」が大きくなっており、本圏域は第二次・第三次産業に特色を有していると言えます。製造業については業種別にみると「電子部品」、「電気機械」、「食品」の付加価値額が大きくなっています。小売業については、圏域内の百貨店や大型ショッピングセンターなど、主要商業施設は鳥取市内に集中し、圏域の小売業の売場面積の約9割を鳥取市が占めています。

### 方向性

#### ■ 働き手の確保

圏域の働き手を確保するために、女性の社会進出を支援する取組が必要であり、圏域全体での、保育環境の整備や、出産等により一度仕事を離れた女性が社会復帰するための仕組みを構築することが効果的と考えられます。また、働く意欲のある高齢者が活躍できる環境整備についても行う必要があります。定年延長・廃止などの事例調査を実施し、圏域内の企業に効果的な取組について還元するなど、高齢者が活躍する場を整えることが効果的と考えられます。

#### ■ 産業の発展

本圏域における強みである、「電子部品」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」で競争力を伸ばしていく必要があります。

小売業については、鳥取市に集中しており、アンケート結果からも圏域住民の多くが利用していると考えられます。今後は人口減少が進む中、圏域外の市場も獲得できるよう、情報発信や他圏域の商業施設との差別化を図ることが必要となります。

## 1-3 都市機能にかかる課題および方向性の考察

### 現状・課題

#### ■ 教育機関における生徒・学生の確保

圏域の大学・大学院は鳥取市内にのみ存在し、高等学校については、圏域内に16校立地していますが、そのうち9校が鳥取市内に立地しているなど、教育機関は鳥取市に集中しています。今後少子化が進む中、生徒・学生の確保等が課題と考えられます。

#### ■ 交通網の維持・存続

本圏域には4つの鉄道路線と、3つの事業者により運営されているバス路線、及び27か所のタクシーの営業拠点といった公共交通が整備されています。鉄道の乗車人数については、JR西日本山陰本線が全体の7割以上を占めており、タクシーについては、全営業拠点の6割以上が鳥取市に集中している状況です。今後しばらくの間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、住民の行動が限定的になることが予測されることから、公共交通の存続が課題と考えられます。

なお、道路網については、麒麟のまち圏域形成後、鳥取西道路(鳥取自動車鳥取西IC～青谷IC間)や、国道482号線の鳥取・兵庫県境が開通したことなどにより、アクセス性が向上しています。

## 1-3 都市機能にかかる課題および方向性の考察

### 方向性

#### ■ 地域の魅力を活かした教育の実践

一般的に、大学進学を機に都市圏へ人口が流出する傾向がみられます。進学による人口流出を抑え、またUIターンを促進するためには、地域に対する愛着を育てることが重要です。地元の中学校と高等学校の連携や、高等学校と大学等との連携を増やし、地元での進学に関心を高めるとともに、地域の特徴を活かした教育(圏域の産業特性を踏まえたカリキュラムの提供など)を実践し、他との差別化を図ることで、地域に適した質の高い人材育成を実現できることが考えられます。また、中学生、高校生といった学生と地元企業との間に接点を設けることで、将来的な地元での就職希望者の増加が期待されます。

#### ■ 交通網の活用

バスや鉄道などの公共交通については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用者の減少、テレワークの推進等による、定期券購入者の減少が予測され、公共交通の運営はますます厳しくなることが予想されます。

一方で、増加する高齢者の移動手段として公共交通の存続が求められます。こうした課題がある中、公共交通の存続のためには、単に人々の移動手段として位置づけるだけでなく、公共交通そのものが、利用者に付加価値を与えるような取組が必要になると考えます。例えば、若桜鉄道ではSLを活用した観光促進の取組を行い、平成20年には若桜線沿線の主要23施設がまとめて国の登録文化財に認定されています(参考:若桜町観光協会HP)。また、利用者の減少により、利用者一人当たりが使用できるスペースは広がるため、新たなサービス展開の可能性も高まります。

道路網については、本圏域は東西、南北に高規格道路が整備されており、大阪、名古屋、広島といった都市圏とのアクセス性が高くなっています。現在、新型コロナウイルス感染症の拡大により、海外や遠距離への観光が制限され、自動車を利用した旅行のニーズが高まっている状況に目を向け、観光PR等を行っていくことが効果的です。そのほか、産業についても、道路整備により利便性が拡大する地域を見定め、産業集積を図る必要があります。



## 2 圏域の医療課題等の抽出・分析と協力体制構築の検討

### 2-1 将来の医療ニーズとニーズの変化に伴う課題

#### 医療体制構築の現状・課題

##### ■ 医療機関の集中

圏域の主な拠点病院は、そのほとんどが鳥取市に集中しており、人口千人当たりの医師数も鳥取市が圏域内で最も多くなっています。鳥取市以外の圏域住民が高度な医療サービスを受ける際には、鳥取市内の医療施設に行く人の割合が多くなっていますが、かかりつけの医療施設は地元にある住民の割合が高くなっています。鳥取市の市街地に多くの医療機関が集中し、それ以外の地域では医療機関が点在しているため、高齢化に伴い医療機関への移動手段の確保に課題のある高齢者への支援が一層重要となります。

また、圏域内の救急告示病院は、圏域北部に多く立地しています。そのため、若桜町全域のような、救急告示病院から離れた場所に住む住民の不安は大きく、圏域全体での事故・急病に迅速に対応できる体制づくりが課題となっています。

##### ■ 医療ニーズの動向

人口が減少する一方、高齢化の影響もあり、医療ニーズが令和7年頃まで上昇する見込みです。特に、鳥取市の市街地では、医療ニーズが上昇する見込みとなっています。鳥取市の市街地以外の地域については、人口減少に伴い医療ニーズも減少する見込みですが、現状、少数の診療所等で広いエリアをカバーしているという実態があります。従って、地域の診療所等の医療機関が廃業になると、その影響は広い範囲に及びます。また、医師不足も懸念され、こうした地域における医師確保も課題になると考えられます。

### 2-2 圏域の医療課題等の抽出・分析と協力体制構築の検討

#### 2-2-2 地域の医療体制構築にかかる考察

#### 医療体制構築の方向性

##### ■ 医療機関同士のネットワークの構築

圏域の主な拠点病院は、そのほとんどが鳥取市に集中しており、人口千人当たりの医師数も鳥取市が圏域内で最も多くなっています。鳥取市以外の圏域住民の医療にかかる行動についてみると、かかりつけは地元の医療機関を利用し、入院や人間ドックなどの高度な医療サービスを受ける際には鳥取市内の医療機関を利用する人の割合が高くなっています。高度な医療サービスの提供を受ける医療機関と、かかりつけの医療機関が異なるため、医療機関相互のネットワークを強化する取組が必要となります。ICTを活用した、患者情報の共有など、医療機関同士の情報連絡を密に行っていくことが効果的と考えられます。

なお、例えば、多くの医療機関において電子カルテシステムが導入されていますが、導入しているシステムが医療機関によって異なるため、医療機関同士の連携が困難になっています。将来的には、圏域での情報連携に向けて、統一的なシステム導入の検討を行うことなども有効であると考えます。

##### ■ へき地医療の支援

現在、へき地医療への支援として、へき地医療拠点病院からへき地診療所への代診医の派遣等が実施されています。今後も、へき地医療拠点病院による、代診医の派遣や巡回診療などの取組が重要になると考えられます。また、一般的にへき地医療については、開業医の高齢化が課題になっていると言われています。将来にわたり、継続的に安定した医療サービスを地域に提供するためには、長期的に携わることのできる若手医師の確保と、救急医療を含めた総合的な診療ができる医師の養成が必要となります。こうした若手医師の確保策として、例えば、島根県の益田市医師会で行われている、へき地・離島での医療従事を目指す若手医師のための地方研修プロジェクトがあります。これは、医師会員（開業医）が指導講師となり、若手医師の育成を支援することで、若手医師の確保を目指す取組です。このように、地域にとっても医師にとっても双方に魅力のある仕組みづくりを行うことが重要であると考えられます。

## 2-2 圏域の医療課題等の抽出・分析と協力体制構築の検討

### 2-2-3 遠隔医療(オンライン診療)の展望

#### 遠隔医療(オンライン診療)の意義

##### ■ 新型コロナウイルス感染症拡大防止とへき地医療への活用

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、人と人との接触を避けることができる遠隔医療(オンライン診療)が注目を集めており、本圏域においても、導入している医療機関や、導入を検討している医療機関がみられます。本圏域において、遠隔医療(オンライン診療)の受診経験者はまだ少数ではありますが、特に、60歳未満の年齢層ではその約半数が受診意向を持つなど関心が高まっています。現在は、病院・診療所に通院することが比較的容易であることから、遠隔医療(オンライン診療)の受診経験者は少数ですが、今後は、新型コロナウイルス感染症の拡大への対策や、高齢者など十分な移動手段を持たない人たちのための支援策として、遠隔医療(オンライン診療)を活用していく必要があります。

#### 遠隔医療(オンライン診療)の課題

##### ■ できることの制限

遠隔医療(オンライン診療)導入にあたっての課題としては、まず、できることに制限があることが挙げられます。例えば、遠隔医療(オンライン診療)では、診察にあわせて精密な検査を行う必要が発生した場合に対応できないというような制限が発生します。また、処方箋や会計など、遠隔医療(オンライン診療)に伴う業務についても見直しが必要になります。

##### ■ デジタル・デバイド(ICT技術を利用したり使いこなしたりできる人と、そうでない人の間に生じる格差)

次に課題として、デジタル・デバイドの問題が挙げられます。住民アンケートによると、「自宅でインターネットが利用できない」ことや「遠隔医療(オンライン診療)のやり方が分からない」ことを理由に、遠隔医療(オンライン診療)を利用したことがない住民の割合は、60歳以上の年齢層で高くなっています。医療の需要は年齢が上がるほど大きくなるため、こうした比較的ICTに馴染みのない高齢者層も気軽に使用できる仕組みが必要です。また、患者だけではなく、導入しようとする医療機関においても、「アプリを導入するにしても、何が良いのか分からない」などの声が挙げられています。

##### ■ 費用対効果

最後に課題として、費用対効果の問題が挙げられます。遠隔医療(オンライン診療)を導入するためには、アプリなど診療のためのツールや、院内ネットワーク環境の整備など、コストがかかります。一方で、遠隔医療(オンライン診療)は、診療報酬が認められる部分が限定的であるなど、採算がとりにくいといった課題があります。

## 2-2 圏域の医療課題等の抽出・分析と協力体制構築の検討

### 2-2-3 遠隔医療(オンライン診療)の展望

#### 遠隔医療(オンライン診療)にかかる方向性

##### ■ 遠隔医療(オンライン診療)の周知

遠隔医療(オンライン診療)の受診経験がない人について、その理由として、やり方が分からないという意見が多く挙げられています。これは、まだ遠隔医療(オンライン診療)が一般的ではなく、どのように始めればよいのか、何ができるか、どのような分野が遠隔医療(オンライン診療)に向いているのかなど、分からないことが多いためだと考えられます。物理的な接触を要する検査を伴う診察など、遠隔医療(オンライン診療)では難しい分野もありますが、症状が安定してからの定期的な診察や、心療内科など特定の分野においては、効果的に活用できるものと考えられます。まずは、行政の取組として遠隔医療(オンライン診療)が有効なケースなどを整理し、オンライン診療を実施している医療機関の情報とともに、住民に対してその周知を図ることが必要と考えます。

##### ■ 医療機関への導入支援

遠隔医療(オンライン診療)の導入には、医療機関側に導入コストがかかる一方で、診療報酬の問題から採算性が悪いといった課題があります。そこで、圏域内の各医療機関が遠隔医療(オンライン診療)を導入しやすくするため、院内のネットワーク整備や、システムの導入、必要な端末の購入など、必要な経費を補助する取組が効果的と考えられます。

また、費用面だけではなく、導入するシステム(アプリなど)の判断が難しいことも課題となっています。特に地域の診療所においては、院長も高齢となり、ICTについて明るくないケースが多いと考えられます。こうした医療機関に対して、行政から遠隔医療(オンライン診療)の導入についてのレクチャーや、推奨するアプリや端末の紹介などを行うことにより、医療機関側は遠隔医療(オンライン診療)を導入しやすくなると考えられます。

##### ■ 高齢患者への支援

高齢患者はインターネットの利用環境がなかったり、ICTに馴染みがなかったりするなど、遠隔医療(オンライン診療)を利用する上で課題があります。こうしたデジタル・デバイド対策としては、訪問看護や訪問介護等と連携し、端末の貸し出しや操作支援を看護師やヘルパーから受けながら高齢者が遠隔医療(オンライン診療)を利用するといった取組が効果的であると考えます。

また、地域の公民館を遠隔医療(オンライン診療)の拠点として整備、開放し、健康講座とあわせて展開することなども、高齢者の遠隔医療(オンライン診療)の利用促進につながるものと考えられます。

##### ■ 他の先端技術の活用

遠隔医療(オンライン診療)は、ドローンによる薬の配送など、他の先端技術と組み合わせることで、活用の幅は広がると考えられます。様々な先端技術の活用のため、行政が積極的に実証実験に取組み、その成果を地域に還元していくことが重要と考えられます。

## 3 SDGsの視点を踏まえた新たな取組の可能性の分析・検討

### 3-1 SDGsの視点を踏まえた方向性

#### 方向性

##### ■ 本圏域におけるSDGsへの取組

本圏域においては、令和元年度に智頭町、令和3年度に鳥取市が、内閣府が選定するSDGs未来都市に選ばれています。

##### ■ SDGsの認知状況

圏域企業にSDGsについて聞いたところ、知っていると回答した企業は74.8%に上り、認知度が高いことが分かります。しかしながら、検討中も含め、何らかの行動を起こしている企業は29.0%にとどまります。(「4-9-4 SDGsの認識/取組状況」より。)

このことから、SDGsという言葉や理念は知っているものの、具体的にどのようなことを実行することでSDGsゴールを達成できるのか分からない企業が多いものと考えられます。

##### ■ 方向性

SDGs自体の認知度は高い状況であることから、SDGsの視点を踏まえ、今後、圏域における新たな連携の取組を検討するにあたっては、各場面での取組方針等を示すことが重要と考えます。

本圏域では、労働人口の減少が続いており、持続的に経済を成長させるためには、先端技術を活用し生産性を向上することや、付加価値額が大きい事業の競争力を高めることが重要です。よって、SDGsの視点から、先端技術の活用に関連して「ICT技術の導入」、圏域内の事業の競争力を高めることに関連して「専門人材確保」について考察します。

また、本圏域の企業セクターは小規模企業が多いという特徴を有しています。そのため、働く場を確保し、持続的な社会を維持するためには、小規模企業の課題である後継者問題を解決することが重要です。よって、SDGsの視点から、「事業承継」についても考察します。

さらに、本圏域内の人口は、社会減少が続いていることから、持続可能な社会を維持するためには社会減少に歯止めをかけることが重要です。そのためには、圏域外の住民に対して本圏域の魅力を伝える機会を作る必要があります。この点について、SDGsの視点から、「ワーケーション」について考察します。

### 3-2 各分野ごとの考察

#### 3-2-1 ICT技術の導入

#### 現状・課題

##### ■ 第1次産業でのICT技術の導入

本圏域は、豊かな自然環境を背景とした農林水産資源に恵まれているものの、第1次産業の就業者が減少しており、担い手不足が深刻な状況です。このような状況下で、SDGs目標8「働きがいも経済成長も」や目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」を達成し、持続的に豊かな農林水産資源を有効活用するためには、ICT技術を導入し先端技術を活用して生産性を上げることが考えられます。しかしながら、第1次産業における技術の導入率は低いことから、第1次産業でのICT技術の導入が課題となります。

##### ■ 第2次産業、第3次産業でのICT技術の導入

本圏域の付加価値額は、業種別に「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」が大きくなっています。

それぞれの業種では「IoTによる生産工程の見える化」や「ビッグデータの活用による販路分析」、「オンライン診療」等、ICT技術の発展により、様々な先端技術が活用されていますが、本圏域ではこれらの先端技術の活用事例は少ない状況です。そのため、本圏域において、これら第2次、第3次産業も持続的に成長するためには、ICT技術を導入し、先端技術を有効に活用することが課題となります。

##### ■ 圏域企業の先端技術の活用状況

圏域企業に先端技術(IoT、AI、ロボット、クラウド、ビッグデータ)の活用状況を聞いたところ、クラウドについては、活用済みの企業が19.3%であったものの、その他の先端技術はいずれも5%未満の活用状況でした。このことから、圏域企業においては、ICT技術の導入により比較的容易に活用できる先端技術(クラウド)は活用し始めている企業が一定数いるものの、ICT技術を導入し、高度に活用するそのほかの先端技術については、ほとんどの企業で活用されていない状況です。

##### ■ ICT技術導入に関する圏域企業の意識

各先端技術の必要性を感じないと回答した圏域企業は、41.4%(クラウド)~57.4%(ロボット)でした。このことから、今後ICT技術の導入が進み、様々な先端技術が利用可能な状況になった場合でも、多くの圏域企業ではその先端技術を必要と感じず、先端技術の活用が進展しない可能性があります。

## 3-2 各分野ごとの考察

### 3-2-1 ICT技術の導入

#### 方向性

#### ■ デジタルデバイドの解消に向けた取組

圏域企業においては先端技術を必要と感じない企業が多く存在します。これは、企業の中に「コンピュータ」や「ICT(もしくはIT)」、「デジタル」などのキーワードを聞いただけで技術の導入を拒絶してしまうようなデジタルデバイド(ICT技術を利用したり使いこなしたりできる人と、そうでない人の間に生じる格差)が存在することが一因と考えられます。そのため、圏域全体として企業向けのIT講習会やパソコン教室に関する取組を始め、デジタルデバイドの解消を図ることが考えられます。

#### ■ ICT技術導入による先端技術活用事例の紹介

また、先端技術を必要と感じない企業が多く存在するのは、身近に先端技術を活用している事例が少ないことも要因と考えられます。その場合、先端技術を活用し成功した事例を紹介するなど、先端技術を身近に感じてもらうことが重要と考えます。経団連のホームページには様々な成功事例が紹介されていることから、圏域企業のニーズに合った先端技術の活用事例を、商工会等を通じて圏域企業に紹介することが有効と考えられます。

#### ■ ロードマップの作成

ICT技術の導入や、先端技術を活用することによる圏域全体の最適化は、1社もしくは1業界の商品・サービスだけで実現できるものではありません。競合他社や他業界、大学や研究機関や地域社会など多様なステークホルダーが連携し、オープンイノベーションを図っていくことも重要となります。そのため、通信網の整備から始まり、多様なステークホルダーとの連携によるイノベーションの創出までを見通した全体的なロードマップを作成することが必要と考えられます。

## 3-2 各分野ごとの考察

### 3-2-2 専門人材確保

#### 現状・課題

#### ■ 労働人口減少下での持続的な経済成長

圏域人口が減少し、労働人口が減少する状況の中で、SDGs目標8「働きがいも 経済成長も」を達成し、本圏域が持続可能な経済成長を遂げるためには、付加価値額の大きい業種の成長を促進することが重要です。本圏域の付加価値額を業種別にみると「電子部品」、「電気機械」、「食料品」の付加価値額が大きくなっていることから、これらの業種の成長が課題となります。

#### ■ 本圏域における事業者の特徴

「4 企業アンケート結果」の回答者属性によると、圏域企業の84.3%は従業員数が30人未満であり、本圏域ではほとんどの企業が小規模事業者であるという特徴があります。よって、本圏域が持続的な経済成長を遂げるためには、小規模事業者も持続的な成長を遂げていく必要があります。しかしながら、全ての小規模事業者が経営に関する知識を有している訳ではありません。そのため、小規模事業者が持続的な成長を遂げるために、これら小規模事業者の経営力を強化することに課題があります。

#### ■ 様々な専門人材を呼び込む環境づくり

令和3年11月から開催されているデジタル田園都市国家構想実現会議では、地域の「暮らしや社会」、「教育や研究開発」、「産業や経済」をデジタル基盤の力により変革することが議論され、産業からの変革として、「人と産業を呼ぶ」、「デジタル地場産業を生む」、「新たなビジネスを興す」の三段階で地域産業構造を変革することが提唱されています。長期的な観点から、本圏域が持続的な経済成長を遂げるためには、産業からの変革の三段階を着実に実行する必要があり、現在の地域産業構造からの変革を図ることが課題となります。

## 3-2 各分野ごとの考察

### 3-2-2 専門人材確保

#### 方向性

#### ■ 業種別専門人材の確保

本圏域において付加価値額の大きい「電子部品」、「電気機械」、「食料品」の成長を促進するためには、これらの業種の競争力を高める必要があります。そのため、これらの業種に携わる人材のうち、研究開発職や技能職、買付人等、各企業の優位性に特に関連する人材を継続的に確保することが必要になります。

#### ■ 経営に関する専門人材の育成・確保

小規模事業者が持続的な成長を遂げるためには、小規模事業を営む経営者も自社の強みを分析し、限られた経営資源を有効に活用できるような経営計画を策定し、実行することが求められます。しかしながら、これらの能力は一朝一夕で身につくものではないことから、圏域企業を対象として、企業経営や戦略、組織マネジメント等に関するセミナーを実施し、小規模事業者の経営者育成を進め、かつ、これらの経営者が継続して圏域内で事業を営むように人材を確保する必要があります。

#### ■ サテライトオフィスの誘致

産業からの変革の三段階のうち、本圏域ではまず「人と産業を呼ぶ」ことが必要です。この点、ICT技術の発展や新型コロナウイルス感染症の影響により、働く場を選ばない働き方が広まっており、サテライトオフィスを設置する企業も増えています。複数のサテライトオフィスが圏域内に設置されることにより、人材と知見の還流も期待でき、専門人材の確保にもつながることから、人と産業を呼ぶためにサテライトオフィスの誘致を進めることが有効であると考えます。

## 3-2 各分野ごとの考察

### 3-2-3 事業承継

#### 現状・課題

#### ■ 本圏域の持続的な成長

「4 企業アンケート結果」の回答者属性によると、圏域企業の51%が昭和54(1979)年以前に創業しており、既に創業から40年以上が経過しています。本圏域において、SDGs目標8「働きがいも 経済成長も」や目標11「住み続けられるまちづくりを」を達成し、本圏域が持続的に成長していくためには、これら創業から長期間が経過した企業の事業が承継され、存続することが必要となるため、事業承継が課題となります。

#### ■ 圏域企業の後継者問題

事業承継では後継者を決定する必要がありますが、圏域内の企業に後継者の決定状況を聞いたところ、後継者を決めていないが事業承継したいと考える企業が28.5%にも上ります。そのため、本圏域ではこれら事業を継続したいが後継者が決まっていない企業の後継者探しに課題があります。

#### 方向性

#### ■ 事業譲渡希望者と後継者マッチング

後継者を決めていない企業が円滑に事業承継できるようにするため、事業承継したいと考える企業に対して後継者を紹介する事業が必要です。例えば、宮崎県高千穂町では、高千穂町、高千穂商工会、(株)ライトライトが連携し、(株)ライトライトが運営する事業承継マッチングプラットフォーム「relay(リレイ)」内で専用ページを開設し、事業譲渡希望者と後継者のマッチングを行い、後継者に対しては移住等の支援も行っていきます。

## 3-2 各分野ごとの考察

### 3-2-4 ワークেশション

#### 現状・課題

##### ■ 構成市町におけるテレワーク利用状況

企業アンケートの結果では、テレワークを「実施している」と回答した企業は6.8%、「実施していない」と回答した企業は88.0%となっており、テレワークを実施していない企業が大幅に上回っています。テレワークの効果としては、「働き方改革の進展」、「定型的な業務の生産性向上」「コスト削減」などを挙げた企業が多くありました。また、テレワークの課題については、「PCや通信環境の整備」、「情報セキュリティ」が挙げられました。

一方、住民アンケートの結果ではテレワークやオンライン受講を利用している住民は少数ではありますが、年齢が若くなるほど活用意向は高まり、29歳以下の年齢では27.5%の人が活用したいと回答しています。さらにこうした活用意向はテレワークやオンライン受講の経験がある方が、活用意向が高い傾向にあるため、今後テレワークが推進されるにつれてテレワークの活用を希望する人が増加することが予測されます。

##### ■ ワークেশション環境の充実

それぞれの事業者において、ワークেশションの受け入れに向けた環境整備を進めており、Wi-Fi環境やワークスペースの提供に加えて、画像編集ソフト等を提供している事業者もありました。また、シェアオフィス入居企業との交流や自然の中で会議を行うアウトドアミーティングプランなど特色のあるサービスを提供しています。

##### ■ ワークেশションの効果に対する疑念

新型コロナウイルス感染症拡大を契機として注目を浴びたワークেশションに対して、本当に効果があるのか、浸透していくのかという疑念を抱く声も多くあります。また、そもそも欧米のように長期間にわたる休暇を取るという文化がない日本において、どこまでワークেশションが広まるか予測できないと考える事業者も多くいました。

##### ■ 交通網の整備

ワークেশションの主な対象となる大都市からの訪問者の中には、普段車を運転することが少ない人も多く、宿泊施設や観光地、体験型施設の間の移動手段をいかに確保していくかが課題となります。行政としても簡単にはバスの運行本数を増やすことはできない上に、事業者としてもマイクロバスとの運転をするほどの利用者数は見込めない状況にあります。

## 3-2 各分野ごとの考察

### 3-2-4 ワークেশション

#### 方向性

##### ■ 近隣の事業者の連携

一事業者だけでは宿泊やワークスペース、アクティビティなどのコンテンツを全て整備することは難しい状況にあります。近隣の各種事業者で連携し、補完しあうことで地域全体として、ワークেশション環境を整備していくことが重要になります。利用料のセット割引やパッケージプランの開発等にも取り組む意欲がある事業者がいる一方で、事業者の足並みが揃わないことから連携が進まない状況があります。

地域の事業者の間に立ち、事業者間で連携した環境整備・商品開発に取り組んでいくことが必要です。

##### ■ ワークেশションを通じた地域課題解決

ワークেশションを単に観光客の集客手段として捉えるのではなく、地域活性化の起爆剤としていくためには、ワークেশションの推進を通じた施設の価値向上や圏域外とのネットワーク強化、地域課題解決などに取り組んでいくことが重要になります。

従来型の観光による経済効果だけではなく、様々な形で地域や地域住民とつながりを持ち、地域づくりの一員となってもらえるような関係人口の増加に資するものとしていくことが求められます。

##### ■ 公共交通網の整備

公共交通の充実に関しては、行政としてバスの増便等を行うことはコスト面でのハードルがあります。ワークেশション関連の事業者や交通事業者と密に連携し、MaaS等の導入を推進することにより、負担は抑えつつも利便性の向上を図っていくことが重要になります。

##### ■ 企業のワークেশション促進支援

ワークেশション促進に当たっては、受け入れ側の事業者に対する支援やモニターツアーに対する支援などが展開されていますが、今以上に、ワークেশションに送り出す側の企業に対する支援の必要性についても検討していく必要があります。雇用慣行や組織風土の問題から、ワークেশションを含む休暇などを取りにくいケースもあることから、働き方改革の施策とも連携した取組を展開していくことが期待されます。

## 4 第2期ビジョンの方向性

次期ビジョンでは、本調査業務の結果を踏まえた圏域の課題整理と将来像の設定をするとともに、SDGsを踏まえた社会情勢を整理した上で、SDGsとの関連を明確化します。

また、ビジョンにおいては圏域住民に対して圏域の方向性を分かりやすく明示することが重要であることから、紙面の構成についてもその趣旨に沿うものとなるように組み立てます。

1	調査分析結果を踏まえた課題の整理、及び将来像の設定
2	圏域全体のSDGsの方向性の明確化
3	圏域の方向性を指し示すことを明確にするための構成

### 3 新型コロナウイルスワクチン接種の共同実地

#### (1) 連携に至った経緯

新型コロナウイルス感染症が全国的にまん延する中、日常的に往来があり、生活圏を共有している麒麟のまち圏域でワクチン接種を促進していくことは、感染症のまん延防止の観点からより効果的であると考えられます。

また、圏域内には医療機関の数が少ない自治体もあり、医療資源に限られる状況にあることから、ワクチン接種に係る圏域住民の利便性向上にむけて、圏域内で連携した取組を検討することとなりました。

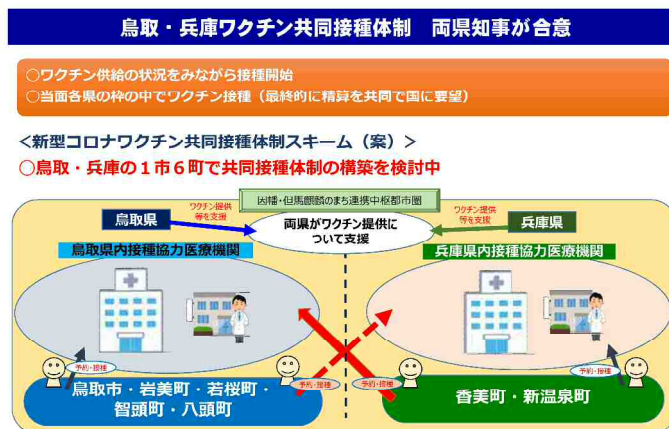
令和3年2月16日に開催した麒麟のまち創生戦略会議（首長会議）において、新型コロナウイルスワクチン接種にあたって連携して取り組むことについて合意し、協議を行いました。

#### (2) 連携町や関係機関との協議の経過

令和3年2月中旬から週1回程度、ワクチン接種の担当者会議や担当課長会議を開催し、ワクチン接種の共同実施に向けた体制の構築を検討しました。

麒麟のまち圏域には、鳥取県東部医師会、兵庫県美方郡医師会、豊岡市医師会があり、各医師会へ協力を依頼するとともに、医療機関へも通知や説明会などで協力を働きかけました。各医師会への協力依頼等については、鳥取県側は鳥取市が、兵庫県側は香美町・新温泉町が協力して行いました。

また、令和3年4月14日に、鳥取県、兵庫県の両知事が、ワクチン共同接種体制の構築について合意し、ワクチン接種の共同実施に係るワクチン提供について両県から支援いただけることとなりました。



<出典：鳥取県公式サイト>

令和3年6月1日に、「麒麟のまち圏域における新型コロナウイルスワクチン接種の共同実施に関する協定」を締結し、圏域内63の協力医療機関でワクチン接種の共同実施がスタートしました。（令和4年2月末時点：78機関）



### (3) 連携の内容

連携の内容は以下のとおりです。

- 住所地外で接種を受ける場合に必要な、やむを得ない事情の有無にかかわらず、圏域内協力医療機関での接種を可能とする。
- 住所地外の圏域内協力医療機関で接種を受ける場合に、住所地外接種の届出を不要とする。

### (4) 連携にあたって配慮した点

住民向けの接種開始時は、各市町へ供給されるワクチン量が限定的で、先々の供給スケジュールも不透明な状況であったため、ワクチン接種の共同実施を開始する時期の調整には苦慮しました。

当初、国（厚生労働省）が示す Q&A では、都道府県間をまたぐワクチン配分の調整は行わないとされていたため、各市町における接種実績とワクチンの配分量に差異が生じることが懸念され、本市は国に対し柔軟な対応を求めていました。このような中、鳥取県においても国への働きかけを行い、最終的には、都道府県間で調整可能であれば、ワクチンの融通も可能と示されました。これを受けて、令和3年4月14日に鳥取県、兵庫県の両知事の「ワクチン共同接種体制の構築についての合意」が成立し、懸念が解消されました。

また、ワクチン接種の共同実施にあたっては、医療機関等の協力が不可欠であるため、医療機関等に対して、共同実施の取組や接種費用の請求方法などの説明や周知の徹底に努めました。

### (5) 連携の効果等

令和3年6月から令和4年1月までの7か月間で、5,142件の住所地外接種が行われました。特に多かったのは、八頭町民が鳥取市で接種を受けた場合で1,119件、新温泉町民が県境を越えて岩美町で接種を受けた場合で987件、鳥取市民が岩美町で接種を受けた場合が749件でした。

ワクチン接種の共同実施により、接種場所の選択肢が増え、住民の利便性向上につながるとともに、住所地外接種の届出を不要としたことで、接種に係る負担軽減を図ることができました。

これにより、医療機関の少ない自治体の住民に対しても、円滑に接種を進めることができ、ワクチン接種の進捗が芳しくない自治体の接種の進展に効果があったものと考えています。

新型コロナウイルス ワクチン 麒麟のまち圏域共同実施 接種実績一覧 (R3.6~R4.1)

住所 接種地		鳥取市	岩美町	若桜町	智頭町	八頭町	香美町	新温泉町	合計	うち他市町の住民 への接種等件数
鳥取市	接種	109,773	358	115	146	1,119	15	257	111,783	
	予診のみ	71	0	0	3	0	0	0	74	
	計	109,844	358	115	149	1,119	15	257	111,857	2,013
岩美町	接種	748	11,785	2	7	6	30	987	13,565	
	予診のみ	1	28	0	0	1	0	0	30	
	計	749	11,813	2	7	7	30	987	13,595	1,782
若桜町	接種	248	0	2,921	2	113	0	0	3,284	
	予診のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	248	0	2,921	2	113	0	0	3,284	363
智頭町	接種	566	2	1	7,320	1	0	3	7,893	
	予診のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	566	2	1	7,320	1	0	3	7,893	573
八頭町	接種	235	0	0	0	2,863	0	0	3,098	
	予診のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	235	0	0	0	2,863	0	0	3,098	235
香美町	接種	6	0	0	0	0	5,063	91	5,160	
	予診のみ	0	0	0	0	0	7	0	7	
	計	6	0	0	0	0	5,070	91	5,167	97
新温泉町	接種	11	8	0	0	0	60	2,932	3,011	
	予診のみ	0	0	0	0	0	0	3	3	
	計	11	8	0	0	0	60	2,935	3,014	79
合計	接種	111,587	12,153	3,039	7,475	4,102	5,168	4,270	147,794	
	予診のみ	72	28	0	3	1	7	3	114	
	計	111,659	12,181	3,039	7,478	4,103	5,175	4,273	147,908	5,142
うち住所外 の医療機関で の接種等件数	接種	1,814	368	118	155	1,239	105	1,338	5,137	
	予診のみ	1	0	0	3	1	0	0	5	
	計	1,815	368	118	158	1,240	105	1,338	5,142	

全人口に対する2回目接種率 (令和4年2月20日時点)

鳥取市	岩美町	若桜町	智頭町	八頭町	香美町	新温泉町
76.38%	80.03%	85.16%	79.87%	79.86%	83.84%	85.01%

#### 4 今後の取組

本事業で圏域内の都市機能等に関する調査分析を行ったことによって、麒麟のまち圏域の現状や、圏域住民及び圏域内企業のニーズ等を把握することができました。その結果、本圏域における連携中枢都市圏の取組も、令和3年度で4年目を迎えています。しかしながら、連携の取組が圏域住民に十分に認知されていない実態が明らかになりました。

しかし一方で、今年度実施した新型コロナウイルスワクチン接種の共同実施や、昨年度実施した麒麟のまち圏域ステッカー配布など、圏域住民にもわかりやすく、連携の成果を直に感じ取っていただけるような取組も進んでいます。特に、新型コロナウ

イルスワクチン接種の共同実施については、協定の期間を延長し、3回目の追加接種を実施しているとともに、小児への接種についても圏域で共同して実施することとしており、引き続き、圏域として連携を図っていきます。

令和5年度には、次期連携中枢都市圏ビジョンがスタートします。これまでの取組の成果や本事業での分析・調査結果を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会・経済状況の変化に的確に対応しながら、圏域全体の一体的な発展を目指し、連携をさらに深化させてまいりたいと考えます。